

第1回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) 食・食育
- (2) 食の安全・安心
- (3) アレルギー疾患
- (4) とともに生きる社会かながわ
- (5) 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組
- (6) 水源環境保全・再生の取組
- (7) 神奈川県農林水産業
- (8) 持続可能な開発目標（SDGs）
- (9) 子どもの貧困対策
- (10) 治安対策

3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法
ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和元年7月19日（金）～8月13日（火）
- (7) 調査委託機関 株式会社 アストジェイ

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,264標本 〔 郵送回答 : 1,090件 インターネット回答 : 174件 〕
有効回収率	42.1%

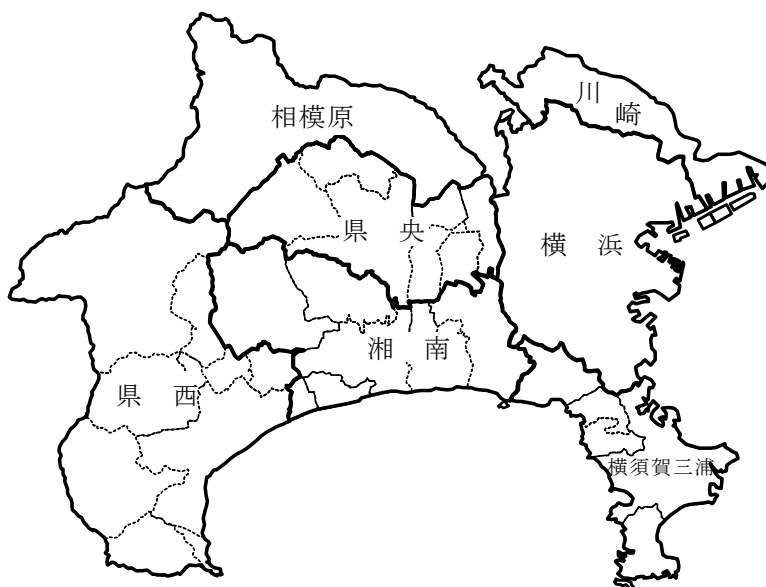
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	491	40.9%
川崎	川崎市	460	172	37.4%
相模原	相模原市	220	96	43.6%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	118	45.4%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	108	36.0%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	186	42.3%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	46	38.3%
無 回 答			47	
全 体		3,000	1,264	42.1%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（平成30年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,151,992 人 60地点 1,200標本	-	-	3,151,992 人 60地点 1,200標本
川 崎	1,244,734 人 23地点 460標本	-	-	1,244,734 人 23地点 460標本
相模原	610,951 人 11地点 220標本	-	-	610,951 人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	577,545 人 12地点 240標本	26,234 人 1地点 20標本	603,779 人 13地点 260標本
県 央	-	677,542 人 14地点 280標本	36,298 人 1地点 20標本	713,840 人 15地点 300標本
湘 南	-	1,006,774 人 20地点 400標本	90,954 人 2地点 40標本	1,097,728 人 22地点 440標本
県 西	-	199,901 人 4地点 80標本	93,570 人 2地点 40標本	293,471 人 6地点 120標本
人口計	5,007,677 人	2,461,762 人	247,056 人	7,716,495 人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（平成30年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差をとり、「・・・ポイント増（減）」等と記載した。
- (7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95% のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度 95% のときの標本誤差 (%) を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) \ 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,264	± 2.39	± 3.18	± 3.65	± 3.90	± 3.98
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,264 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60% であった場合、その回答比率の誤差は 95% の信頼度で、±3.90% 以内（真の値は、56.10%～63.90%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1,264) (%)

横浜	38.8
川崎	13.6
相模原	7.6
横須賀三浦	9.3
県央	8.5
湘南	14.7
県西	3.6

(無回答 3.7)

(2) 性別 (n=1,264) (%)

男性	40.7
女性	53.5

(無回答 5.9)

(3) 年齢 (n=1,264) (%)

18～19歳	0.1
20～29歳	5.2
30～39歳	13.8
40～49歳	21.4
50～59歳	21.9
60～69歳	17.8
70～74歳	8.7
75歳以上	7.1

(無回答 4.0)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1,264) (%)

小学校入学前	12.7
小学校在学中	12.4
中学校在学中	7.2
高校在学中	7.2
短大、専門学校等在学中	1.1
大学、大学院等在学中	7.8
学校教育終了[未婚]	21.8
学校教育終了[既婚]	23.1
その他	2.3
子どもはいない	25.9

(無回答 4.6)

(5) 家族形態 (n=1,264) (%)

一人暮らし (単身世帯)	8.7
夫婦のみ (1世代世帯)	28.3
親と子の世帯 (2世代世帯)	52.5
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	5.9
その他の世帯	3.6

(無回答 1.1)

(6) 職業区分 (n=1,264) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.9
	家族従業者	1.5
勤め・内職	勤め (フルタイム)	37.9
	勤め (パートタイム)	17.1
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めについていない)		18.2
学生		0.7
無職		14.2
その他		0.9

(無回答 3.5)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=791) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.6
	商工サービス業	6.3
	自由業	3.9
勤め・内職	経営・管理職	7.8
	専門・技術職	21.6
	事務職	24.1
	教育職	4.6
	技能・労務職	9.4
	販売・サービス職	18.2

(無回答 3.4)

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

第1章 食・食育

1 食育への関心 (P177)

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(38.8%)を合わせた《関心がある》は76.7%であった。

一方、「関心がない」(3.6%)と「どちらかといえば関心がない」(12.3%)を合わせた《関心がない》は15.8%であった。

2 健康的な食事内容の心がけ (P179)

毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」が74.0%であった。

一方、「心がけていない」は、17.7%であった。

3 就寝前に食事をとらないことへの意識 (P181)

就寝前2時間以内に食事や夜食をとらないよう気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が62.3%であった。

一方、「気をつけていない」は、33.2%であった。

4 朝食を同居の方と食べる頻度 (P183)

複数人でお住まいの1,140人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が49.0%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が21.1%であった。

5 夕食を同居の方と食べる頻度 (P185)

複数人でお住まいの1,140人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が64.3%で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」が14.4%であった。

6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P187)

一人暮らしの110人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が50.0%で最も多く、「週に2～3日食べる」(16.4%)と「週に1日程度食べる」(15.5%)が1割台で続いた。

7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P189)

一人暮らしの110人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が56.4%で最も多く、次いで「週に1日程度食べる」が23.6%であった。

8 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識 (P191)

ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(13.4%)と「どちらかといえば食べている」(28.9%)を合わせた《食べている》は42.2%であった。

一方、「食べていない」(7.3%)と「どちらかといえば食べていない」(39.5%)を合わせた《食べていない》は46.8%であった。

9 歯と口の健康を保つために気をつけていること (P193)

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」が94.9%で最も多く、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」(54.0%)と「かかりつけ歯科医を決めている」(49.5%)が続いた。

10 食事のマナーを正しくできていることへの意識 (P195)

食事のマナー(いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など)を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」(17.2%)と「ある程度できていると思う」(59.0%)を合わせた《できていると思う》は76.2%であった。

一方、「まったくできていないと思う」(2.4%)と「あまりできていないと思う」(17.5%)を合わせた《できていないと思う》は19.9%であった。

11 食べ物を無駄にしないことへの意識 (P197)

食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「ある程度気をつけている」が48.7%で最も多く、次いで「気をつけている」が43.4%であった。

第2章 食の安全・安心

1 食品を購入する際に確認している表示内容 (P199)

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示(消費期限や賞味期限)」が89.6%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が73.7%であった。

2 食中毒を予防する上で重要なこと (P201)

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が93.0%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が82.8%であった。

3 食品を安全に食べるために必要な知識 (P203)

食品を安全に食べるために、必要な知識(例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど)を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」(32.3%)と「ある程度持っていると思う」(56.3%)を合わせた《持っていると思う》は88.6%であった。

一方、「持っていないと思う」(1.0%)と「あまり持っていないと思う」(6.3%)を合わせた《持っていないと思う》は7.4%であった。

第3章 アレルギー疾患

1 アレルギー疾患の増加傾向 (P205)

5年前と比べて、アレルギー疾患（食物アレルギー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症等）の症状のある方が、増えていると思うか尋ねたところ、「増えていると思う」が64.6%で最も多く、次いで「変わらないと思う」が16.2%であった。

2 アレルギー疾患の多様性の認知度 (P207)

アレルギー疾患の原因・症状は様々で、その治療方法も多様であることが、一般的に認識されていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(19.5%)と「どちらかというと思う」(26.7%)を合わせた《そう思う》は46.2%であった。

一方、「そう思わない」(9.3%)と「どちらかというと思わない」(10.6%)を合わせた《そう思わない》は19.9%であった。

3 アレルギー疾患に関する情報の入手 (P209)

例えばアレルギーの症状がある時に、どの診療科を受診すれば良いか等、相談窓口やインターネット等で、信頼できる情報を受け取ることができていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(15.0%)と「どちらかというと思う」(26.9%)を合わせた《そう思う》は41.9%であった。

一方、「そう思わない」(11.1%)と「どちらかというと思わない」(10.3%)を合わせた《そう思わない》は21.4%であった。

4 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援 (P211)

アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「医療機関や専門医についての情報の提供」が70.6%で最も多く、次いで「アレルギーの状態に応じた適切な治療」が69.3%であった。

第4章 とともに生きる社会かながわ

1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度 (P213)

とともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が82.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.8%であった。

2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法 (P215)

とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問17）で、とともに生きる社会かながわ憲章を「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した199人にとともに生きる社会かながわ憲章を何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が62.3%で最も多く、次いで「ポスター・チラシ等」が47.2%であった。

3 身近で障がい者と接する機会 (P217)

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(33.9%)と「あまりない」(37.3%)がともに3割台であった。

4 障がい者に配慮した行動をとる人 (P219)

5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(5.6%)と「ある程度増えたと思う」(34.9%)を合わせた《増えたと思う》は40.5%であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(6.0%)と「あまり増えていないと思う」(20.0%)を合わせた《増えていないと思う》は26.0%であった。

5 障がい者への差別・偏見の有無 (P221)

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(31.1%)と「少しはあると思う」(35.5%)を合わせた《あると思う》は66.6%であった。

一方、「ないと思う」(7.8%)と「あまりないと思う」(15.5%)を合わせた《ないと思う》は23.3%であった。

6 ヘルプマークの認知度 (P223)

見た目で見分りにくい内部障がい等に対して配慮が必要なことを示すヘルプマークを知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が49.3%で最も多く、次いで「知っている」が36.0%であった。

7 希望する手話の学習方法 (P225)

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が30.3%で最も多く、次いで「学びたいと思わない」が10.8%であった。

第5章 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組

1 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度 (P227)

2019年9月から11月にかけて、ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が63.4%であった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、34.3%であった。

2 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向 (P229)

横浜市で開催されるラグビーワールドカップを直接会場で観戦したいと思うか尋ねたところ、「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」が33.8%で最も多く、次いで「観戦したくない」が25.3%であった。

3 オリピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくために有効な方法 (P231)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくためにどのような方法が有効だと思うか複数回答で尋ねたところ、「大型スクリーン（ライブサイト・パブリックビューイングなど）での競技観戦」が57.8%で最も多く、次いで「横断幕やフラッグ等を使用した会場周辺や街頭での飾りつけ」が47.2%であった。

4 東京2020オリンピック競技大会の観戦意向 (P233)

東京2020オリンピック競技大会を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が51.2%で最も多く、次いで「競技会場に行って観戦したい」が33.9%であった。

5 東京2020パラリンピック競技大会の観戦意向 (P235)

東京2020パラリンピック競技大会を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が57.9%で最も多く、次いで「競技会場に行って観戦したい」が19.1%であった。

6 セーリング競技への興味・関心 (P237)

神奈川県江の島で開催される東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「どちらかといえば興味・関心はない」が44.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば興味・関心がある」が29.8%であった。

7 セーリング競技の観戦意向 (P239)

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が45.6%で最も多く、次いで「観戦するつもりはない」が36.6%であった。

8 道路混雑緩和の呼びかけの認知度 (P241)

江の島周辺における道路混雑を緩和するため、今年の夏に、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことに関する呼びかけが行われていることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が27.8%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、69.8%であった。

9 道路混雑緩和に向けた取組への協力意向 (P243)

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催時に、江の島周辺の混雑が予想されるため、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことへの呼びかけがあった場合、協力しようと思うか尋ねたところ、「自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う」が51.4%で最も多く、次いで「呼びかけとは関係なく、公共交通機関で移動する（自動車の利用は考えていない）」が33.9%であった。

第6章 水源環境保全・再生の取組

1 水源地域の森の働きへの関心 (P245)

水源地域の森の働きについて、知識や関心があるか尋ねたところ、「知識はないが、関心はある」が70.2%で最も多かった。

2 環境保全・再生に関わる問題への関心 (P247)

水源地域の環境の保全・再生に関わる問題について、特に関心があるものを尋ねたところ、「森林の荒廃」が39.9%で最も多く、次いで「河川の水質汚濁」が29.1%であった。

3 水源環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組 (P249)

水源地域の環境の保全・再生のために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことを尋ねたところ、「森林の保全・再生」が37.8%で最も多く、次いで「生活排水対策」が18.9%であった。

4 水源環境保全税の認知度 (P251)

神奈川県では、「水源環境保全税」として個人県民税の超過課税をしていることを知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が74.3%で最も多く、次いで、「税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった」が14.8%であった。

5 水源環境保全税を財源とした対策の認知度 (P253)

水源環境保全税を財源としたそれぞれの対策が行われていることを知っていたか尋ねたところ、「知っていた」では、「水源環境への負荷軽減」が15.0%で最も多く、「河川の保全・再生」(14.8%)と「森林の保全・再生」(13.7%)が1割台で続いた。

一方、「知らなかった」は、「相模川水系上流域の県域を越えた連携」が86.2%で最も多かった。

6 水源環境保全税を財源とした対策の重要度 (P257)

水源環境保全税を財源としたそれぞれの対策を今後も継続することについて重要だと思うか尋ねたところ、「重要である」では、「森林の保全・再生」が81.9%で最も多く、次いで「水源環境への負荷軽減」が80.4%であった。

7 水源環境保全税を財源とした取組への意見 (P261)

水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組について、今後どのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「現在の取組を継続し、税額は変更しない」が61.1%で最も多く、次いで「さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」が20.4%であった。

第7章 神奈川県 of 農林水産業

1 「地産地消」の取組の重要度 (P263)

県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組を重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(54.5%)と「どちらかといえば重要だと思う」(32.9%)を合わせた《重要だと思う》は87.4%であった。

一方、「重要だと思わない」(2.5%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(1.9%)を合わせた《重要だと思わない》は4.4%であった。

2 農林水産物を購入する際に重視する点 (P265)

農林水産物を購入する際に、何を重視するか複数回答で尋ねたところ、「鮮度」が82.1%で最も多く、「価格」(59.3%)と「安全性」(58.5%)が約6割で続いた。

3 「かながわブランド」の認知度 (P267)

「かながわブランド」という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」が46.4%で最も多く、次いで「言葉も内容も知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が29.1%であった。

4 神奈川県の農業に期待する役割 (P269)

神奈川県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が63.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が16.1%であった。

5 将来の神奈川県の農業に対する考え (P271)

将来の神奈川県の農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」が81.0%で最も多かった。

6 県内にある農地の保全に対する考え (P273)

県内にある農地の保全について、どのように思うか尋ねたところ、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全すべき」が36.1%で最も多く、「どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい」(27.5%)と「すべての農地を積極的に保全すべき」(24.3%)が2割台で続いた。

第8章 持続可能な開発目標 (SDGs)

1 「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」の認知度 (P275)

「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が76.7%であった。

一方、「知っている」は、18.5%であった。

2 SDGsの普及啓発物やイベントの認知度 (P277)

神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて見聞きしたことがあるか尋ねたところ、「見聞きしたことがある」が8.0%であった。

一方、「見聞きしたことはない」は、88.6%であった。

3 見聞きしたことがあるSDGsの普及啓発物やイベント (P279)

SDGsの普及啓発物やイベントの認知度(問45)で「見聞きしたことがある」と回答した101人に、神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県のたより」が63.4%で最も多く、次いで「かながわプラごみゼロ宣言(チラシ)」が36.6%であった。

4 SDGs達成に向け行いたい取組 (P281)

SDGs達成に向けて、行いたいと思う取組を複数回答で尋ねたところ、「買い物にはマイバッグを持参する」が77.2%で最も多く、「食事は残さず食べる」(67.5%)と「モノをできるだけ長く、大切に使う」(65.3%)が続いた。

第9章 子どもの貧困対策

1 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度 (P283)

「子どもの貧困」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が65.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.8%であった。

2 身近で支援を必要とする子どもの有無 (P285)

身近(近所や職場、知人、親戚など)に、経済的に苦しく行政等による支援が必要だと思われる子どもがいるか尋ねたところ、「いる」が6.6%であった。

一方、「いない」は、61.8%であった。

3 世代を超えた貧困の連鎖 (P287)

貧困は世代を超えて連鎖している(貧困の状態で育った人の子どもも貧困におちいってしまう)と思うか尋ねたところ、「そう思う」(36.3%)と「どちらかといえばそう思う」(27.4%)を合わせた《そう思う》は63.7%であった。

一方、「そう思わない」(8.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(2.5%)を合わせた《そう思わない》は11.1%であった。

4 行政等による支援が必要な子ども (P289)

どのような子どもに対して行政等による貧困対策の支援が必要だと思うか複数回答で尋ねたところ、「児童福祉施設などに入所している子ども」が65.3%で最も多く、次いで「ひとり親世帯の子ども」が60.1%であった。

5 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度 (P291)

子どもの貧困対策に関連する神奈川県の実策が、子どもの貧困問題の解消のために十分だと思
うか尋ねたところ、「そう思う」(13.0%)と「どちらかといえばそう思う」(19.9%)を合わせ
た《そう思う》は32.9%であった。

一方、「そう思わない」(14.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(9.7%)を合わせた《そ
う思わない》は24.4%であった。

6 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援 (P293)

子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援はどのようなものか複数回答(3つまで
選択可)で尋ねたところ、「子どもの就学にかかる費用の軽減(小学校・中学校・高校)」が40.6%
で最も多く、次いで「子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること」が33.3%で
あった。

7 地域の支援活動に対する考え方 (P295)

貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動(学習支援や居場所の提供等)
について、どのように考えているか尋ねたところ、「これから考えたい」が30.1%で最も多く、
次いで「活動を行うことや協力することは難しい」(22.4%)と「活動に興味を持っている」(19.8%)
が続いた。

第10章 治安対策

1 不安を感じる犯罪 (P297)

身近で発生する可能性のある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「空
き巣」が63.4%で最も多く、次いで「インターネットを利用した犯罪(詐欺、ネットポルノ、児
童買春など)」が52.6%であった。

2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき (P299)

身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときか尋ねたところ、「身近な事件、
事故が解決したとき」が30.0%で最も多く、次いで「制服警察官がパトロールしているとき」が
29.7%であった。

3 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法 (P301)

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、情報を得やすい方法を複数回答で尋ねたと
ころ、「テレビ」が76.6%で最も多く、次いで「インターネット(警察のホームページ、Twitter、
「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式YouTube防犯チャンネル等)」が49.4%であった。

4 犯罪がなく安心して暮らすために最も重要だと思うもの (P303)

犯罪がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うものを尋ねたところ、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」が 33.9%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が 28.5%であった。

5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの (P305)

交通事故のない社会を目指すために重要だと思うものを複数回答で尋ねたところ、「交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示等）」が 50.6%で最も多く、次いで「白バイやパトカーによる警戒」が 44.6%であった。

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイント増（減）」等という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 食・食育【問1～問9】

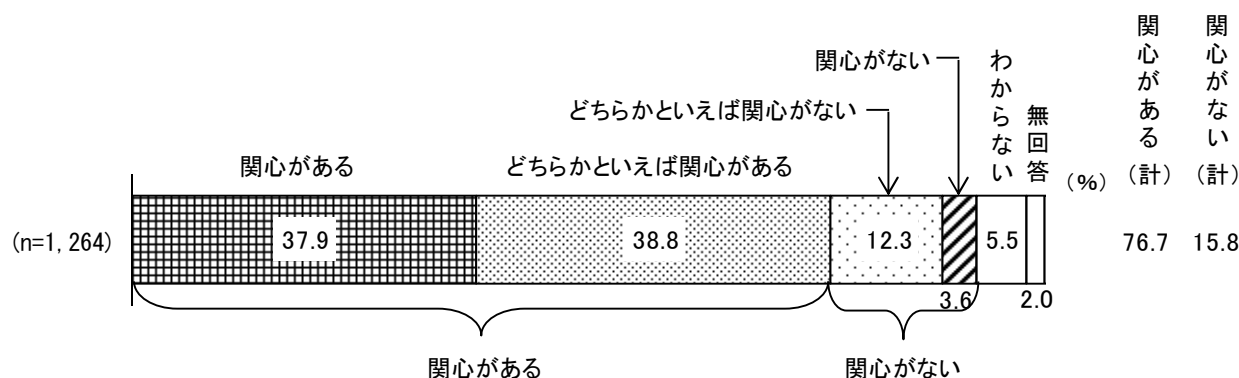
1 食育への関心【問1】

【全体の状況】

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(38.8%)を合わせた《関心がある》は76.7%であった。

一方、「関心がない」(3.6%)と「どちらかといえば関心がない」(12.3%)を合わせた《関心がない》は15.8%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 食育への関心



【地域別の状況】

地域別にみると、《関心がある》は、湘南(83.9%)と県西(82.6%)がともに8割台であった。一方、《関心がない》は、県央が21.3%で最も多かった。(図表1-1-2)

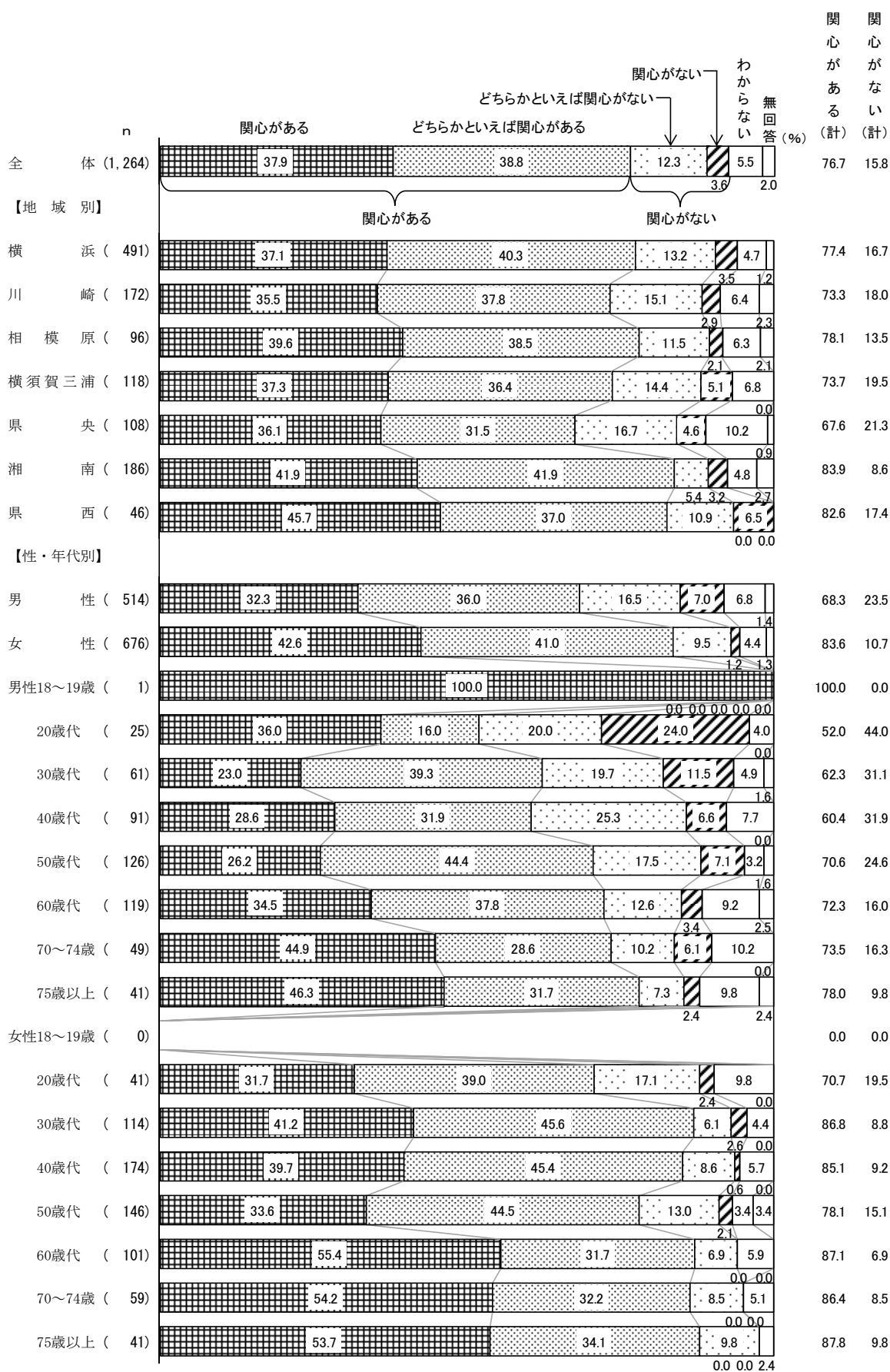
【性・年代別の状況】

性別にみると、《関心がある》は、女性(83.6%)が男性(68.3%)を15.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、《関心がある》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が87.8%で最も多かった。

一方、《関心がない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の30歳代(31.1%)・40歳代(31.9%)がともに約3割であった。(図表1-1-2)

図表1-1-2 食育への関心—地域別、性・年代別



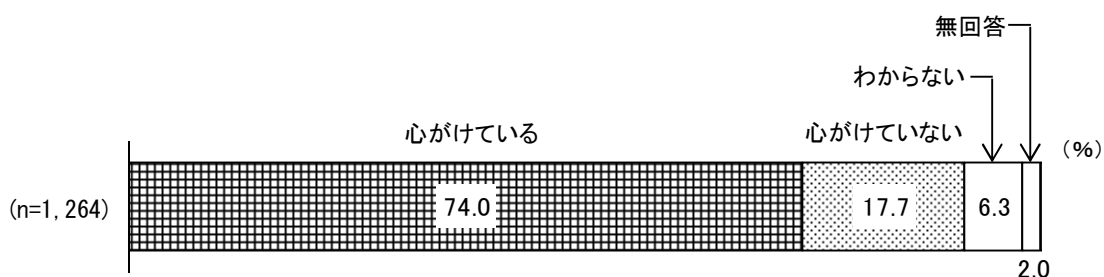
2 健康的な食事内容の心がけ【問2】

【全体の状況】

毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」が74.0%であった。

一方、「心がけていない」は、17.7%であった。(図表1-2-1)

図表1-2-1 健康的な食事内容の心がけ



【地域別の状況】

地域別にみると、「心がけている」は、湘南が81.7%で最も多く、次いで県西が78.3%であった。

一方、「心がけていない」は、川崎が23.3%で最も多かった。(図表1-2-2)

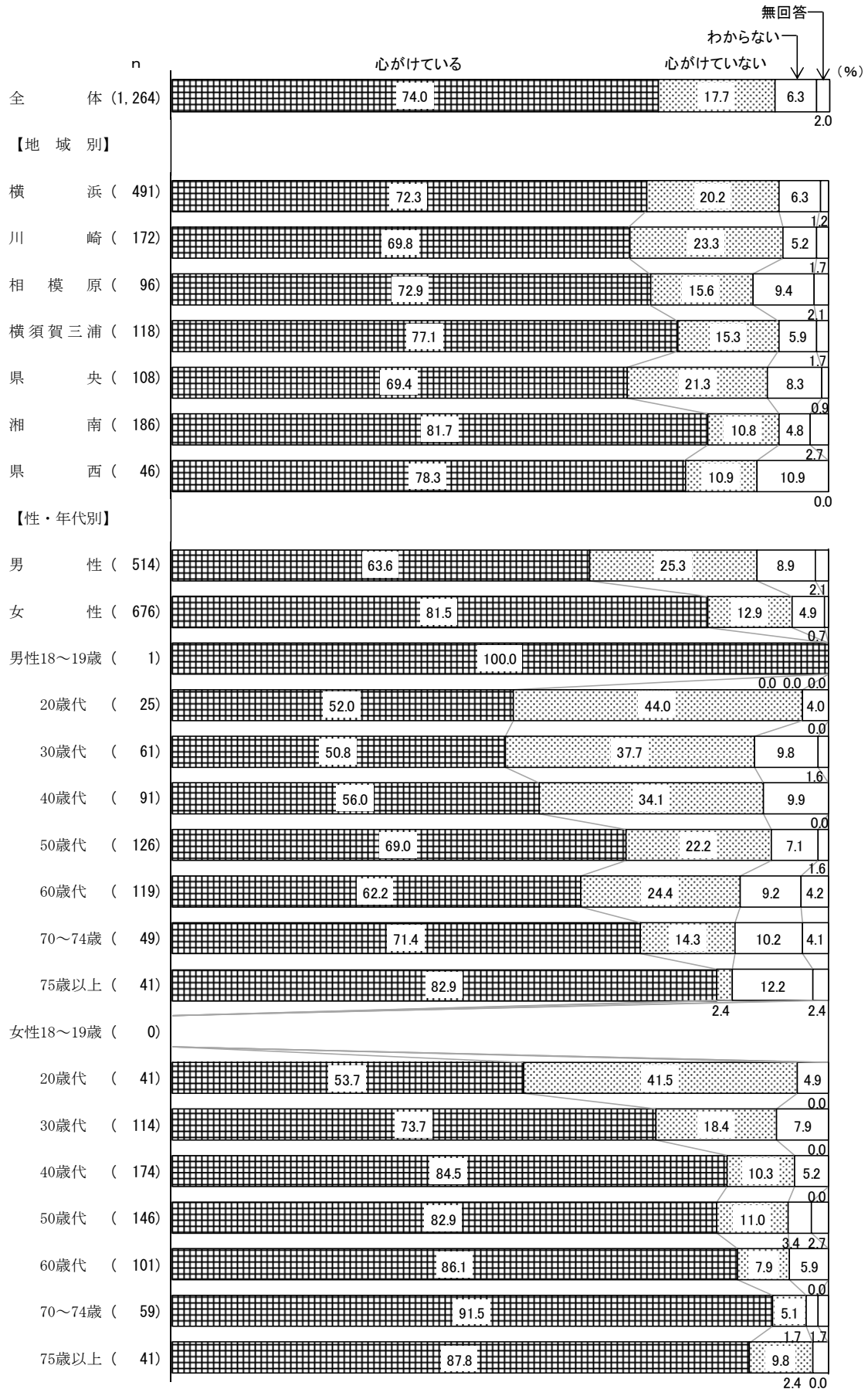
【性・年代別の状況】

性別にみると、「心がけている」は、女性(81.5%)が男性(63.6%)を17.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「心がけている」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、女性の70~74歳が91.5%で最も多かった。

一方、「心がけていない」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性の20歳代が41.5%で最も多かった。(図表1-2-2)

図表1-2-2 健康的な食事内容の心がけ—地域別、性・年代別



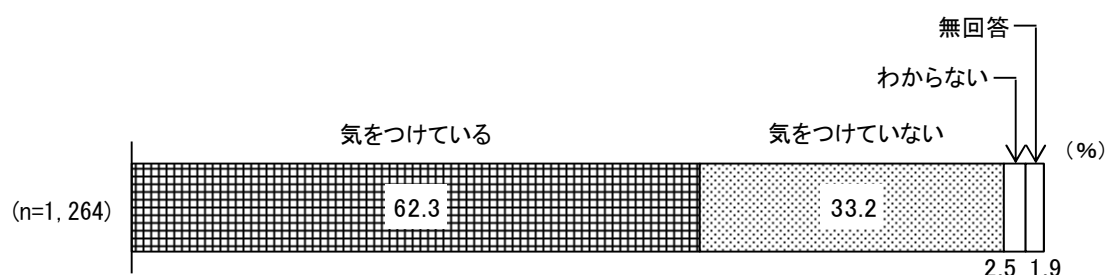
3 就寝前に食事をとらないことへの意識【問3】

【全体の状況】

就寝前2時間以内に食事や夜食をとらないよう気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が62.3%であった。

一方、「気をつけていない」は、33.2%であった。(図表1-3-1)

図表1-3-1 就寝前に食事をとらないことへの意識



【地域別の状況】

地域別にみると、「気をつけている」は、県西が73.9%で最も多く、次いで県央が68.5%であった。

一方、「気をつけていない」は、横浜が36.9%で最も多く、次いで横須賀三浦が35.6%であった。

(図表1-3-2)

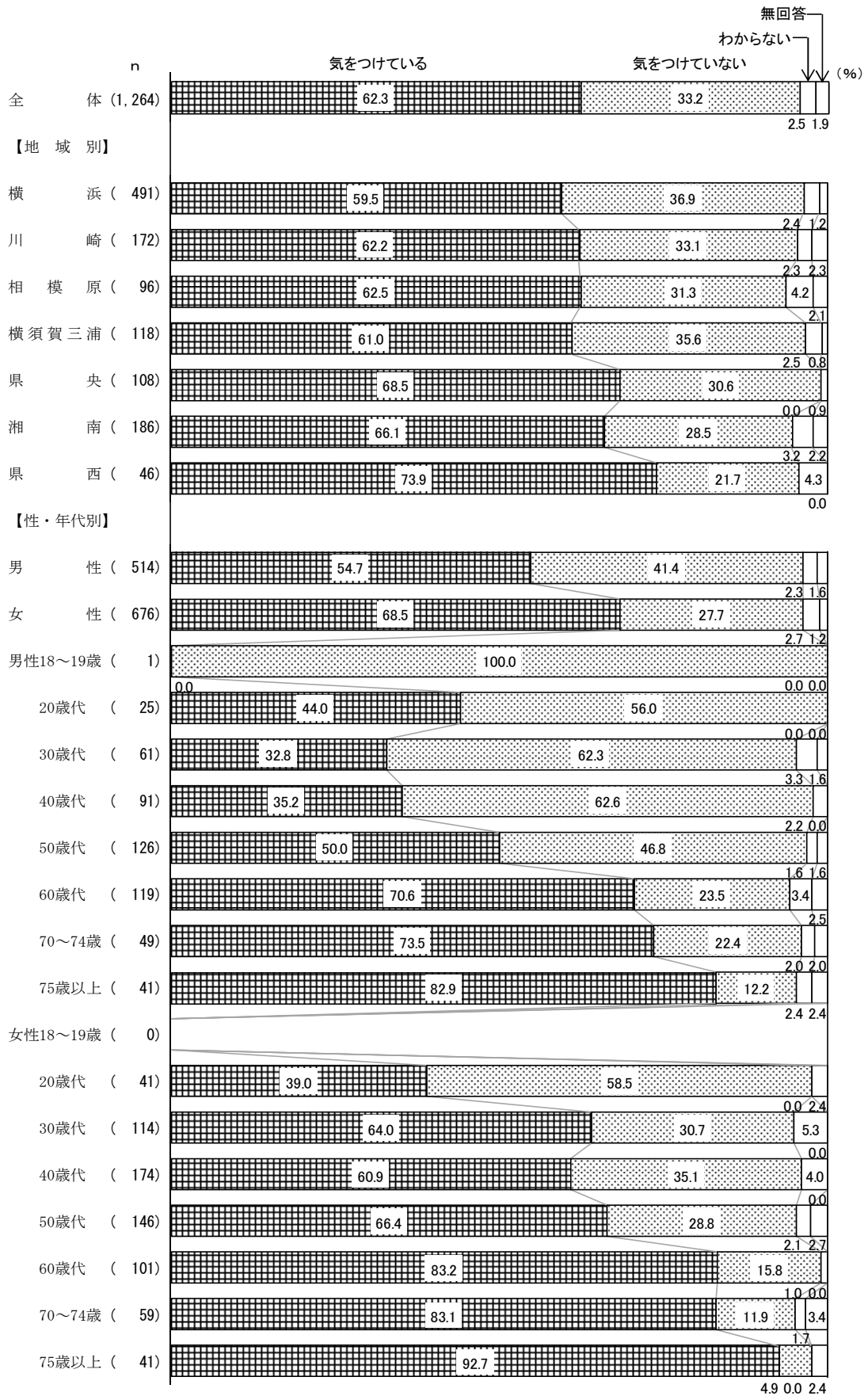
【性・年代別の状況】

性別にみると、「気をつけている」は、女性(68.5%)が男性(54.7%)を13.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「気をつけている」は、女性の75歳以上が92.7%で最も多かった。

一方、「気をつけていない」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の30歳代(62.3%)・40歳代(62.6%)がともに6割台であった。(図表1-3-2)

図表1-3-2 就寝前に食事をとらないことへの意識—地域別、性・年代別

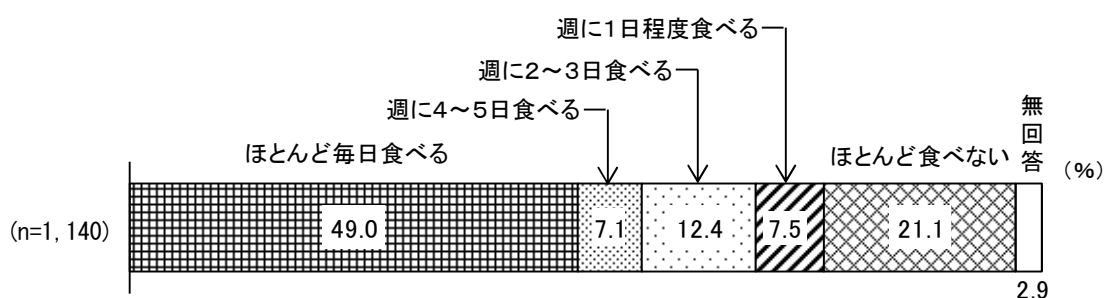


4 朝食を同居の方と食べる頻度【問4-1】

【全体の状況】

複数人でお住まいの1,140人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が49.0%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が21.1%であった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 朝食を同居の方と食べる頻度



【地域別の状況】

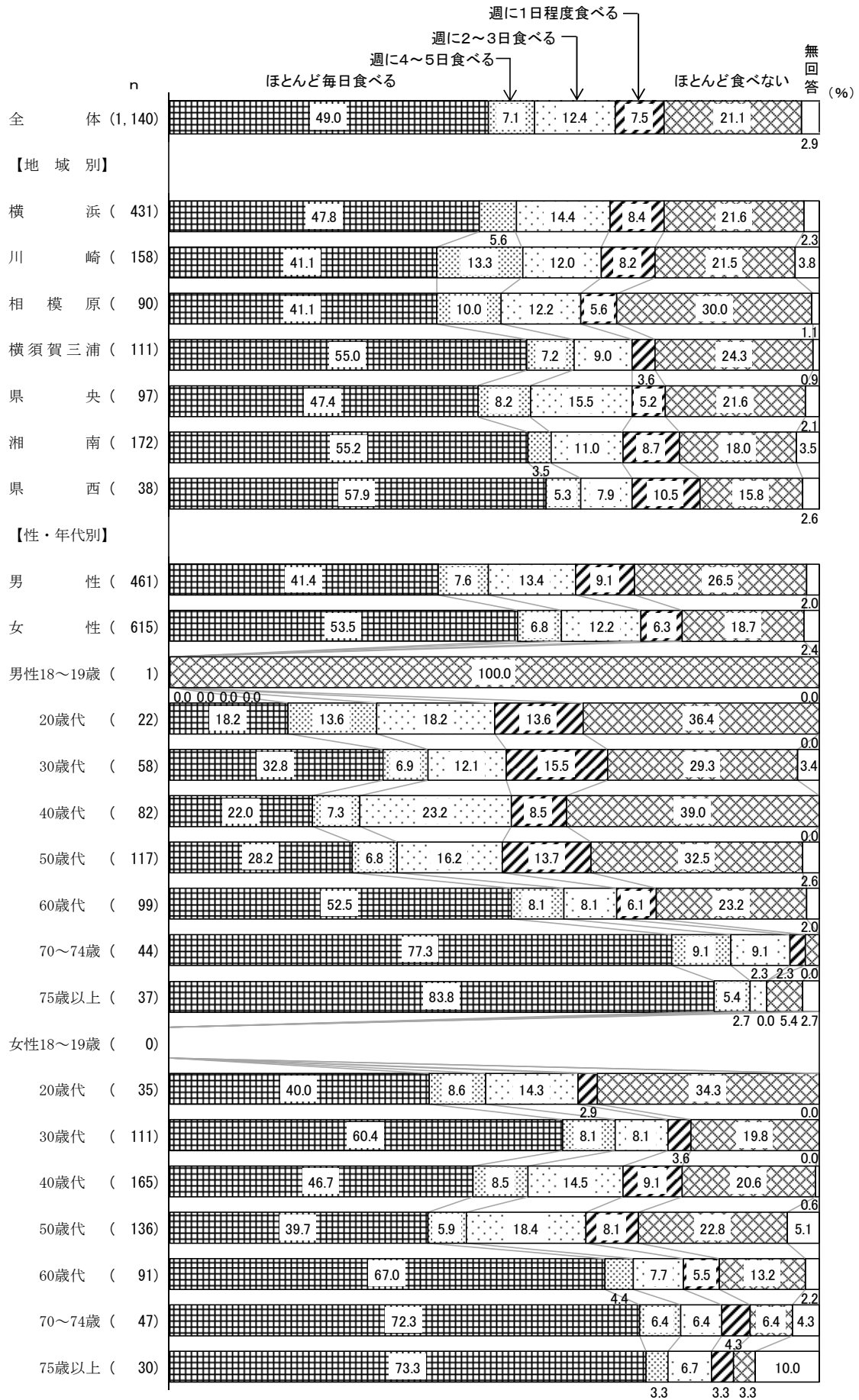
地域別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、県西が57.9%で最も多かった。また、「ほとんど食べない」は、相模原が30.0%で最も多かった。(図表1-4-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、女性(53.5%)が男性(41.4%)を12.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、男女ともに75歳以上(男性83.8%、女性73.3%)が最も多かった。また、「ほとんど食べない」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の40歳代が39.0%で最も多かった。(図表1-4-2)

図表1-4-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

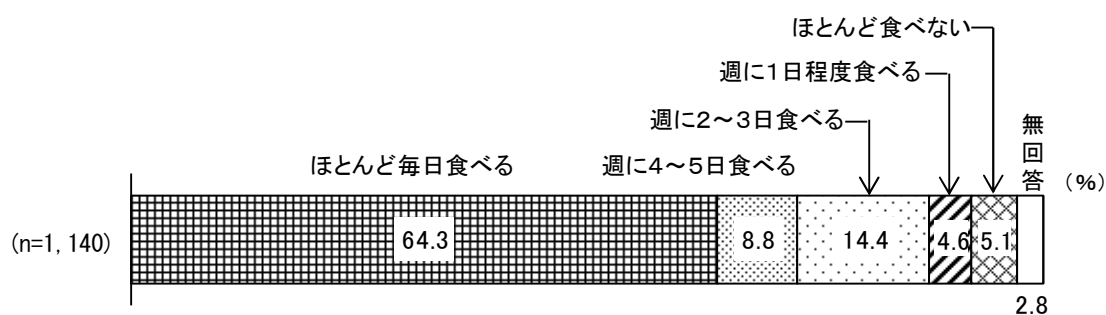


5 夕食を同居の方と食べる頻度【問4-2】

【全体の状況】

複数人でお住まいの1,140人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が64.3%で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」が14.4%であった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 夕食を同居の方と食べる頻度



【地域別の状況】

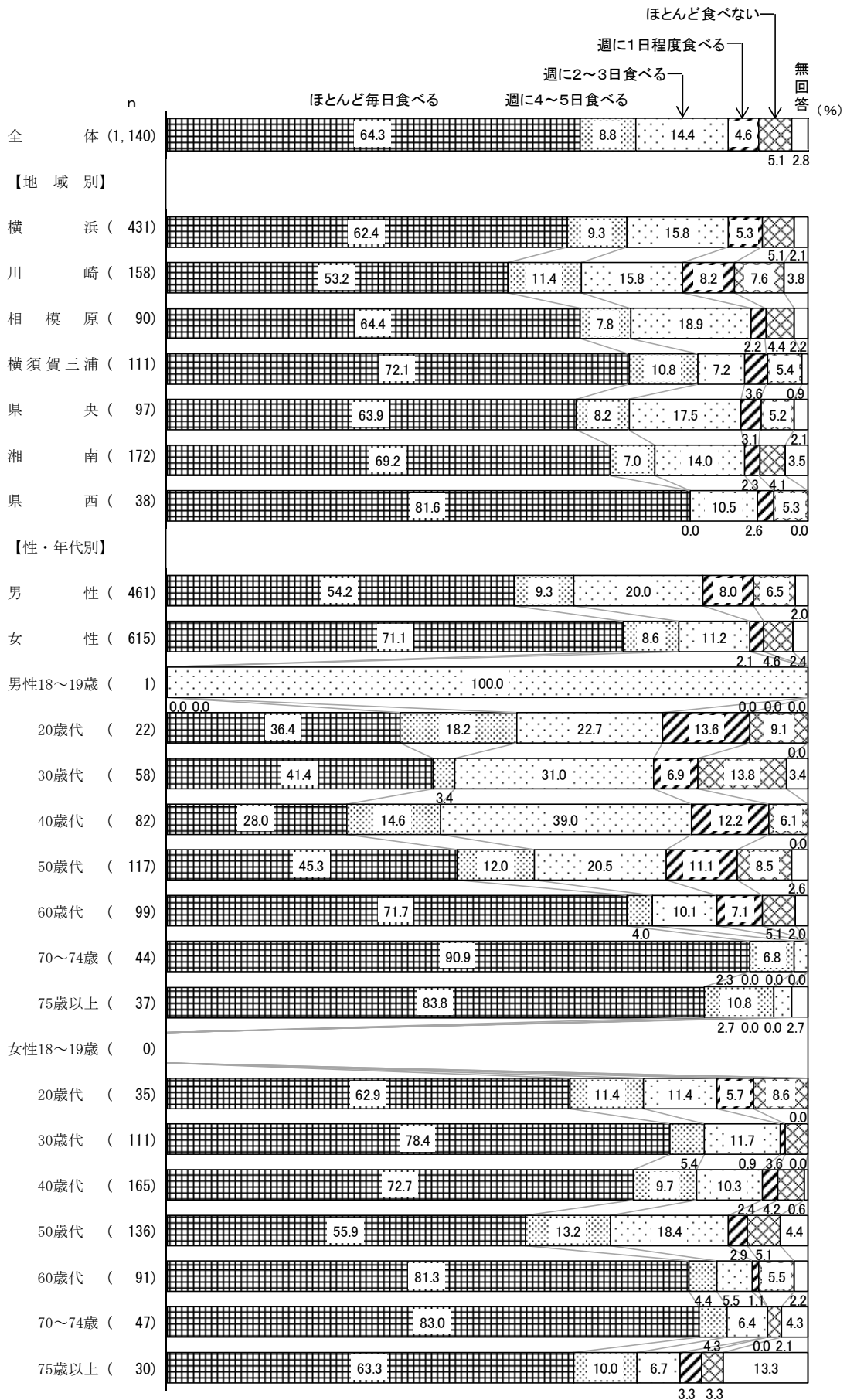
地域別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、県西が81.6%で最も多かった。また、「週に2～3日食べる」は、相模原が18.9%で最も多かった。（図表1-5-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、女性(71.1%)が男性(54.2%)を16.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は、男性の70～74歳が90.9%で最も多かった。また、「週に2～3日食べる」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の30歳代(31.0%)・40歳代(39.0%)がともに3割を超えた。（図表1-5-2）

図表1-5-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

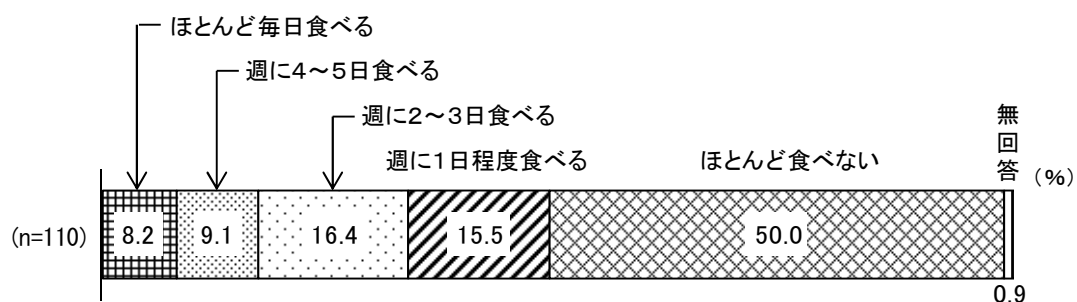


6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問5-1】

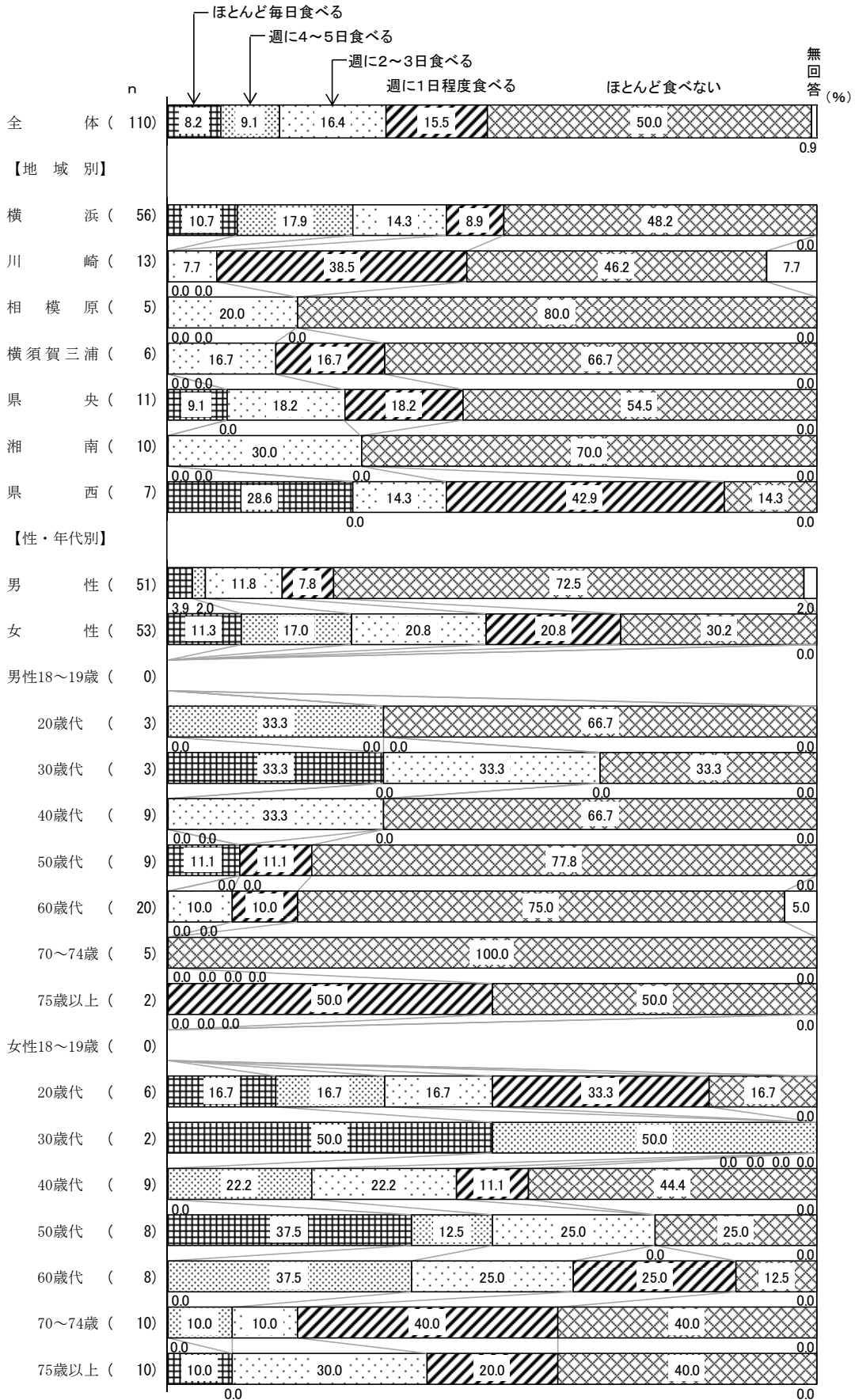
【全体の状況】

一人暮らしの110人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が50.0%で最も多く、「週に2～3日食べる」(16.4%)と「週に1日程度食べる」(15.5%)が1割台で続いた。(図表1-6-1)

図表1-6-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-6-2 屋食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別
(サンプル数が少ないため参考)

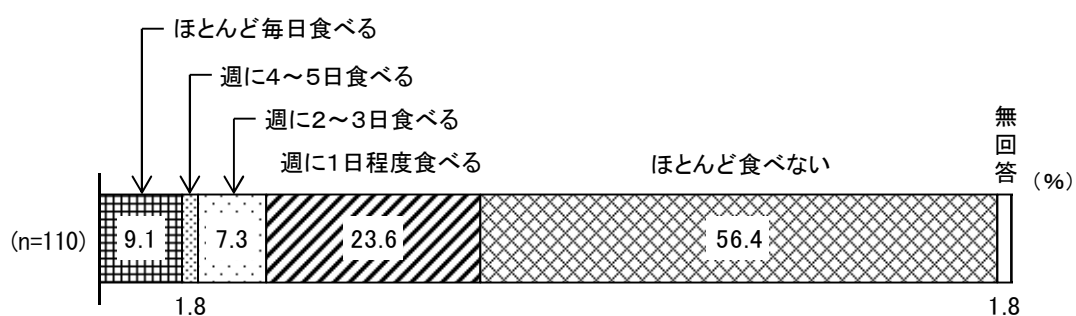


7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問5-2】

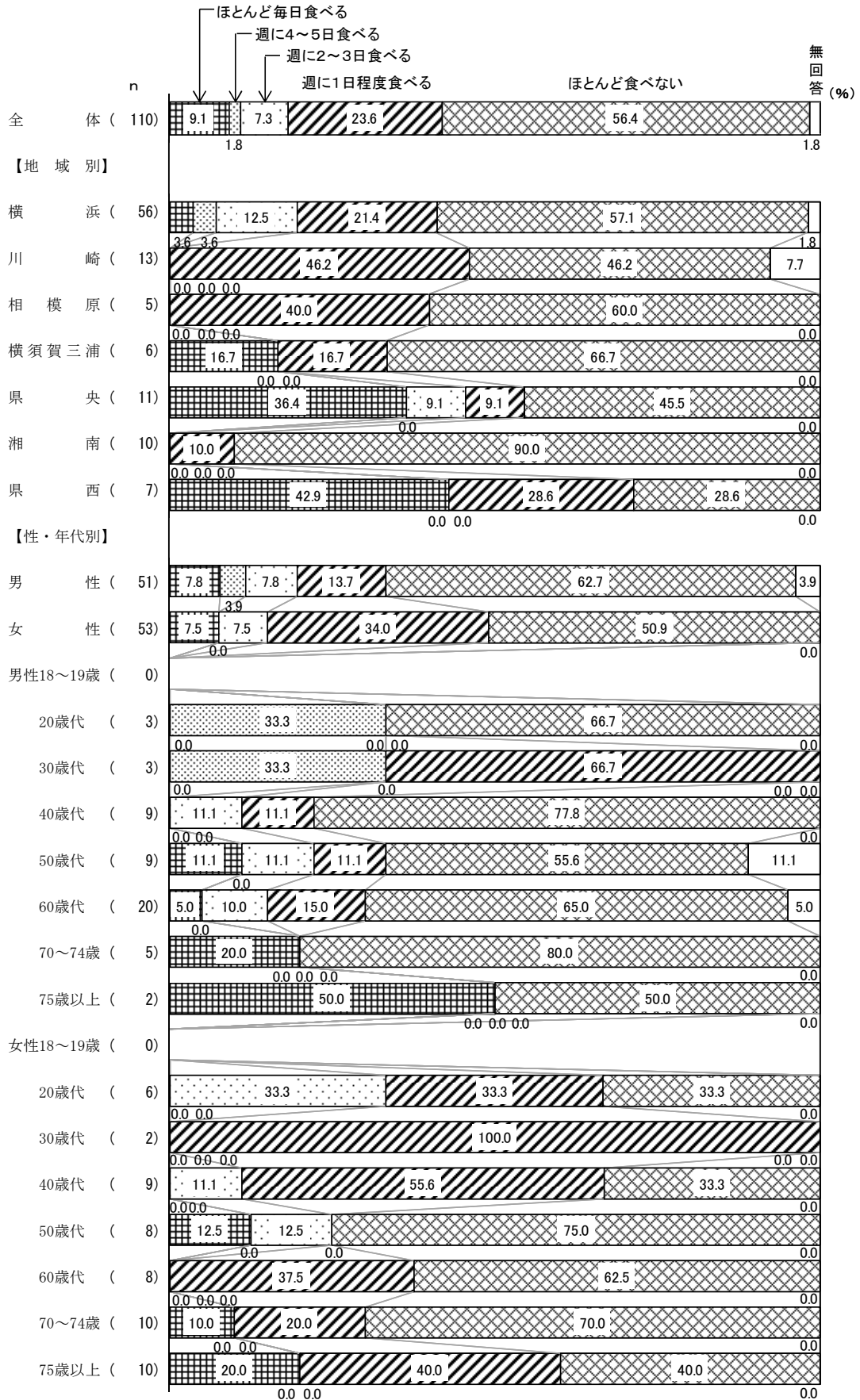
【全体の状況】

一人暮らしの110人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が56.4%で最も多く、次いで「週に1日程度食べる」が23.6%であった。(図表1-7-1)

図表1-7-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-7-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別
(サンプル数が少ないため参考)



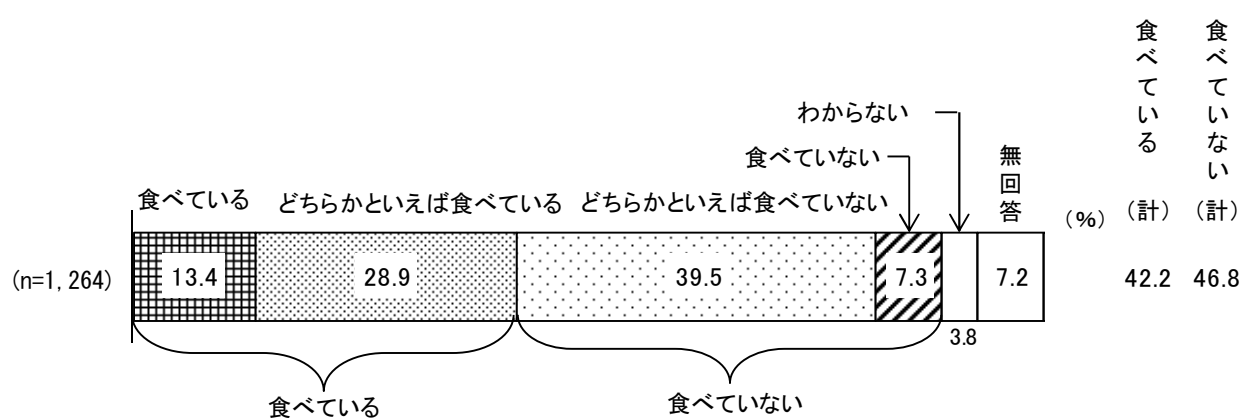
8 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識【問6】

【全体の状況】

ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(13.4%)と「どちらかといえば食べている」(28.9%)を合わせた《食べている》は42.2%であった。

一方、「食べていない」(7.3%)と「どちらかといえば食べていない」(39.5%)を合わせた《食べていない》は46.8%であった。(図表1-8-1)

図表1-8-1 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識



【地域別の状況】

地域別にみると、《食べている》は、湘南が50.5%で最も多く、次いで横須賀三浦が49.2%であった。

一方、《食べていない》は、横浜(51.7%)と川崎(50.6%)がともに5割を超えた。(図表1-8-2)

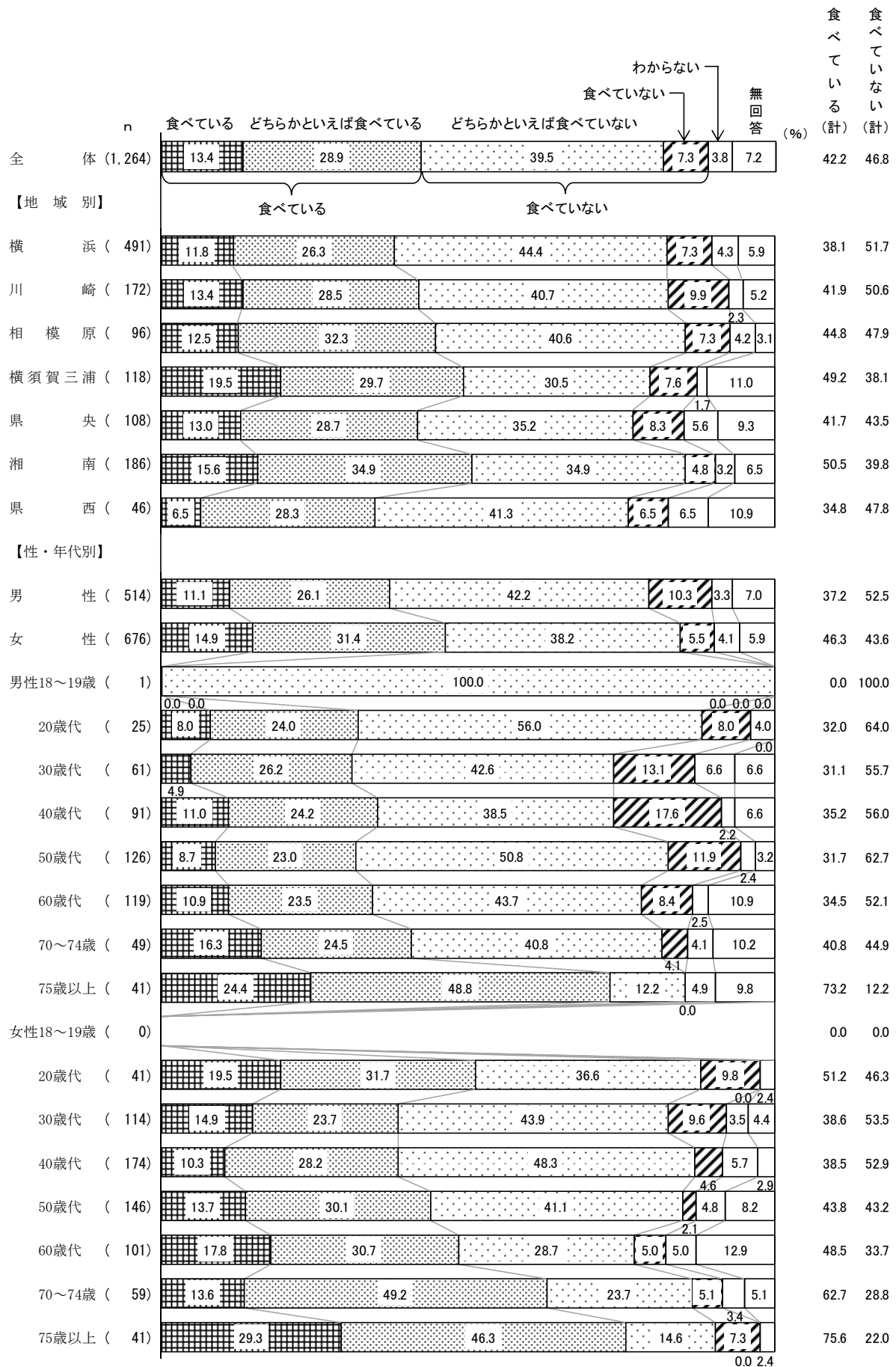
【性・年代別の状況】

性別にみると、《食べている》は、女性(46.3%)が男性(37.2%)を9.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、《食べている》は、男女ともに75歳以上(男性73.2%、女性75.6%)が7割台で最も多かった。

一方、《食べていない》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳・20歳代を除くと、男性の50歳代が62.7%で最も多かった。(図表1-8-2)

図表1-8-2 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識—地域別、性・年代別

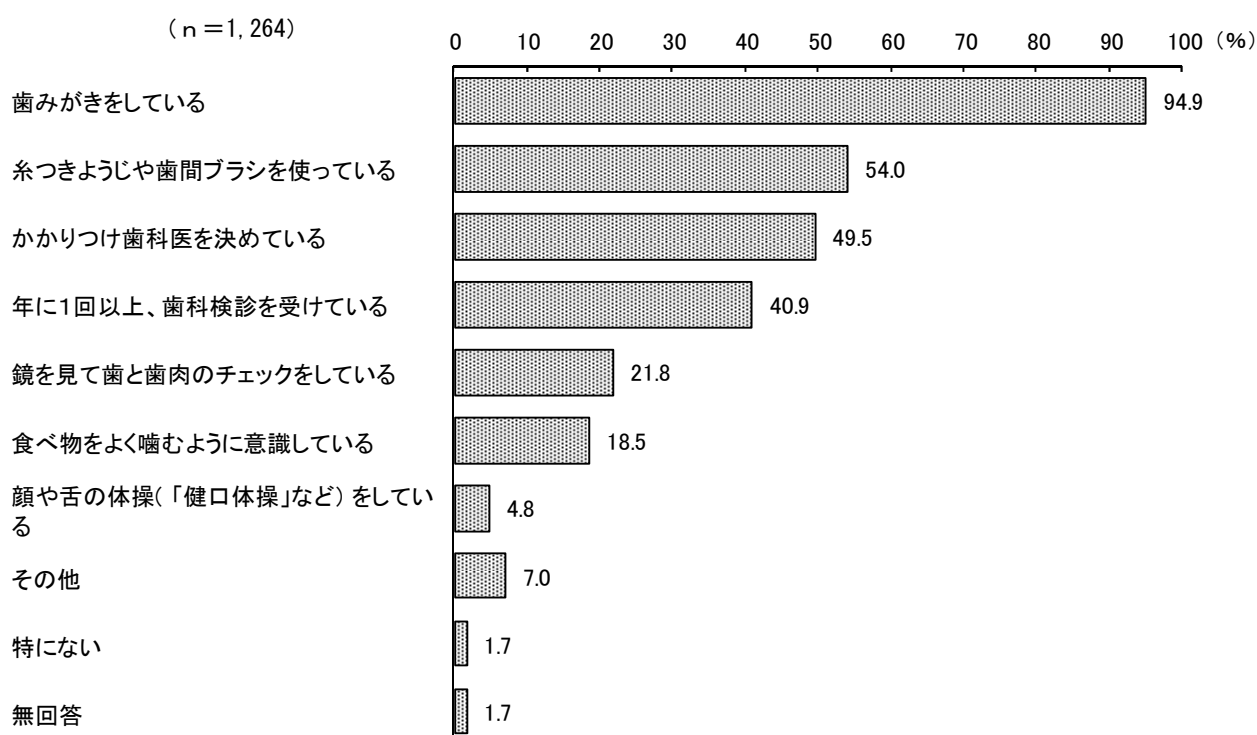


9 歯と口の健康を保つために気をつけていること【問7】

【全体の状況】

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」が94.9%で最も多く、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」(54.0%)と「かかりつけ歯科医を決めている」(49.5%)が続いた。(図表1-9-1)

図表1-9-1 歯と口の健康を保つために気をつけていること（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「歯みがきをしている」は、県西が100.0%で最も多く、次いで湘南が97.3%であった。(図表1-9-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」は、女性(58.9%)が男性(47.5%)を11.4ポイント上回った。

性・年代別にみると、「かかりつけ歯科医を決めている」は、男性の75歳以上(75.6%)、女性の70~74歳(74.6%)・75歳以上(70.7%)がそれぞれ7割を超えた。(図表1-9-2)

図表1-9-2 歯と口の健康を保つために気をつけていること（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	歯みがきをしている	糸つきようじや歯間ブラシを使っている	かかりつけ歯科医を決めている	年に1回以上、歯科検診を受けている	鏡を見て歯と歯肉のチェックをしている	食べ物をよく噛むように意識している	顔や舌の体操（「健口体操」など）をしている	その他	特にない	無回答
全 体	1,264	94.9	54.0	49.5	40.9	21.8	18.5	4.8	7.0	1.7	1.7
【地 域 別】											
横 浜	491	95.1	55.4	46.6	43.2	18.7	15.7	4.7	8.1	2.0	1.0
川 崎	172	93.0	54.7	45.9	39.5	24.4	19.2	5.8	7.0	1.7	1.7
相 模 原	96	95.8	54.2	50.0	39.6	18.8	11.5	4.2	10.4	3.1	-
横 須 賀 三 浦	118	93.2	51.7	53.4	31.4	28.8	22.9	3.4	4.2	2.5	0.8
県 央	108	95.4	48.1	48.1	38.0	26.9	15.7	2.8	4.6	1.9	0.9
湘 南	186	97.3	53.8	58.6	45.2	23.1	22.6	5.4	7.5	0.5	2.2
県 西	46	100.0	56.5	54.3	39.1	17.4	21.7	10.9	4.3	-	-
【性・年代別】											
男 性	514	92.8	47.5	43.2	34.8	13.6	16.5	3.9	7.6	2.9	1.4
女 性	676	97.0	58.9	54.3	45.9	28.6	18.8	5.8	7.1	0.9	0.9
男性18～19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	100.0	28.0	16.0	20.0	20.0	8.0	4.0	4.0	4.0	-
30歳代	61	90.2	36.1	19.7	23.0	8.2	8.2	4.9	13.1	6.6	1.6
40歳代	91	89.0	53.8	30.8	38.5	13.2	13.2	2.2	12.1	4.4	-
50歳代	126	94.4	43.7	39.7	27.0	15.9	12.7	1.6	4.8	1.6	1.6
60歳代	119	95.8	54.6	54.6	41.2	16.0	18.5	5.9	8.4	2.5	1.7
70～74歳	49	91.8	57.1	63.3	46.9	10.2	22.4	2.0	2.0	2.0	2.0
75歳以上	41	87.8	43.9	75.6	46.3	9.8	41.5	9.8	4.9	-	2.4
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	100.0	24.4	24.4	26.8	34.1	22.0	7.3	12.2	-	-
30歳代	114	97.4	57.9	41.2	40.4	27.2	14.9	3.5	8.8	0.9	-
40歳代	174	97.7	64.9	50.6	46.0	27.6	8.6	2.3	9.8	1.1	-
50歳代	146	96.6	59.6	55.5	45.9	28.8	18.5	6.2	8.2	1.4	2.7
60歳代	101	96.0	65.3	67.3	47.5	32.7	19.8	4.0	3.0	-	1.0
70～74歳	59	94.9	47.5	74.6	52.5	22.0	33.9	11.9	1.7	-	1.7
75歳以上	41	97.6	68.3	70.7	65.9	29.3	46.3	19.5	-	2.4	-

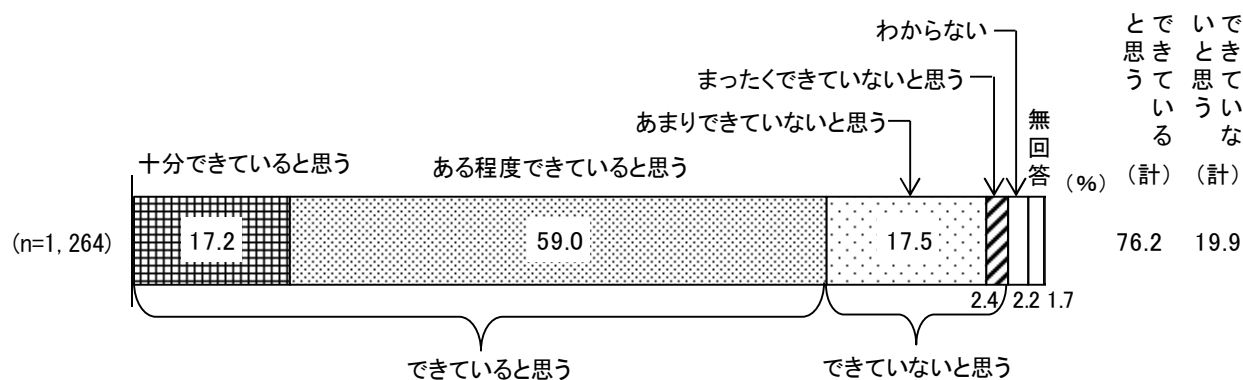
10 食事のマナーを正しくできていることへの意識【問8】

【全体の状況】

食事のマナー（いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など）を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」（17.2%）と「ある程度できていると思う」（59.0%）を合わせた《できていると思う》は76.2%であった。

一方、「まったくできていないと思う」（2.4%）と「あまりできていないと思う」（17.5%）を合わせた《できていないと思う》は19.9%であった。（図表1-10-1）

図表1-10-1 食事のマナーを正しくできていることへの意識



【地域別の状況】

地域別にみると、《できていると思う》は、川崎と相模原がともに80.2%であった。

一方、《できていないと思う》は、県央が25.0%で最も多かった。（図表1-10-2）

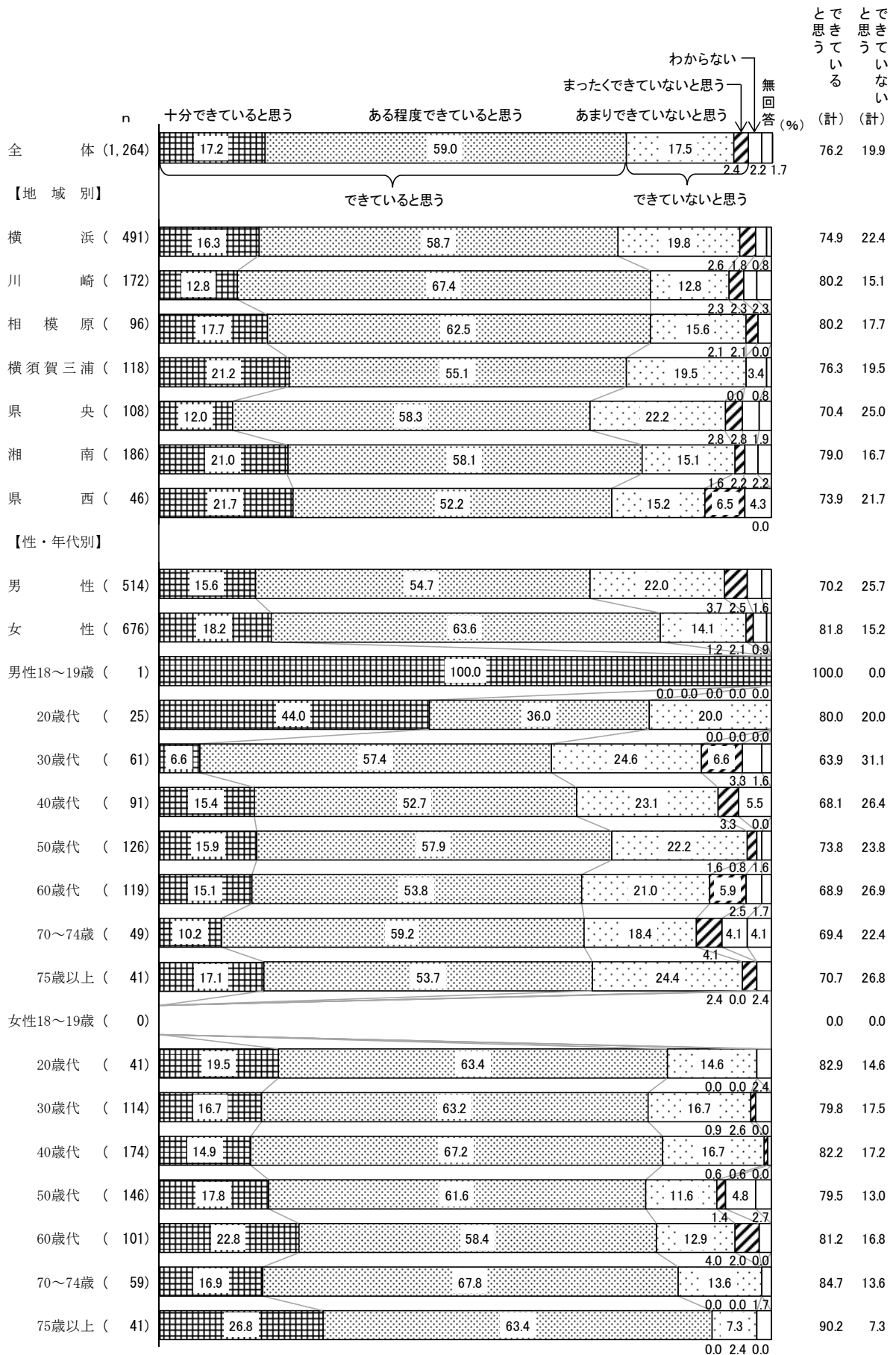
【性・年代別の状況】

性別にみると、《できていると思う》は、女性（81.8%）が男性（70.2%）を11.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、《できていると思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が90.2%で最も多かった。

一方、《できていないと思う》は、男性の30歳代が31.1%で最も多かった。（図表1-10-2）

図表1-10-2 食事のマナーを正しくできていることへの意識—地域別、性・年代別

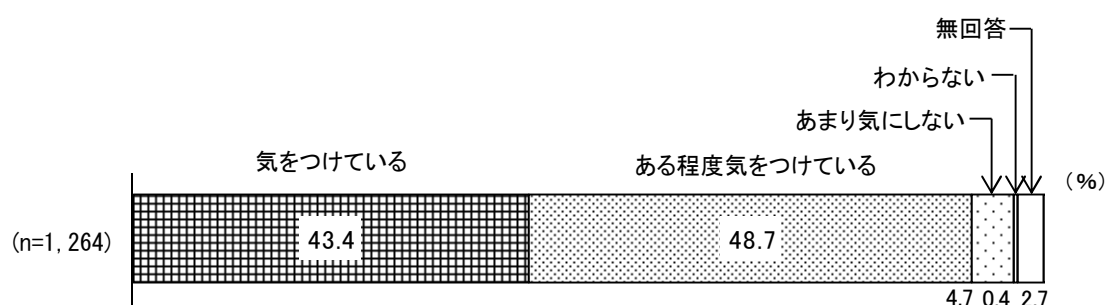


11 食べ物を無駄にしないことへの意識【問9】

【全体の状況】

食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「ある程度気をつけている」が48.7%で最も多く、次いで「気をつけている」が43.4%であった。(図表1-11-1)

図表1-11-1 食べ物を無駄にしないことへの意識



【地域別の状況】

地域別にみると、「ある程度気をつけている」は、横須賀三浦（56.8%）と県央（51.9%）がともに5割を超えた。(図表1-11-2)

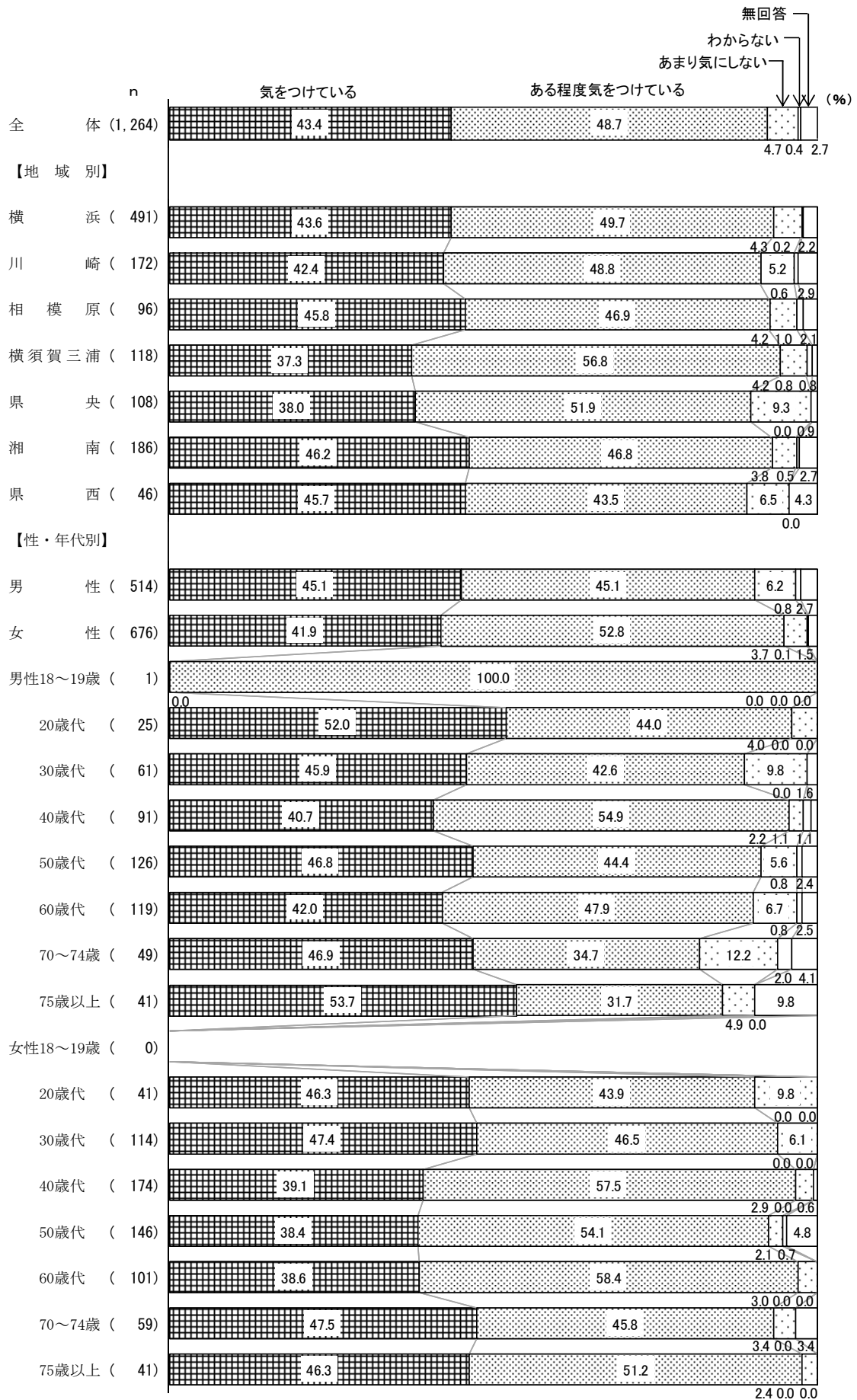
【性・年代別の状況】

性別にみると、「ある程度気をつけている」は、女性（52.8%）が男性（45.1%）を7.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「気をつけている」は、男性の75歳以上が53.7%で最も多かった。

(図表1-11-2)

図表1-11-2 食べ物を無駄にしないことへの意識—地域別、性・年代別



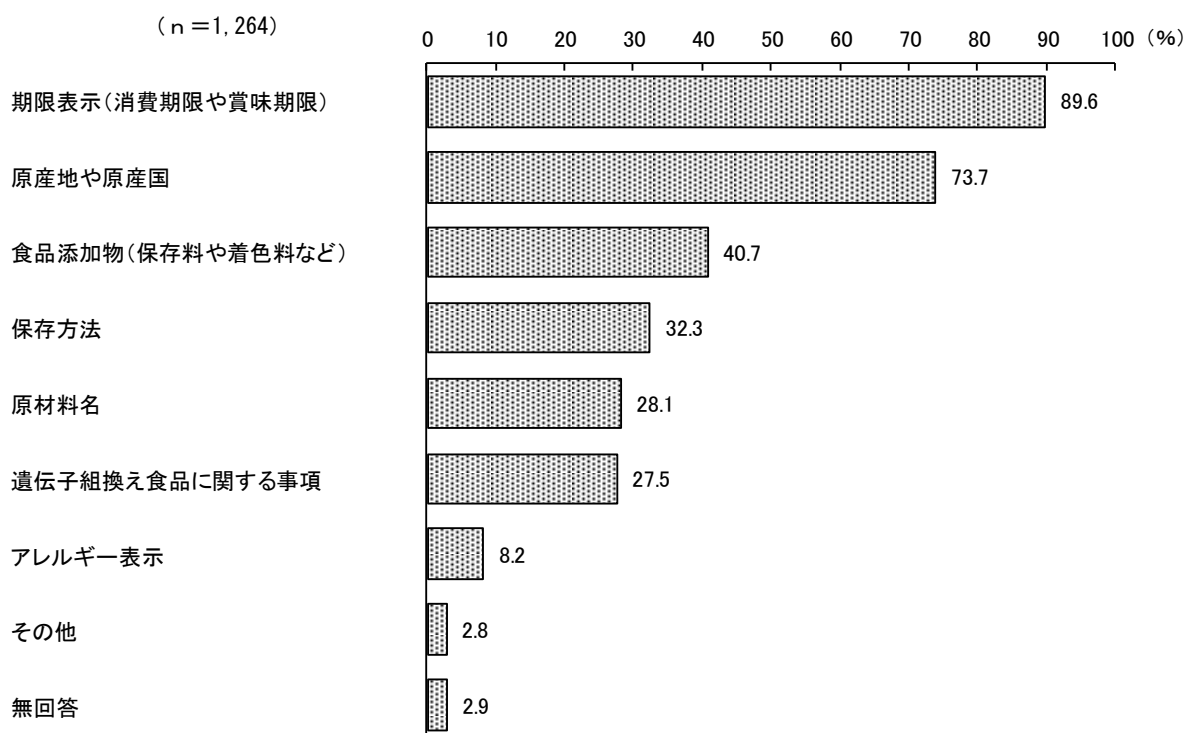
第2章 食の安全・安心【問10～問12】

1 食品を購入する際に確認している表示内容【問10】

【全体の状況】

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限）」が89.6%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が73.7%であった。（図表2-1-1）

図表2-1-1 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「期限表示（消費期限や賞味期限）」は、県央（96.3%）・湘南（94.1%）・相模原（91.7%）がそれぞれ9割を超えた。また、「原産地や原産国」は、湘南が80.1%で最も多かった。

（図表2-1-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「食品添加物（保存料や着色料など）」は、女性（50.0%）が男性（28.6%）を21.4ポイント上回った。また、「原産地や原産国」は、女性（83.3%）が男性（62.1%）を21.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「原産地や原産国」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の40歳代が90.2%で最も多かった。（図表2-1-2）

図表2-1-2 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

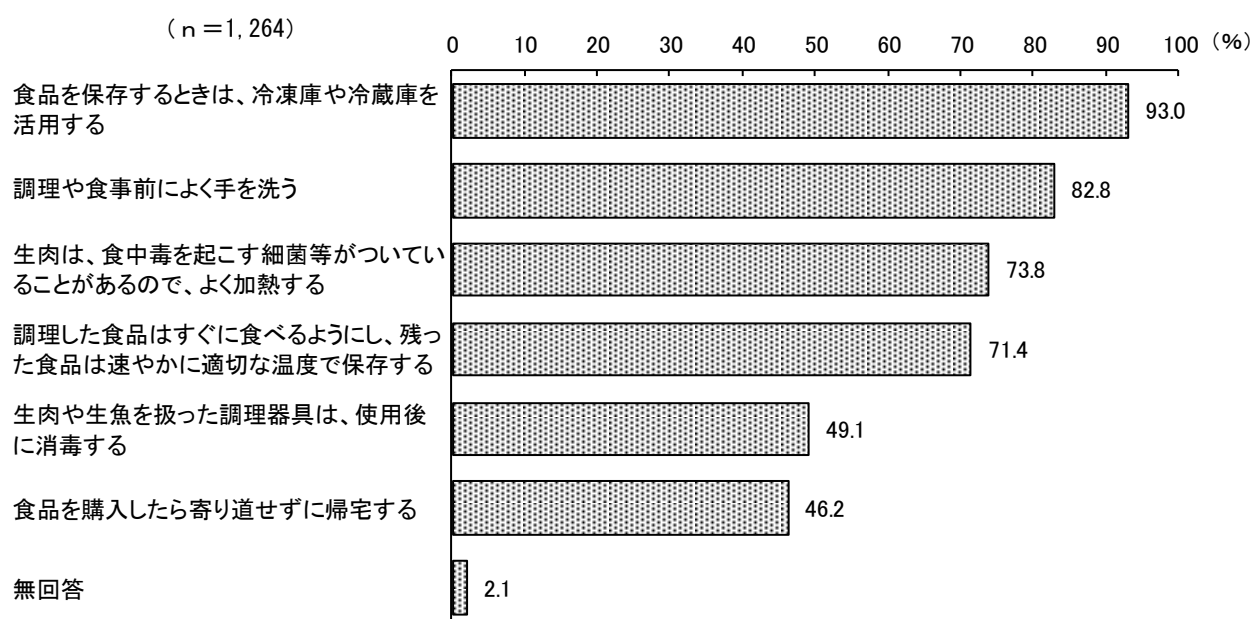
	n	期限表示 (消費期限や賞味期限)	原産地や原産国	食品添加物 (保存料や着色料など)	保存方法	原材料名	遺伝子組換え食品に関する事項	アレルギー表示	その他	無回答
全 体	1,264	89.6	73.7	40.7	32.3	28.1	27.5	8.2	2.8	2.9
【地 域 別】										
横 浜	491	87.8	73.3	41.5	32.2	30.8	32.2	7.9	3.1	2.4
川 崎	172	89.5	69.8	33.7	34.3	23.3	17.4	8.7	3.5	4.7
相 模 原	96	91.7	68.8	33.3	27.1	21.9	18.8	3.1	1.0	3.1
横 須 賀 三 浦	118	87.3	78.0	41.5	31.4	28.8	31.4	12.7	3.4	1.7
県 央	108	96.3	70.4	40.7	29.6	21.3	21.3	4.6	2.8	1.9
湘 南	186	94.1	80.1	43.5	36.0	30.6	26.3	9.7	2.7	2.2
県 西	46	87.0	76.1	56.5	34.8	30.4	37.0	10.9	2.2	-
【性・年代別】										
男 性	514	87.5	62.1	28.6	28.2	20.6	16.9	7.0	2.3	4.1
女 性	676	92.2	83.3	50.0	35.9	34.0	35.2	9.0	3.4	1.0
男性18～19歳	1	100.0	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-
20歳代	25	88.0	48.0	16.0	44.0	24.0	4.0	12.0	4.0	8.0
30歳代	61	83.6	55.7	18.0	21.3	18.0	9.8	3.3	1.6	6.6
40歳代	91	84.6	62.6	26.4	18.7	17.6	14.3	6.6	2.2	3.3
50歳代	126	87.3	61.9	31.7	27.8	21.4	19.8	10.3	2.4	3.2
60歳代	119	92.4	66.4	31.1	31.9	19.3	21.0	6.7	2.5	2.5
70～74歳	49	89.8	63.3	32.7	26.5	28.6	24.5	-	2.0	4.1
75歳以上	41	82.9	65.9	36.6	41.5	22.0	9.8	9.8	2.4	7.3
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	90.2	58.5	36.6	24.4	26.8	14.6	9.8	2.4	-
30歳代	114	90.4	79.8	43.9	28.1	25.4	29.8	10.5	4.4	-
40歳代	174	92.0	90.2	51.1	25.9	35.1	38.5	9.8	4.0	0.6
50歳代	146	94.5	83.6	45.2	40.4	34.9	39.0	6.2	3.4	2.7
60歳代	101	91.1	88.1	51.5	40.6	38.6	38.6	5.0	2.0	1.0
70～74歳	59	89.8	83.1	66.1	59.3	40.7	37.3	11.9	3.4	1.7
75歳以上	41	97.6	75.6	65.9	51.2	36.6	31.7	17.1	2.4	-

2 食中毒を予防する上で重要なこと【問11】

【全体の状況】

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が93.0%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が82.8%であった。（図表2-2-1）

図表2-2-1 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」は、川崎（89.5%）を除く6地域（91.7%～95.8%）がそれぞれ9割を超えた。（図表2-2-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「生肉は、食中毒を起こす細菌等がついていることがあるので、よく加熱する」は、女性（83.1%）が男性（64.2%）を18.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の40歳代が97.7%で最も多く、次いで女性60歳代が97.0%であった。また、「調理や食事前によく手を洗う」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が95.1%で最も多く、女性30歳（91.2%）・70～74歳（91.5%）が約9割で続いた。

（図表2-2-2）

図表2-2-2 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	調理や食事前によく手を洗う	生肉は、食中毒を起さず細菌等がついていることがあるので、よく加熱する	調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	食品を購入したら寄り道せず帰宅する	無回答
全 体	1,264	93.0	82.8	73.8	71.4	49.1	46.2	2.1
【地 域 別】								
横 浜	491	93.3	84.7	74.3	70.3	49.7	44.0	1.2
川 崎	172	89.5	76.7	76.2	65.7	46.5	44.8	3.5
相 模 原	96	95.8	85.4	81.3	76.0	55.2	49.0	1.0
横 須 賀 三 浦	118	94.9	82.2	70.3	74.6	50.0	50.8	0.8
県 央	108	91.7	82.4	66.7	64.8	39.8	43.5	0.9
湘 南	186	95.2	84.4	79.0	79.0	56.5	50.0	2.7
県 西	46	95.7	82.6	65.2	76.1	39.1	47.8	-
【性・年代別】								
男 性	514	90.1	76.8	64.2	61.9	43.0	37.5	2.5
女 性	676	96.0	87.9	83.1	79.3	55.8	53.4	0.7
男性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
20歳代	25	76.0	72.0	72.0	52.0	60.0	28.0	4.0
30歳代	61	91.8	82.0	68.9	55.7	42.6	42.6	1.6
40歳代	91	86.8	80.2	68.1	63.7	48.4	35.2	1.1
50歳代	126	90.5	73.0	64.3	60.3	43.7	34.9	3.2
60歳代	119	95.0	79.8	63.0	66.4	43.7	42.9	1.7
70～74歳	49	87.8	69.4	57.1	69.4	28.6	38.8	4.1
75歳以上	41	90.2	75.6	56.1	56.1	36.6	31.7	4.9
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	95.1	80.5	80.5	68.3	46.3	46.3	-
30歳代	114	96.5	91.2	83.3	76.3	61.4	57.0	-
40歳代	174	97.7	86.2	86.8	82.8	56.9	50.0	-
50歳代	146	93.2	87.7	80.8	79.5	58.2	53.4	2.7
60歳代	101	97.0	85.1	81.2	77.2	54.5	52.5	-
70～74歳	59	96.6	91.5	84.7	83.1	49.2	57.6	1.7
75歳以上	41	95.1	95.1	80.5	82.9	48.8	61.0	-

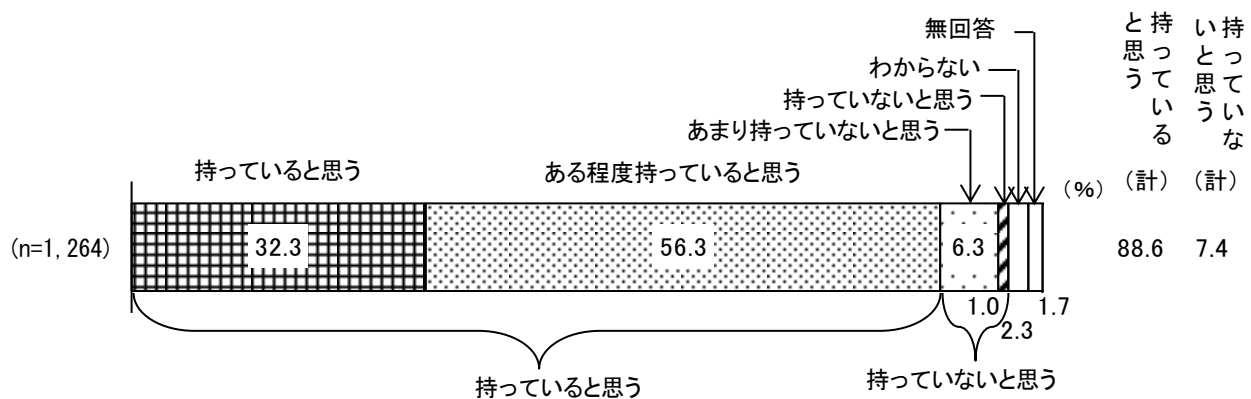
3 食品を安全に食べるために必要な知識【問12】

【全体の状況】

食品を安全に食べるために、必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（32.3%）と「ある程度持っていると思う」（56.3%）を合わせた《持っていると思う》は88.6%であった。

一方、「持っていないと思う」（1.0%）と「あまり持っていないと思う」（6.3%）を合わせた《持っていないと思う》は7.4%であった。（図表2-3-1）

図表2-3-1 食品を安全に食べるために必要な知識



【地域別の状況】

地域別にみると、《持っていると思う》は、県西が93.5%で最も多く、次いで相模原が92.7%であった。

なお、《持っていないと思う》は、全地域（4.2%～9.9%）で1割に満たなかった。（図表2-3-2）

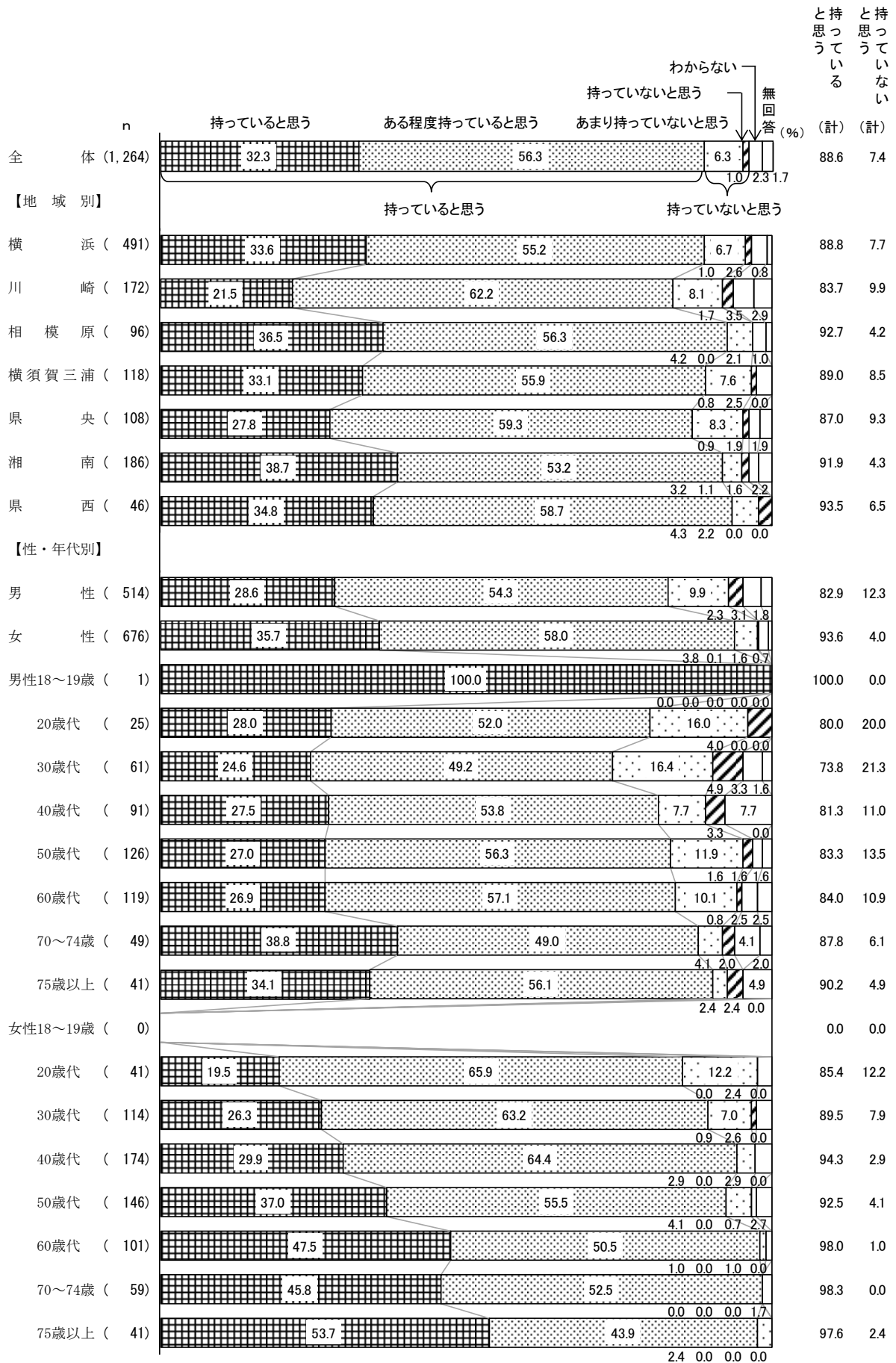
【性・年代別の状況】

性別にみると、《持っていると思う》は、女性（93.6%）が男性（82.9%）を10.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、《持っていると思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の70～74歳が98.3%で最も多く、次いで女性の60歳代が98.0%であった。

一方、《持っていないと思う》は、男性の30歳代が21.3%で最も多かった。（図表2-3-2）

図表2-3-2 食品を安全に食べるために必要な知識—地域別、性・年代別



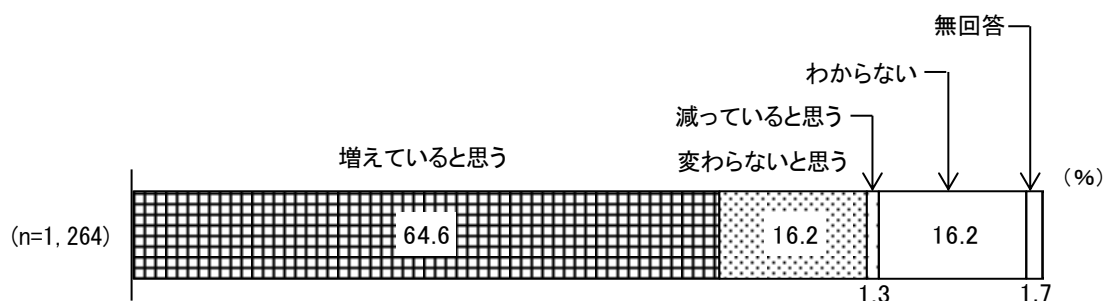
第3章 アレルギー疾患【問13～問16】

1 アレルギー疾患の増加傾向【問13】

【全体の状況】

5年前と比べて、アレルギー疾患（食物アレルギー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症等）の症状のある方が、増えていると思うか尋ねたところ、「増えていると思う」が64.6%で最も多く、次いで「変わらないと思う」が16.2%であった。（図表3-1-1）

図表3-1-1 アレルギー疾患の増加傾向



【地域別の状況】

地域別にみると、「増えていると思う」は、湘南が73.7%で最も多かった。（図表3-1-2）

【性・年代別の状況】

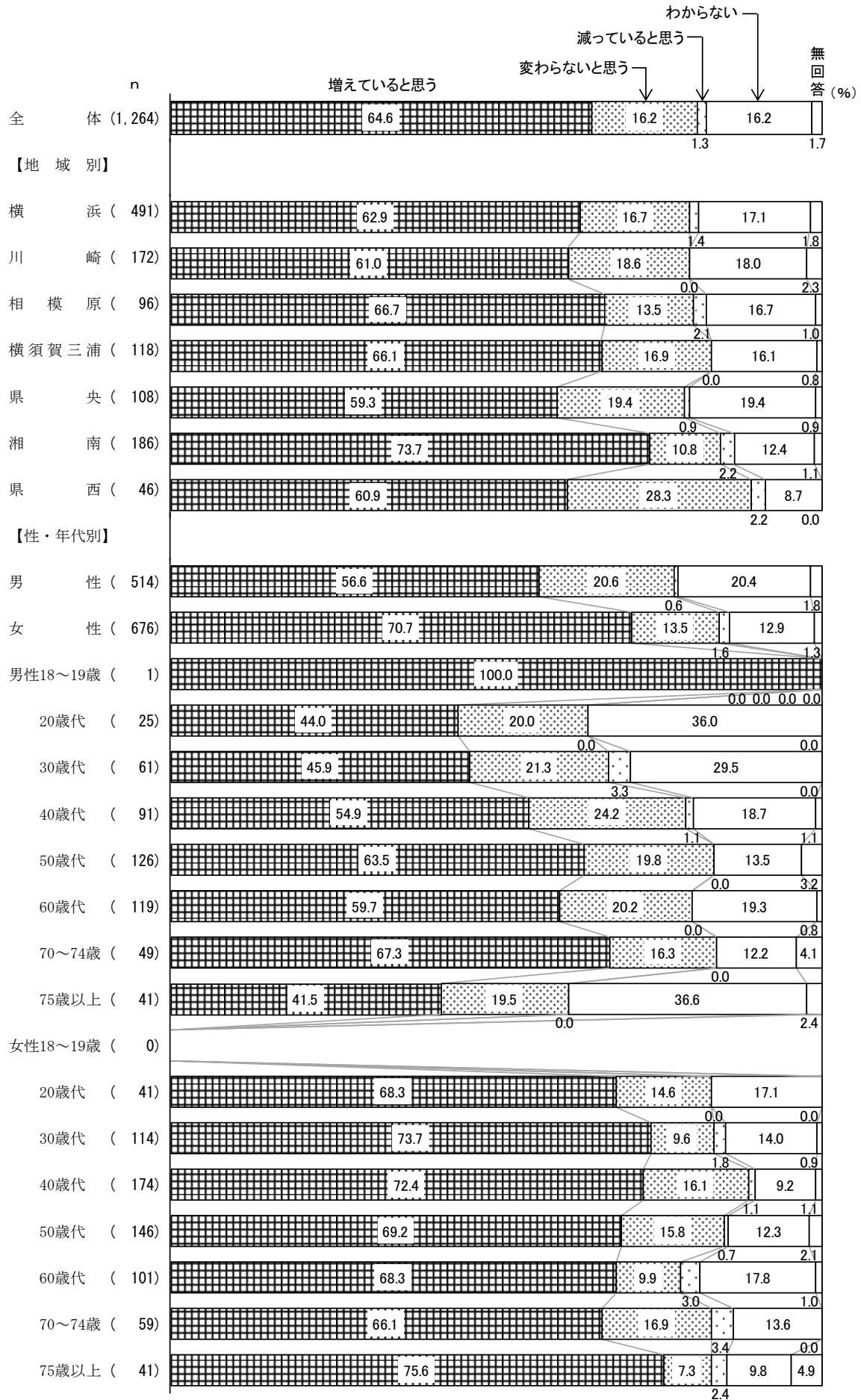
性別にみると、「増えていると思う」は、女性（70.7%）が男性（56.6%）を14.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「増えていると思う」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が75.6%で最も多かった。また、「変わらないと思う」は、男性の40歳代が24.2%で最も多かった。

なお、「減っていると思う」は、すべての性・年代（0.0%～3.4%）で1割に満たなかった。

（図表3-1-2）

図表3-1-2 アレルギー疾患の増加傾向—地域別、性・年代別



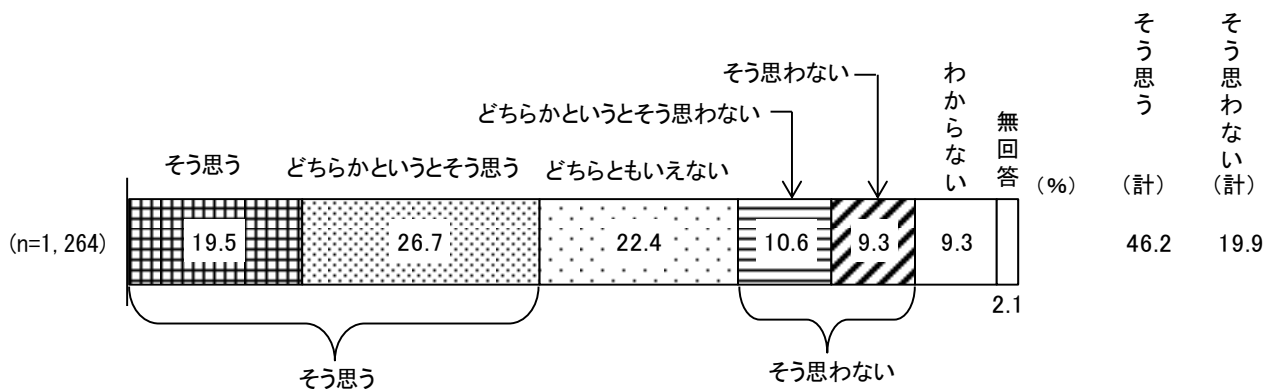
2 アレルギー疾患の多様性の認知度【問14】

【全体の状況】

アレルギー疾患の原因・症状は様々で、その治療方法も多様であることが、一般的に認識されていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(19.5%)と「どちらかというと思う」(26.7%)を合わせた《そう思う》は46.2%であった。

一方、「そう思わない」(9.3%)と「どちらかというと思わない」(10.6%)を合わせた《そう思わない》は19.9%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 アレルギー疾患の多様性の認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、《そう思う》は、県央 (51.9%)、湘南 (51.6%)、横須賀三浦 (50.0%)、県西 (50.0%) がそれぞれ5割以上であった。

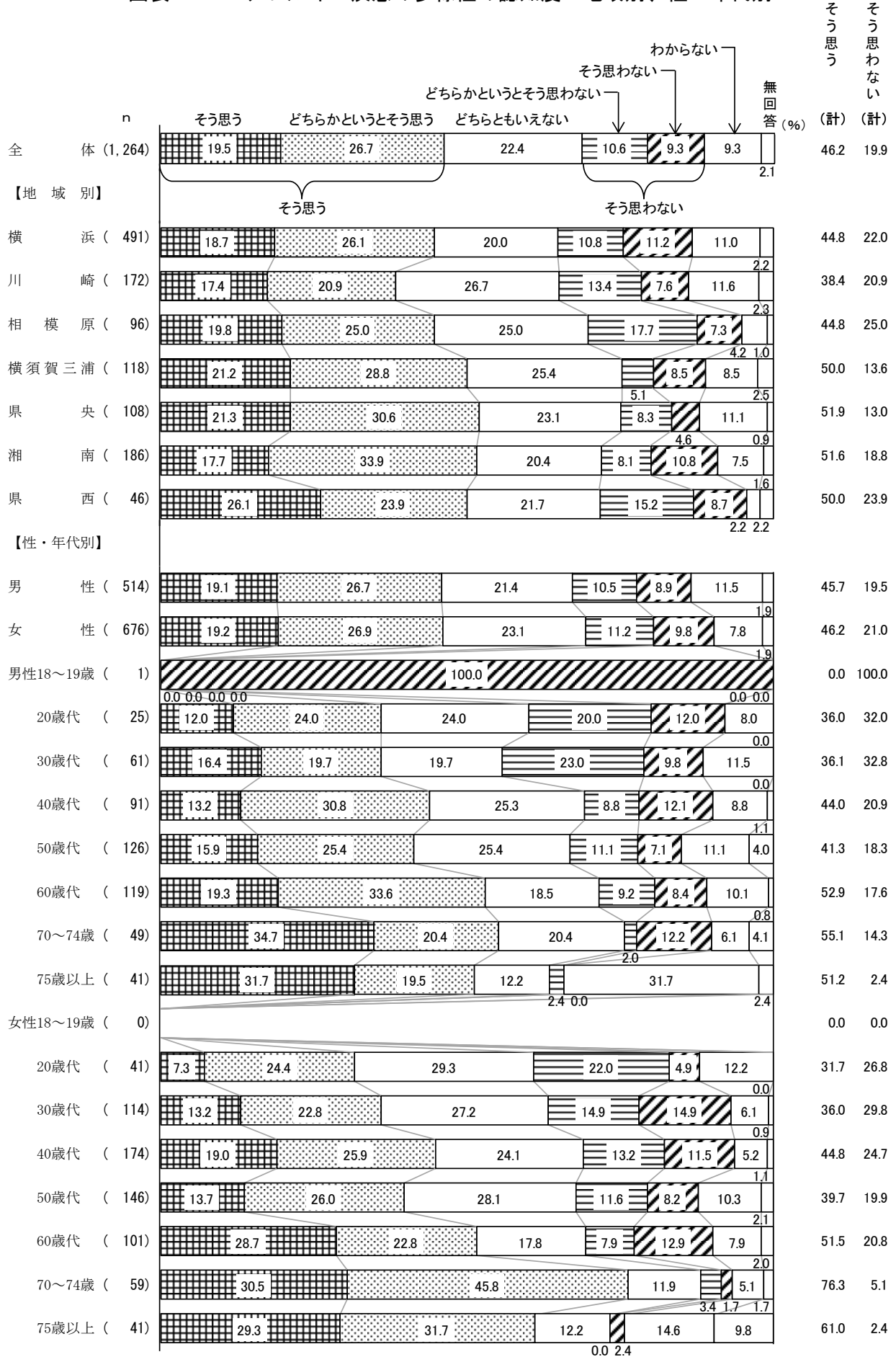
一方、《そう思わない》は、相模原が25.0%で最も多く、次いで県西が23.9%であった。(図表3-2-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《そう思う》は、女性の70~74歳が76.3%で最も多く、次いで女性の75歳以上が61.0%であった。

一方、《そう思わない》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の30歳代が32.8%で最も多かった。(図表3-2-2)

図表3-2-2 アレルギー疾患の多様性の認知度—地域別、性・年代別



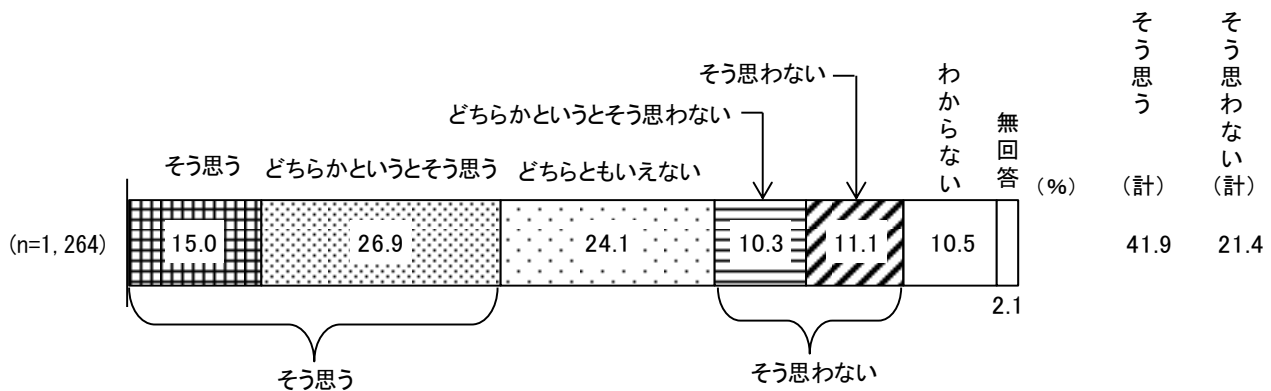
3 アレルギー疾患に関する情報の入手【問15】

【全体の状況】

例えばアレルギーの症状がある時に、どの診療科を受診すれば良いか等、相談窓口やインターネット等で、信頼できる情報を受け取ることができていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(15.0%)と「どちらかというと思う」(26.9%)を合わせた《そう思う》は41.9%であった。

一方、「そう思わない」(11.1%)と「どちらかというと思わない」(10.3%)を合わせた《そう思わない》は21.4%であった。(図表3-3-1)

図表3-3-1 アレルギー疾患に関する情報の入手



【地域別の状況】

地域別にみると、《そう思う》は、相模原が51.0%で最も多く、次いで川崎が46.5%であった。

一方、《そう思わない》は、県西が26.1%で最も多く、次いで湘南が24.7%であった。(図表3-3-2)

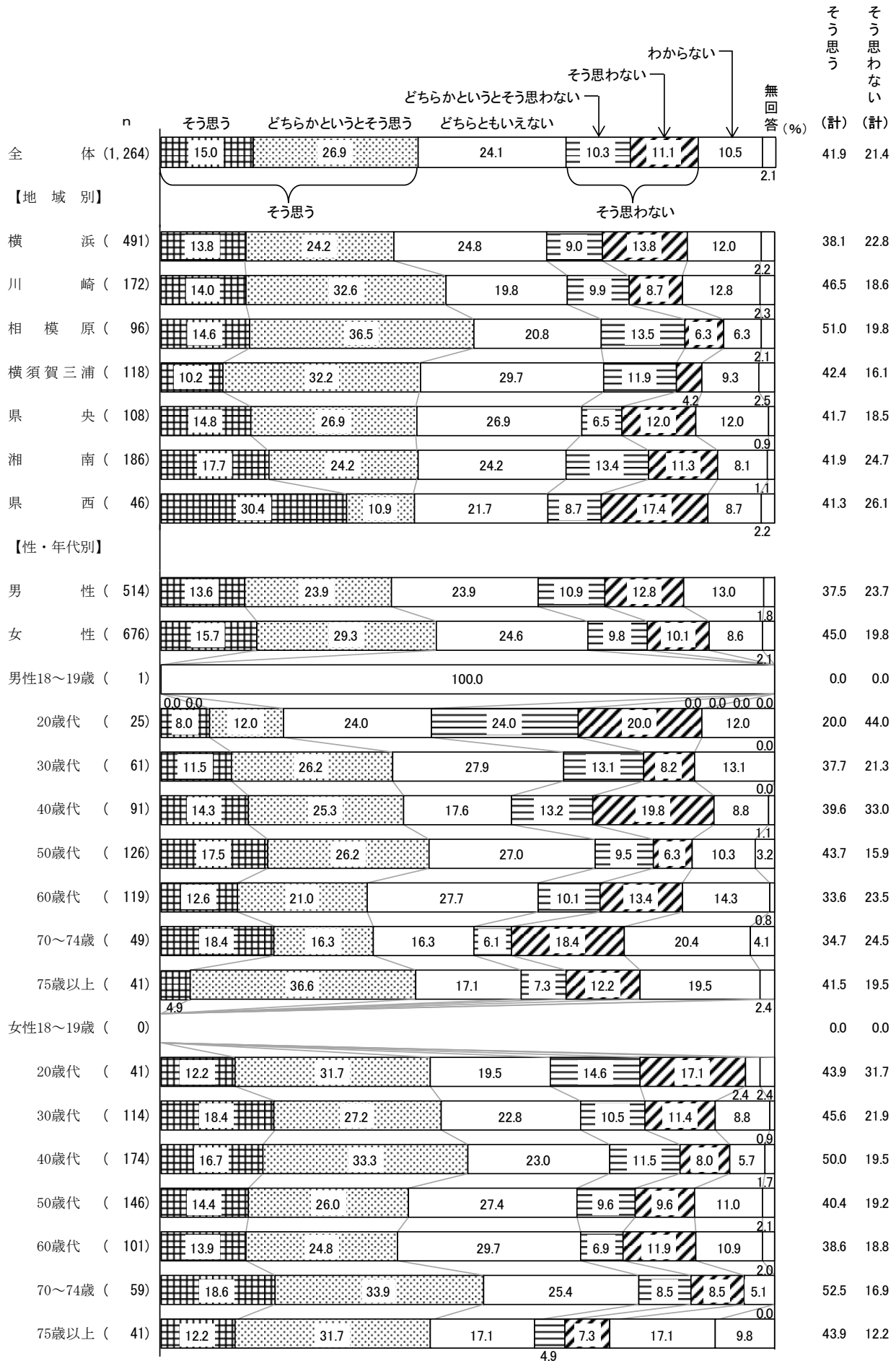
【性・年代別の状況】

性別にみると、《そう思う》は、女性(45.0%)が男性(37.5%)を7.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、《そう思う》は、女性の40歳代(50.0%)・70~74歳(52.5%)がともに5割以上であった。

一方、《そう思わない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の40歳代(33.0%)と女性の20歳代(31.7%)がともに3割を超えた。(図表3-3-2)

図表3-3-2 アレルギー疾患に関する情報の入手—地域別、性・年代別

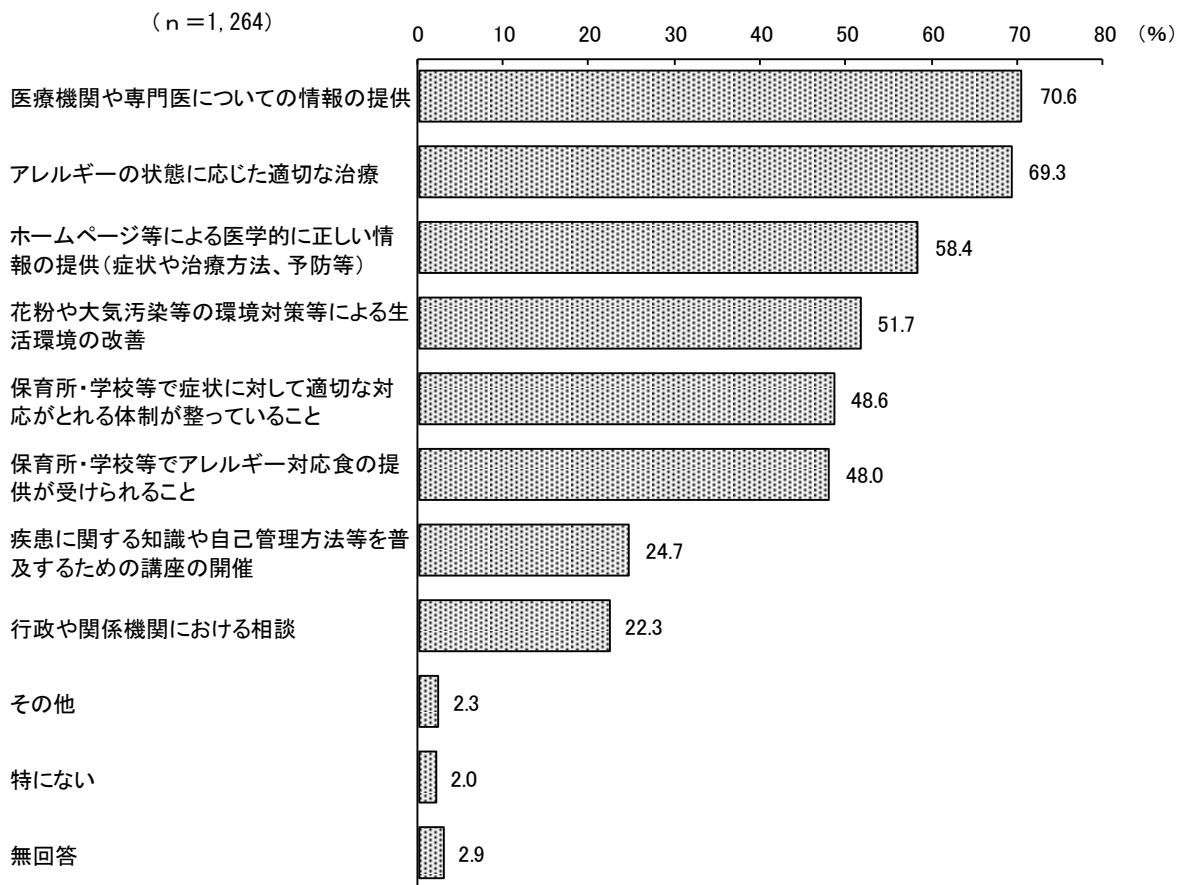


4 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援【問16】

【全体の状況】

アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「医療機関や専門医についての情報の提供」が70.6%で最も多く、次いで「アレルギーの状態に応じた適切な治療」が69.3%であった。（図表3-4-1）

図表3-4-1 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「医療機関や専門医についての情報の提供」は、湘南(74.2%)、相模原(71.9%)、横須賀三浦(71.2%)がそれぞれ7割を超えた。（図表3-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「保育所・学校等で症状に対して適切な対応がとれる体制が整っていること」は、女性(58.4%)が男性(37.2%)を21.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「アレルギーの状態に応じた適切な治療」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が80.5%で最も多く、次いで女性の30歳代が79.8%であった。

(図表3-4-2)

図表3-4-2 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	医療機関や専門医についての情報の提供	アレルギーの状態に応じた適切な治療	ホームページ等による医学的に正しい情報の提供（症状や治療方法、予防等）	花粉や大気汚染等の環境対策等による生活環境の改善	保育所・学校等で症状に対して適切な対応がとれる体制が整っていること	保育所・学校等でアレルギー対応食の提供が受けられること	疾患に関する知識や自己管理方法を普及するための講座の開催	行政や関係機関における相談	その他	特になし	無回答
全体	1,264	70.6	69.3	58.4	51.7	48.6	48.0	24.7	22.3	2.3	2.0	2.9
【地域別】												
横浜	491	69.9	67.8	61.5	49.9	49.5	50.3	24.2	23.0	2.2	2.4	3.3
川崎	172	66.9	70.3	60.5	50.6	45.3	43.0	24.4	21.5	1.2	2.3	3.5
相模原	96	71.9	70.8	51.0	63.5	52.1	51.0	28.1	20.8	4.2	2.1	4.2
横須賀三浦	118	71.2	71.2	55.1	46.6	48.3	47.5	24.6	22.0	1.7	2.5	0.8
県央	108	69.4	68.5	52.8	50.0	42.6	43.5	19.4	21.3	1.9	0.9	0.9
湘南	186	74.2	71.5	57.5	55.4	52.7	53.2	27.4	22.6	1.6	0.5	2.2
県西	46	69.6	60.9	67.4	52.2	41.3	26.1	21.7	13.0	4.3	4.3	4.3
【性・年代別】												
男性	514	67.1	61.7	60.7	49.2	37.2	39.3	21.4	22.4	2.3	2.7	3.5
女性	676	74.0	75.4	58.1	54.1	58.4	55.2	27.7	21.7	1.8	1.6	1.6
男性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
20歳代	25	68.0	76.0	56.0	56.0	40.0	48.0	24.0	20.0	4.0	4.0	-
30歳代	61	62.3	62.3	59.0	49.2	45.9	41.0	16.4	21.3	3.3	4.9	-
40歳代	91	62.6	57.1	64.8	47.3	47.3	45.1	26.4	17.6	2.2	3.3	4.4
50歳代	126	65.9	66.7	70.6	45.2	28.6	32.5	19.0	15.9	-	1.6	4.0
60歳代	119	75.6	58.0	60.5	50.4	40.3	45.4	24.4	26.1	5.0	0.8	3.4
70～74歳	49	67.3	59.2	53.1	53.1	34.7	30.6	20.4	26.5	-	2.0	6.1
75歳以上	41	63.4	61.0	36.6	53.7	19.5	31.7	17.1	41.5	2.4	7.3	4.9
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	70.7	80.5	68.3	58.5	63.4	63.4	14.6	9.8	-	2.4	-
30歳代	114	71.1	79.8	67.5	49.1	71.1	70.2	28.9	25.4	2.6	-	0.9
40歳代	174	72.4	74.7	55.7	52.9	62.6	56.9	27.0	19.5	4.0	2.3	1.1
50歳代	146	78.1	76.0	62.3	53.4	48.6	47.3	32.2	20.5	0.7	3.4	2.7
60歳代	101	76.2	76.2	54.5	57.4	67.3	60.4	30.7	25.7	1.0	-	1.0
70～74歳	59	78.0	67.8	45.8	55.9	40.7	44.1	18.6	23.7	-	1.7	-
75歳以上	41	65.9	68.3	43.9	61.0	39.0	29.3	29.3	24.4	-	-	7.3

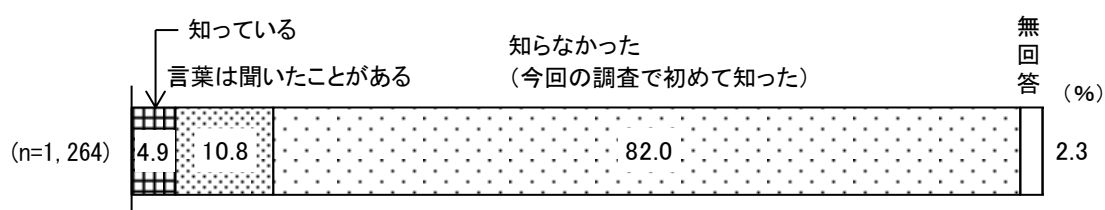
第4章 ともに生きる社会かながわ【問17～問22】

1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度【問17】

【全体の状況】

ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が82.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.8%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度



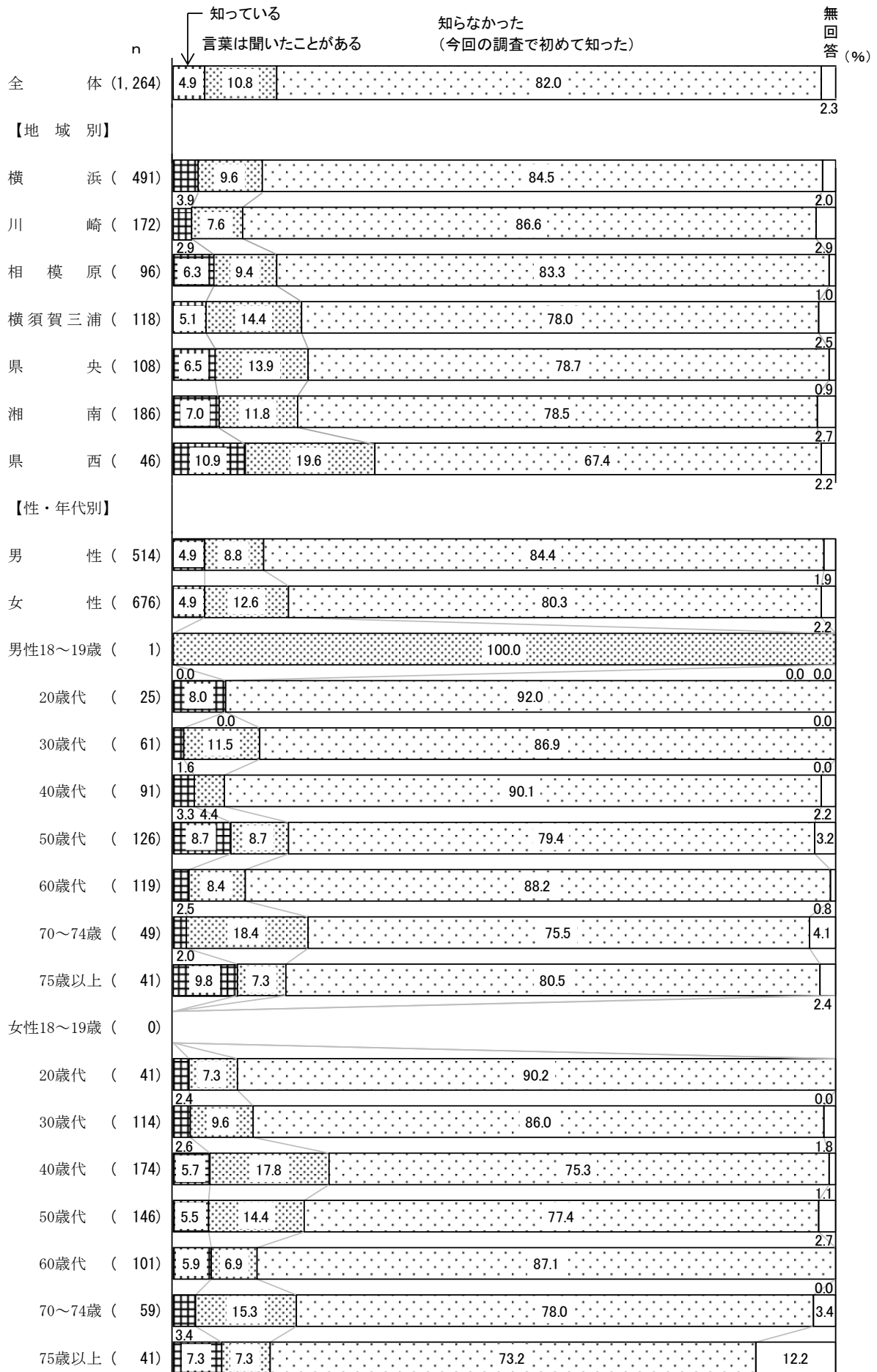
【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、川崎が86.6%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、県西が19.6%で最も多く、次いで横須賀三浦が14.4%であった。（図表4-1-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の40歳代（90.1%）と女性の20歳代（90.2%）がともに9割であった。また、「言葉は聞いたことがある」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の70～74歳が18.4%で最も多かった。（図表4-1-2）

図表4-1-2 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度—地域別、性・年代別

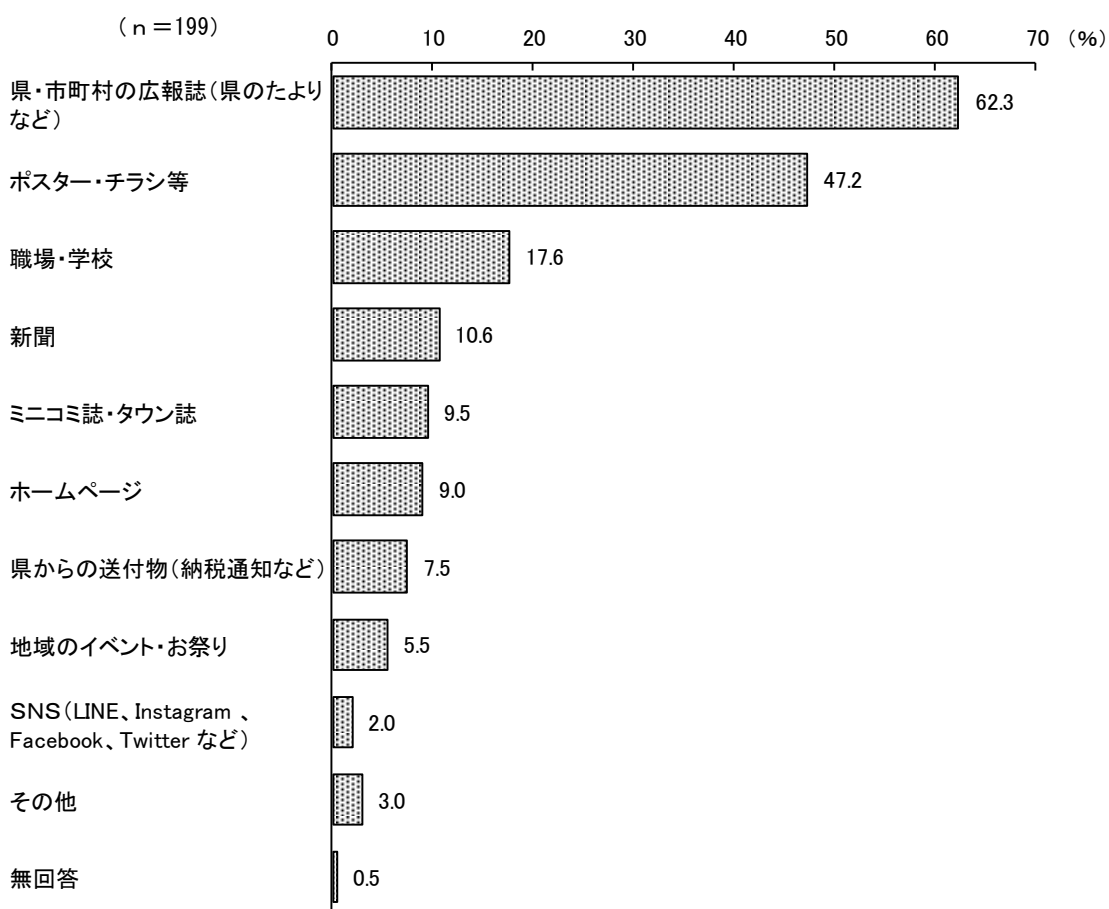


2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法【問17-1】

【全体の状況】

とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問17）で、とともに生きる社会かながわ憲章を「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した199人にとともに生きる社会かながわ憲章を何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が62.3%で最も多く、次いで「ポスター・チラシ等」が47.2%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）



図表4-2-2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

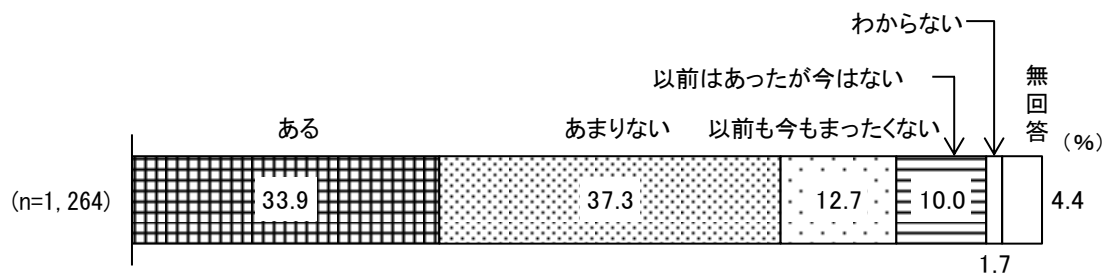
(%)												
	n	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	ポスター・チラシ等	職場・学校	新聞	ミニコミ誌・タウン誌	ホームページ	県からの送付物（納税通知など）	地域のイベント・お祭り	F S N S（LINE、Facebook、Instagramなど）	その他	無回答
全 体	199	62.3	47.2	17.6	10.6	9.5	9.0	7.5	5.5	2.0	3.0	0.5
【地 域 別】												
横 浜	66	68.2	45.5	15.2	7.6	9.1	9.1	10.6	-	3.0	1.5	-
川 崎	18	61.1	33.3	5.6	-	5.6	16.7	5.6	16.7	5.6	5.6	-
相 模 原	15	33.3	53.3	26.7	6.7	6.7	6.7	6.7	13.3	-	-	-
横 須 賀 三 浦	23	65.2	60.9	17.4	4.3	13.0	13.0	4.3	8.7	4.3	4.3	-
県 央	22	68.2	45.5	22.7	18.2	13.6	4.5	9.1	9.1	-	4.5	-
湘 南	35	51.4	48.6	17.1	17.1	5.7	11.4	5.7	5.7	-	5.7	2.9
県 西	14	64.3	50.0	28.6	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-
【性・年代別】												
男 性	70	55.7	41.4	12.9	12.9	8.6	15.7	12.9	4.3	2.9	2.9	-
女 性	118	64.4	51.7	21.2	8.5	8.5	5.9	4.2	5.9	1.7	2.5	0.8
男性18～19歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	2	-	50.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
30歳代	8	62.5	50.0	12.5	-	-	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	-
40歳代	7	71.4	42.9	-	-	-	14.3	28.6	-	14.3	-	-
50歳代	22	45.5	36.4	27.3	9.1	-	22.7	9.1	9.1	-	4.5	-
60歳代	13	53.8	46.2	15.4	15.4	23.1	15.4	7.7	-	-	-	-
70～74歳	10	70.0	30.0	-	30.0	20.0	-	10.0	-	-	-	-
75歳以上	7	71.4	42.9	-	28.6	14.3	-	28.6	-	-	-	-
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	4	25.0	75.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-
30歳代	14	50.0	42.9	28.6	-	7.1	7.1	7.1	7.1	-	-	-
40歳代	41	58.5	53.7	24.4	4.9	7.3	7.3	2.4	7.3	4.9	2.4	-
50歳代	29	75.9	55.2	24.1	3.4	6.9	3.4	6.9	3.4	-	3.4	-
60歳代	13	76.9	53.8	30.8	15.4	15.4	-	-	-	-	7.7	-
70～74歳	11	81.8	45.5	-	27.3	-	9.1	9.1	9.1	-	-	9.1
75歳以上	6	50.0	33.3	-	33.3	33.3	16.7	-	-	-	-	-

3 身近で障がい者と接する機会【問18】

【全体の状況】

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(33.9%)と「あまりない」(37.3%)がともに3割台であった。(図表4-3-1)

図表4-3-1 身近で障がい者と接する機会



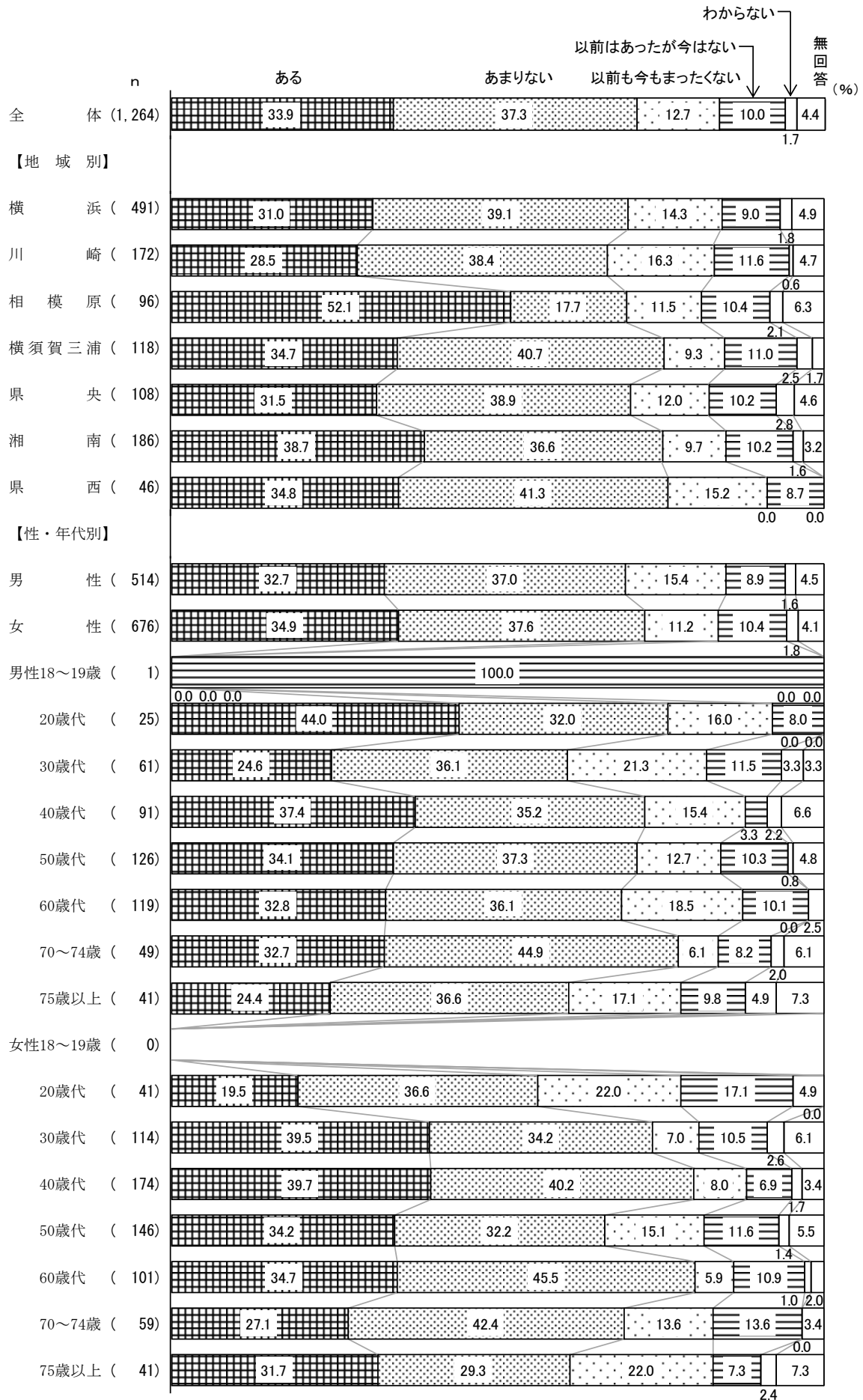
【地域別の状況】

地域別にみると、「ある」は、相模原が52.1%で最も多かった。また、「あまりない」は、県西(41.3%)と横須賀三浦(40.7%)がともに約4割であった。(図表4-3-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「ある」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性の40歳代が39.7%で最も多く、次いで女性の30歳代が39.5%であった。また、「あまりない」は、男性の70~74歳(44.9%)、女性の40歳代(40.2%)・60歳代(45.5%)・70~74歳(42.4%)がそれぞれ4割を超えた。(図表4-3-2)

図表4-3-2 身近で障がい者と接する機会—地域別、性・年代別



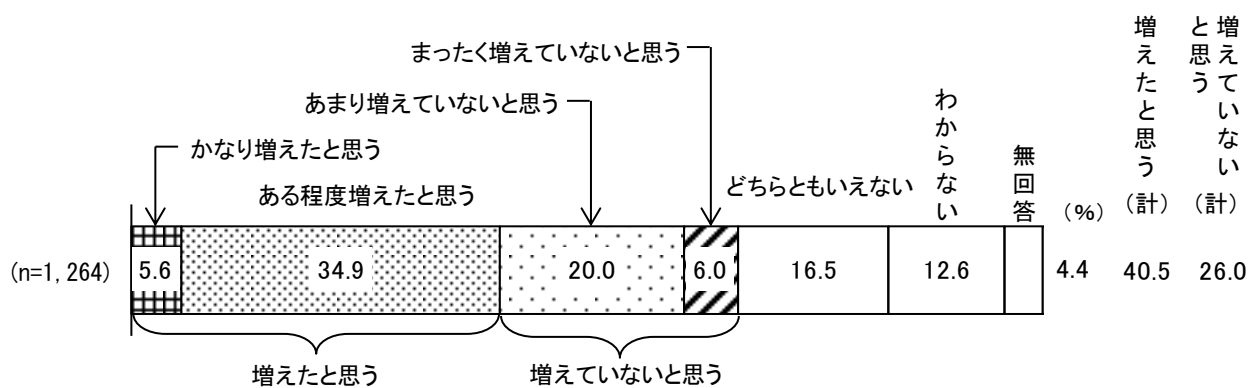
4 障がい者に配慮した行動をとる人【問19】

【全体の状況】

5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(5.6%)と「ある程度増えたと思う」(34.9%)を合わせた《増えたと思う》は40.5%であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(6.0%)と「あまり増えていないと思う」(20.0%)を合わせた《増えていないと思う》は26.0%であった。(図表4-4-1)

図表4-4-1 障がい者に配慮した行動をとる人



【地域別の状況】

地域別にみると、《増えたと思う》は、県西が50.0%で最も多く、次いで横須賀三浦が45.7%であった。

一方、《増えていないと思う》は、湘南が30.1%で最も多く、次いで相模原が29.2%であった。

(図表4-4-2)

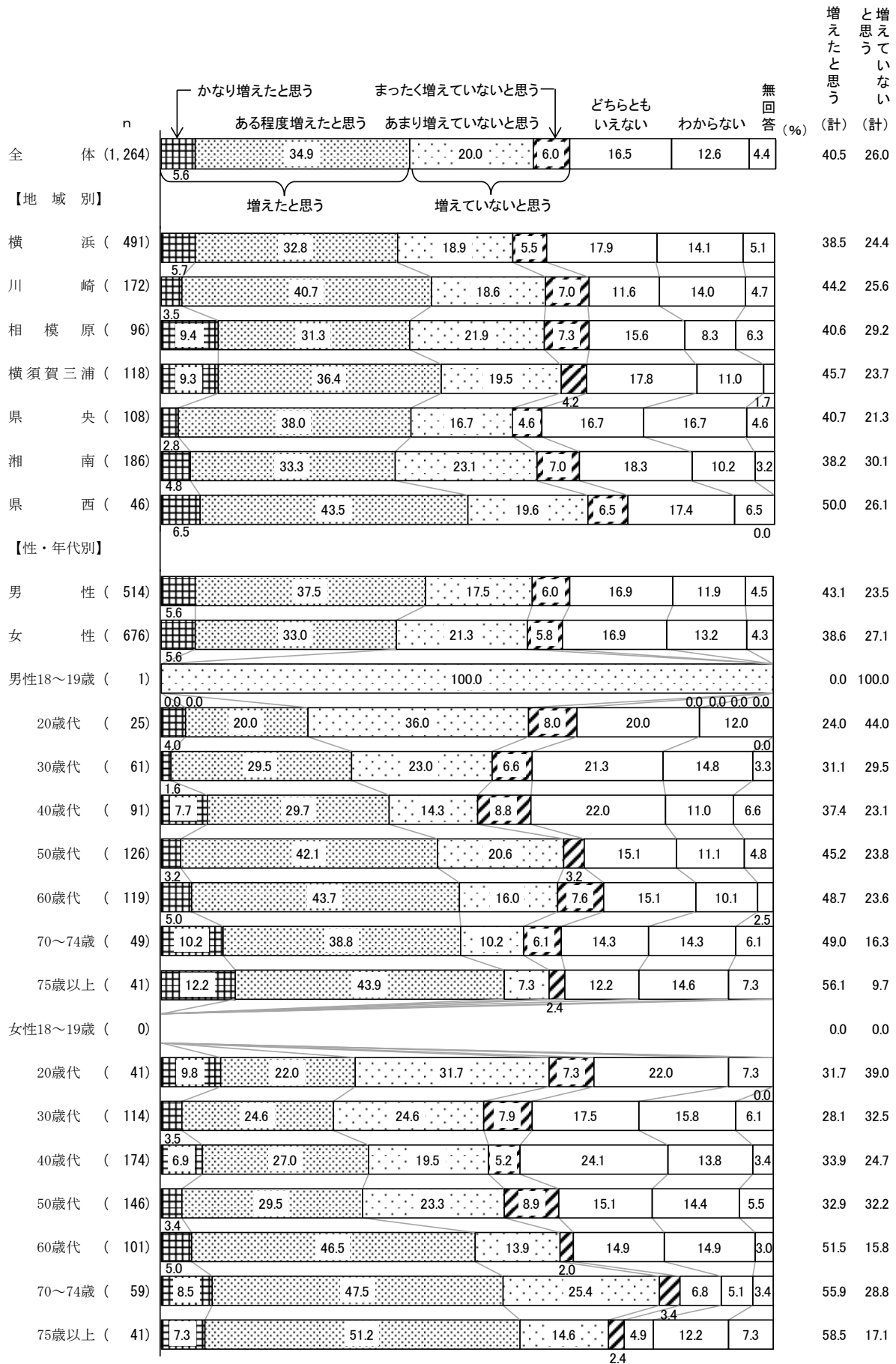
【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《増えたと思う》は、男性の75歳以上(56.1%)、女性の60歳代(51.5%)・70~74歳(55.9%)・75歳以上(58.5%)がそれぞれ5割を超えた。

一方、《増えていないと思う》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳・20歳代を除くと、女性の20歳代が39.0%で最も多く、女性の30歳代(32.5%)・50歳代(32.2%)が3割台で続いた。

(図表4-4-2)

図表4-4-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



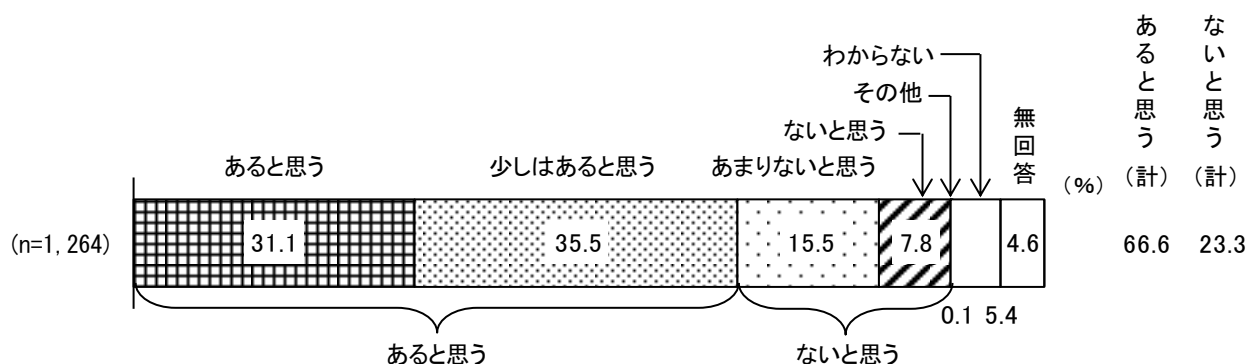
5 障がい者への差別・偏見の有無【問20】

【全体の状況】

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(31.1%)と「少しはあると思う」(35.5%)を合わせた《あると思う》は66.6%であった。

一方、「ないと思う」(7.8%)と「あまりないと思う」(15.5%)を合わせた《ないと思う》は23.3%であった。(図表4-5-1)

図表4-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



【地域別の状況】

地域別にみると、《あると思う》は、川崎が74.4%で最も多かった。

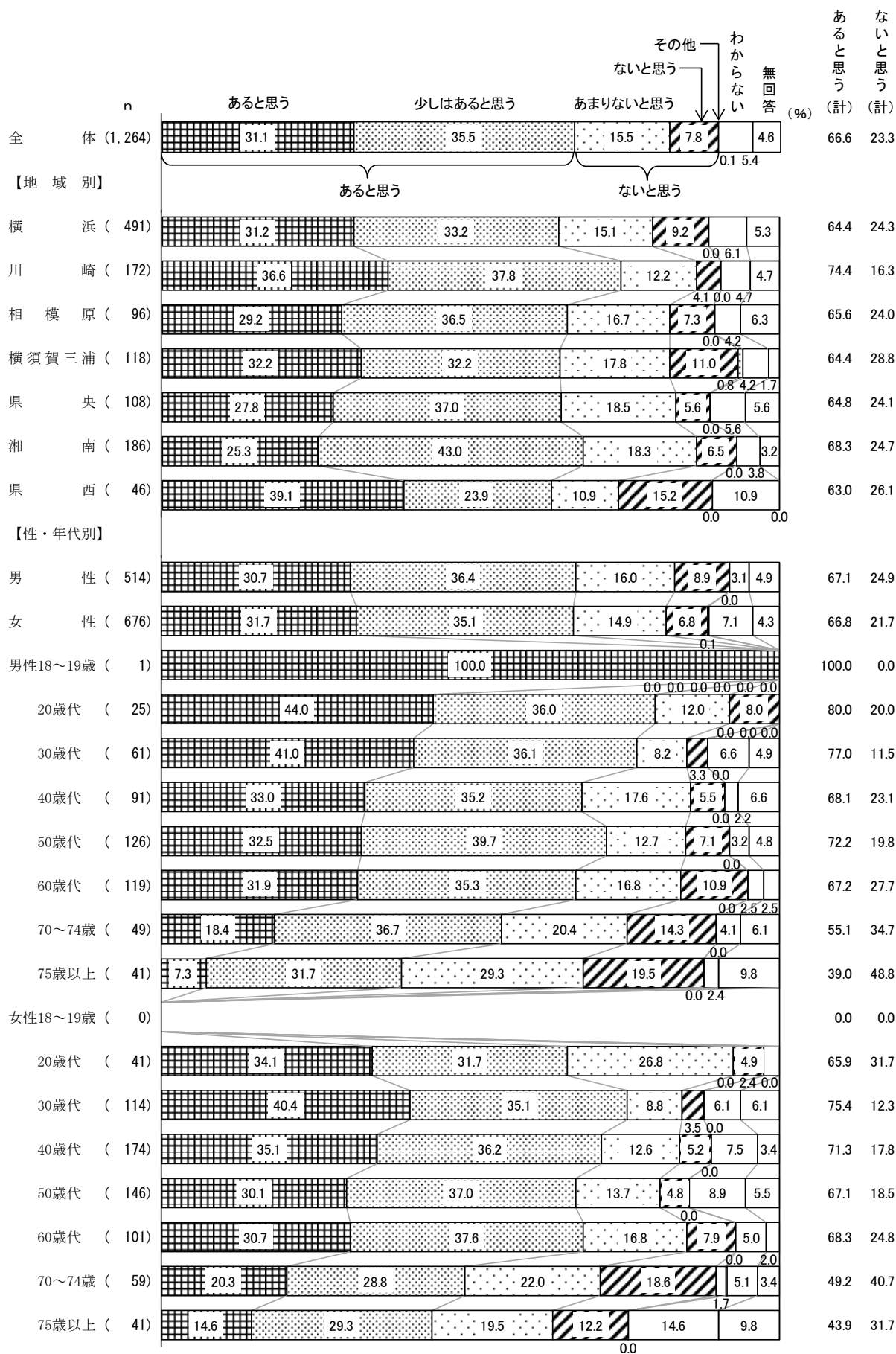
一方、《ないと思う》は、川崎(16.3%)を除く6地域(24.0%~28.8%)がそれぞれ2割を超えた。(図表4-5-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《あると思う》は、サンプル数の少ない男性の18~19歳・20歳代を除くと、男性の30歳代(77.0%)・50歳代(72.2%)、女性の30歳代(75.4%)・40歳代(71.3%)がそれぞれ7割を超えた。

一方、《ないと思う》は、男性の75歳以上(48.8%)と女性の70~74歳(40.7%)がともに4割を超えた。(図表4-5-2)

図表4-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別

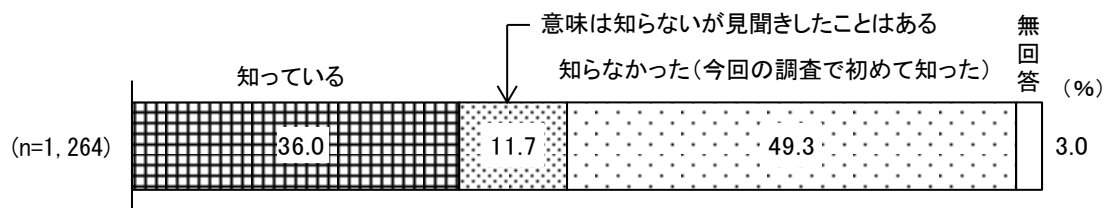


6 ヘルプマークの認知度【問21】

【全体の状況】

見目で分かりにくい内部障がい等に対して配慮が必要なことを示すヘルプマークを知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が49.3%で最も多く、次いで「知っている」が36.0%であった。（図表4-6-1）

図表4-6-1 ヘルプマークの認知度



【地域別の状況】

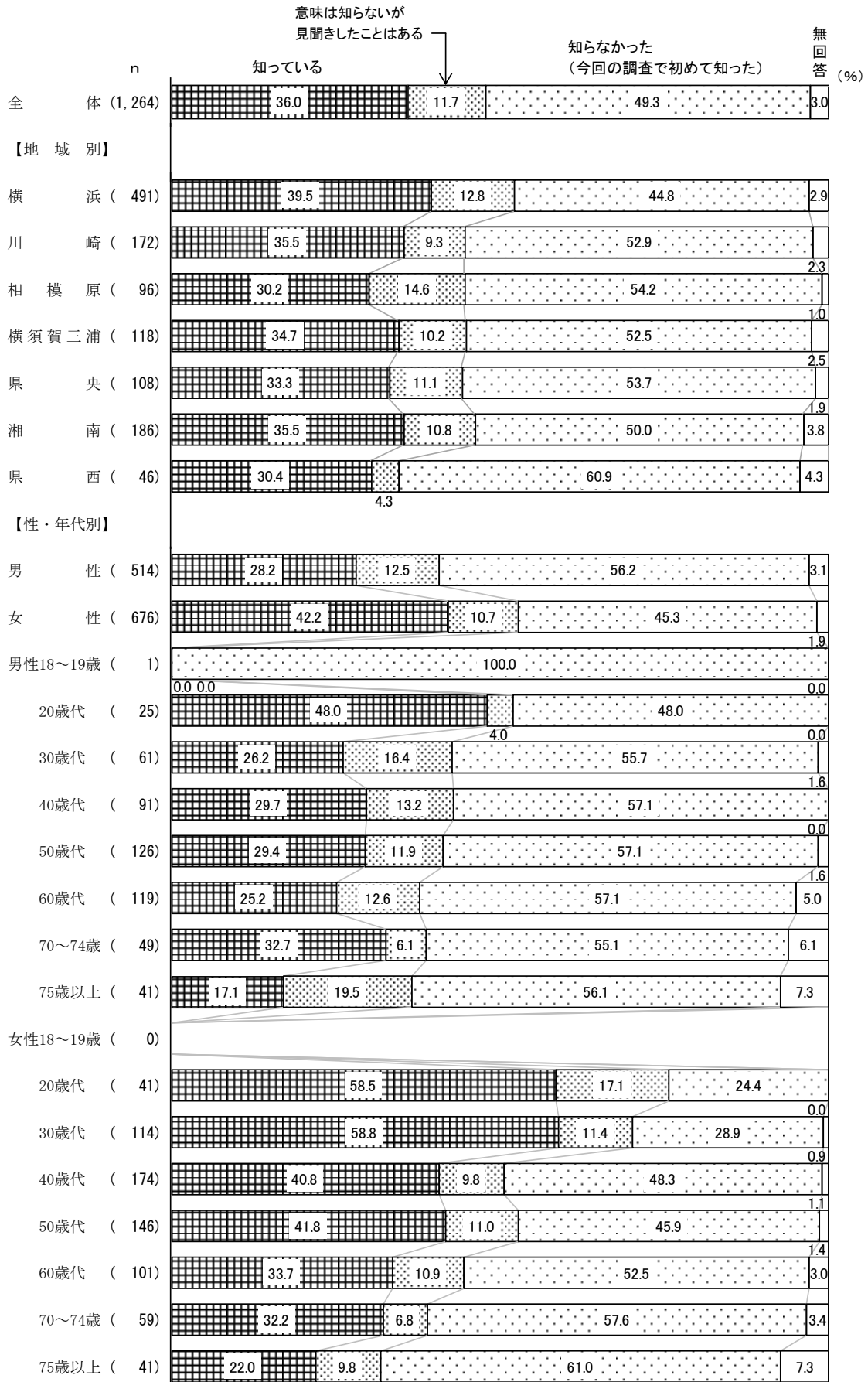
地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、県西が60.9%で最も多かった。また、「知っている」は、横浜が39.5%で最も多かった。（図表4-6-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「知っている」は、女性（42.2%）が男性（28.2%）を14.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が61.0%で最も多く、次いで女性の70～74歳代が57.6%であった。また、「知っている」は、女性の20歳代（58.5%）・30歳代（58.8%）がともに約6割であった。（図表4-6-2）

図表4-6-2 ヘルプマークの認知度—地域別、性・年代別

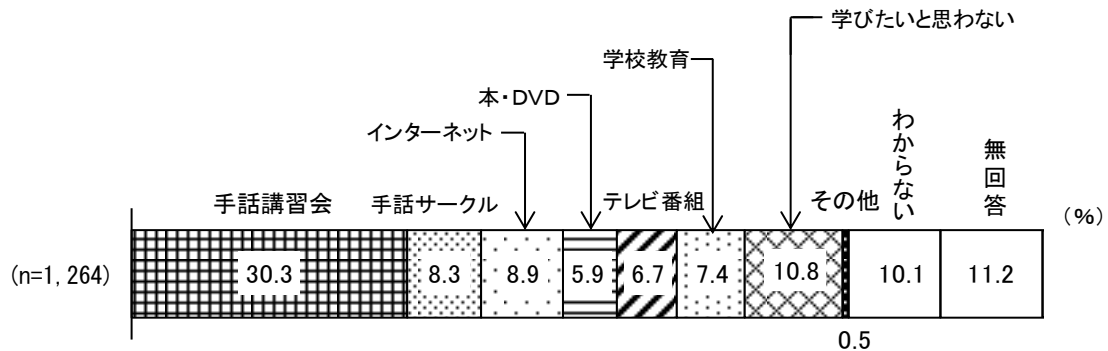


7 希望する手話の学習方法【問22】

【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が30.3%で最も多く、次いで「学びたいと思わない」が10.8%であった。（図表4-7-1）

図表4-7-1 希望する手話の学習方法



【地域別の状況】

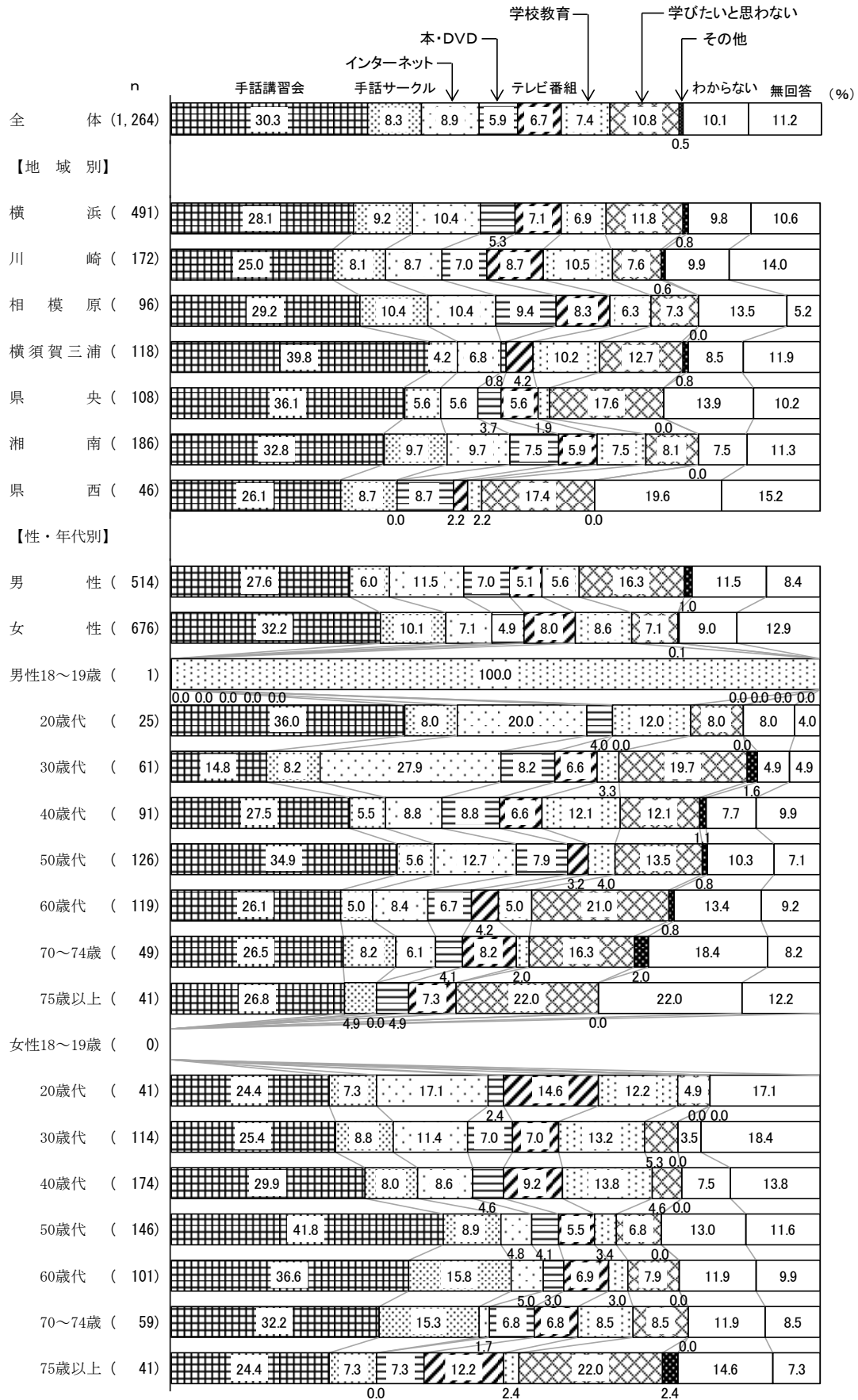
地域別にみると、「手話講習会」は、横須賀三浦が39.8%で最も多かった。また、「インターネット」は、横浜と相模原がともに10.4%であった。（図表4-7-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「学びたいと思わない」は、男性（16.3%）が女性（7.1%）を9.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「手話講習会」は、女性の50歳代が41.8%で最も多く、次いで女性の60歳代が36.6%であった。また、「インターネット」は、男性の30歳代が27.9%で最も多かった。（図表4-7-2）

図表4-7-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別



第5章 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組【問23～問31】

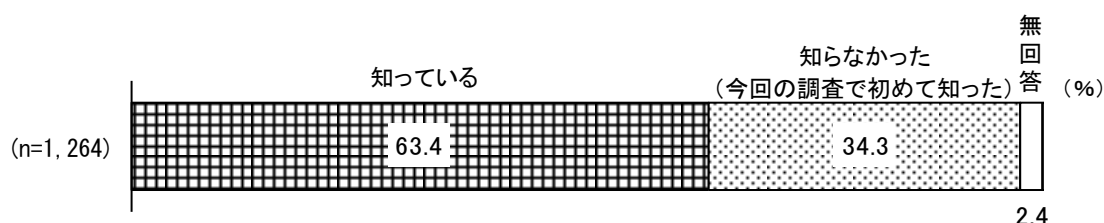
1 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度【問23】

【全体の状況】

2019年9月から11月にかけて、ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が63.4%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、34.3%であった。（図表5-1-1）

図表5-1-1 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「知っている」は、県西が69.6%で最も多く、次いで横浜が68.0%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、湘南（39.8%）と相模原（39.6%）がともに4割であった。（図表5-1-2）

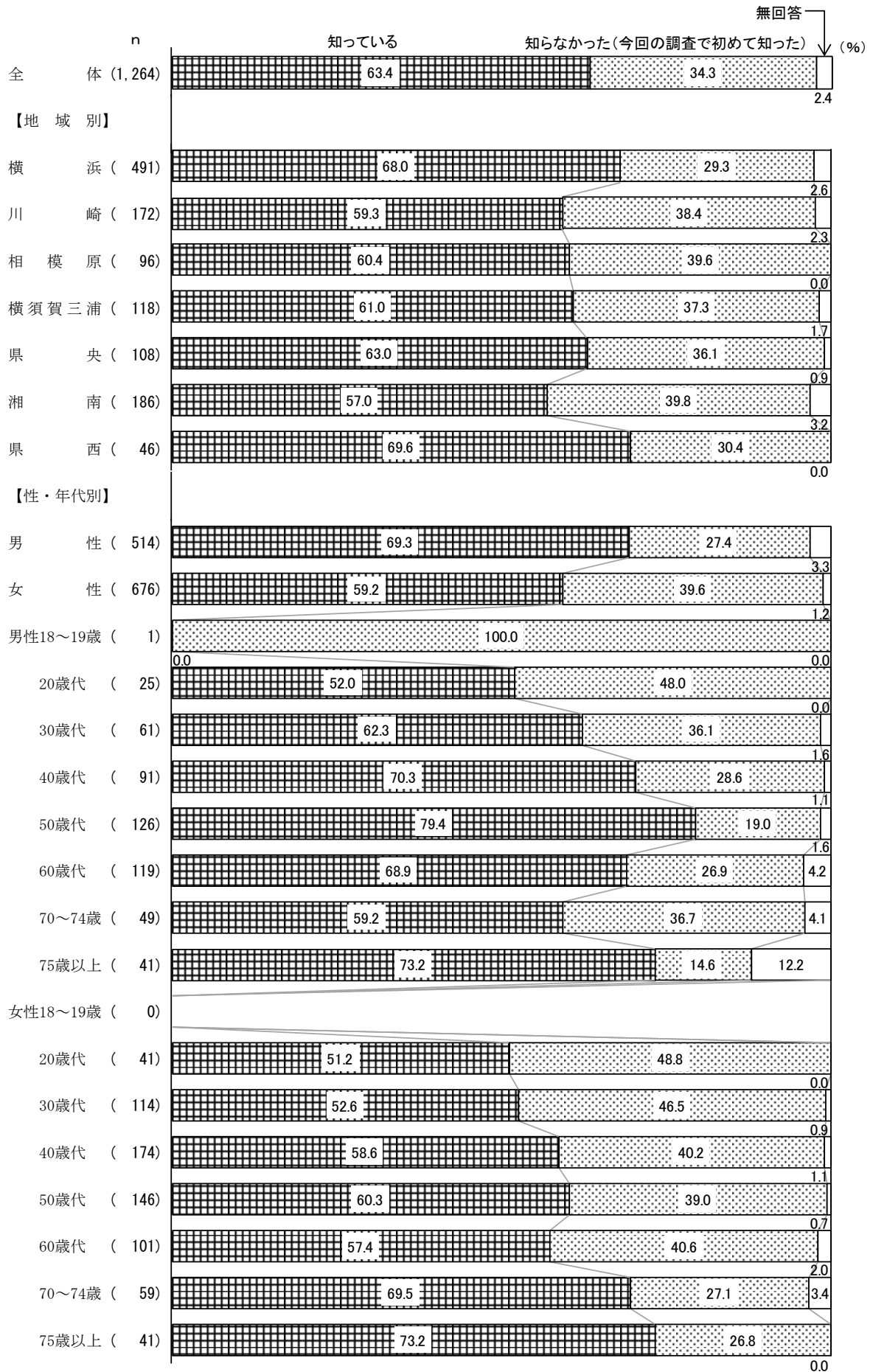
【性・年代別の状況】

性別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、女性（39.6%）が男性（27.4%）を12.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「知っている」は、男性の50歳代が79.4%で最も多く、次いで男女ともに75歳以上が73.2%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が48.8%で最も多かった。（図表5-1-2）

図表5-1-2 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度—地域別、性・年代別

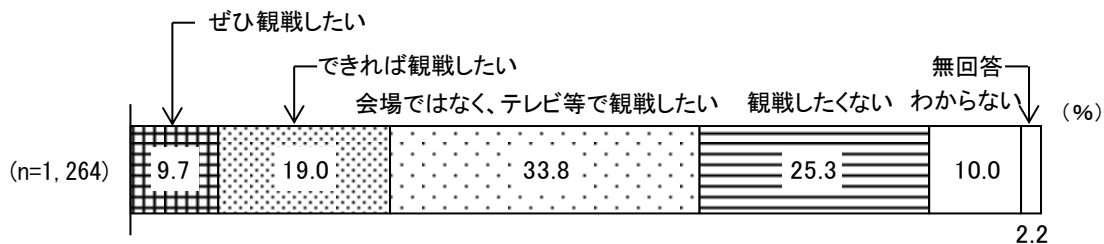


2 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向【問24】

【全体の状況】

横浜市で開催されるラグビーワールドカップを直接会場で観戦したいと思うか尋ねたところ、「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」が33.8%で最も多く、次いで「観戦したくない」が25.3%であった。（図表5-2-1）

図表5-2-1 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向



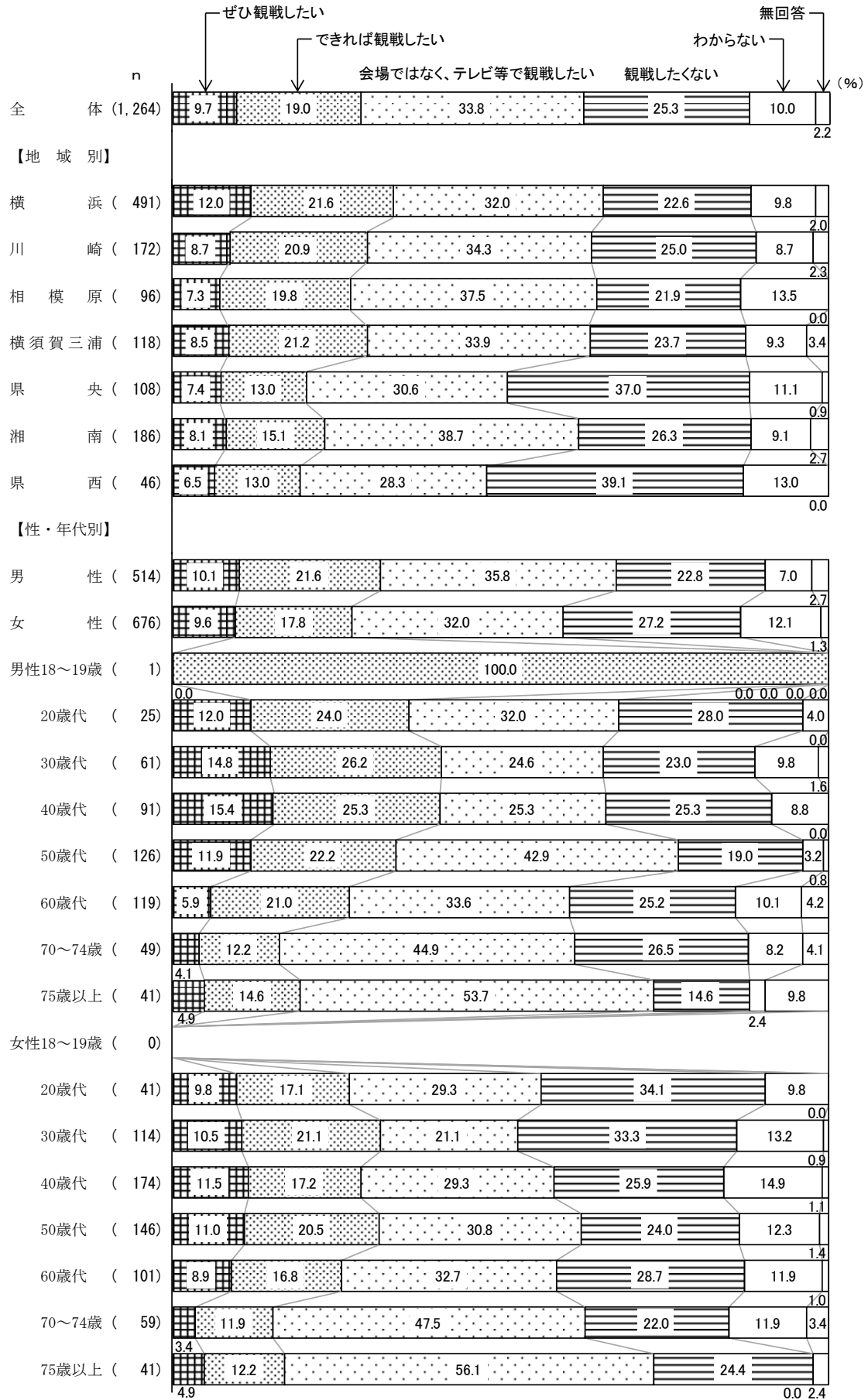
【地域別の状況】

地域別にみると、「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」は、湘南が38.7%で最も多かった。また、「観戦したくない」は、県西が39.1%で最も多かった。（図表5-2-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」は、男女ともに75歳以上（男性53.7%、女性56.1%）が5割台で最も多かった。また、「観戦したくない」は、女性の20歳代（34.1%）・30歳代（33.3%）がともに3割台であった。（図表5-2-2）

図表5-2-2 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向—地域別、性・年代別

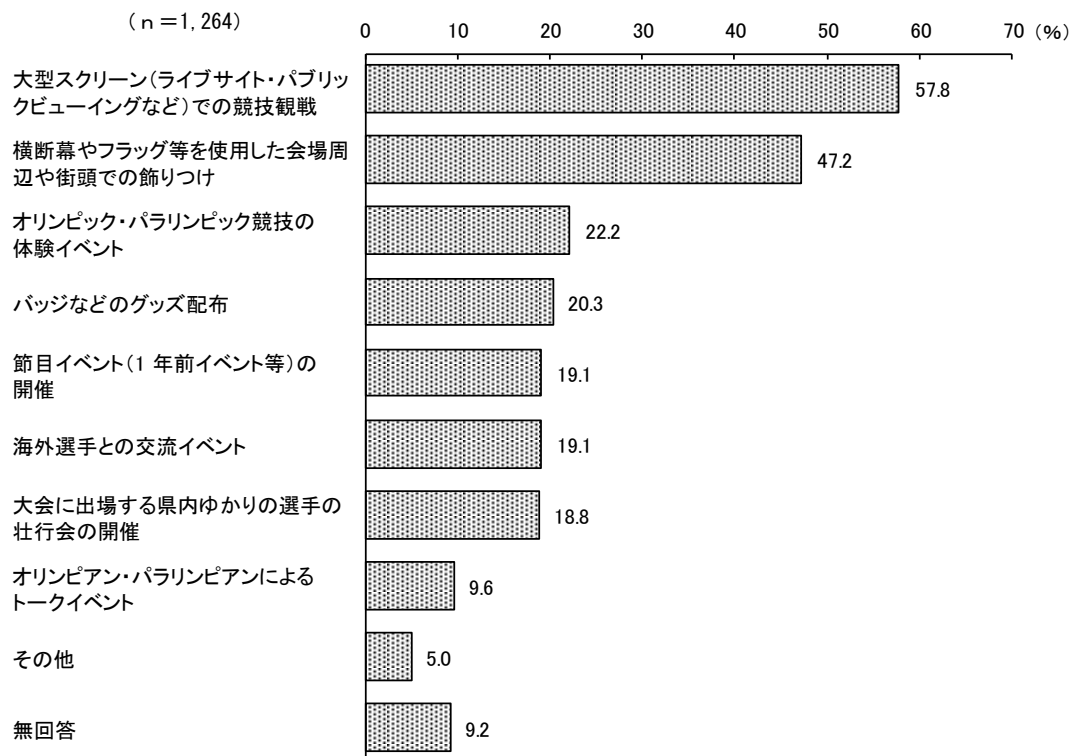


3 オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくために有効な方法【問25】

【全体の状況】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくためにどのような方法が有効だと思いか複数回答で尋ねたところ、「大型スクリーン（ライブサイト・パブリックビューイングなど）での競技観戦」が57.8%で最も多く、次いで「横断幕やフラッグ等を使用した会場周辺や街頭での飾りつけ」が47.2%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくために有効な方法（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「大型スクリーン（ライブサイト・パブリックビューイングなど）での競技観戦」は、横浜が60.3%で最も多く、次いで川崎が58.1%であった。（図表5-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「大型スクリーン（ライブサイト・パブリックビューイングなど）での競技観戦」は、女性（64.3%）が男性（50.2%）を14.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「大型スクリーン（ライブサイト・パブリックビューイングなど）での競技観戦」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が78.0%で最も多く、次いで女性の50歳代が70.5%であった。（図表5-3-2）

図表5-3-2 オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくために有効な方法（複数回答）
—地域別、性・年代別

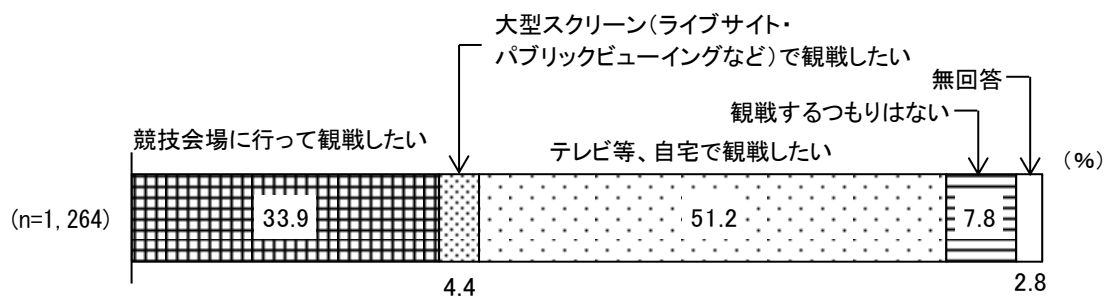
(%)												
	n	技観戦 大型スクリーン（ライブサイト・パ ブリックビューイングなど）での競	横断幕やフラッグ等を使用した 会場周辺や街頭での飾りつけ	競 技 の 体 験 イ ベ ン ト	オ リ ン ピ ッ ク ・ パ ラ リ ン ピ ッ ク	バ ッ ジ な ど の グ ッ ズ 配 布	等 節 目 イ ベ ン ト （ 1 年 前 イ ベ ン ト の 開 催	海 外 選 手 と の 交 流 イ ベ ン ト	大 会 に 出 場 す る 県 内 ゆ か り の 選 手 の 壮 行 会 の 開 催	オ リ ン ピ ア ン ・ パ ラ リ ン ピ ア ン に よ る ト ー ク イ ベ ン ト	そ の 他	無 回 答
全 体	1,264	57.8	47.2	22.2	20.3	19.1	19.1	18.8	9.6	5.0	9.2	
【地 域 別】												
横 浜	491	60.3	48.3	21.8	20.4	17.3	17.3	16.5	10.8	5.3	9.0	
川 崎	172	58.1	45.9	26.7	20.9	15.7	21.5	20.3	9.3	5.2	9.3	
相 模 原	96	55.2	50.0	19.8	24.0	22.9	13.5	19.8	9.4	6.3	11.5	
横 須 賀 三 浦	118	53.4	44.9	21.2	17.8	20.3	20.3	24.6	9.3	8.5	5.1	
県 央	108	55.6	48.1	19.4	21.3	20.4	22.2	25.0	3.7	4.6	6.5	
湘 南	186	57.5	48.4	24.7	21.5	19.9	24.2	16.7	11.3	2.2	10.2	
県 西	46	56.5	41.3	21.7	17.4	30.4	10.9	15.2	8.7	4.3	13.0	
【性・年代別】												
男 性	514	50.2	43.4	16.7	24.7	23.0	19.1	19.8	9.1	7.2	9.1	
女 性	676	64.3	50.7	27.4	17.8	16.1	19.2	18.0	10.4	3.6	8.1	
男性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	25	60.0	28.0	32.0	32.0	16.0	28.0	12.0	16.0	-	-	
30歳代	61	54.1	37.7	23.0	31.1	18.0	24.6	16.4	8.2	8.2	6.6	
40歳代	91	50.5	41.8	28.6	22.0	23.1	22.0	23.1	8.8	5.5	7.7	
50歳代	126	59.5	44.4	16.7	25.4	19.0	18.3	23.8	7.1	5.6	7.1	
60歳代	119	47.9	47.1	9.2	26.1	26.9	15.1	21.8	10.1	10.9	9.2	
70～74歳	49	38.8	53.1	10.2	24.5	28.6	10.2	8.2	10.2	4.1	12.2	
75歳以上	41	29.3	39.0	-	12.2	29.3	24.4	19.5	9.8	12.2	22.0	
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	41	78.0	58.5	22.0	17.1	7.3	19.5	22.0	9.8	-	4.9	
30歳代	114	58.8	50.9	39.5	21.1	12.3	22.8	19.3	7.0	6.1	7.9	
40歳代	174	67.2	47.7	36.2	17.8	14.4	19.0	19.0	12.6	4.0	6.3	
50歳代	146	70.5	51.4	21.2	15.1	26.7	16.4	13.0	11.0	4.8	8.2	
60歳代	101	64.4	58.4	20.8	13.9	12.9	20.8	15.8	9.9	2.0	6.9	
70～74歳	59	55.9	49.2	13.6	16.9	11.9	18.6	30.5	6.8	-	11.9	
75歳以上	41	43.9	36.6	19.5	29.3	19.5	17.1	12.2	14.6	2.4	17.1	

4 東京2020オリンピック競技大会の観戦意向【問26】

【全体の状況】

東京2020オリンピック競技大会を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が51.2%で最も多く、次いで「競技会場に行って観戦したい」が33.9%であった。(図表5-4-1)

図表5-4-1 東京2020オリンピック競技大会の観戦意向



【地域別の状況】

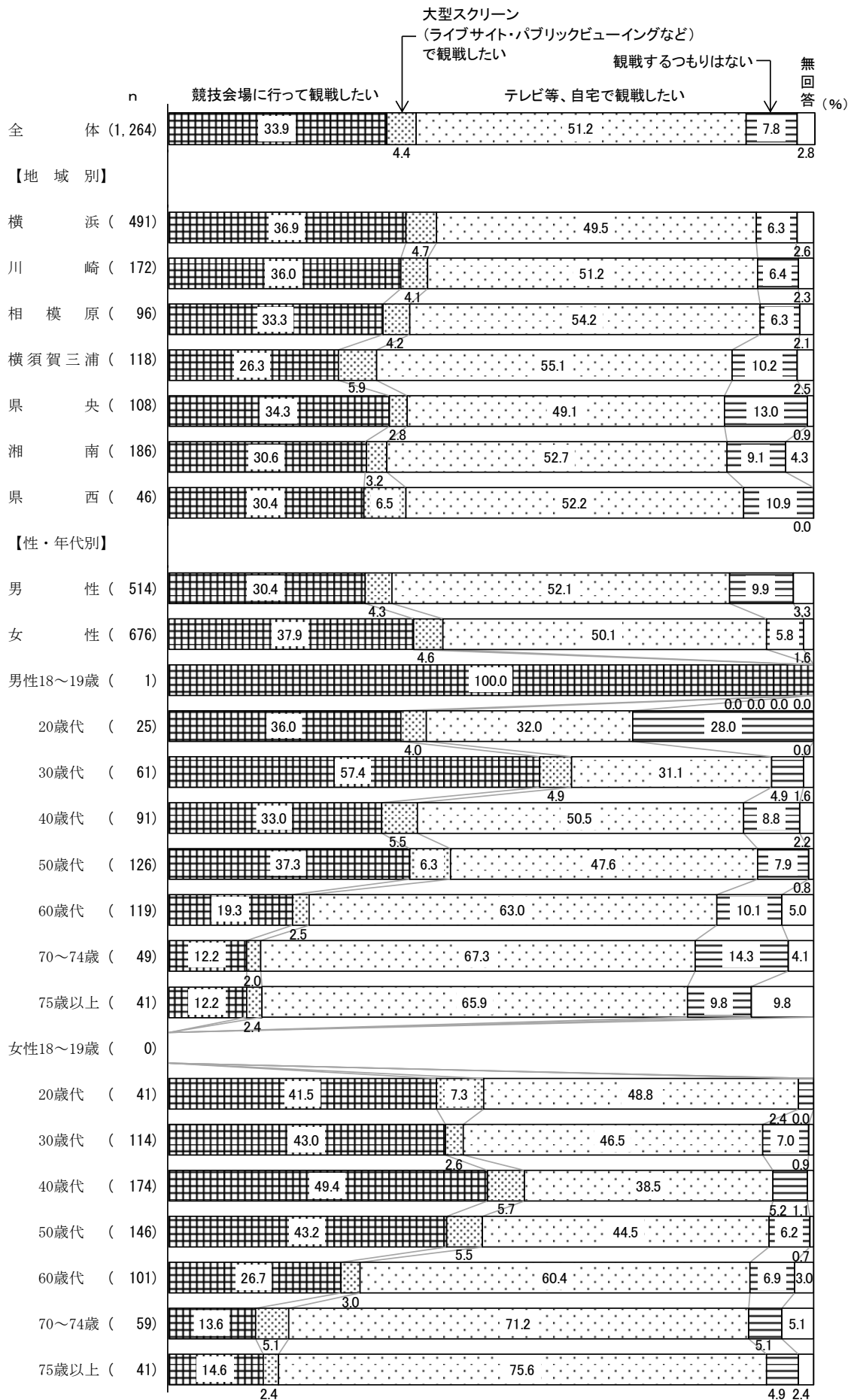
地域別にみると、「テレビ等、自宅で観戦したい」は、横須賀三浦が55.1%で最も多かった。また、「競技会場に行って観戦したい」は、横須賀三浦 (26.3%) を除く6地域 (30.4%~36.9%) がそれぞれ3割を超えた。(図表5-4-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「競技会場に行って観戦したい」は、女性 (37.9%) が男性 (30.4%) を7.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、「テレビ等、自宅で観戦したい」は、女性の70~74歳 (71.2%)・75歳以上 (75.6%) がともに7割を超えた。また、「競技会場に行って観戦したい」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の30歳代が57.4%で最も多かった。(図表5-4-2)

図表5-4-2 東京2020オリンピック競技大会の観戦意向—地域別、性・年代別

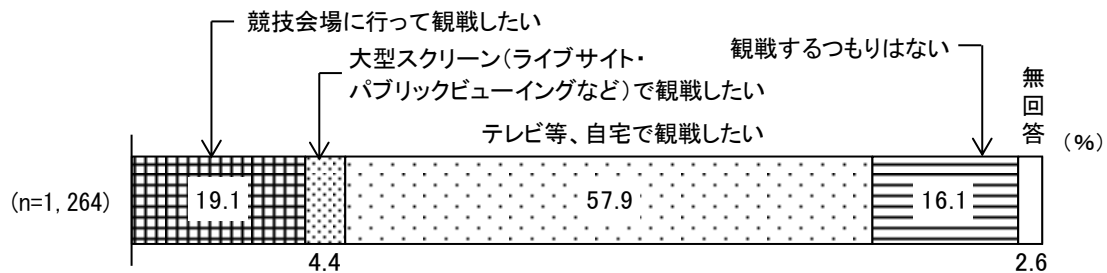


5 東京2020パラリンピック競技大会の観戦意向【問27】

【全体の状況】

東京2020パラリンピック競技大会を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が57.9%で最も多く、次いで「競技会場に行って観戦したい」が19.1%であった。(図表5-5-1)

図表5-5-1 東京2020パラリンピック競技大会の観戦意向



【地域別の状況】

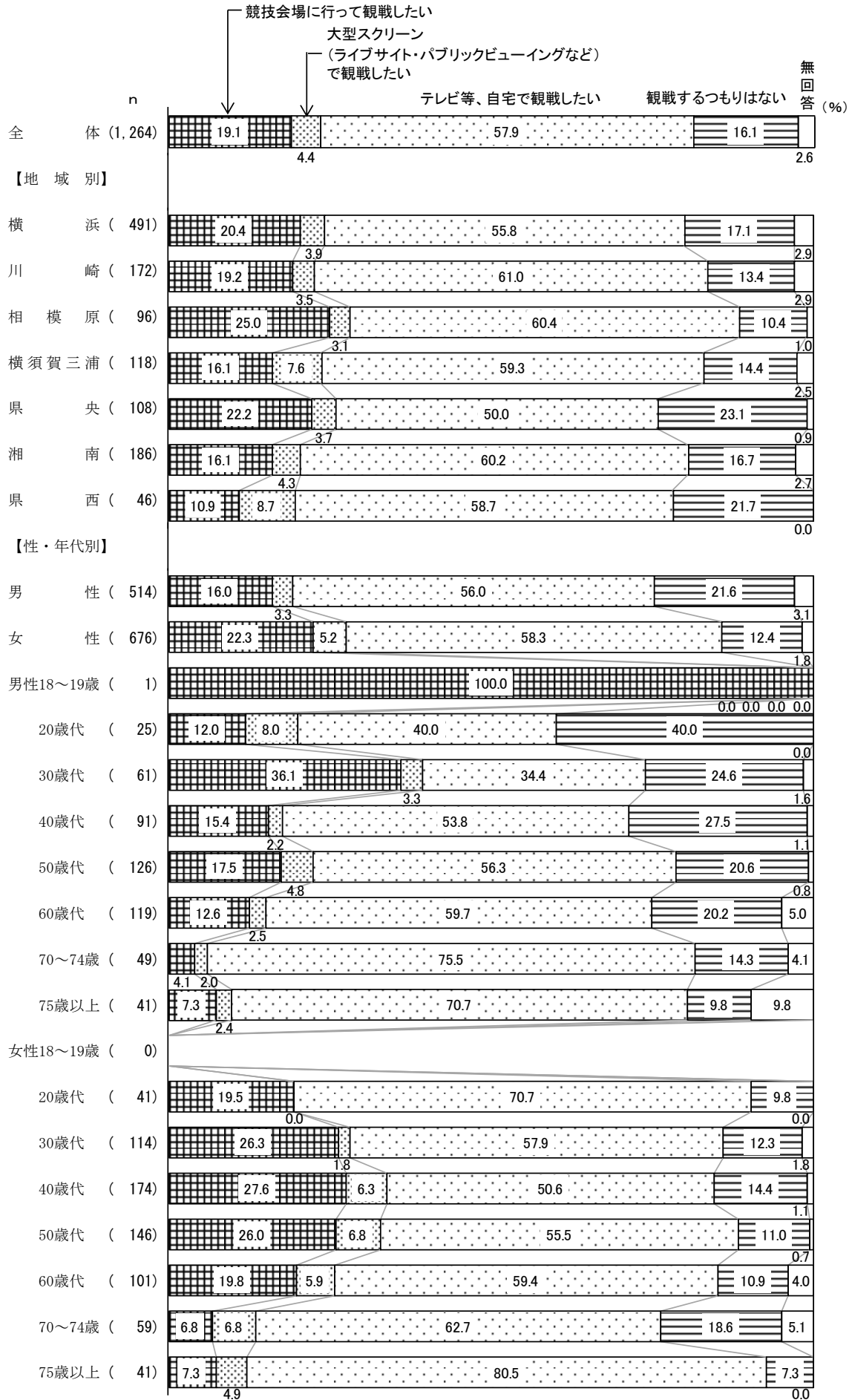
地域別にみると、「テレビ等、自宅で観戦したい」は、川崎(61.0%)、相模原(60.4%)、湘南(60.2%)がそれぞれ6割を超えた。また、「競技会場に行って観戦したい」は、相模原が25.0%で最も多かった。(図表5-5-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「観戦するつもりはない」は、男性(21.6%)が女性(12.4%)を9.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「テレビ等、自宅で観戦したい」は、女性の75歳以上が80.5%で最も多かった。また、「競技会場に行って観戦したい」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、男性の30歳代が36.1%で最も多かった。(図表5-5-2)

図表5-5-2 東京2020パラリンピック競技大会の観戦意向—地域別、性・年代別

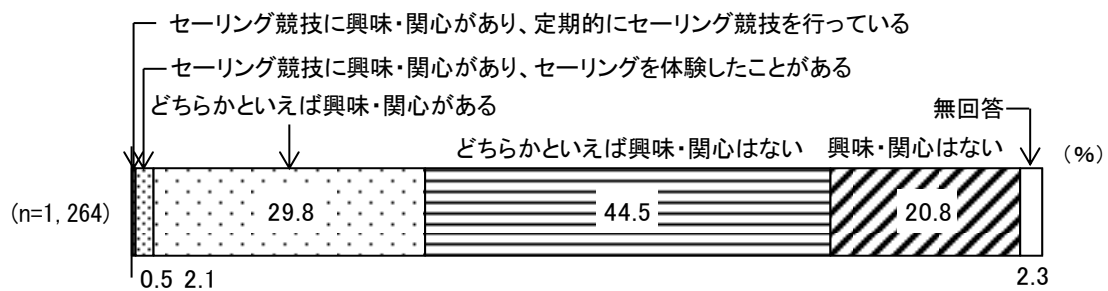


6 セーリング競技への興味・関心【問28】

【全体の状況】

神奈川県江の島で開催される東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「どちらかといえば興味・関心はない」が44.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば興味・関心がある」が29.8%であった。（図表5-6-1）

図表5-6-1 セーリング競技への興味・関心



【地域別の状況】

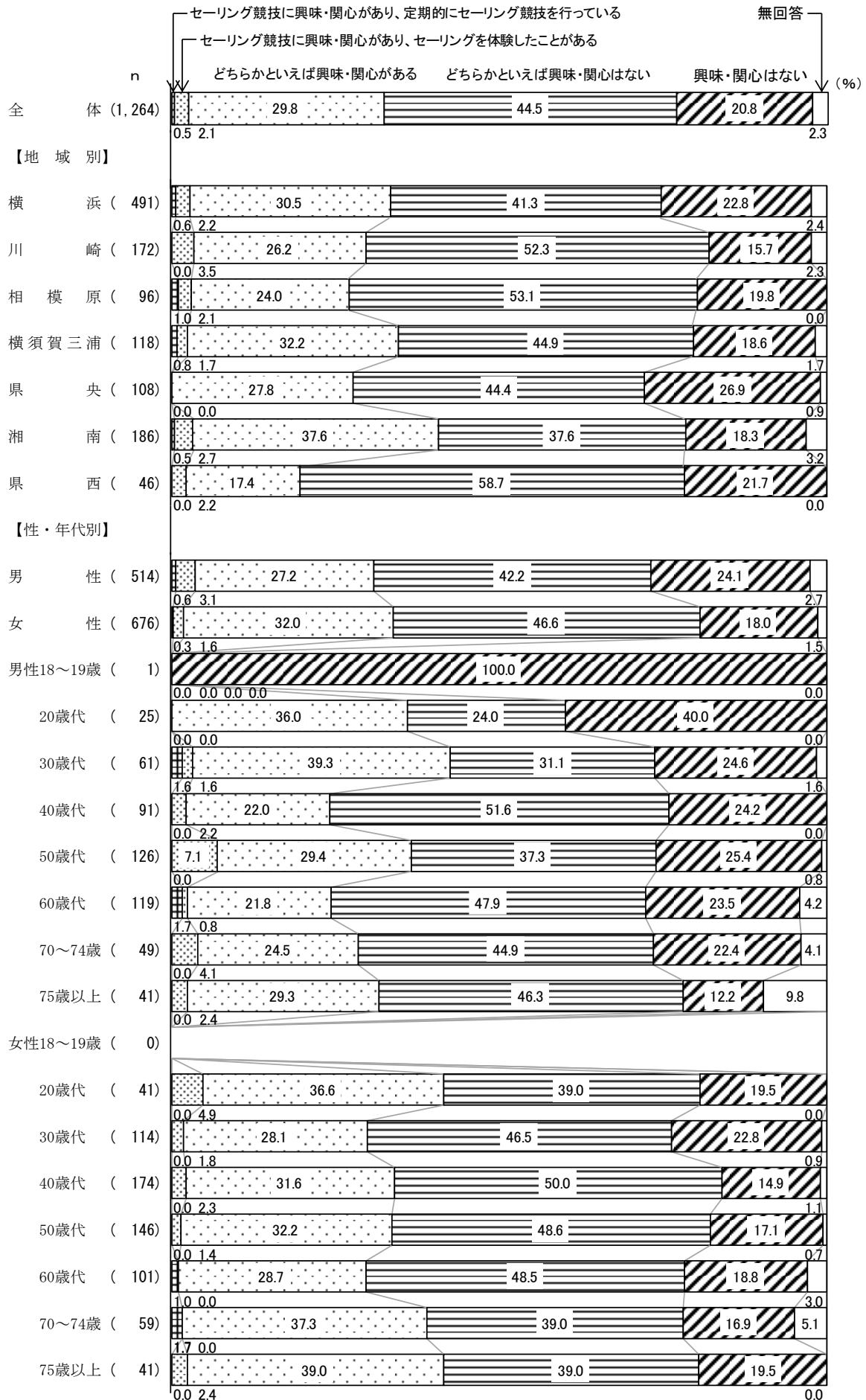
地域別にみると、「どちらかといえば興味・関心がある」は、湘南が37.6%で最も多く、次いで横須賀三浦が32.2%であった。（図表5-6-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「興味・関心はない」は、男性（24.1%）が女性（18.0%）を6.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「どちらかといえば興味・関心がある」は、男性の30歳代（39.3%）と女性の75歳以上（39.0%）がともに約4割であった。（図表5-6-2）

図表5-6-2 セーリング競技への興味・関心—地域別、性・年代別



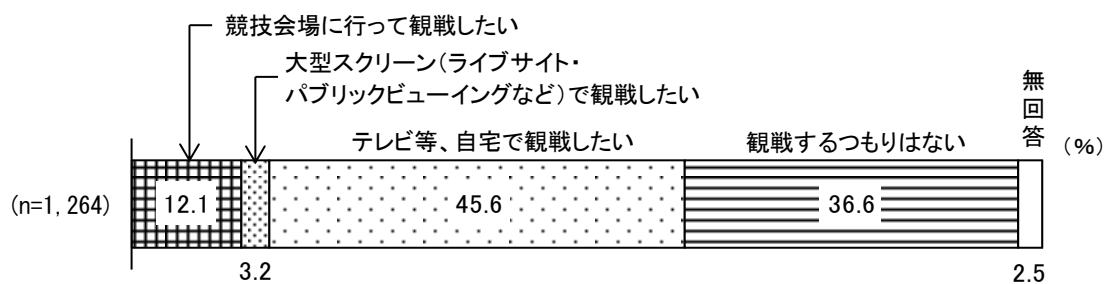
7 セーリング競技の観戦意向【問29】

【全体の状況】

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が45.6%で最も多く、次いで「観戦するつもりはない」が36.6%であった。

(図表5-7-1)

図表5-7-1 セーリング競技の観戦意向



【地域別の状況】

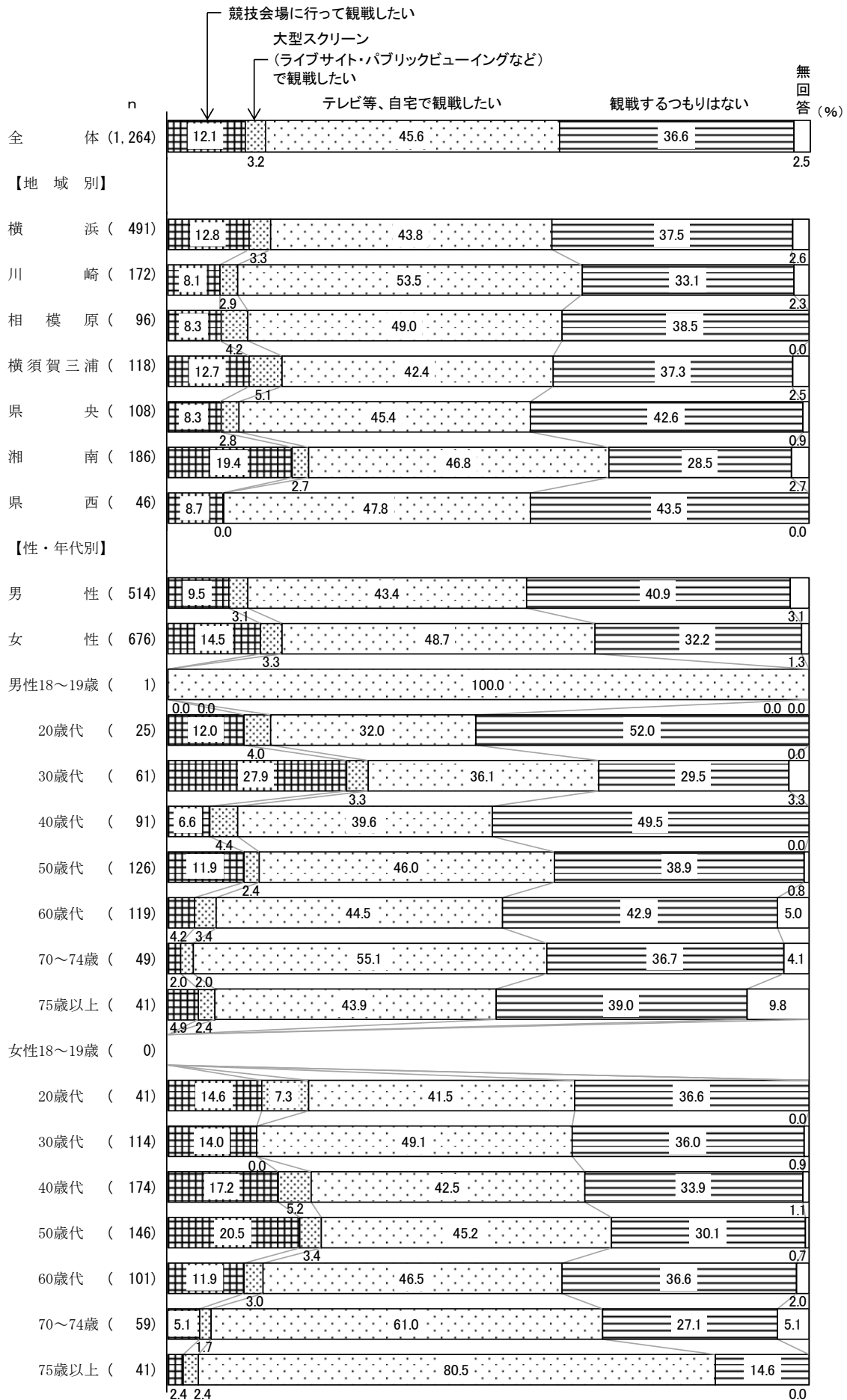
地域別にみると、「テレビ等、自宅で観戦したい」は、川崎が53.5%で最も多かった。また、「観戦するつもりはない」は、県西(43.5%)と県央(42.6%)がともに4割台であった。(図表5-7-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「観戦するつもりはない」は、男性(40.9%)が女性(32.2%)を8.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「テレビ等、自宅で観戦したい」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が80.5%で最も多く、次いで女性の70～74歳が61.0%であった。また、「観戦するつもりはない」は、サンプルの少ない男性の20歳代を除くと、男性の40代が49.5%で最も多かった。(図表5-7-2)

図表5-7-2 セーリング競技の観戦意向—地域別、性・年代別



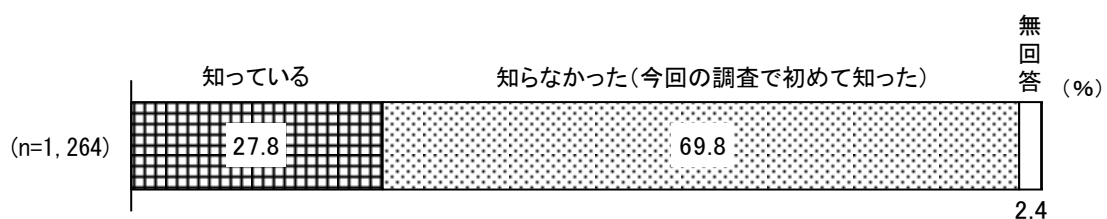
8 道路混雑緩和の呼びかけの認知度【問30】

【全体の状況】

江の島周辺における道路混雑を緩和するため、今年の夏に、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことに関する呼びかけが行われていることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が27.8%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、69.8%であった。（図表5-8-1）

図表5-8-1 道路混雑緩和の呼びかけの認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「知っている」は、湘南が38.7%で最も多く、県央(32.4%)と横須賀三浦(30.5%)が続いた。

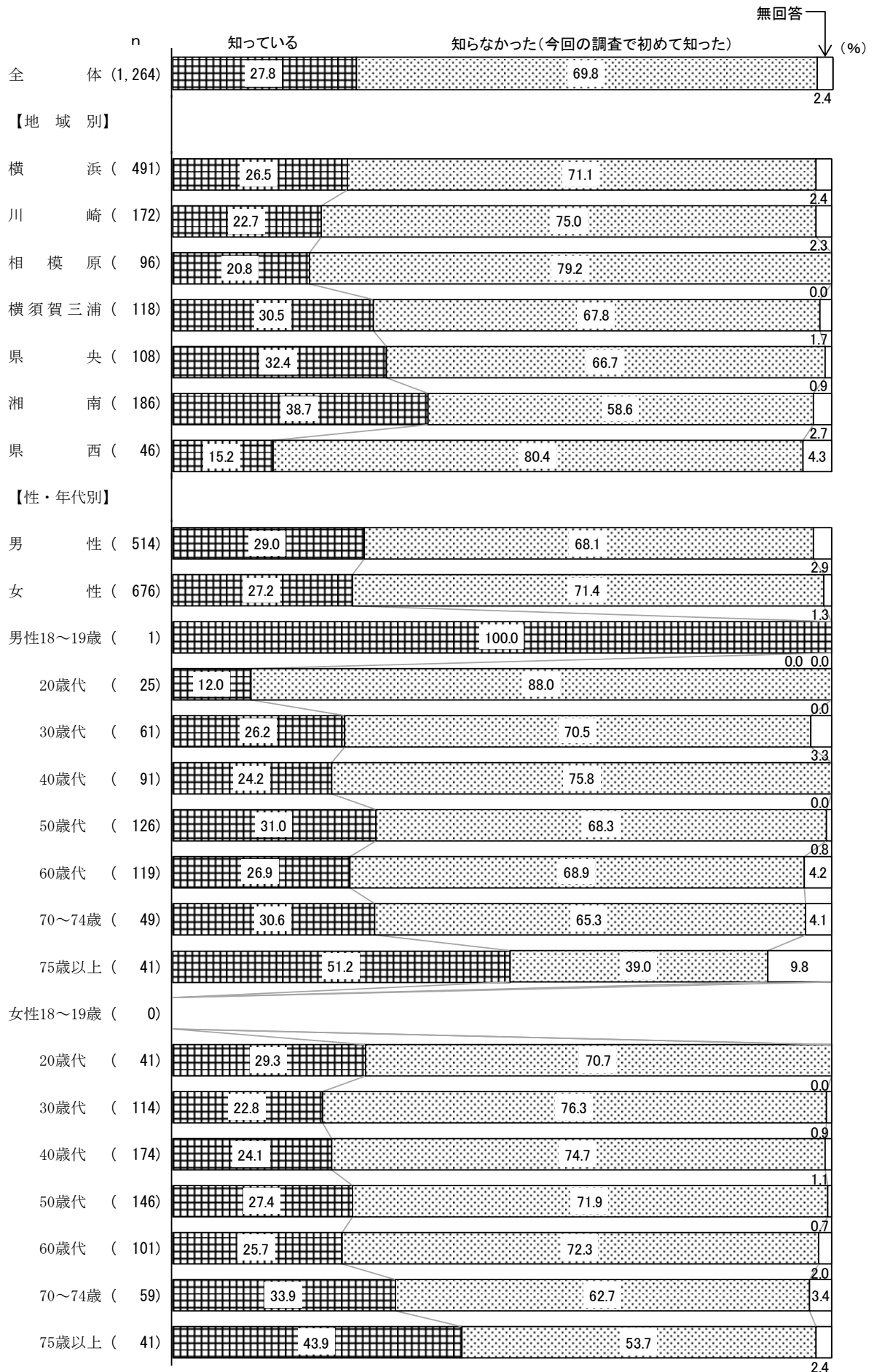
一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、県西が80.4%で最も多かった。（図表5-8-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知っている」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女ともに75歳以上（男性51.2%、女性43.9%）が最も多かった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性の30歳代が76.3%で最も多く、次いで男性の40歳代が75.8%であった。（図表5-8-2）

図表5-8-2 道路混雑緩和の呼びかけの認知度—地域別、性・年代別

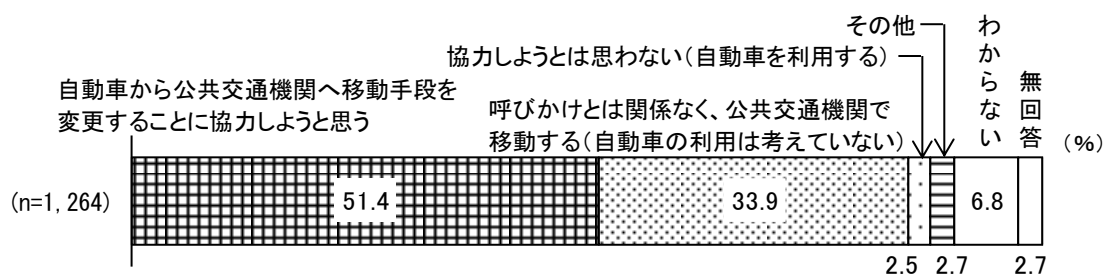


9 道路混雑緩和に向けた取組への協力意向【問31】

【全体の状況】

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催時に、江の島周辺の混雑が予想されるため、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことへの呼びかけがあった場合、協力しようと思うか尋ねたところ、「自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う」が51.4%で最も多く、次いで「呼びかけとは関係なく、公共交通機関で移動する（自動車の利用は考えていない）」が33.9%であった。（図表5-9-1）

図表5-9-1 道路混雑緩和に向けた取組への協力意向



【地域別の状況】

地域別にみると、「自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う」は、湘南が58.1%で最も多く、次いで横須賀三浦が56.8%であった。（図表5-9-2）

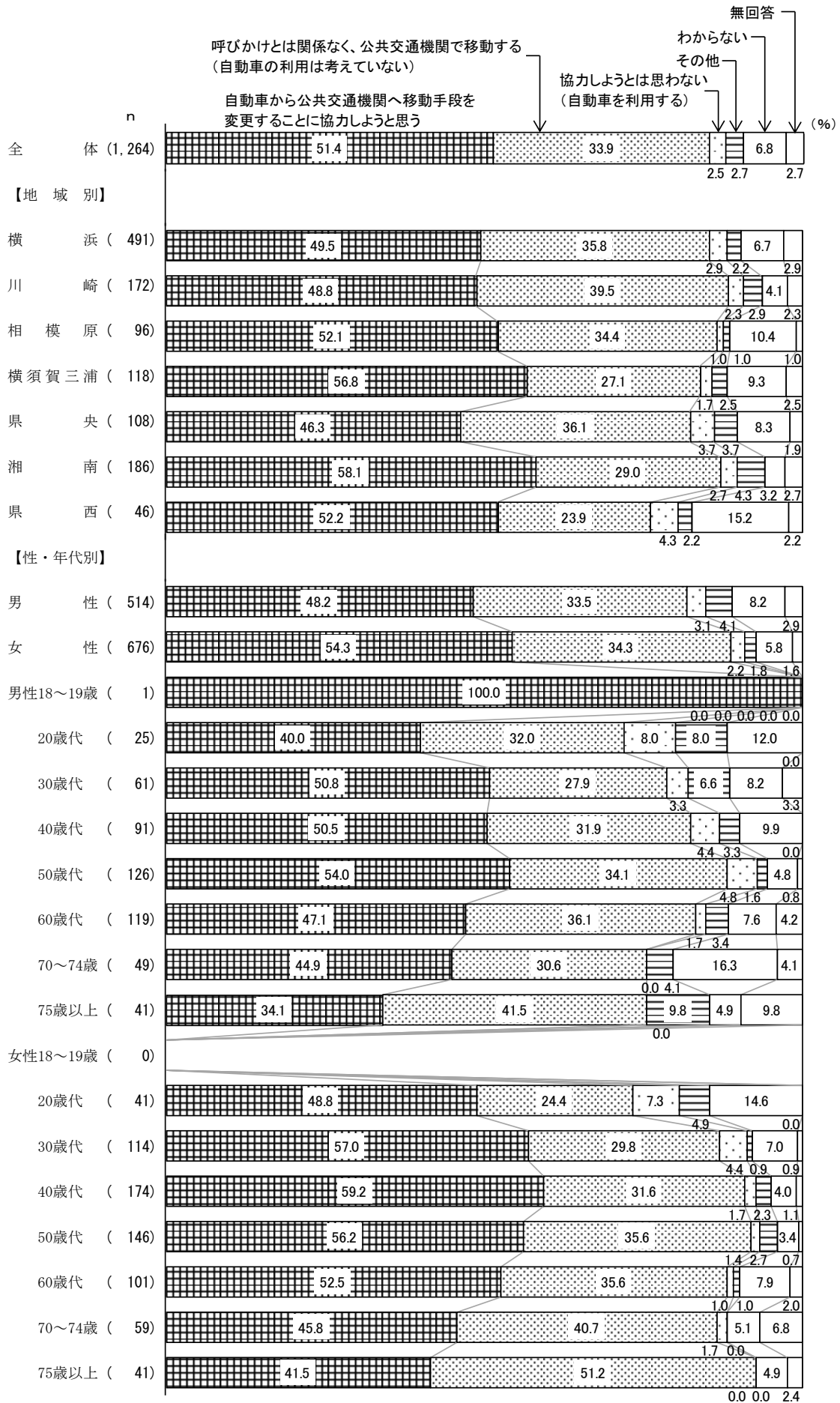
【性・年代別の状況】

性別にみると、「自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う」は、女性（54.3%）が男性（48.2%）を6.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の40歳代が59.2%で最も多かった。

なお、「協力しようとは思わない（自動車を利用する）」は、すべての性・年代（0.0%～8.0%）で1割に満たなかった。（図表5-9-2）

図表5-9-2 道路混雑緩和に向けた取組への協力意向—地域別、性・年代別



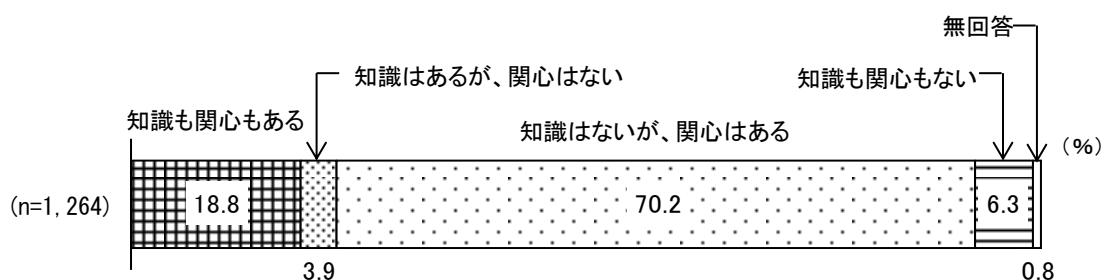
第6章 水源環境保全・再生の取組【問32～問37】

1 水源地域の森の働きへの関心【問32】

【全体の状況】

水源地域の森の働きについて、知識や関心があるか尋ねたところ、「知識はないが、関心はある」が70.2%で最も多かった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 水源地域の森の働きへの関心



【地域別の状況】

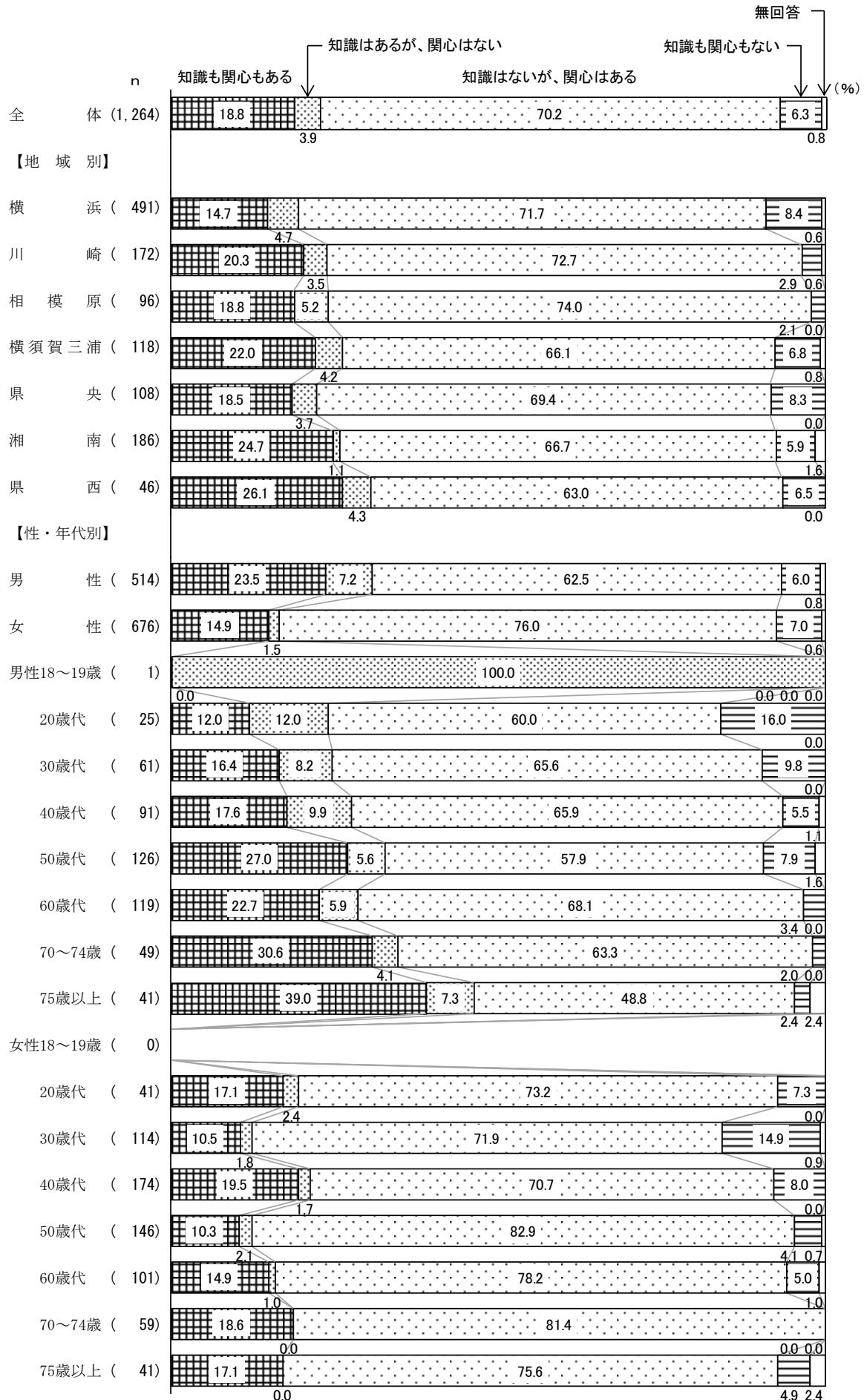
地域別にみると、「知識はないが、関心はある」は、相模原が74.0%で最も多く、川崎 (72.7%) と横浜 (71.7%) が続いた。(図表6-1-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「知識はないが、関心はある」は、女性 (76.0%) が男性 (62.5%) を13.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、「知識も関心もある」は、男性の75歳以上が39.0%で最も多く、次いで男性の70～74歳が30.6%であった。(図表6-1-2)

図表6-1-2 水源地域の森の働きへの関心—地域別、性・年代別

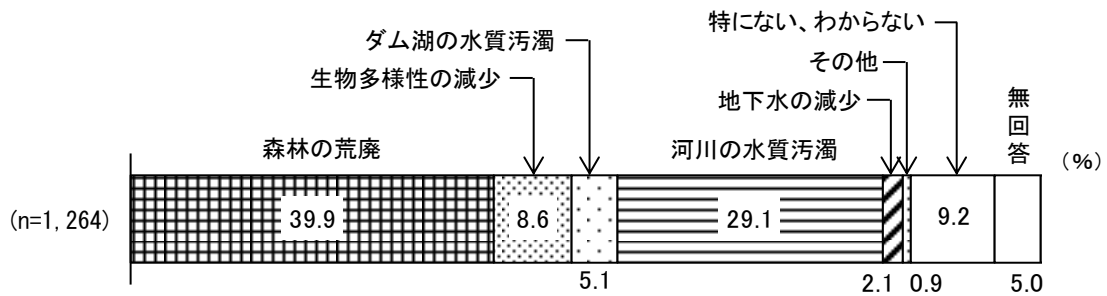


2 環境保全・再生に関わる問題への関心【問33】

【全体の状況】

水源地域の環境の保全・再生に関わる問題について、特に関心があるものを尋ねたところ、「森林の荒廃」が39.9%で最も多く、次いで「河川の水質汚濁」が29.1%であった。(図表6-2-1)

図表6-2-1 環境保全・再生に関わる問題への関心



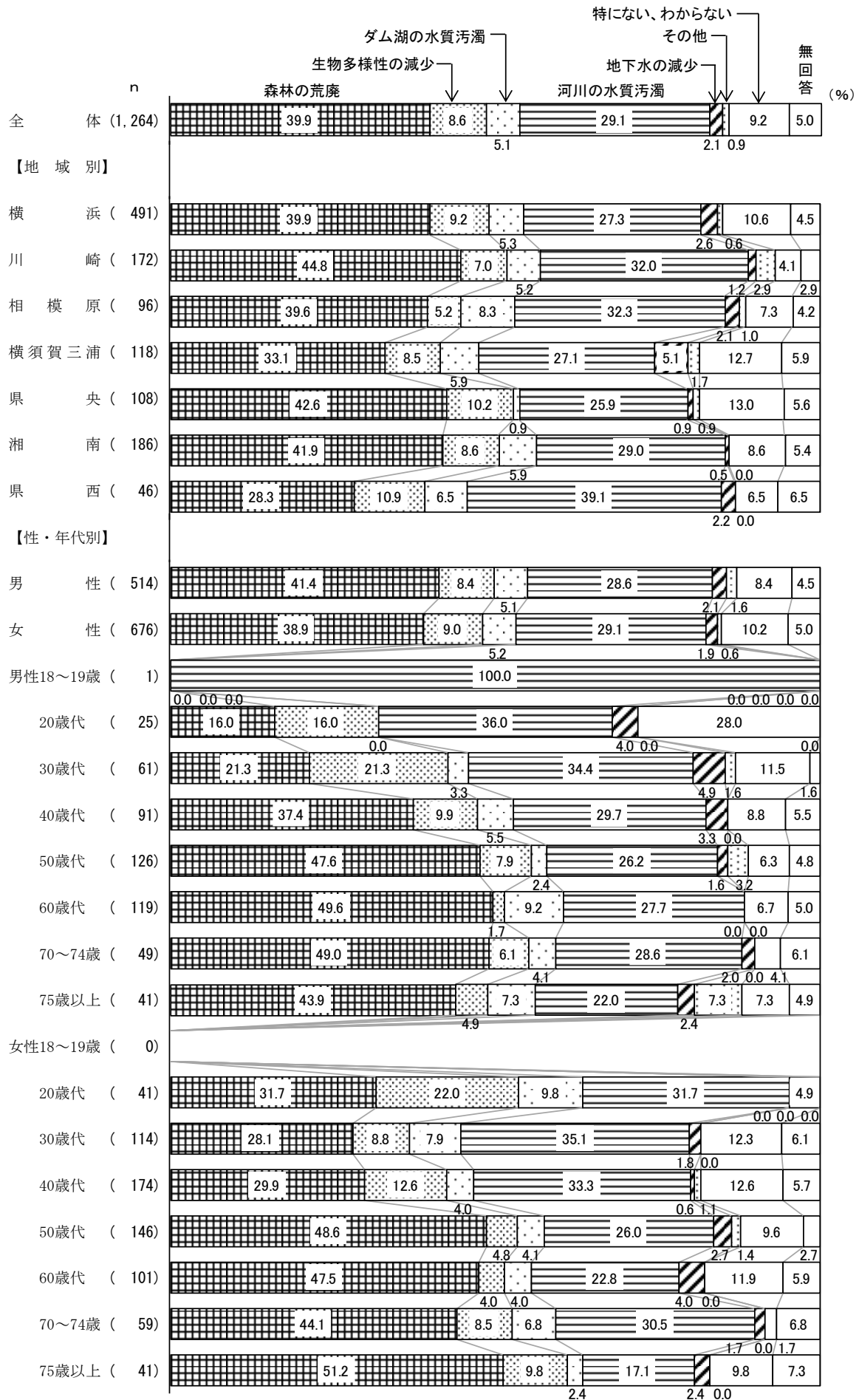
【地域別の状況】

地域別にみると、「森林の荒廃」は、川崎（44.8%）、県央（42.6%）、湘南（41.9%）がそれぞれ4割を超えた。また、「河川の水質汚濁」は、県西が39.1%で最も多かった。(図表6-2-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「森林の荒廃」は、女性の75歳以上が51.2%で最も多く、次いで男性の60歳代（49.6%）・70～74歳（49.0%）が続いた。(図表6-2-2)

図表6-2-2 環境保全・再生に関わる問題への関心—地域別、性・年代別



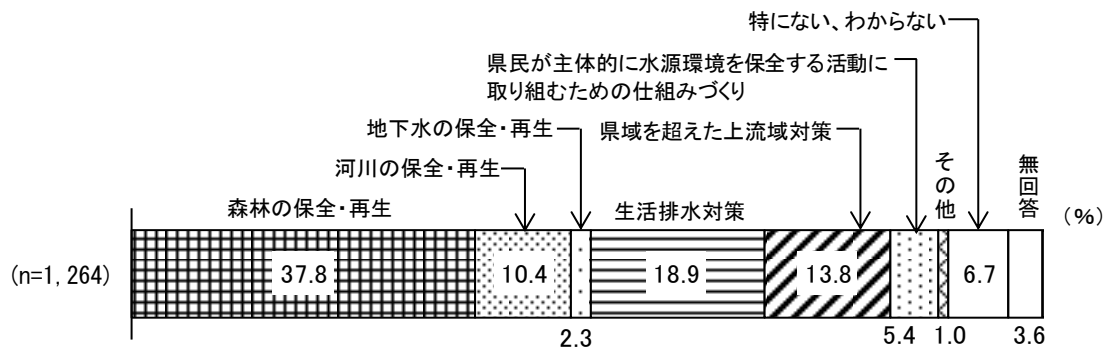
3 水源環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組【問34】

【全体の状況】

水源地域の環境の保全・再生のために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことを尋ねたところ、「森林の保全・再生」が37.8%で最も多く、次いで「生活排水対策」が18.9%であった。

(図表6-3-1)

図表6-3-1 水源環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組



【地域別の状況】

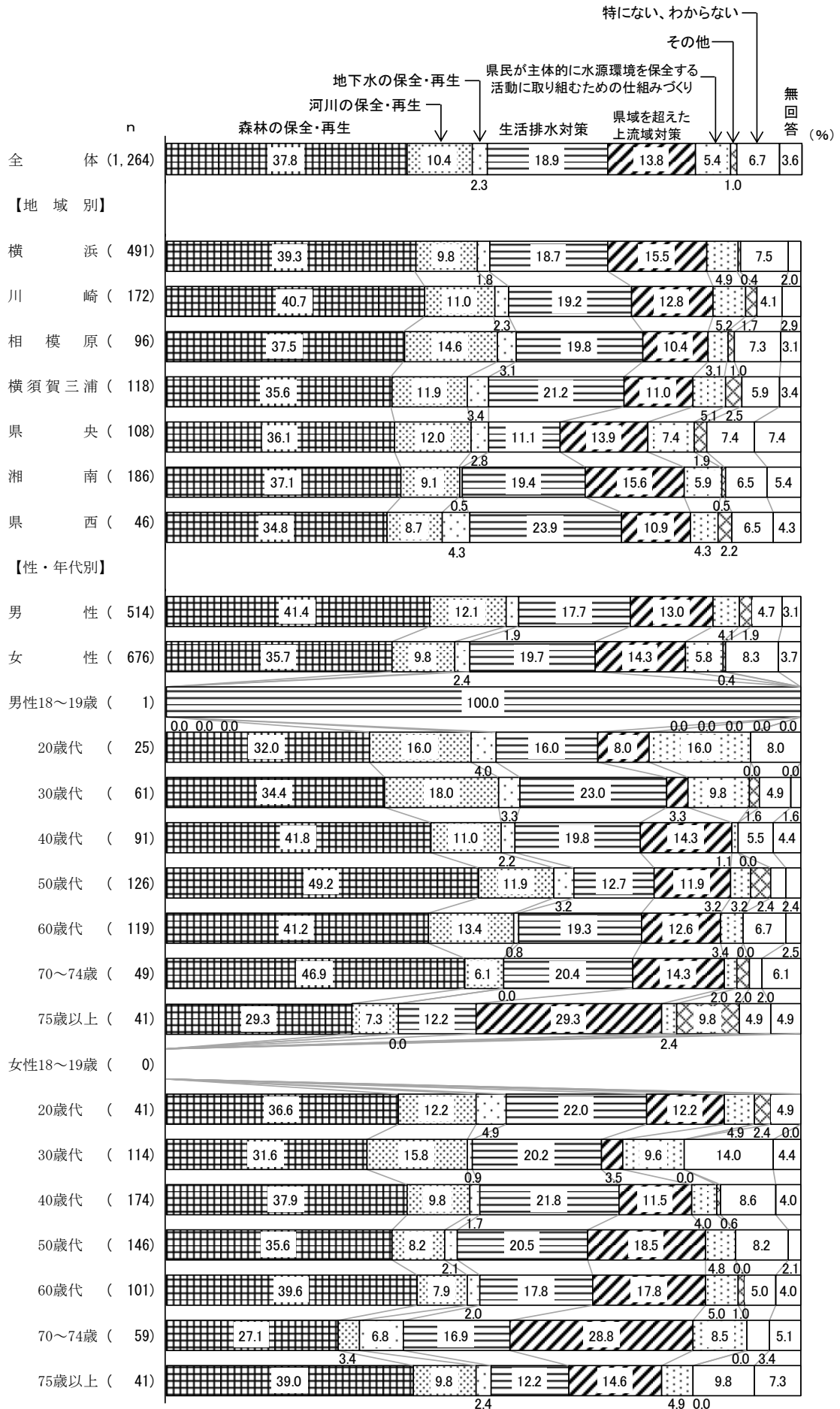
地域別にみると、「森林の保全・再生」は、川崎が40.7%で最も多かった。また、「生活排水対策」は、県西（23.9%）と横須賀三浦（21.2%）がともに2割を超えた。（図表6-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「森林の保全・再生」は、男性（41.4%）が女性（35.7%）を5.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「森林の保全・再生」は、男性の50歳代が49.2%で最も多く、次いで男性の70～74歳が46.9%であった。また、「生活排水対策」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の30歳代が23.0%で最も多かった。（図表6-3-2）

図表6-3-2 水源環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組—地域別、性・年代別

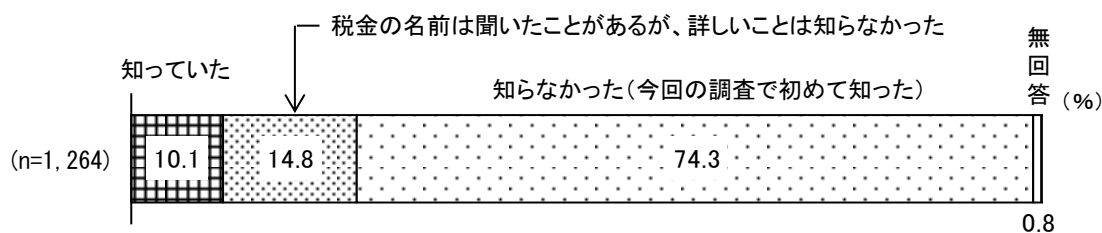


4 水源環境保全税の認知度【問35】

【全体の状況】

神奈川県では、「水源環境保全税」として個人県民税の超過課税をしていることを知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が74.3%で最も多く、次いで、「税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった」が14.8%であった。（図表6-4-1）

図表6-4-1 水源環境保全税の認知度



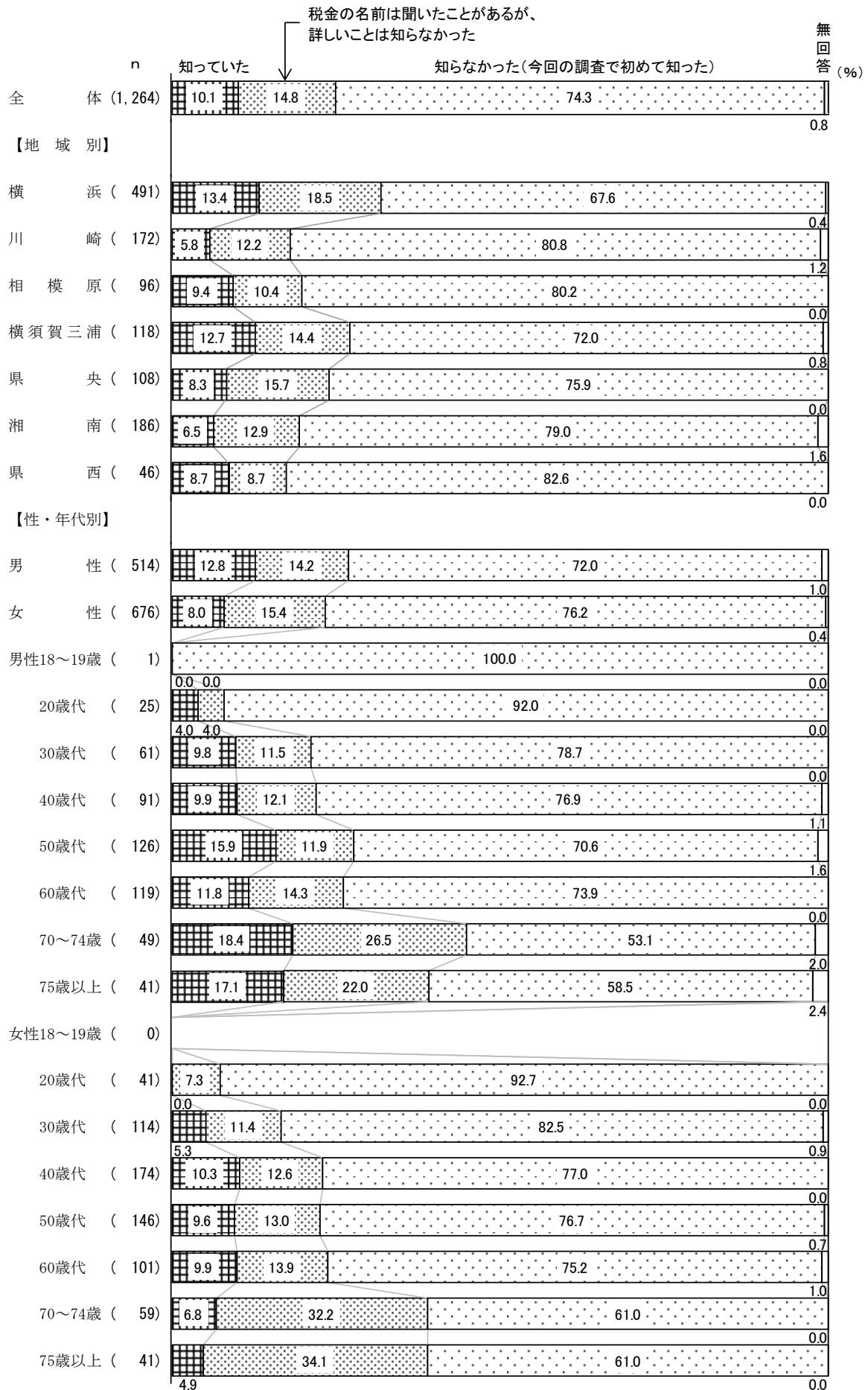
【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、県西が82.6%で最も多かった。また、「税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった」は、横浜が18.5%で最も多かった。（図表6-4-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が92.7%で最も多かった。また、「税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった」は、女性の75歳以上が34.1%で最も多かった。（図表6-4-2）

図表6-4-2 水源環境保全税の認知度—地域別、性・年代別



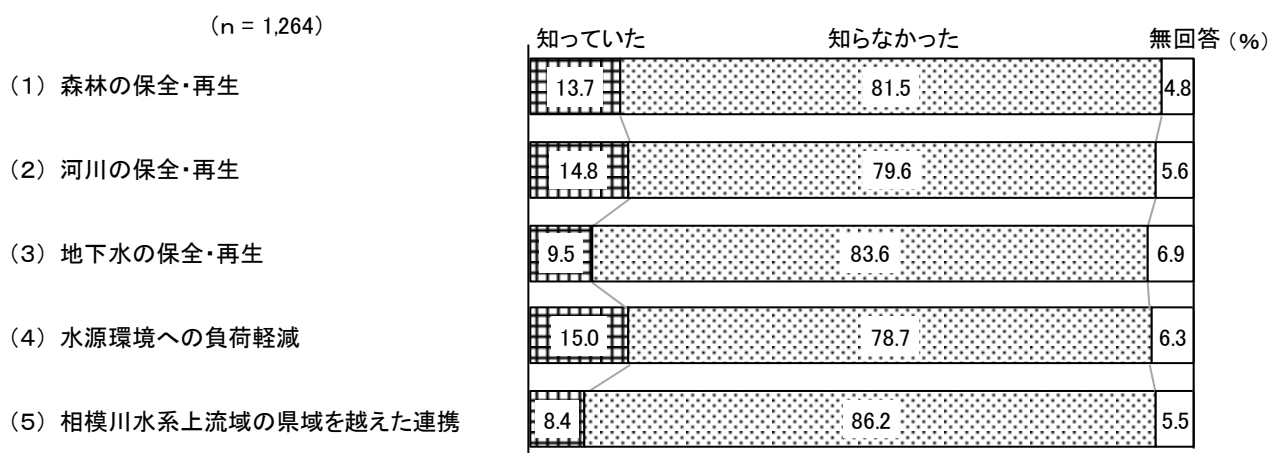
5 水源環境保全税を財源とした対策の認知度【問36-1】

【全体の状況】

水源環境保全税を財源としたそれぞれの対策が行われていることを知っていたか尋ねたところ、「知っていた」では、「(4) 水源環境への負荷軽減」が15.0%で最も多く、「(2) 河川の保全・再生」(14.8%)と「(1) 森林の保全・再生」(13.7%)が1割台で続いた。

一方、「知らなかった」は、「(5) 相模川水系上流域の県域を越えた連携」が86.2%で最も多かった。(図表6-5-1)

図表6-5-1 水源環境保全税を財源とした対策の認知度



【地域別の状況】

「知っていた」の割合を地域別にみると、「(1) 森林の保全・再生」では、横須賀三浦が16.1%で最も多く、次いで県西が15.2%であった。「(2) 河川の保全・再生」では、横須賀三浦(18.6%)と湘南(18.3%)がともに約2割であった。「(3) 地下水の保全・再生」では、県央が14.8%で最も多かった。「(4) 水源環境への負荷軽減」では、県西が23.9%で最も多かった。「(5) 相模川水系上流域の県域を越えた連携」では、相模原が11.5%で最も多かった。(図表6-5-2)

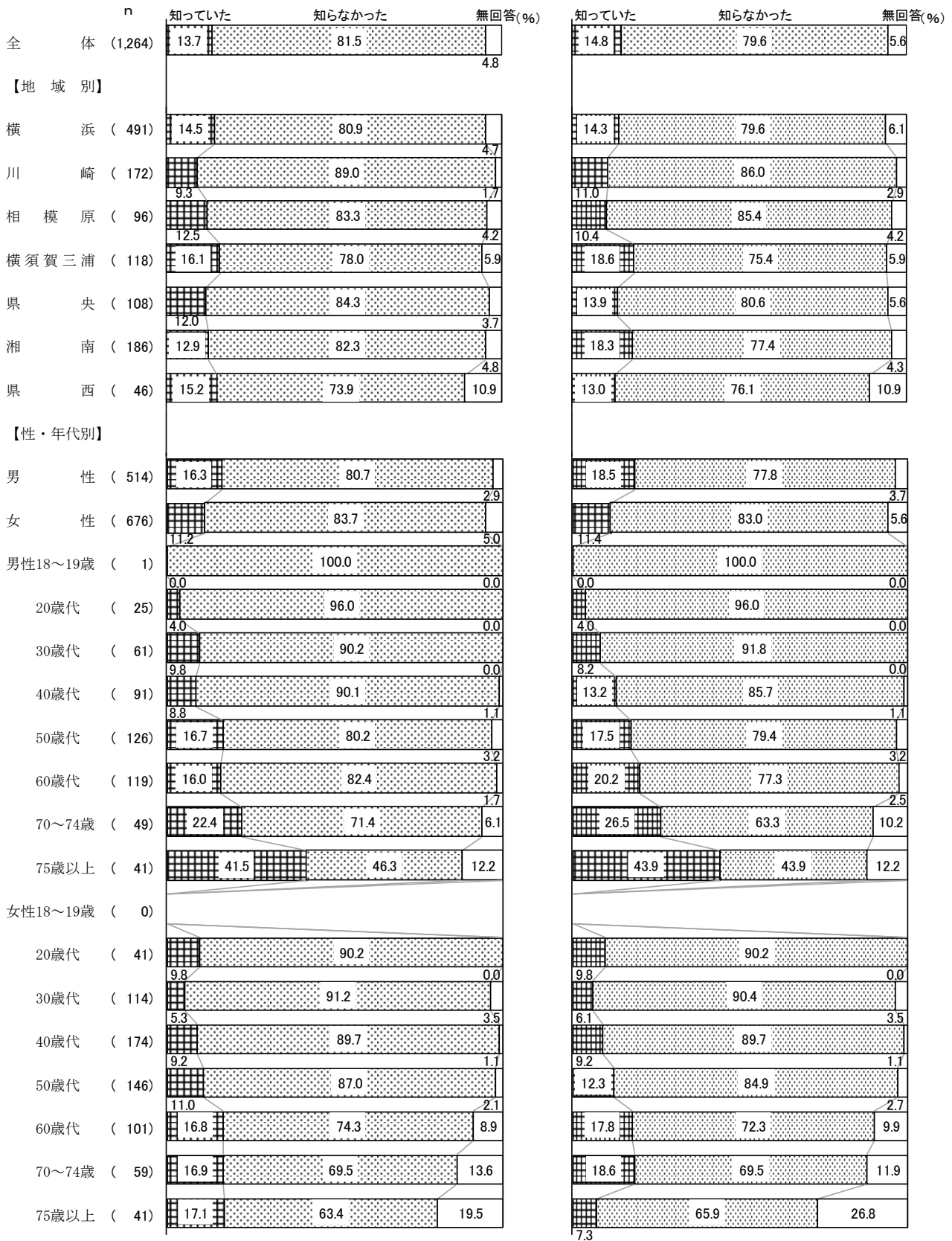
【性・年代別の状況】

「知っていた」の割合を性・年代別にみると、全項目で男性の75歳以上が最も多かった。(図表6-5-2)

図表6-5-2 水源環境保全税を財源とした対策の認知度—地域別、性・年代別

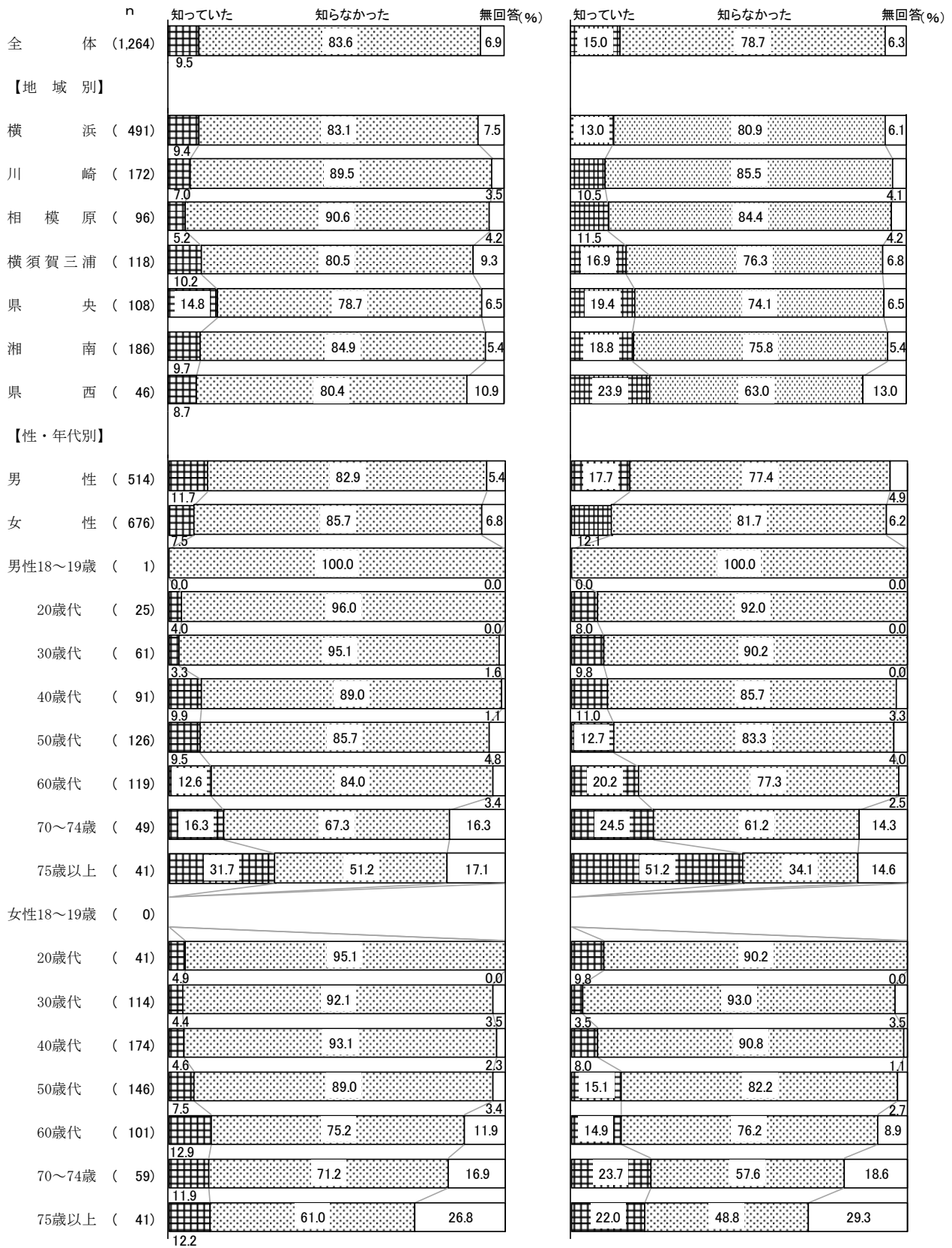
(1) 森林の保全・再生

(2) 河川の保全・再生

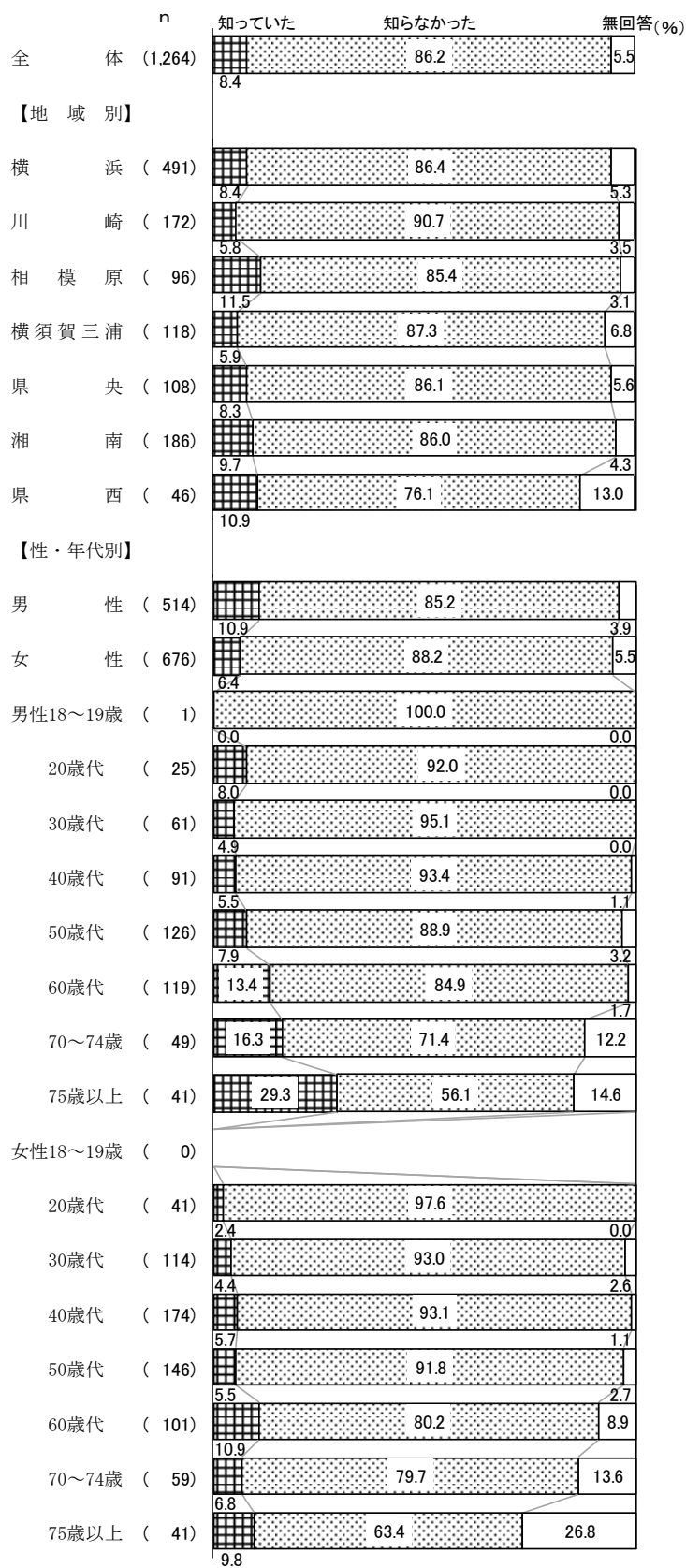


(3) 地下水の保全・再生

(4) 水質環境への負荷軽減



(5) 相模川水系上流域の県域を超えた連携

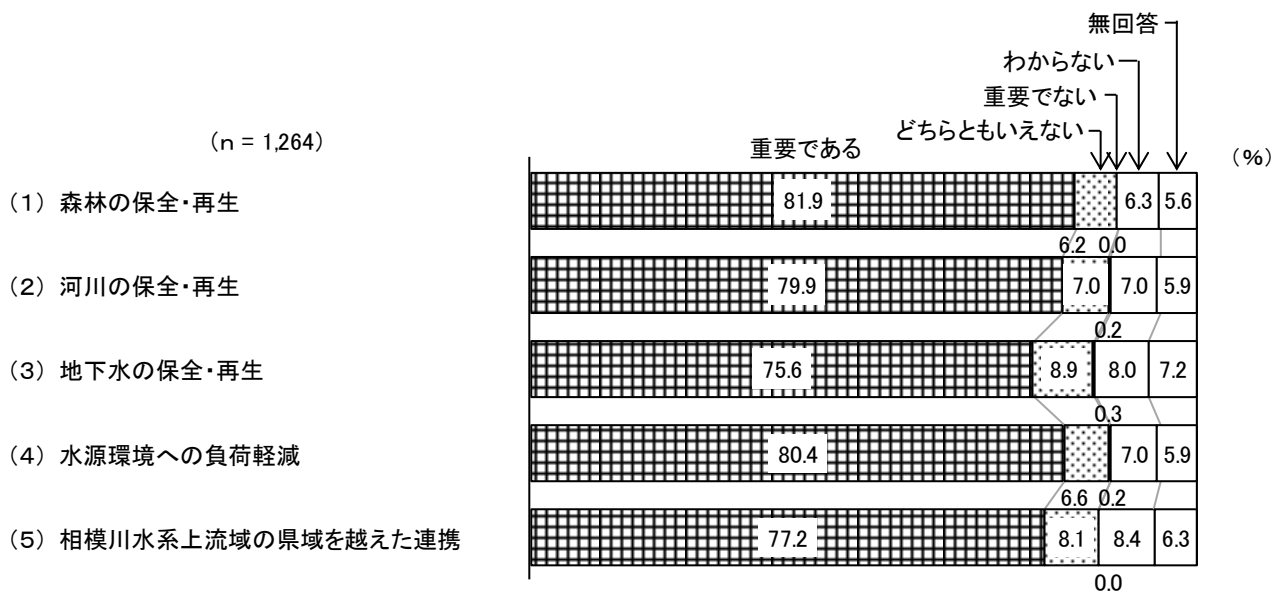


6 水源環境保全税を財源とした対策の重要度【問36-2】

【全体の状況】

水源環境保全税を財源としたそれぞれの対策を今後も継続することについて重要だと思うか尋ねたところ、「重要である」では、「(1) 森林の保全・再生」が81.9%で最も多く、次いで「(4) 水源環境への負荷軽減」が80.4%であった。(図表6-6-1)

図表6-6-1 水源環境保全税を財源とした対策の重要度



【地域別の状況】

「重要である」の割合を地域別にみると、「(1) 森林の保全・再生」では、川崎が89.0%で最も多かった。「(2) 河川の保全・再生」では、川崎が86.6%で最も多く、次いで相模原が85.4%であった。「(3) 地下水の保全・再生」では、相模原が86.5%で最も多かった。「(4) 水源環境への負荷軽減」では、相模原が87.5%で最も多かった。「(5) 相模川水系上流域の県域を越えた連携」では、相模原が86.5%で最も多かった。(図表6-6-2)

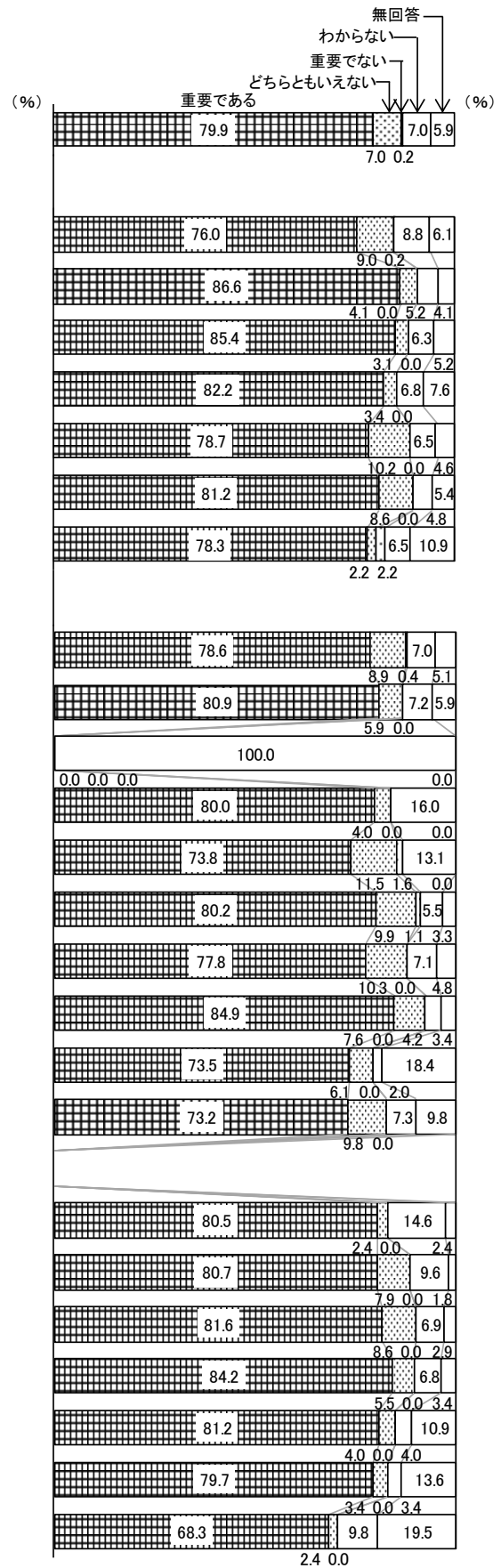
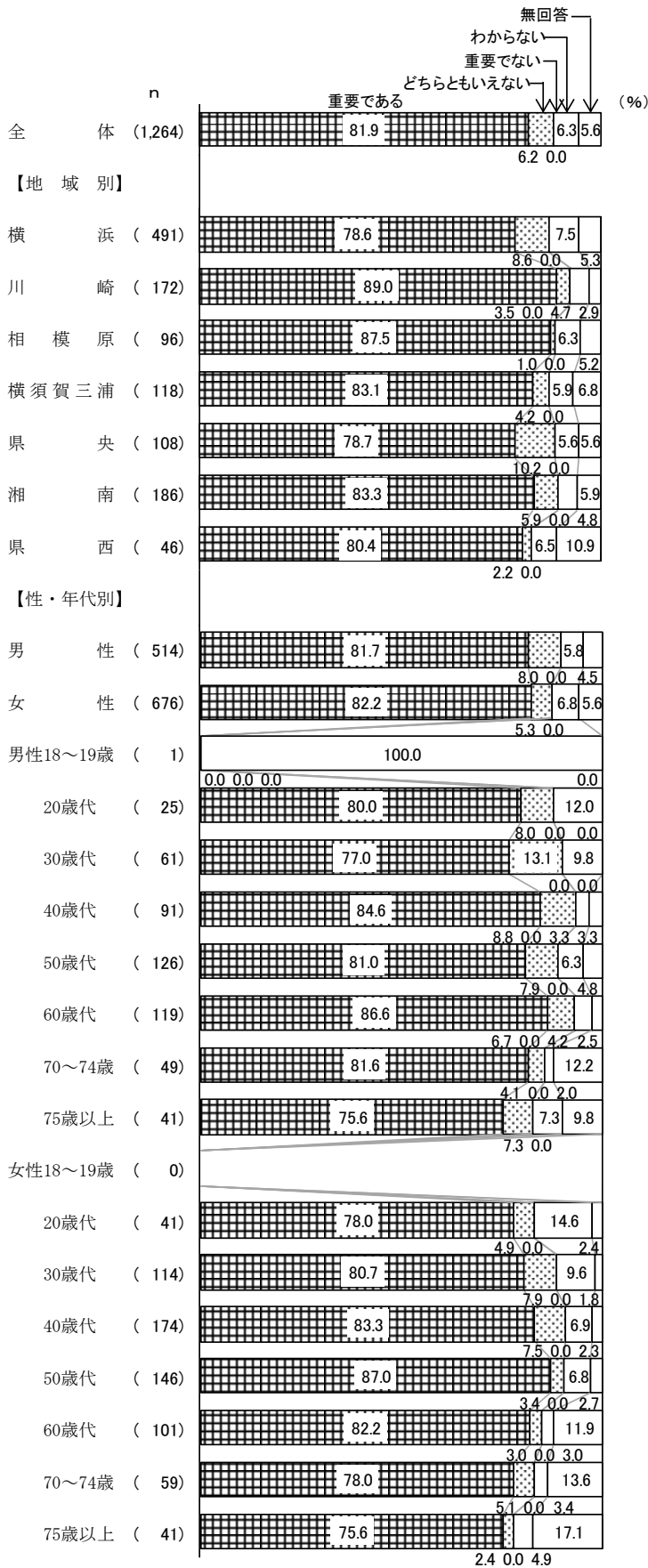
【性・年代別の状況】

「重要である」の割合を性・年代別にみると、「(1) 森林の保全・再生」では、女性の50歳代が87.0%で最も多かった。「(2) 河川の保全・再生」では、男性の60歳代が84.9%で最も多かった。「(3) 地下水の保全・再生」では、女性の30歳代が83.3%で最も多かった。「(4) 水源環境への負荷軽減」では、男性の60歳代が85.7%で最も多かった。「(5) 相模川水系上流域の県域を越えた連携」では、男性の60歳代が84.9%で最も多かった。(図表6-6-2)

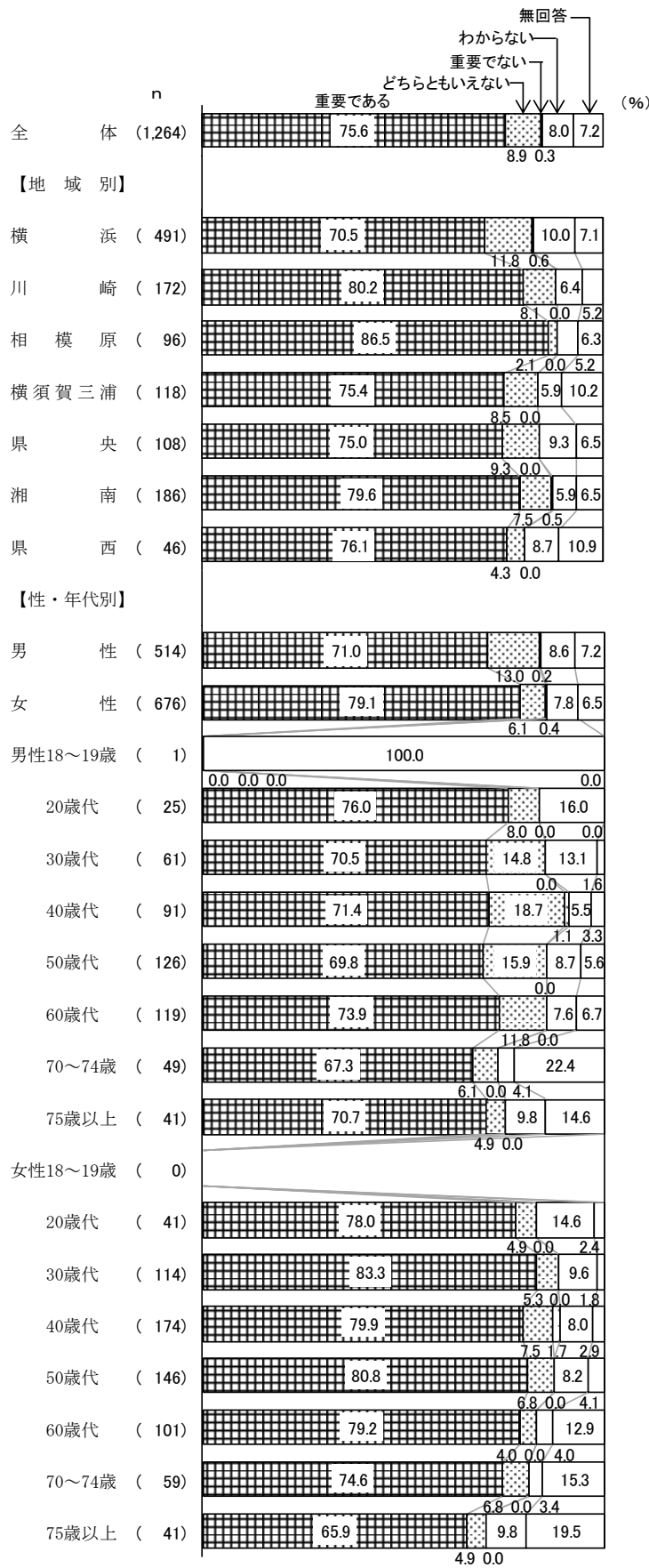
図表6-6-2 水源環境保全税を財源とした対策の重要度—地域別、性・年代別

(1) 森林の保全・再生

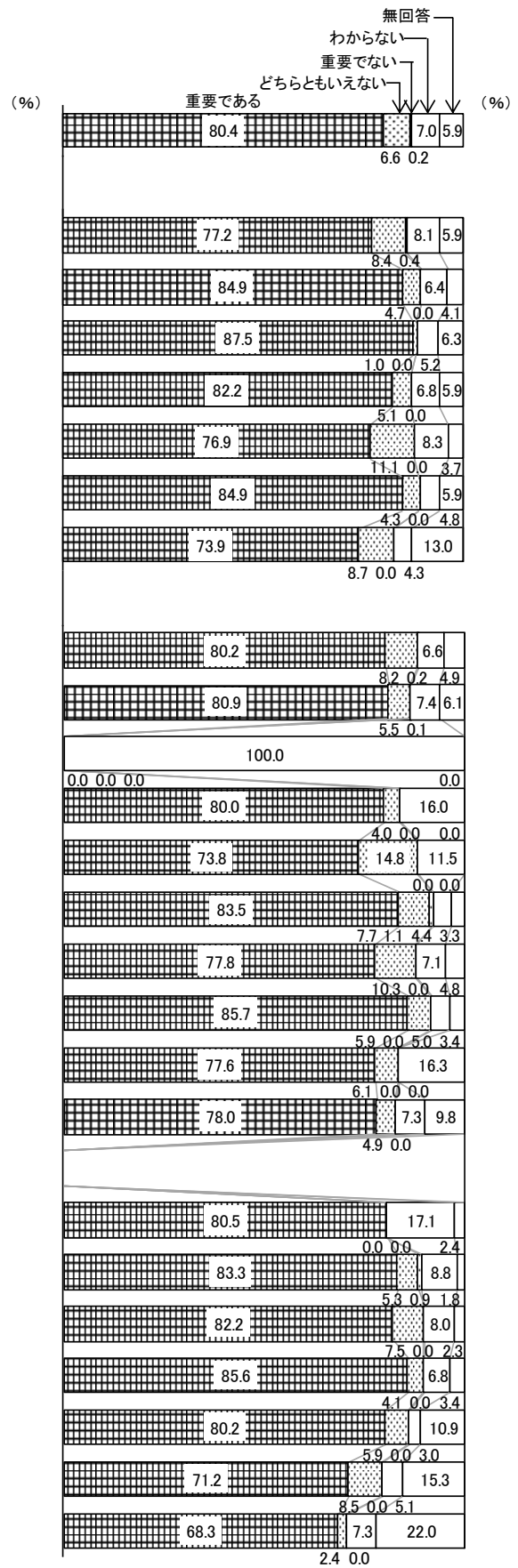
(2) 河川の保全・再生



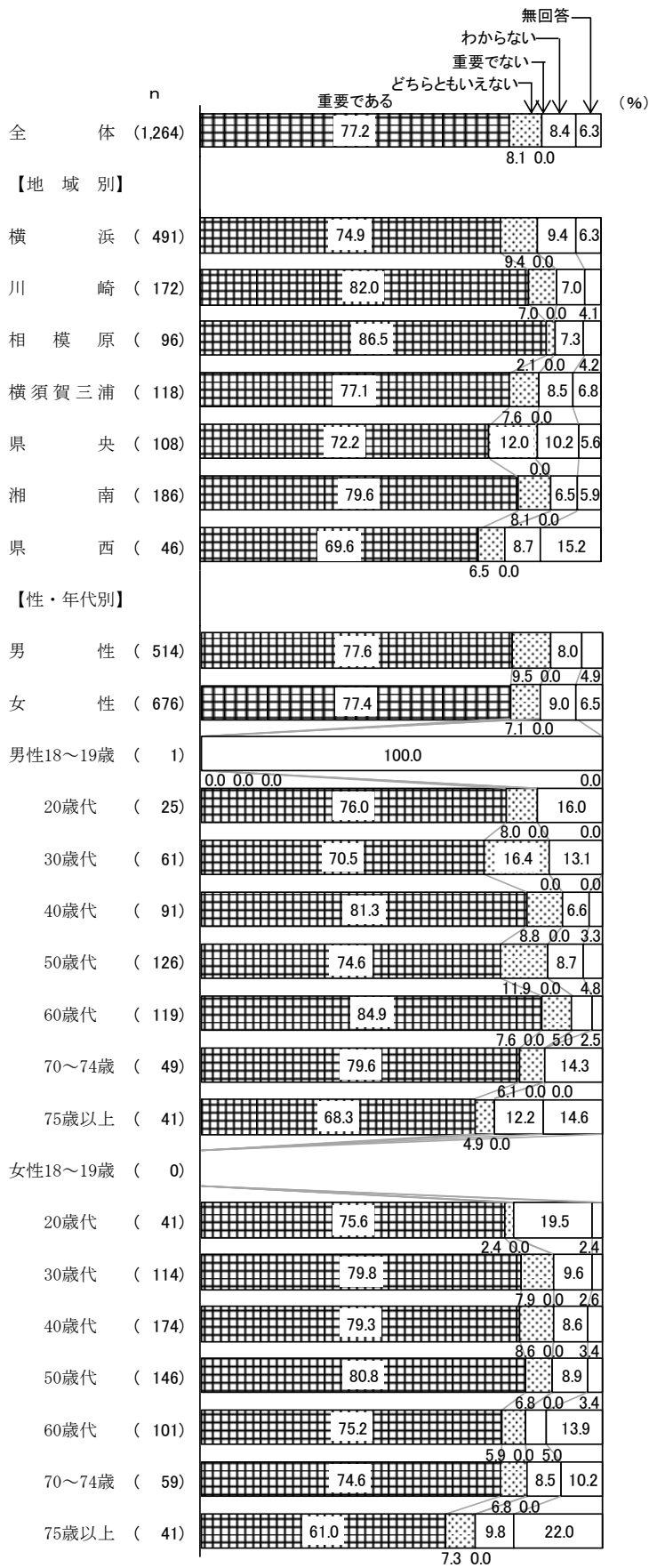
(3) 地下水の保全・再生



(4) 水質環境への負荷軽減



(5) 相模川水系上流域の県域を超えた連携

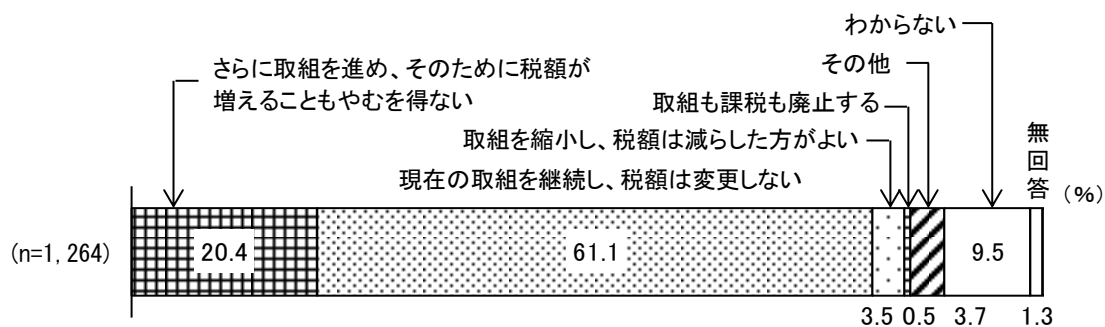


7 水源環境保全税を財源とした取組への意見【問37】

【全体の状況】

水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組について、今後どのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「現在の取組を継続し、税額は変更しない」が61.1%で最も多く、次いで「さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」が20.4%であった。（図表6-7-1）

図表6-7-1 水源環境保全税を財源とした取組への意見



【地域別の状況】

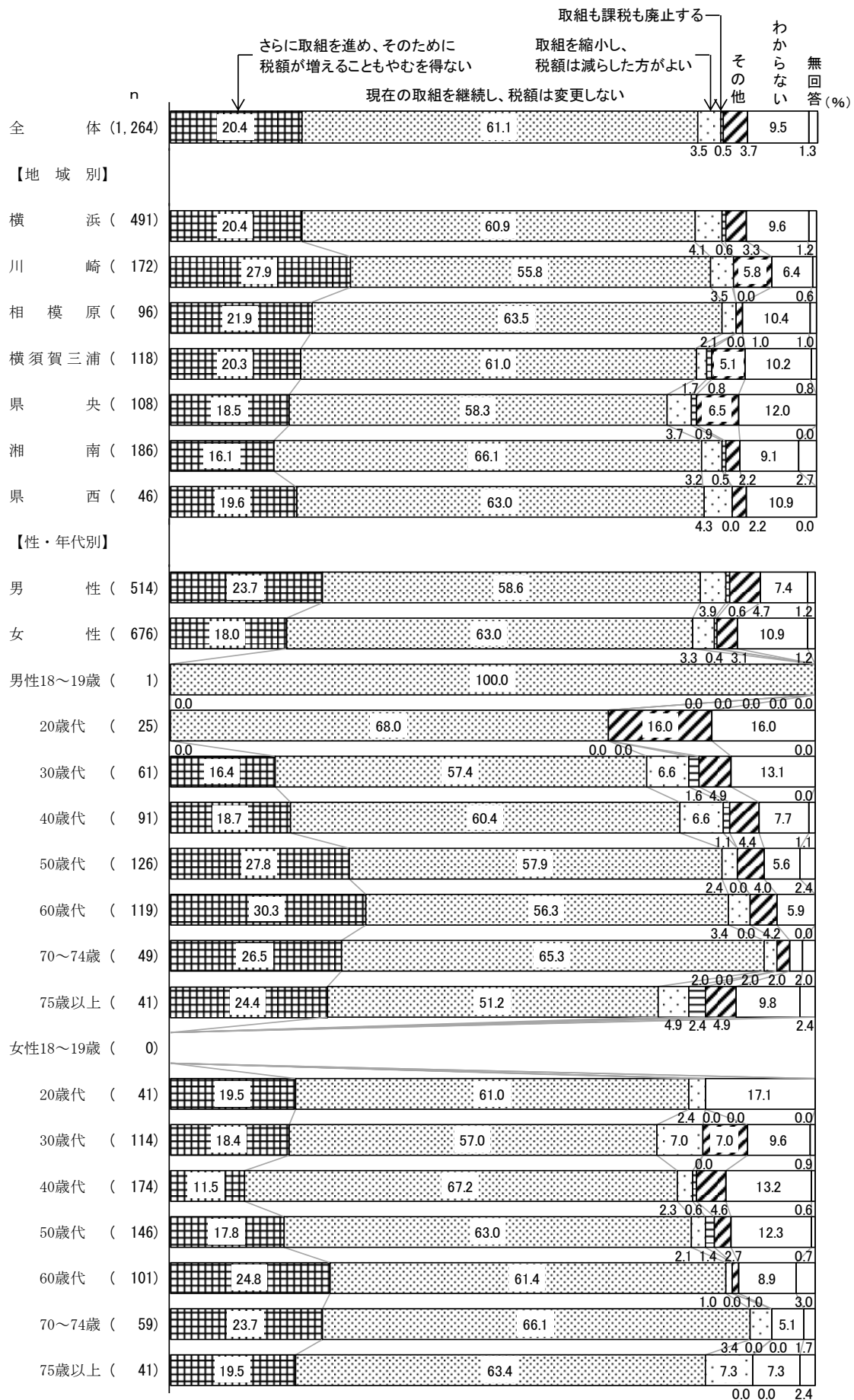
地域別にみると、「さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」は、川崎が27.9%で最も多かった。（図表6-7-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」は、男性（23.7%）が女性（18.0%）を5.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、「さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」は、男性の60歳代が30.3%で最も多く、次いで男性の50歳代が27.8%であった。（図表6-7-2）

図表6-7-2 水源環境保全税を財源とした取組への意見—地域別、性・年代別



第7章 神奈川県農林水産業【問38～問43】

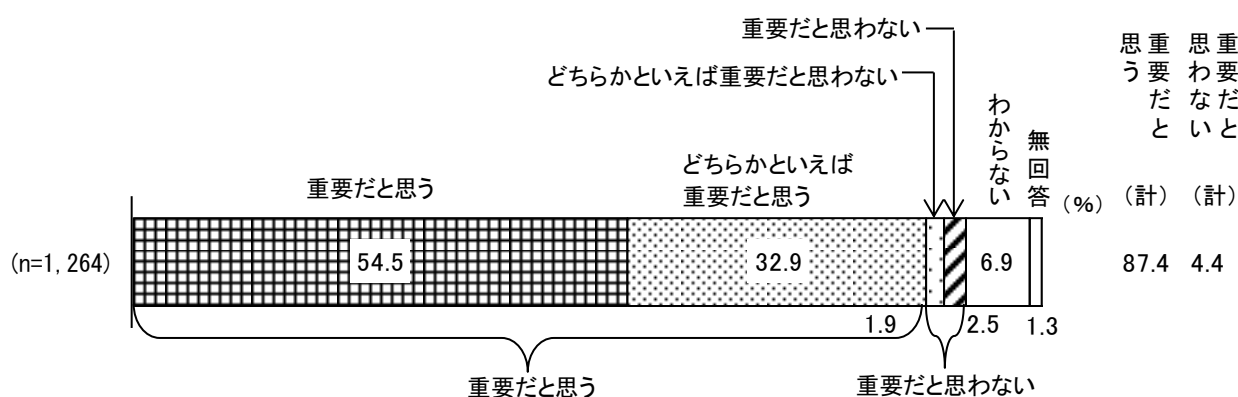
1 「地産地消」の取組の重要度【問38】

【全体の状況】

県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組を重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(54.5%)と「どちらかといえば重要だと思う」(32.9%)を合わせた《重要だと思う》は87.4%であった。

一方、「重要だと思わない」(2.5%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(1.9%)を合わせた《重要だと思わない》は4.4%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 「地産地消」の取組の重要度



【地域別の状況】

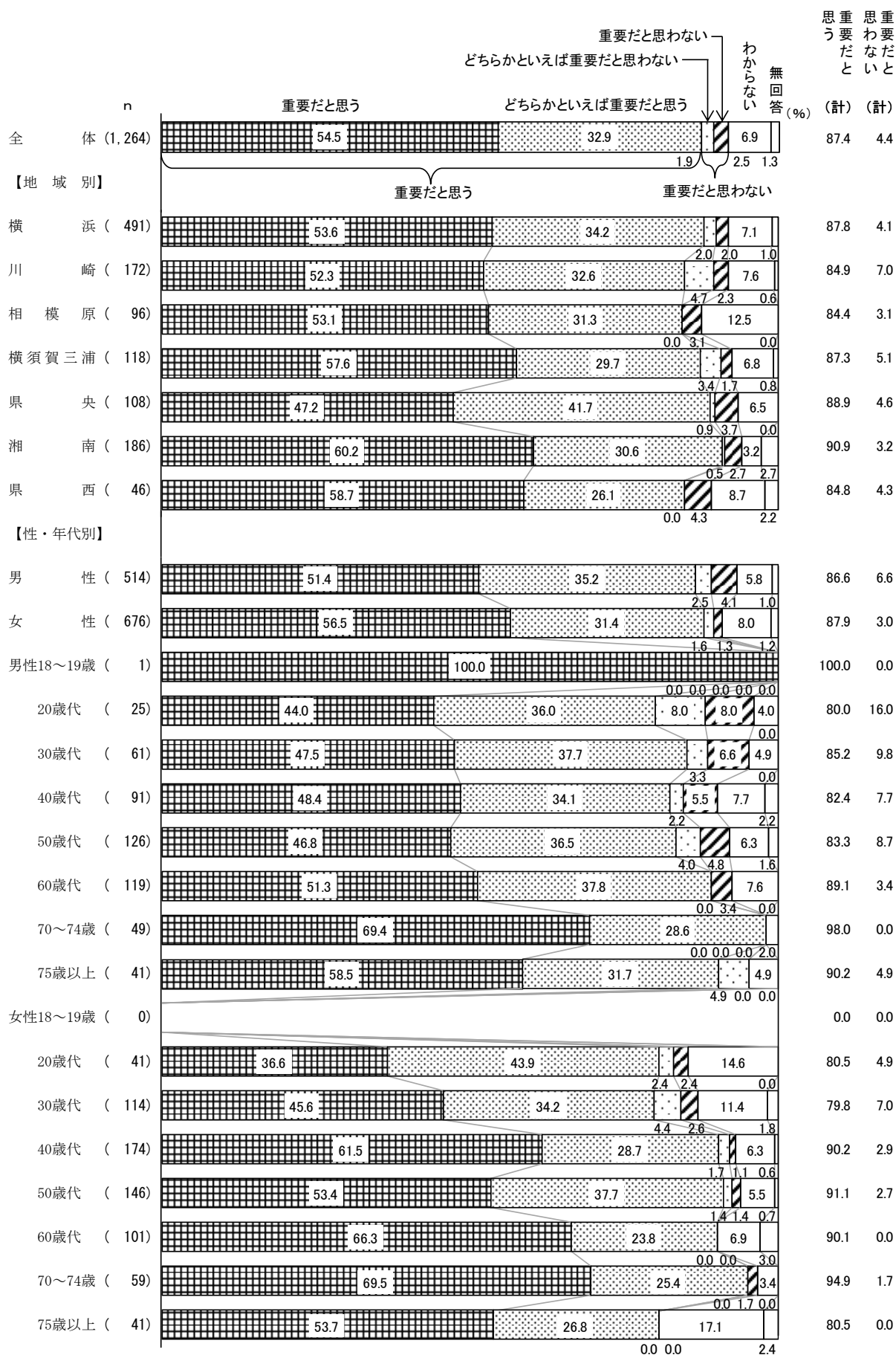
地域別にみると、《重要だと思う》は、湘南が90.9%で最も多く、次いで県央が88.9%であった。なお、《重要だと思わない》は、全地域(3.1%～7.0%)で1割に満たなかった。(図表7-1-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《重要だと思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女ともに70～74歳(男性98.0%、女性94.9%)が最も多かった。

なお、《重要だと思わない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、すべての性・年代(0.0%～9.8%)で1割に満たなかった。(図表7-1-2)

図表7-1-2 「地産地消」の取組の重要度—地域別、性・年代別

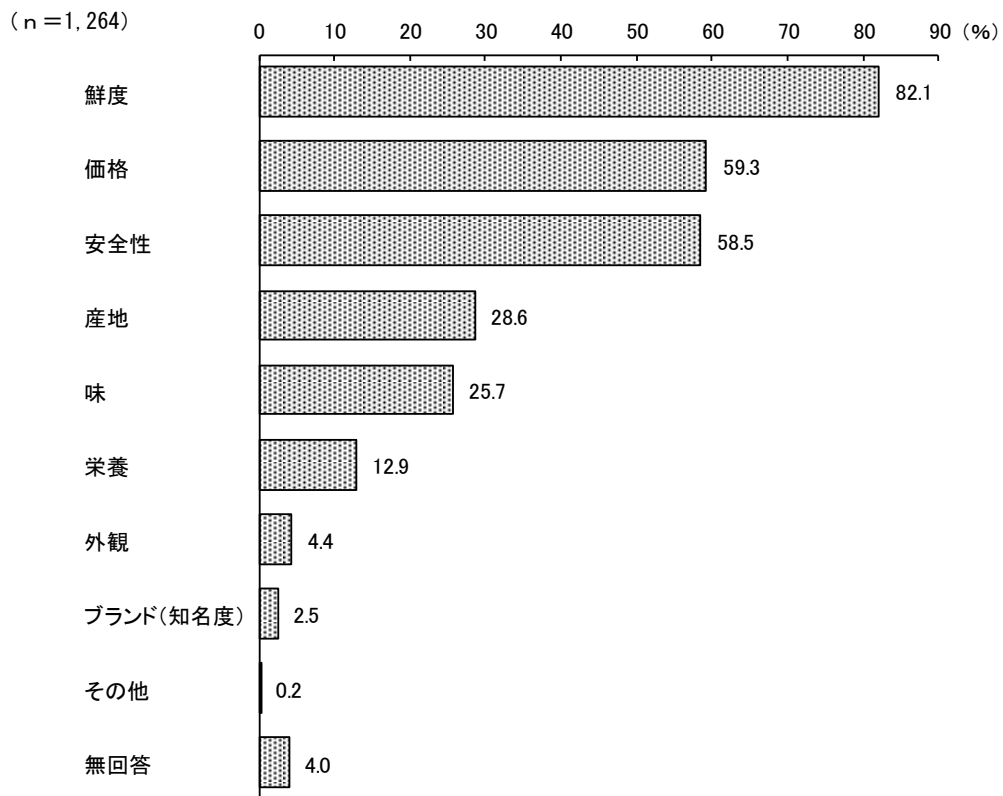


2 農林水産物を購入する際に重視する点【問39】

【全体の状況】

農林水産物を購入する際に、何を重視するか複数回答で尋ねたところ、「鮮度」が82.1%で最も多く、「価格」(59.3%)と「安全性」(58.5%)が約6割で続いた。(図表7-2-1)

図表7-2-1 農林水産物を購入する際に重視する点（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「鮮度」は、県西が95.7%で最も多かった。また、「安全性」は、県央が66.7%で最も多かった。(図表7-2-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「鮮度」は、女性(84.9%)が男性(77.0%)を7.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「鮮度」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が92.7%で最も多く、女性の60歳代(89.1%)・70～74歳(89.8%)が続いた。(図表7-2-2)

図表7-2-2 農林水産物を購入する際に重視する点（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

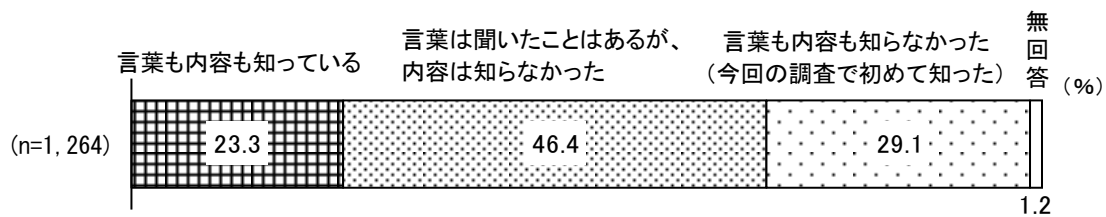
	n	鮮度	価格	安全性	産地	味	栄養	外観	ブランド (知名度)	その他	無回答
全体	1,264	82.1	59.3	58.5	28.6	25.7	12.9	4.4	2.5	0.2	4.0
【地域別】											
横浜	491	79.6	56.8	58.2	29.7	26.5	11.8	4.7	3.1	0.4	3.9
川崎	172	76.2	62.8	55.2	27.9	27.3	13.4	4.1	2.3	-	5.2
相模原	96	82.3	57.3	54.2	30.2	19.8	14.6	5.2	3.1	-	9.4
横須賀三浦	118	83.1	57.6	55.1	31.4	28.0	16.1	6.8	3.4	-	3.4
県央	108	86.1	61.1	66.7	21.3	27.8	11.1	1.9	1.9	-	0.9
湘南	186	84.9	65.1	59.1	26.3	21.5	14.5	4.8	1.6	-	3.8
県西	46	95.7	54.3	56.5	34.8	32.6	13.0	-	-	-	-
【性・年代別】											
男性	514	77.0	58.8	54.5	25.7	29.0	11.9	6.6	4.5	0.4	4.9
女性	676	84.9	59.5	60.5	31.4	23.7	13.8	2.8	1.2	-	3.4
男性18~19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	48.0	48.0	56.0	12.0	32.0	20.0	12.0	4.0	-	20.0
30歳代	61	68.9	55.7	37.7	36.1	32.8	11.5	13.1	11.5	-	3.3
40歳代	91	70.3	50.5	53.8	20.9	31.9	15.4	4.4	2.2	-	9.9
50歳代	126	82.5	59.5	54.8	23.8	34.1	9.5	6.3	4.0	-	2.4
60歳代	119	82.4	56.3	60.5	31.9	22.7	9.2	6.7	4.2	0.8	2.5
70~74歳	49	83.7	67.3	51.0	28.6	28.6	12.2	-	2.0	2.0	4.1
75歳以上	41	80.5	80.5	63.4	14.6	19.5	14.6	7.3	4.9	-	2.4
女性18~19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	75.6	58.5	48.8	26.8	34.1	9.8	2.4	7.3	-	4.9
30歳代	114	81.6	64.9	51.8	34.2	28.1	15.8	9.6	-	-	2.6
40歳代	174	85.6	58.0	60.9	35.6	21.8	13.8	1.1	-	-	3.4
50歳代	146	82.2	59.6	61.6	28.1	23.3	15.1	2.1	0.7	-	4.8
60歳代	101	89.1	54.5	64.4	29.7	26.7	12.9	1.0	2.0	-	3.0
70~74歳	59	89.8	69.5	69.5	28.8	13.6	10.2	-	1.7	-	1.7
75歳以上	41	92.7	48.8	68.3	29.3	17.1	14.6	2.4	2.4	-	2.4

3 「かながわブランド」の認知度【問40】

【全体の状況】

「かながわブランド」という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」が46.4%で最も多く、次いで「言葉も内容も知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が29.1%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 「かながわブランド」の認知度



【地域別の状況】

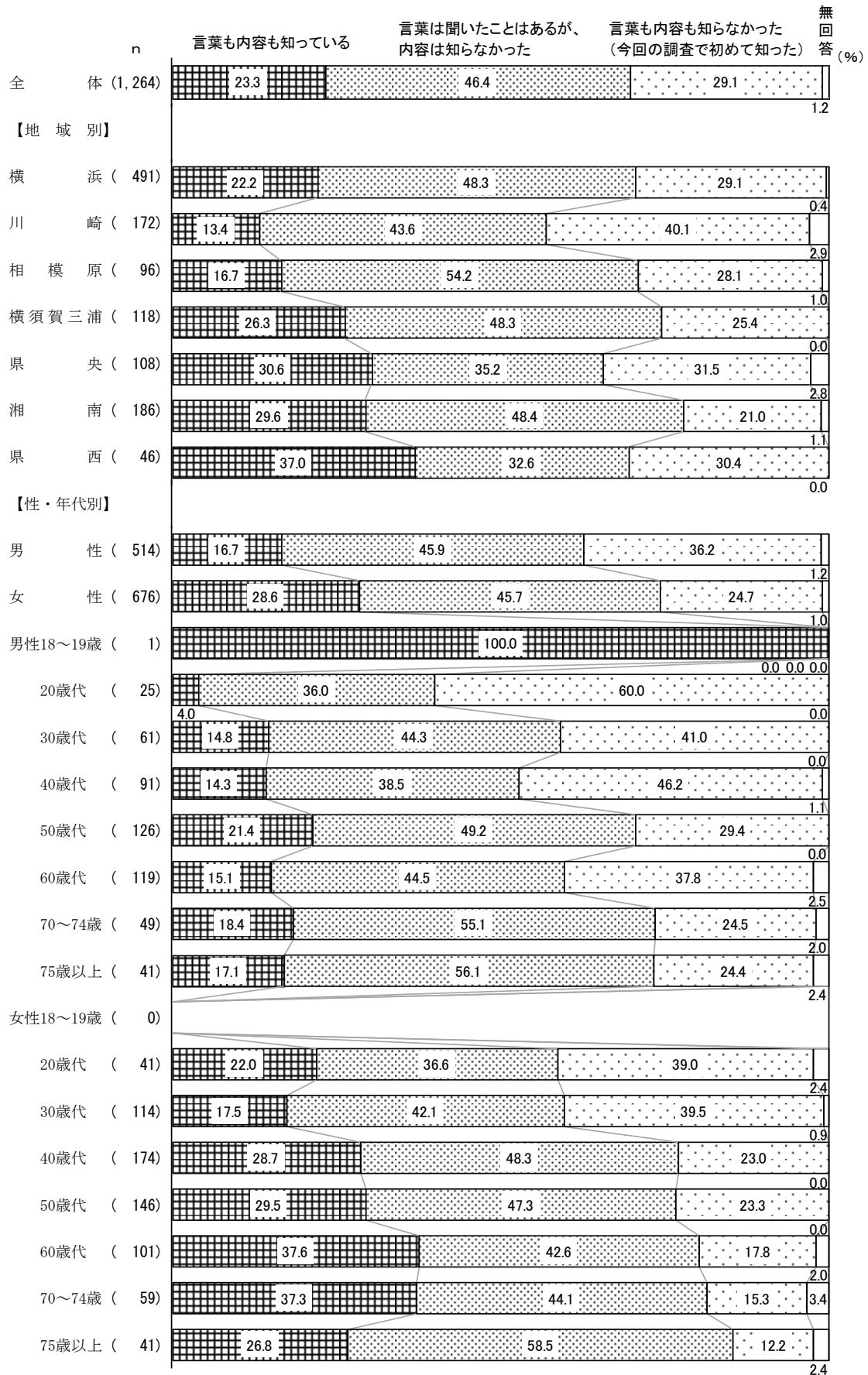
地域別にみると、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」は、相模原が54.2%で最も多く、次いで湘南が48.4%であった。また、「言葉も内容も知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、川崎が40.1%で最も多かった。（図表7-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は、女性（28.6%）が男性（16.7%）を11.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」は、男女ともに75歳以上（男性56.1%、女性58.5%）が最も多かった。また、「言葉も内容も知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、男性の40歳代が46.2%で最も多かった。（図表7-3-2）

図表7-3-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別

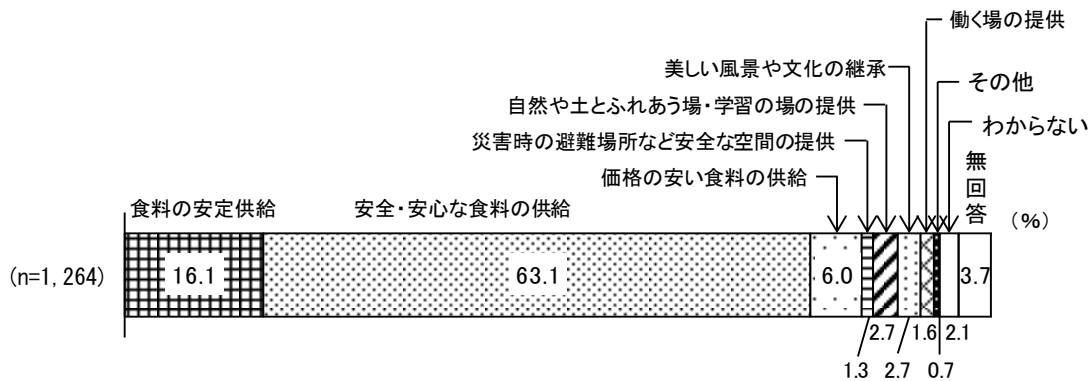


4 神奈川県農業に期待する役割【問41】

【全体の状況】

神奈川県農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が63.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が16.1%であった。（図表7-4-1）

図表7-4-1 神奈川県農業に期待する役割



【地域別の状況】

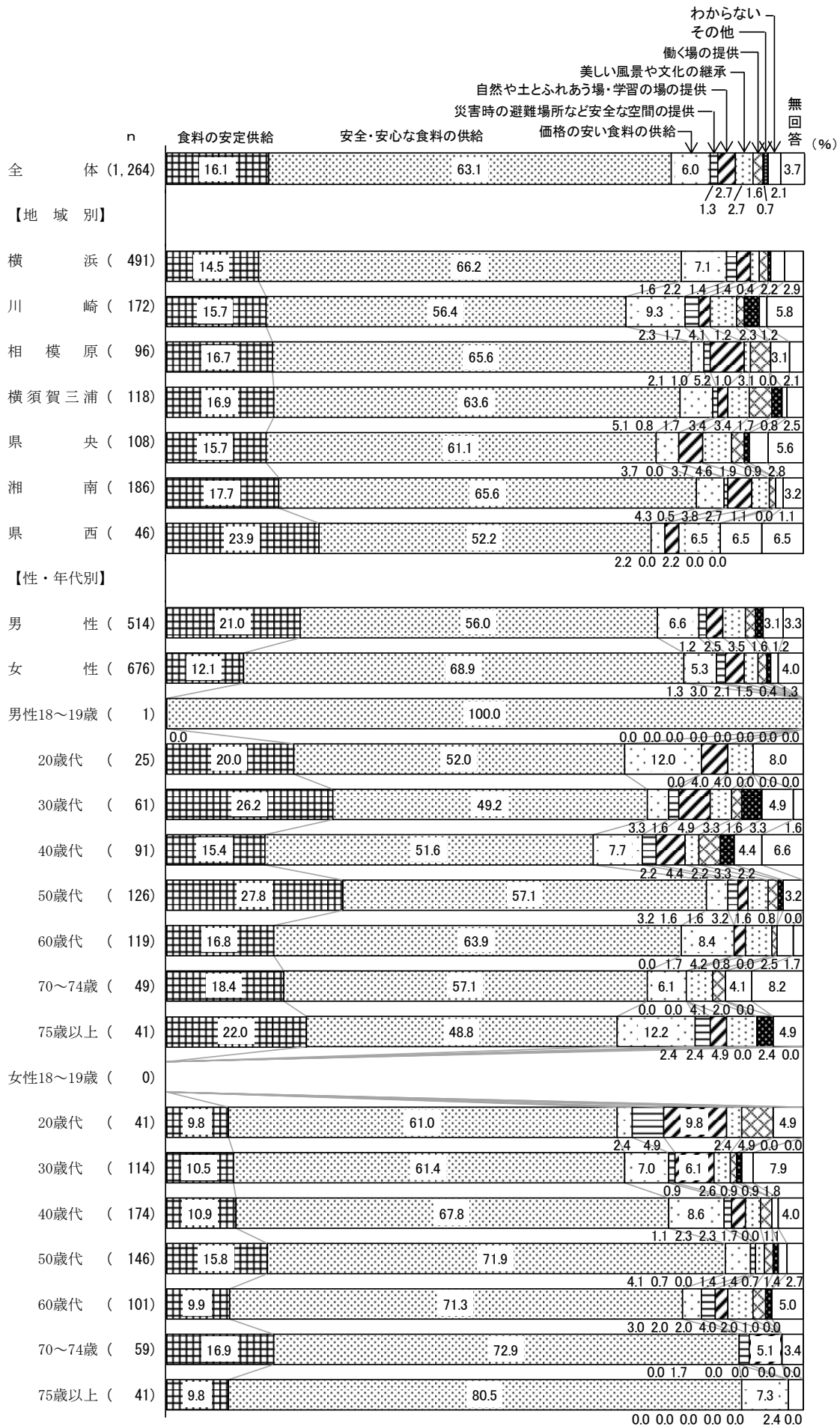
地域別にみると、「安全・安心な食料の供給」は、川崎（56.4%）と県西（52.2%）を除く5地域（61.1%～66.2%）がそれぞれ6割を超えた。また、「食料の安定供給」は、県西が23.9%で最も多かった。（図表7-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「安全・安心な食料の供給」は、女性（68.9%）が男性（56.0%）を12.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「安全・安心な食料の供給」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の75歳以上が80.5%で最も多く、次いで女性の70～74歳が72.9%であった。また、「食料の安定供給」は、男性の50歳代が27.8%で最も多かった。（図表7-4-2）

図表7-4-2 神奈川県農業に期待する役割—地域別、性・年代別

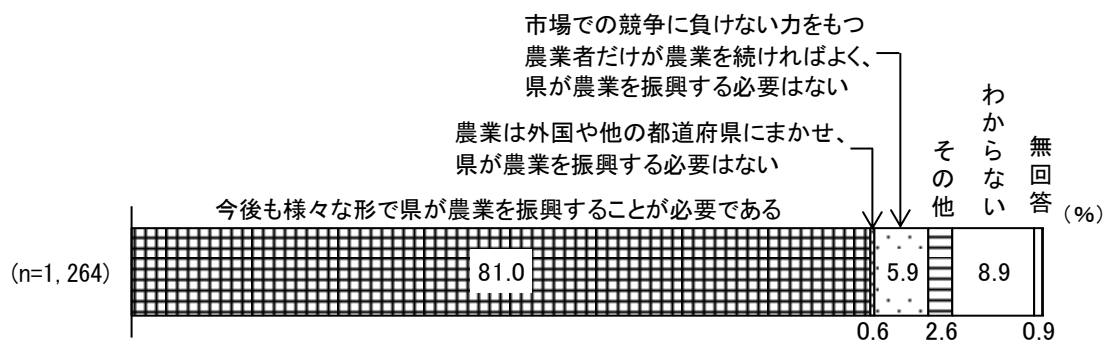


5 将来の神奈川県農業に対する考え【問42】

【全体の状況】

将来の神奈川県農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」が81.0%で最も多かった。(図表7-5-1)

図表7-5-1 将来の神奈川県農業に対する考え



【地域別の状況】

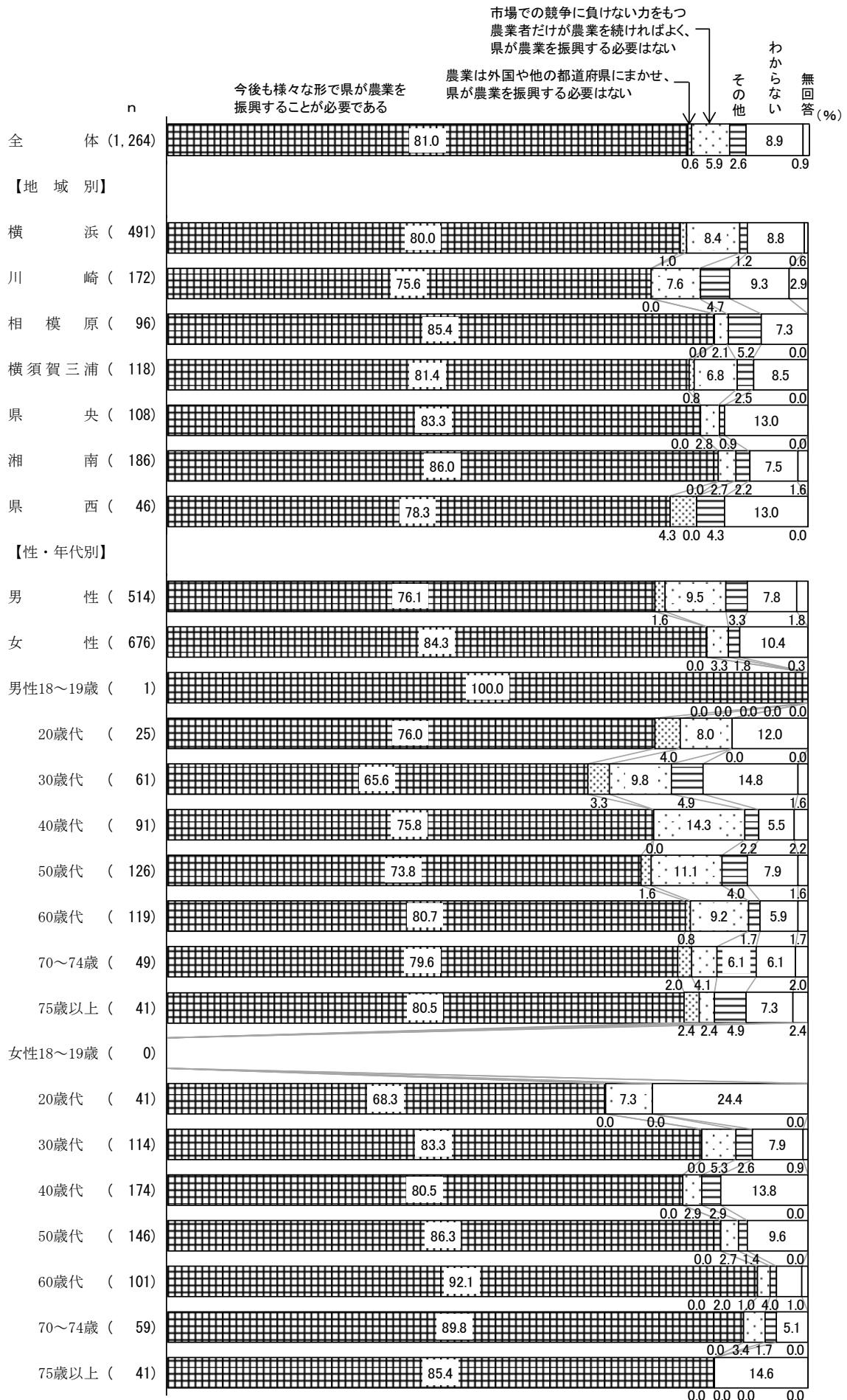
地域別にみると、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」は、県西 (78.3%) と川崎 (75.6%) を除く 5 地域 (80.0%~86.0%) がそれぞれ 8 割以上であった。(図表7-5-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」は、女性 (84.3%) が男性 (76.1%) を 8.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、女性の60歳代が92.1%で最も多く、次いで女性の70~74歳が89.8%であった。(図表7-5-2)

図表7-5-2 将来の神奈川県農業に対する考え—地域別、性・年代別

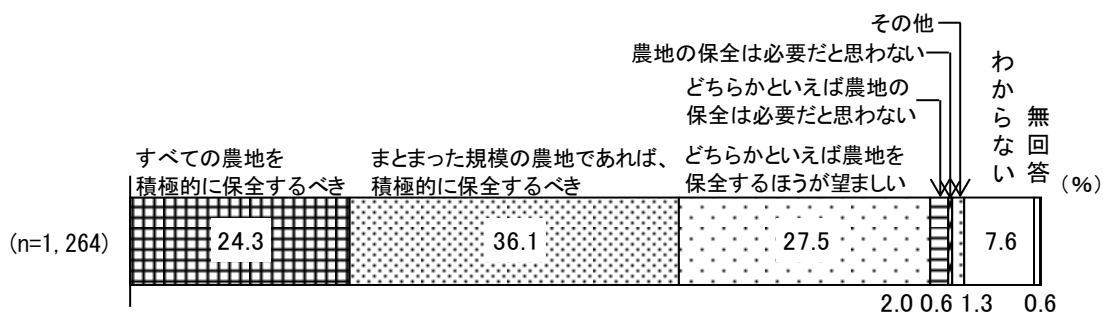


6 県内にある農地の保全に対する考え【問43】

【全体の状況】

県内にある農地の保全について、どのように思うか尋ねたところ、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全するべき」が36.1%で最も多く、「どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい」(27.5%)と「すべての農地を積極的に保全するべき」(24.3%)が2割台で続いた。(図表7-6-1)

図表7-6-1 県内にある農地の保全に対する考え



【地域別の状況】

地域別にみると、「すべての農地を積極的に保全するべき」は、県西が39.1%で最も多かった。

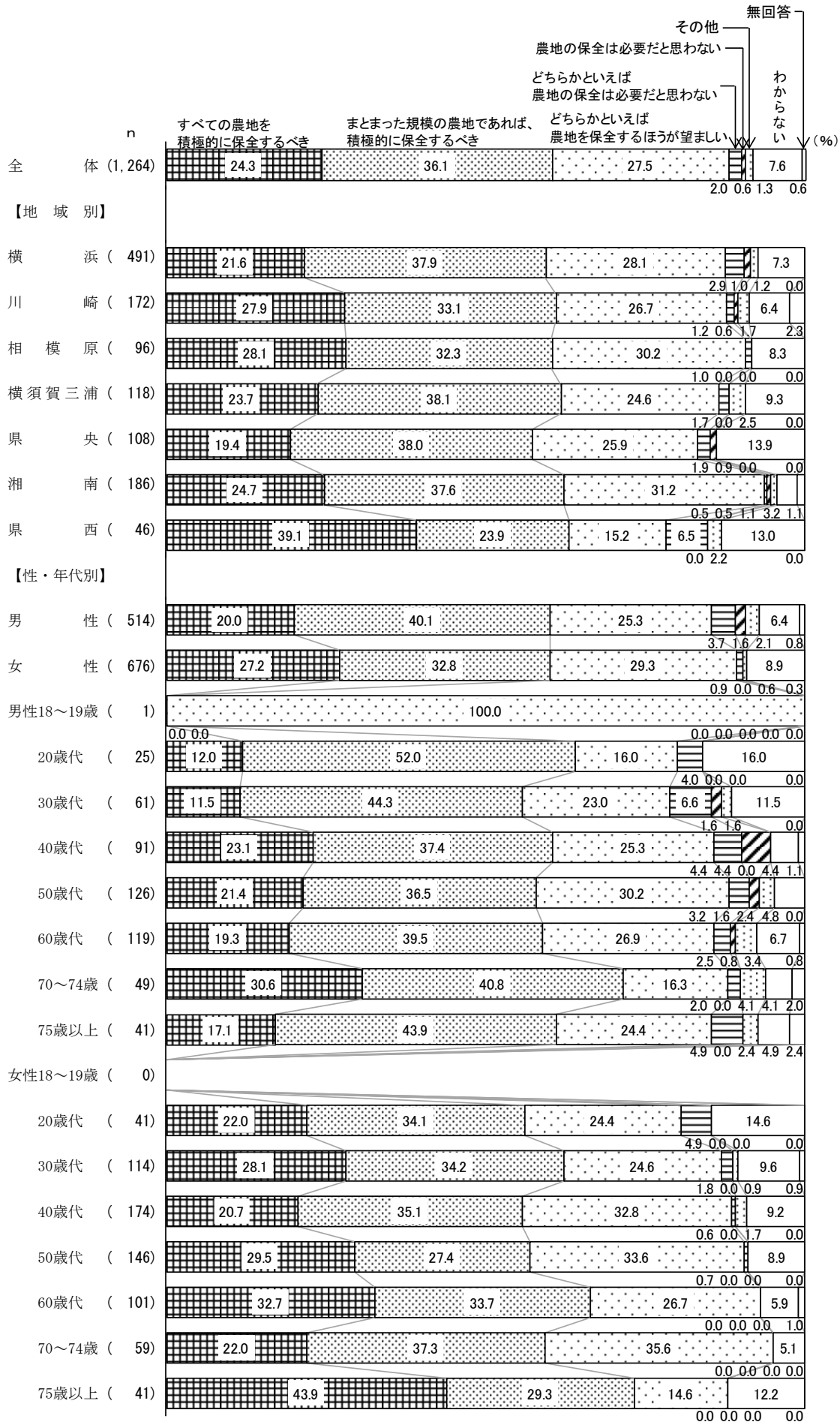
(図表7-6-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全するべき」は、男性(40.1%)が女性(32.8%)を7.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「すべての農地を積極的に保全するべき」は、女性の75歳以上が43.9%で最も多く、次いで女性の60歳代が32.7%であった。(図表7-6-2)

図表7-6-2 県内にある農地の保全に対する考え—地域別、性・年代別



第8章 持続可能な開発目標（SDGs）【問44～問46】

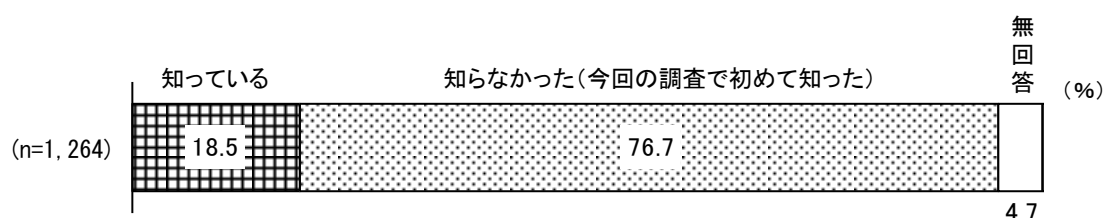
1 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度【問44】

【全体の状況】

「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が76.7%であった。

一方、「知っている」は、18.5%であった。（図表8-1-1）

図表8-1-1 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、湘南（81.7%）と川崎（80.8%）がともに約8割であった。

一方、「知っている」は、県西が26.1%で最も多く、次いで横須賀三浦が25.4%であった。

（図表8-1-2）

【性・年代別の状況】

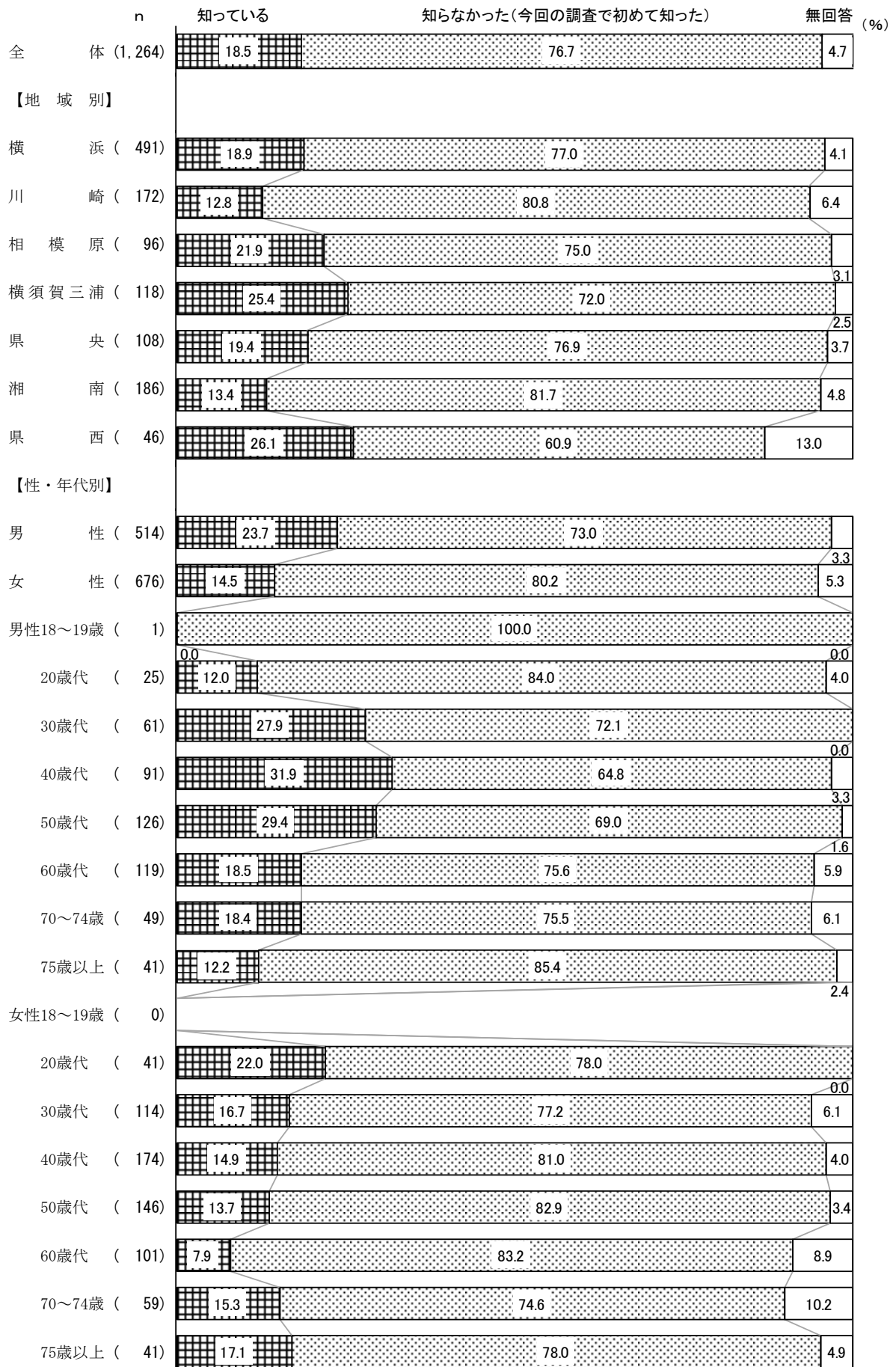
性別にみると、「知っている」は、男性（23.7%）が女性（14.5%）を9.2ポイント上回った。

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の75歳以上が85.4%で最も多かった。

一方、「知っている」は、男性の40歳代（31.9%）・50歳代（29.4%）がともに約3割であった。

（図表8-1-3）

図表8-1-2 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度—地域別、性・年代別



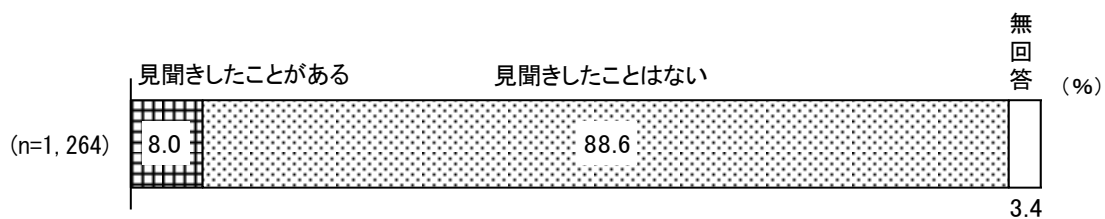
2 SDGsの普及啓発物やイベントの認知度【問45】

【全体の状況】

神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて聞き見たことがあるか尋ねたところ、「聞き見たことがある」が8.0%であった。

一方、「聞き見たことはない」は、88.6%であった。(図表8-2-1)

図表8-2-1 SDGsの普及啓発物やイベントの認知度



【地域別の状況】

地域別にみると、「聞き見たことがある」は、県西が15.2%で最も多く、次いで横須賀三浦が11.9%であった。

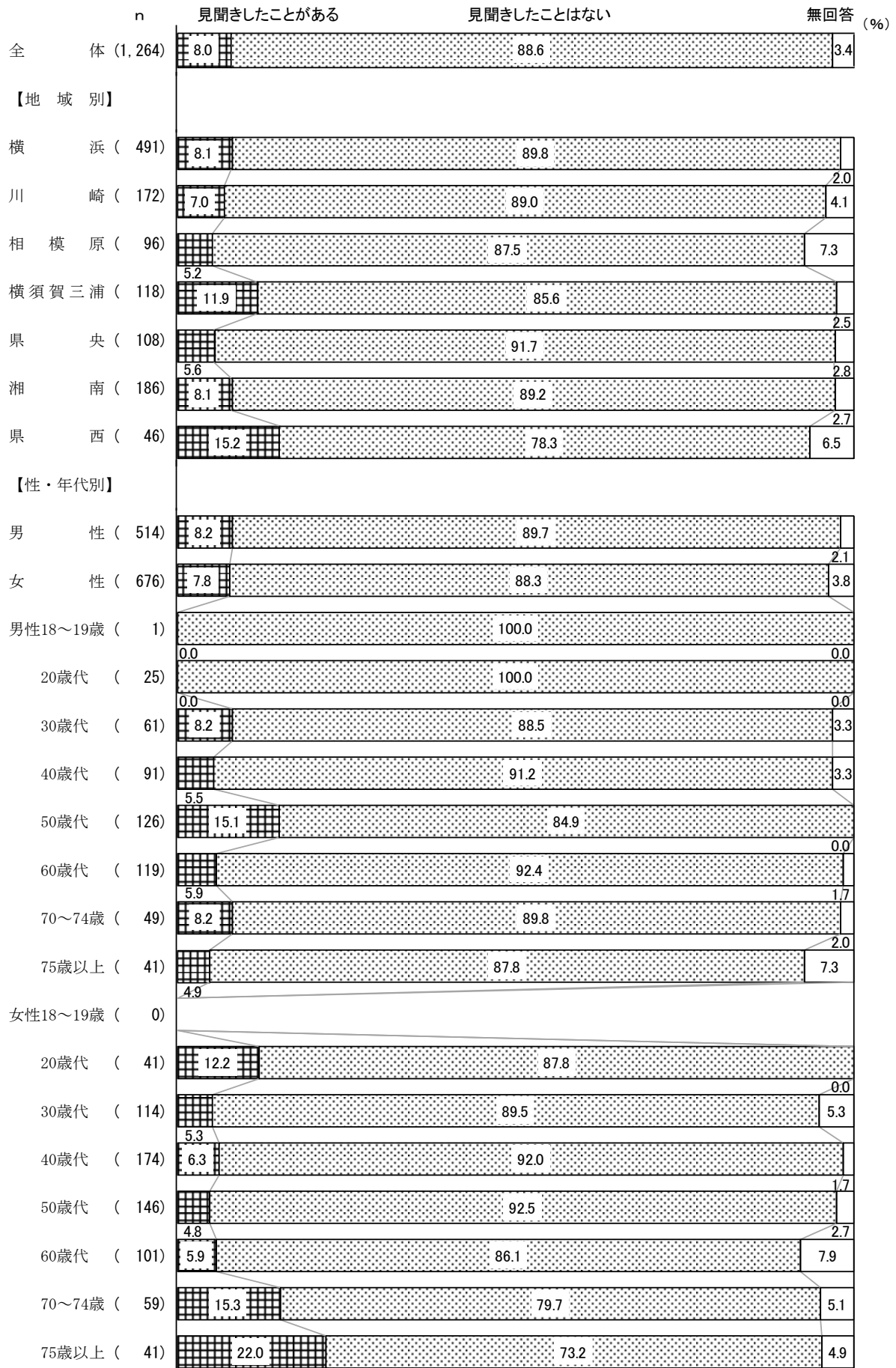
一方、「聞き見たことはない」は、県央が91.7%で最も多かった。(図表8-2-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「聞き見たことがある」は、女性の75歳以上が22.0%で最も多く、次いで女性の70～74歳(15.3%)と男性の50歳代(15.1%)が続いた。

一方、「聞き見たことはない」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳・20歳代を除くと、男性の40歳代(91.2%)・60歳代(92.4%)、女性の40歳代(92.0%)・50歳代(92.5%)がそれぞれ9割を超えた。(図表8-2-2)

図表8-2-2 SDGsの普及啓発物やイベントの認知度—地域別、性・年代別

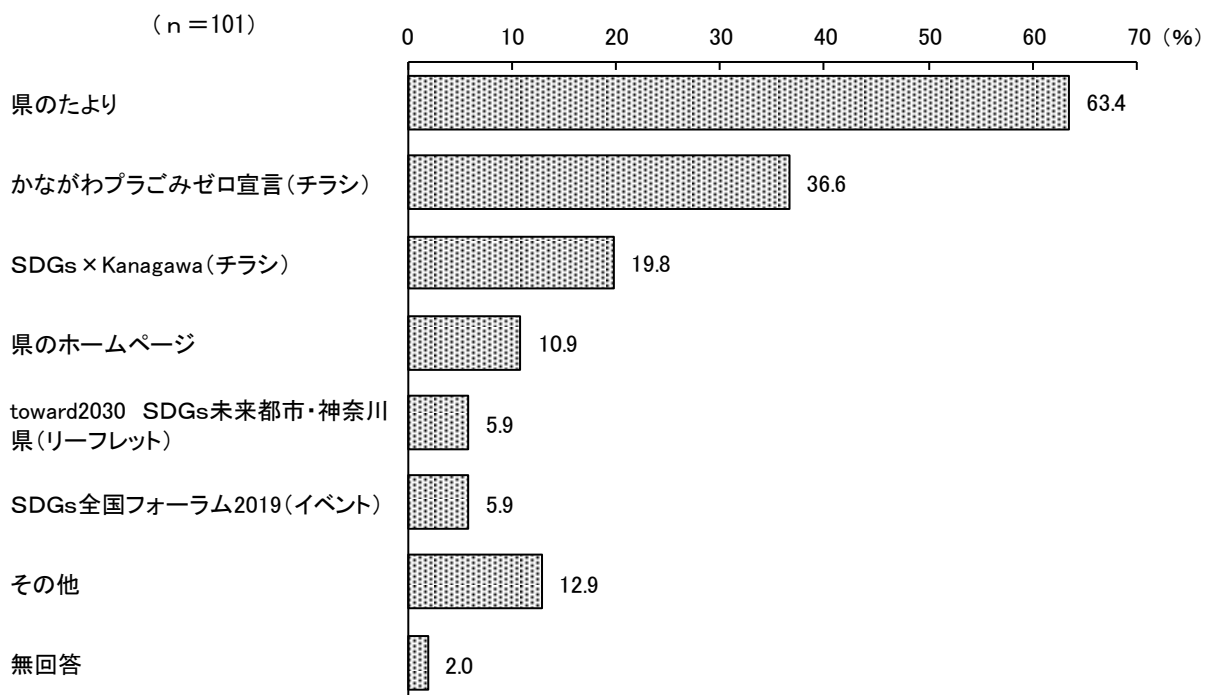


3 見聞きしたことがあるSDGsの普及啓発物やイベント【問45-1】

【全体の状況】

SDGsの普及啓発物やイベントの認知度（問45）で「見聞きしたことがある」と回答した101人に、神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県のたより」が63.4%で最も多く、次いで「かながわプラごみゼロ宣言（チラシ）」が36.6%であった。（図表8-3-1）

図表8-3-1 見聞きしたことがあるSDGsの普及啓発物やイベント（複数回答）



図表8-3-2 見聞きしたことがあるSDGsの普及啓発物やイベント（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

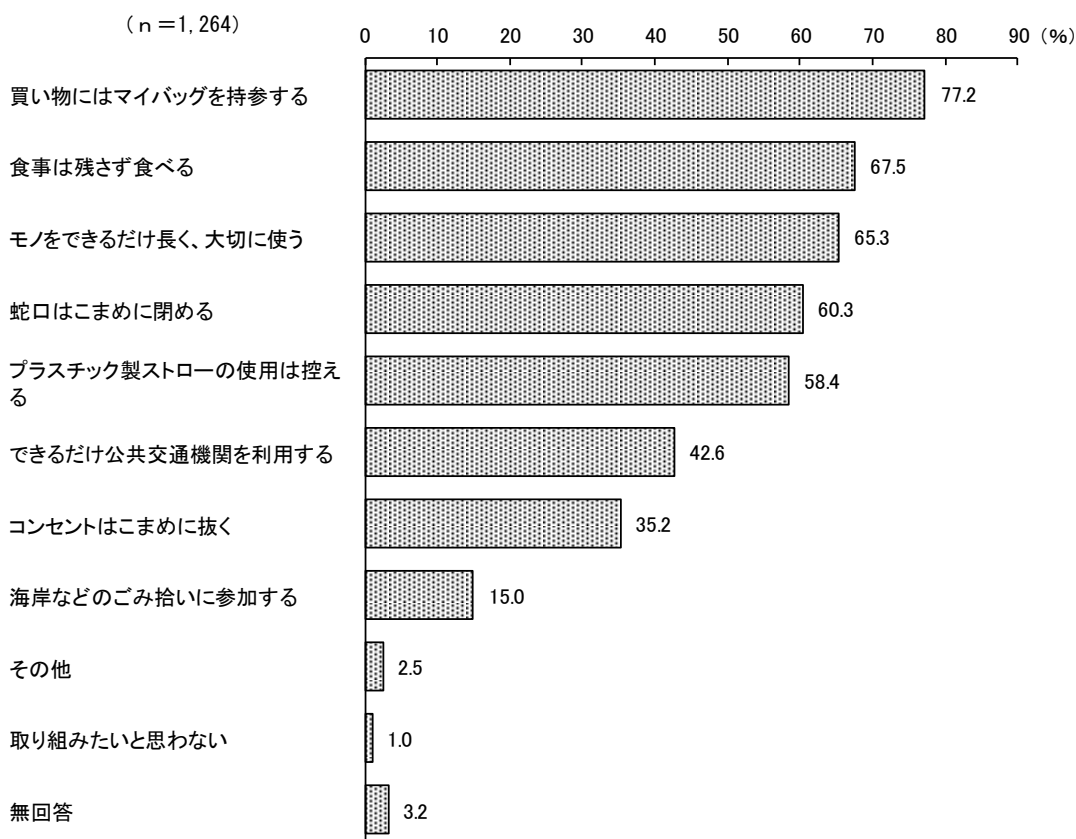
		（％）								
	n	県のたより	かながわプラごみゼロ宣言（チラシ）	SDGs x Kanagawa（チラシ）	県のホームページ	stewardship未来都市・神奈川県（リーフレット）	2019（イベント）	SDGs全国フォーラム	その他	無回答
全 体	101	63.4	36.6	19.8	10.9	5.9	5.9	12.9	2.0	
【地 域 別】										
横 浜	40	62.5	35.0	20.0	5.0	5.0	2.5	10.0	-	
川 崎	12	83.3	33.3	8.3	16.7	8.3	8.3	-	-	
相 模 原	5	20.0	20.0	40.0	-	-	-	40.0	-	
横 須 賀 三 浦	14	78.6	28.6	14.3	21.4	7.1	14.3	14.3	-	
県 央	6	50.0	50.0	50.0	16.7	-	16.7	-	16.7	
湘 南	15	66.7	40.0	20.0	20.0	-	-	20.0	6.7	
県 西	7	42.9	42.9	14.3	-	28.6	14.3	28.6	-	
【性・年代別】										
男 性	42	50.0	38.1	31.0	19.0	4.8	9.5	11.9	2.4	
女 性	53	71.7	32.1	13.2	5.7	5.7	3.8	15.1	1.9	
男性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30歳代	5	80.0	40.0	-	-	-	20.0	-	-	
40歳代	5	20.0	60.0	40.0	20.0	-	20.0	20.0	-	
50歳代	19	47.4	36.8	36.8	26.3	10.5	10.5	10.5	5.3	
60歳代	7	42.9	14.3	14.3	14.3	-	-	28.6	-	
70～74歳	4	50.0	50.0	50.0	25.0	-	-	-	-	
75歳以上	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳代	5	40.0	20.0	40.0	-	40.0	40.0	20.0	-	
30歳代	6	50.0	16.7	16.7	-	-	-	33.3	-	
40歳代	11	63.6	36.4	27.3	-	9.1	-	9.1	-	
50歳代	7	71.4	28.6	14.3	14.3	-	-	28.6	-	
60歳代	6	83.3	50.0	-	-	-	-	-	-	
70～74歳	9	88.9	22.2	-	11.1	-	-	22.2	-	
75歳以上	9	88.9	44.4	-	11.1	-	-	-	11.1	

4 SDGs達成に向け行いたい取組【問46】

【全体の状況】

SDGs達成に向けて、行いたいと思う取組を複数回答で尋ねたところ、「買い物にはマイバッグを持参する」が77.2%で最も多く、「食事は残さず食べる」(67.5%)と「モノをできるだけ長く、大切に使う」(65.3%)が続いた。(図表8-4-1)

図表8-4-1 SDGs達成に向け行いたい取組（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「買い物にはマイバッグを持参する」は、湘南が82.3%で最も多かった。

(図表8-4-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「買い物にはマイバッグを持参する」は、女性(85.2%)が男性(66.3%)を18.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「買い物にはマイバッグを持参する」は、サンプル数の少ない男性の18~19歳を除くと、女性の60歳代が93.1%で最も多かった。(図表8-4-2)

図表8-4-2 SDGs達成に向け行いたい取組（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	買い物にはマイバッグを持参する	食事は残さず食べる	モノをできるだけ長く、大切に使う	蛇口はこまめに閉める	プラスチック製ストローの使用は控える	できるだけだけ公共交通機関を利用する	コンセントはこまめに抜く	海岸などのごみ拾いに参加する	その他	取り組みたいと思わない	無回答
全体	1,264	77.2	67.5	65.3	60.3	58.4	42.6	35.2	15.0	2.5	1.0	3.2
【地域別】												
横浜	491	75.8	66.8	64.6	58.2	54.4	47.9	34.8	13.0	2.9	1.6	2.9
川崎	172	74.4	68.6	63.4	60.5	56.4	50.0	36.0	12.2	3.5	-	4.1
相模原	96	77.1	63.5	68.8	59.4	59.4	34.4	38.5	17.7	2.1	2.1	5.2
横須賀三浦	118	77.1	66.1	69.5	58.5	64.4	35.6	31.4	22.0	1.7	-	2.5
県央	108	76.9	65.7	61.1	60.2	65.7	30.6	35.2	10.2	1.9	0.9	1.9
湘南	186	82.3	71.0	62.4	64.0	59.1	36.0	33.3	19.9	2.2	1.1	3.2
県西	46	78.3	65.2	73.9	67.4	63.0	41.3	41.3	13.0	2.2	-	2.2
【性・年代別】												
男性	514	66.3	62.5	62.6	53.3	52.9	40.5	29.4	15.2	3.1	1.8	2.3
女性	676	85.2	71.6	67.3	65.7	61.7	43.6	39.3	14.5	2.2	0.4	3.6
男性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	68.0	80.0	80.0	60.0	44.0	44.0	24.0	24.0	-	-	-
30歳代	61	57.4	72.1	57.4	55.7	41.0	31.1	23.0	13.1	1.6	3.3	3.3
40歳代	91	57.1	64.8	65.9	59.3	50.5	30.8	31.9	23.1	2.2	4.4	3.3
50歳代	126	65.9	63.5	58.7	50.8	57.1	39.7	31.0	16.7	4.0	1.6	-
60歳代	119	73.1	56.3	58.0	51.3	57.1	42.0	29.4	11.8	4.2	-	2.5
70～74歳	49	69.4	59.2	73.5	51.0	57.1	51.0	30.6	10.2	4.1	-	2.0
75歳以上	41	75.6	51.2	65.9	51.2	51.2	58.5	31.7	7.3	2.4	2.4	7.3
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	73.2	78.0	80.5	65.9	56.1	31.7	36.6	19.5	-	-	-
30歳代	114	79.8	70.2	68.4	57.9	49.1	43.9	35.1	19.3	1.8	1.8	7.0
40歳代	174	85.6	73.0	67.8	70.1	57.5	34.5	44.3	16.1	0.6	-	1.1
50歳代	146	87.0	72.6	65.8	63.0	65.8	43.8	34.9	13.7	4.1	-	3.4
60歳代	101	93.1	68.3	64.4	73.3	69.3	51.5	41.6	12.9	3.0	-	5.0
70～74歳	59	88.1	67.8	62.7	61.0	69.5	54.2	40.7	8.5	5.1	-	3.4
75歳以上	41	80.5	73.2	68.3	65.9	75.6	58.5	41.5	4.9	-	2.4	4.9

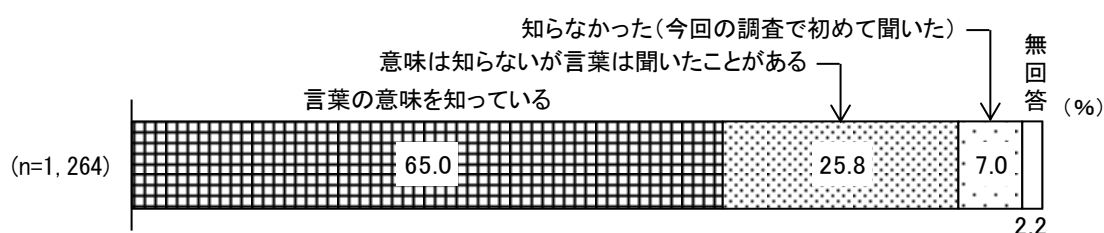
第9章 子どもの貧困対策【問47～問53】

1 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度【問47】

【全体の状況】

「子どもの貧困」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が65.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.8%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度



【地域別の状況】

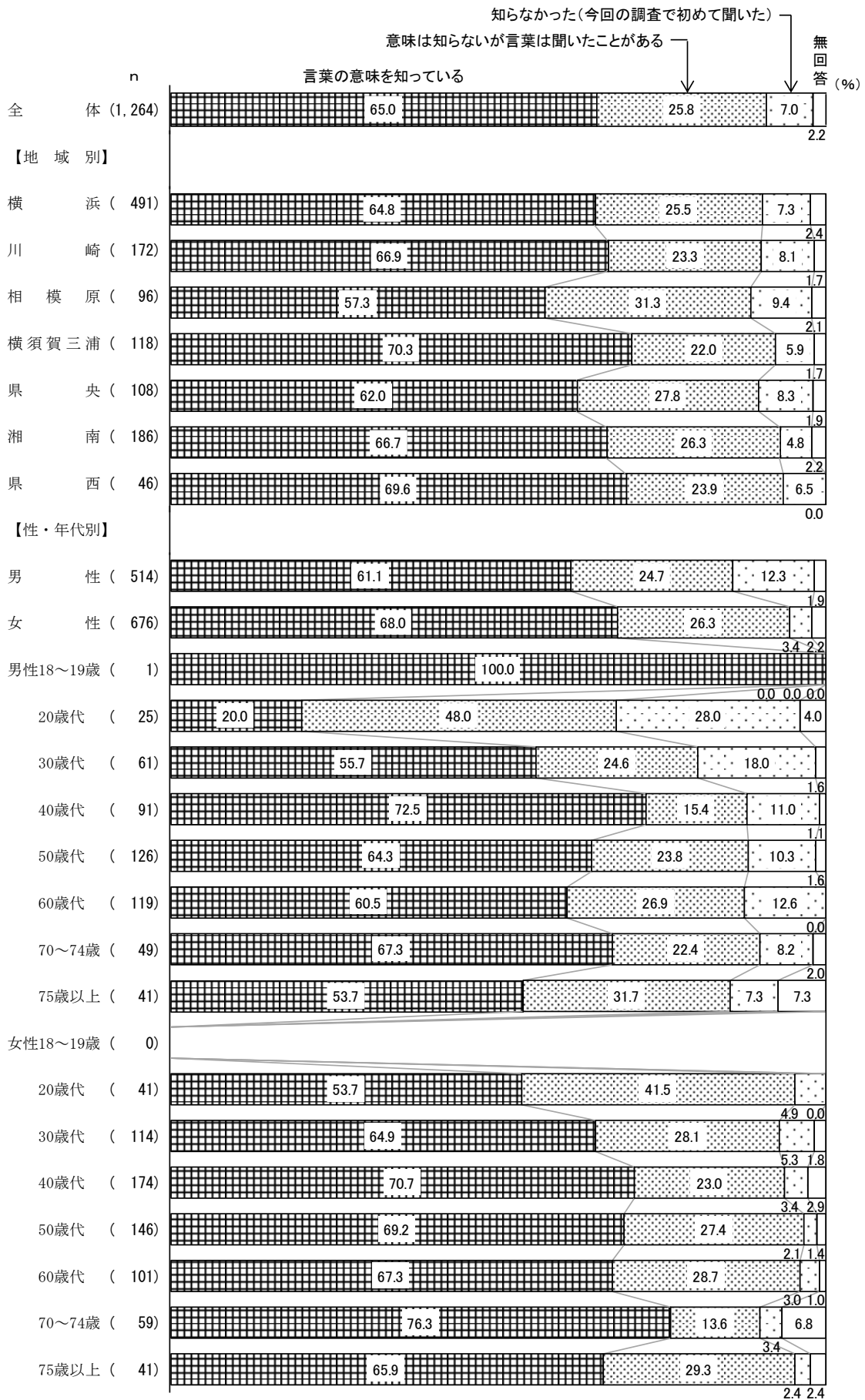
地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は、横須賀三浦が70.3%で最も多く、次いで県西が69.6%であった。(図表9-1-2)

【性・年代別の状況】

性別にみると、「言葉の意味を知っている」は、女性(68.0%)が男性(61.1%)を6.9ポイント上回った。

性・年代別にみると、「言葉の意味を知っている」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女の40歳代(男性72.5%、女性70.7%)と女性の70～74歳(76.3%)がそれぞれ7割を超えた。(図表9-1-2)

図表9-1-2 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別



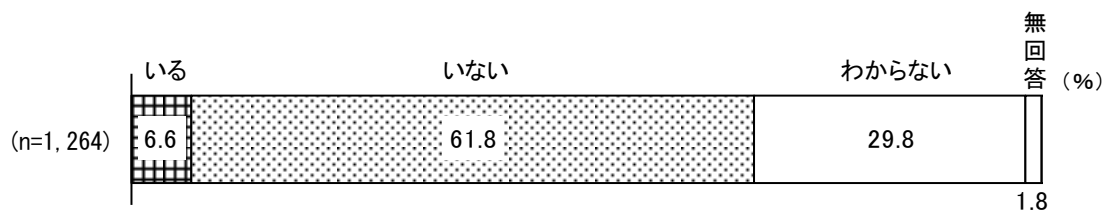
2 身近で支援を必要とする子どもの有無【問48】

【全体の状況】

身近（近所や職場、知人、親戚など）に、経済的に苦しく行政等による支援が必要だと思われる子どもがいるか尋ねたところ、「いる」が6.6%であった。

一方、「いない」は、61.8%であった。（図表9-2-1）

図表9-2-1 身近で支援を必要とする子どもの有無



【地域別の状況】

地域別にみると、「いる」は、相模原が11.5%で最も多く、次いで県西が10.9%であった。

一方、「いない」は、県西（54.3%）と相模原（53.1%）を除く5地域（60.2%～65.6%）がそれぞれ6割を超えた。（図表9-2-2）

【性・年代別の状況】

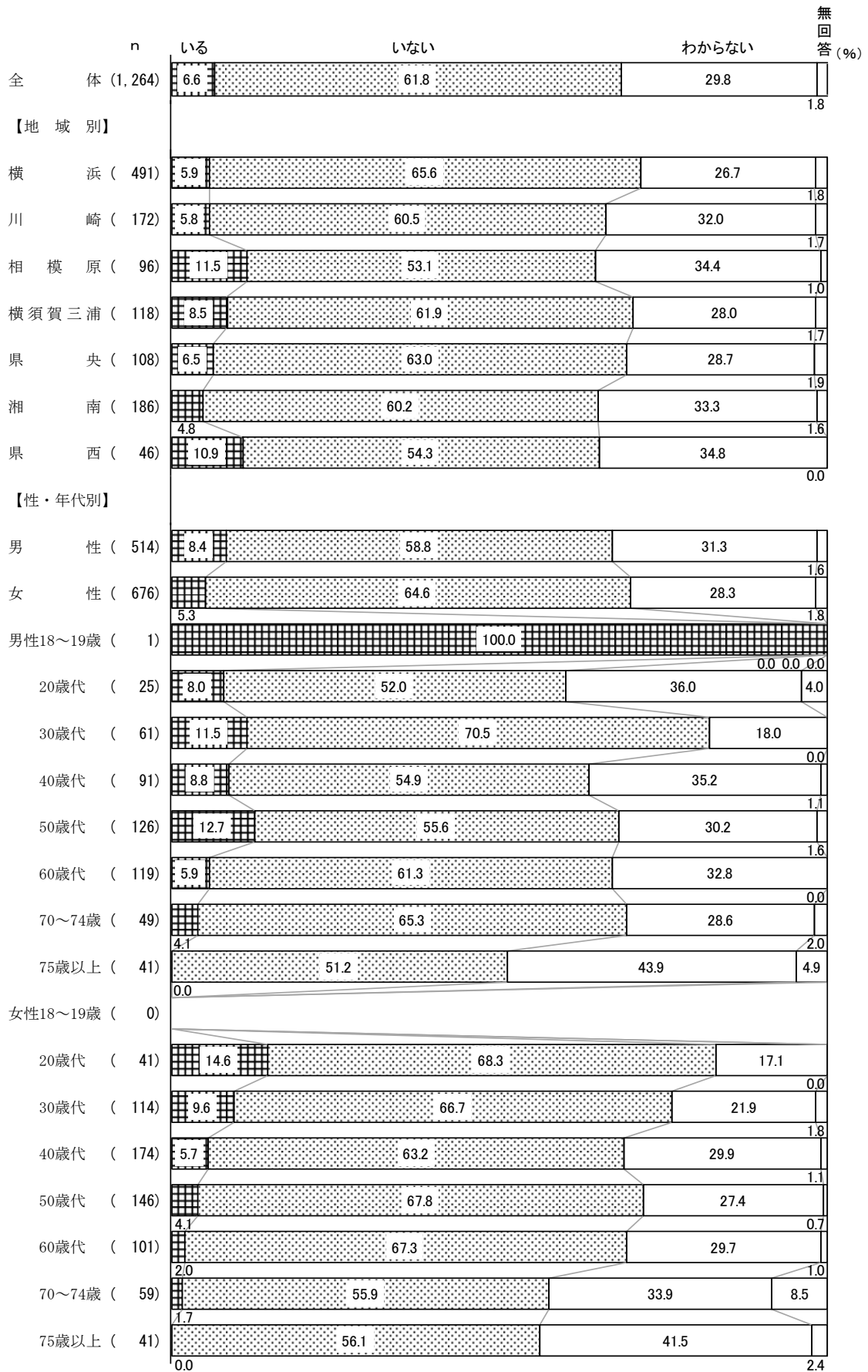
性別にみると、「いない」は、女性（64.6%）が男性（58.8%）を5.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「いる」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が14.6%で最も多く、次いで男性の50歳代が12.7%であった。

一方、「いない」は、男性の30歳代が70.5%で最も多く、次いで女性の20歳代が68.3%であった。

（図表9-2-2）

図表9-2-2 身近で支援を必要とする子どもの有無—地域別、性・年代別



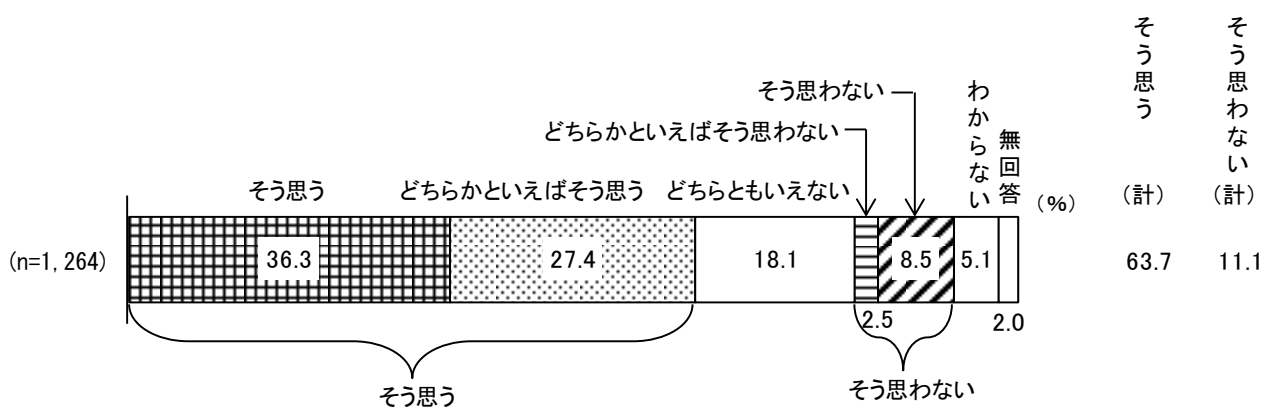
3 世代を超えた貧困の連鎖【問49】

【全体の状況】

貧困は世代を超えて連鎖している（貧困の状態ですぐれた人の子どもも貧困におちいってしまう）と思うか尋ねたところ、「そう思う」（36.3%）と「どちらかといえばそう思う」（27.4%）を合わせた《そう思う》は63.7%であった。

一方、「そう思わない」（8.5%）と「どちらかといえばそう思わない」（2.5%）を合わせた《そう思わない》は11.1%であった。（図表9-3-1）

図表9-3-1 世代を超えた貧困の連鎖



【地域別の状況】

地域別にみると、《そう思う》は、県央（58.3%）を除く6地域（60.8%～67.4%）がそれぞれ6割を超えた。

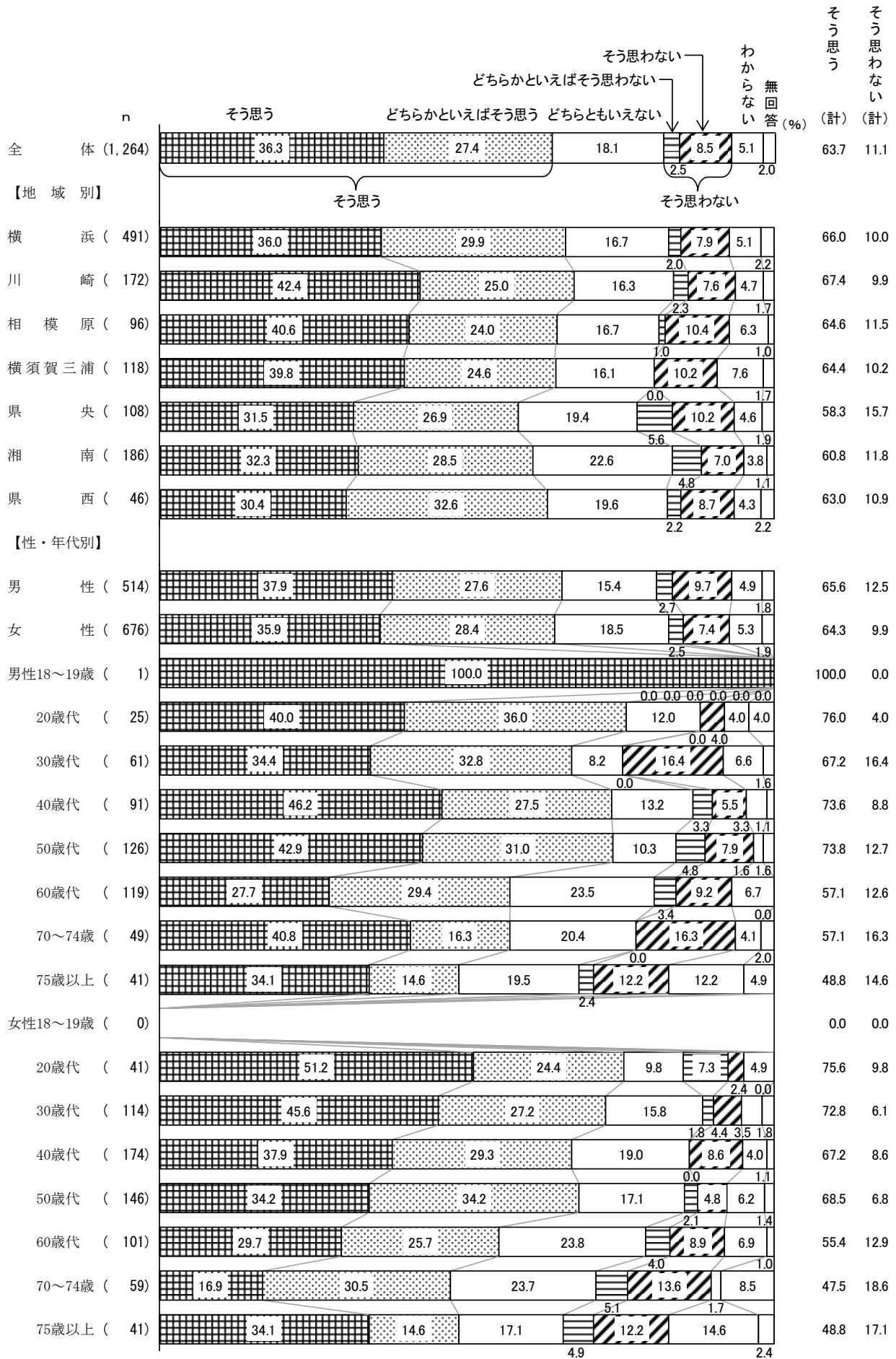
一方、《そう思わない》は、県央が15.7%で最も多かった。（図表9-3-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《そう思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳・20歳代を除くと、男性の40歳代（73.6%）・50歳代（73.8%）、女性の20歳代（75.6%）・30歳代（72.8%）がそれぞれ7割台であった。

一方、《そう思わない》は、女性の70～74歳が18.6%で最も多かった。（図表9-3-2）

図表9-3-2 世代を超えた貧困の連鎖—地域別、性・年代別

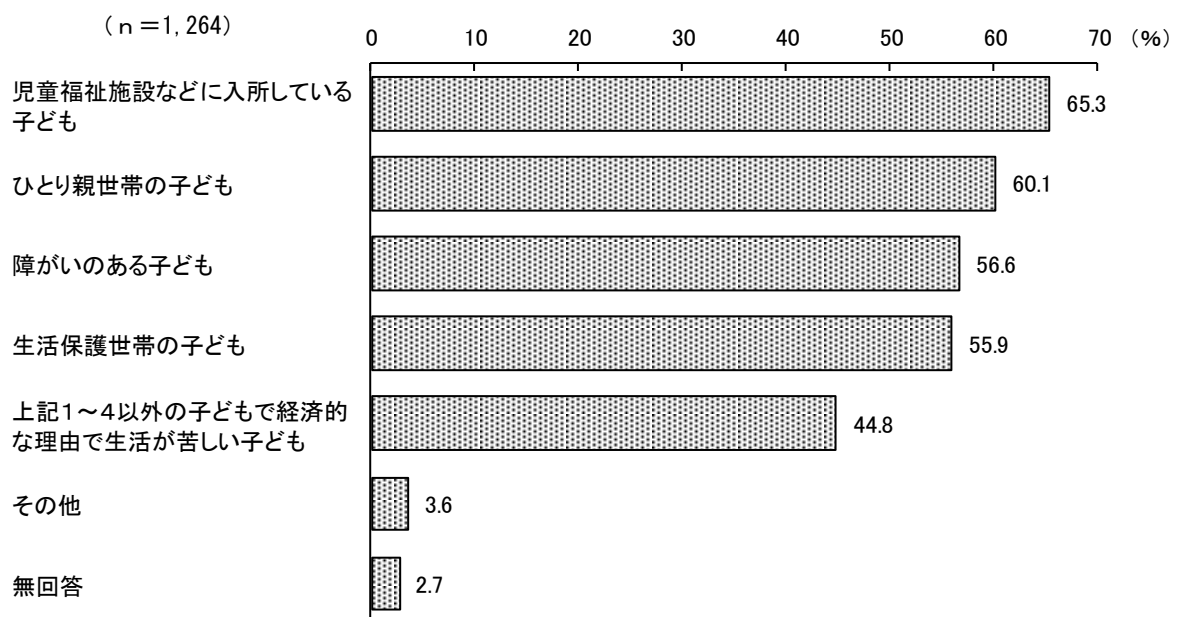


4 行政等による支援が必要な子ども【問50】

【全体の状況】

どのような子どもに対して行政等による貧困対策の支援が必要だと思うか複数回答で尋ねたところ、「児童福祉施設などに入所している子ども」が65.3%で最も多く、次いで「ひとり親世帯の子ども」が60.1%であった。（図表9-4-1）

図表9-4-1 行政等による支援が必要な子ども（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「児童福祉施設などに入所している子ども」は、横須賀三浦が75.4%で最も多かった。（図表9-4-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「障がいのある子ども」は、男性（61.1%）が女性（52.7%）を8.4ポイント上回った。

性・年代別にみると、「児童福祉施設などに入所している子ども」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男性の30歳代が77.0%で最も多く、次いで女性の20歳代が75.6%であった。

（図表9-4-2）

図表9-4-2 行政等による支援が必要な子ども（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	児童福祉施設などに入所している子ども	ひとり親世帯の子ども	障がいのある子ども	生活保護世帯の子ども	上記1～4以外の子どもで経済的な理由で生活が苦しい子ども	その他	無回答
全体	1,264	65.3	60.1	56.6	55.9	44.8	3.6	2.7
【地域別】								
横浜	491	61.5	58.9	56.6	56.4	41.3	3.5	2.9
川崎	172	69.8	66.3	54.7	53.5	45.3	3.5	1.7
相模原	96	68.8	58.3	57.3	47.9	42.7	3.1	4.2
横須賀三浦	118	75.4	63.6	57.6	61.9	53.4	3.4	3.4
県央	108	60.2	58.3	55.6	53.7	46.3	7.4	2.8
湘南	186	64.5	61.3	57.5	61.3	46.8	3.2	1.1
県西	46	69.6	47.8	54.3	45.7	43.5	2.2	2.2
【性・年代別】								
男性	514	65.6	62.6	61.1	57.6	41.1	4.5	2.9
女性	676	65.1	58.4	52.7	55.3	47.2	3.3	2.2
男性18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
20歳代	25	56.0	68.0	48.0	64.0	40.0	12.0	4.0
30歳代	61	77.0	65.6	62.3	57.4	41.0	1.6	-
40歳代	91	67.0	65.9	58.2	54.9	38.5	1.1	3.3
50歳代	126	63.5	60.3	59.5	57.9	45.2	6.3	2.4
60歳代	119	70.6	62.2	68.1	56.3	40.3	3.4	-
70～74歳	49	59.2	69.4	57.1	59.2	40.8	4.1	6.1
75歳以上	41	51.2	48.8	63.4	61.0	36.6	9.8	9.8
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	75.6	68.3	58.5	56.1	43.9	-	-
30歳代	114	66.7	54.4	57.0	62.3	38.6	2.6	1.8
40歳代	174	69.0	57.5	50.0	52.3	46.6	2.9	1.1
50歳代	146	67.8	54.1	56.8	58.9	50.0	4.8	2.1
60歳代	101	60.4	63.4	50.5	53.5	55.4	3.0	3.0
70～74歳	59	55.9	64.4	47.5	44.1	42.4	-	6.8
75歳以上	41	48.8	58.5	43.9	56.1	53.7	9.8	2.4

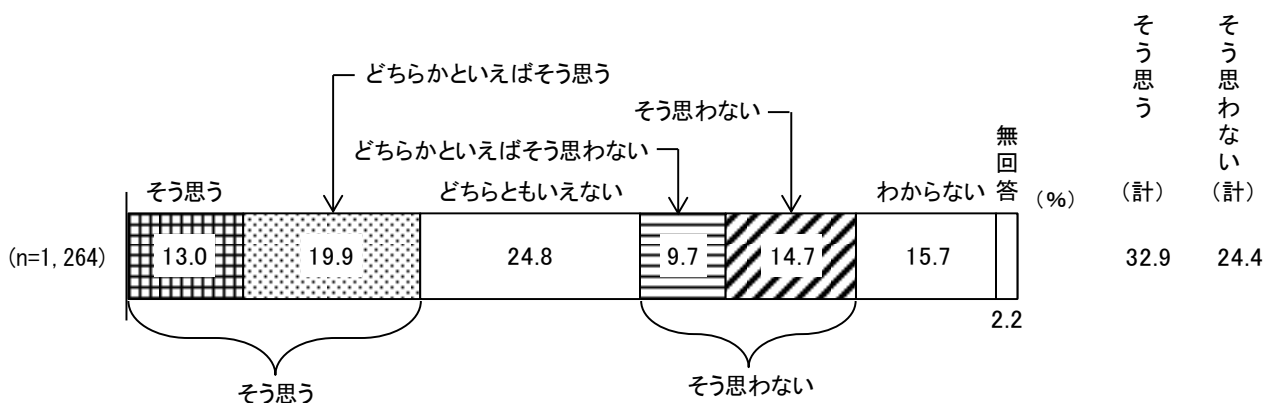
5 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度【問51】

【全体の状況】

子どもの貧困対策に関連する神奈川県の実策が、子どもの貧困問題の解消のために十分だと思うか尋ねたところ、「そう思う」（13.0%）と「どちらかといえばそう思う」（19.9%）を合わせた《そう思う》は32.9%であった。

一方、「そう思わない」（14.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（9.7%）を合わせた《そう思わない》は24.4%であった。（図表9-5-1）

図表9-5-1 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度



【地域別の状況】

地域別にみると、《そう思う》は、湘南（38.2%）と横須賀三浦（38.1%）がともに約4割であった。

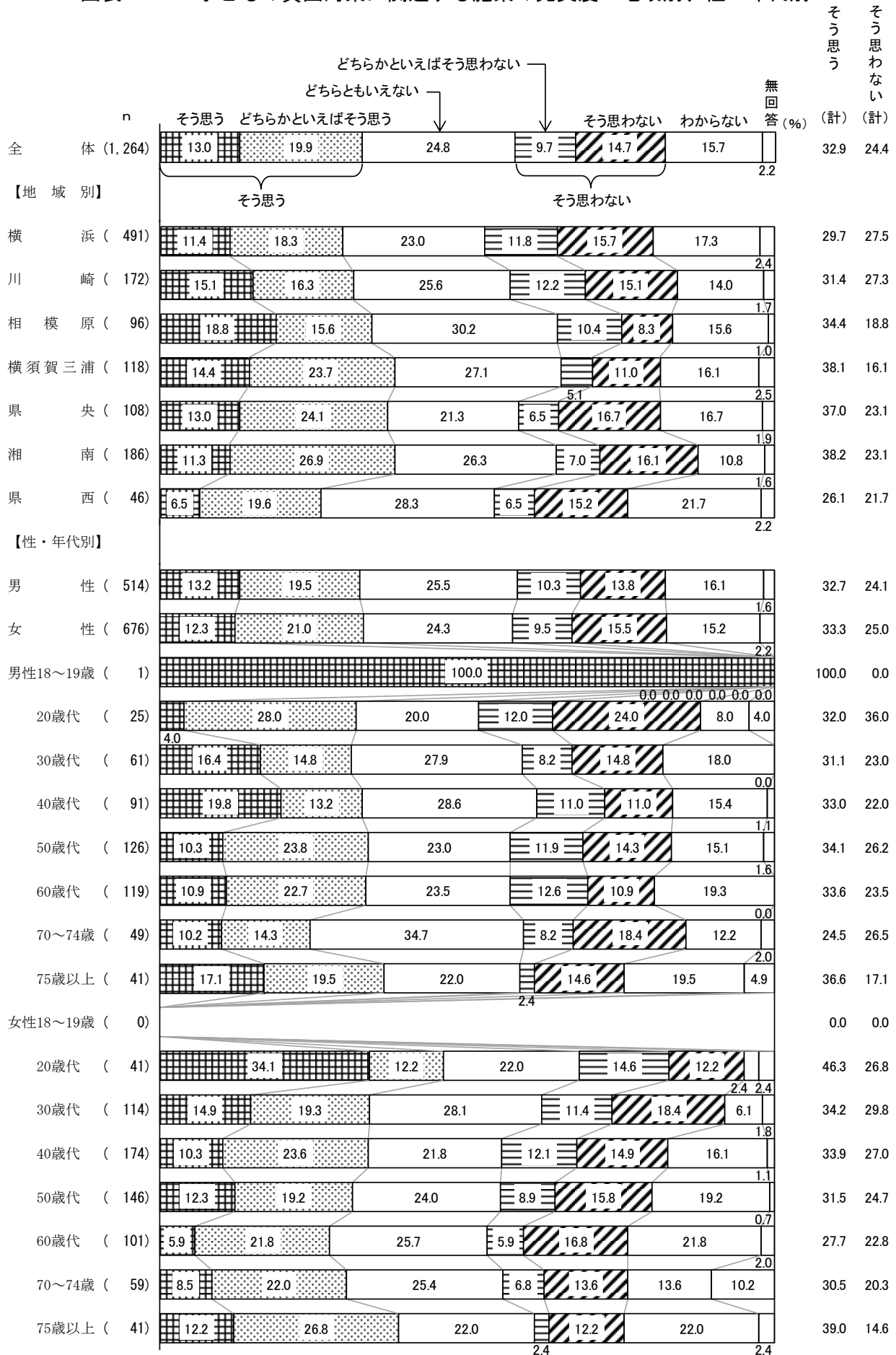
一方、《そう思わない》は、横浜が27.5%で最も多く、次いで川崎が27.3%であった。（図表9-5-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《そう思う》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が46.3%で最も多かった。

一方、《そう思わない》は、サンプル数の少ない男性の20歳代を除くと、女性30歳代が29.8%で最も多かった。（図表9-5-2）

図表9-5-2 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度—地域別、性・年代別

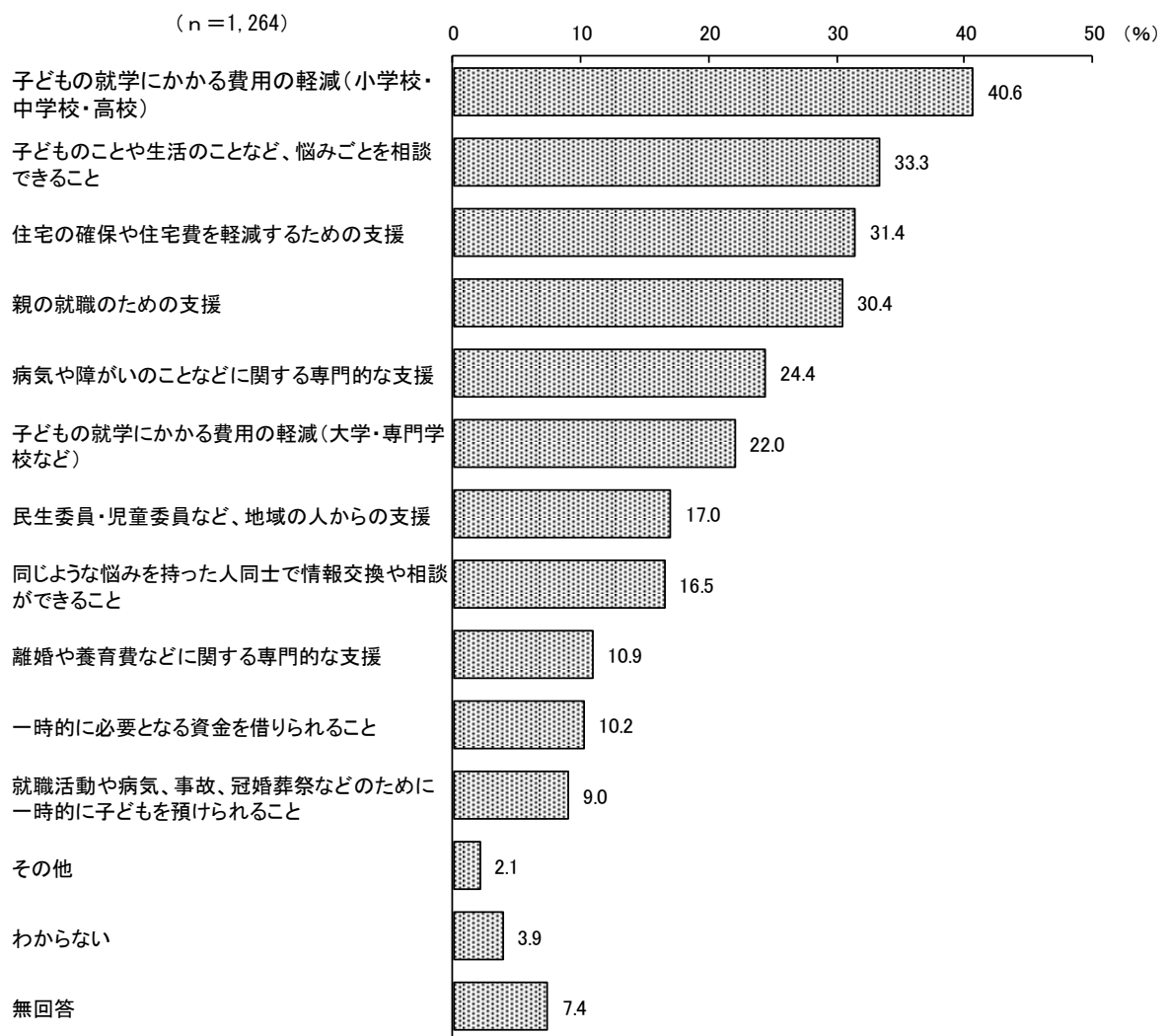


6 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援【問52】

【全体の状況】

子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援はどのようなものか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」が40.6%で最も多く、次いで「子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること」が33.3%であった。（図表9-6-1）

図表9-6-1 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」は、川崎が46.5%で最も多かった。（図表9-6-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」は、男性（45.5%）が女性（36.4%）を9.1ポイント上回った。

性・年代別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）」は、男性の30歳代が55.7%で最も多かった。（図表9-6-2）

図表9-6-2 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援（複数回答）
—地域別、性・年代別

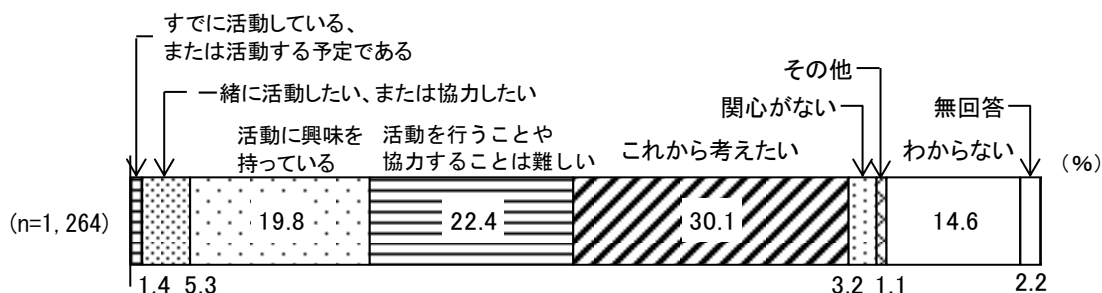
		(%)													
	n	子どもの就学にかかる費用の軽減（小学校・中学校・高校）	子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること	住宅の確保や住宅費を軽減するための支援	親の就職のための支援	病気や障がいのことなどに關する専門的な支援	子どもの就学にかかる費用の軽減（大学・専門学校など）	民生委員・児童委員など、地域の人のからの支援	同じような悩みを持った人同士で情報交換や相談ができること	離婚や養育費などに関する専門的支援	一時的に必要なとなる資金を借りられること	就職活動や病気、事故、冠婚葬祭などのために一時的に子どもを預けられること	その他	わからない	無回答
全体	1,264	40.6	33.3	31.4	30.4	24.4	22.0	17.0	16.5	10.9	10.2	9.0	2.1	3.9	7.4
【地域別】															
横浜	491	41.1	33.0	30.5	30.3	25.7	21.8	15.3	18.1	10.8	9.4	10.0	1.6	3.1	6.5
川崎	172	46.5	33.1	30.8	27.9	21.5	17.4	20.9	15.7	9.3	12.2	9.9	4.1	4.1	7.6
相模原	96	35.4	37.5	24.0	29.2	22.9	18.8	19.8	21.9	11.5	10.4	7.3	2.1	3.1	12.5
横須賀三浦	118	37.3	23.7	34.7	30.5	24.6	27.1	14.4	16.1	13.6	10.2	9.3	2.5	5.1	7.6
県央	108	29.6	37.0	28.7	31.5	29.6	20.4	17.6	23.1	11.1	12.0	12.0	2.8	3.7	4.6
湘南	186	43.0	34.9	37.6	36.0	21.0	25.3	16.1	10.2	8.6	10.8	6.5	1.1	2.7	8.1
県西	46	41.3	37.0	30.4	26.1	37.0	17.4	26.1	6.5	13.0	10.9	6.5	2.2	6.5	8.7
【性・年代別】															
男性	514	45.5	33.5	29.4	28.2	27.0	18.7	19.3	17.5	9.3	9.9	8.0	2.1	3.7	7.0
女性	676	36.4	33.3	33.4	32.7	23.1	24.0	15.1	16.3	11.8	10.8	10.1	2.2	3.4	7.7
男性18～19歳	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
20歳代	25	52.0	28.0	24.0	16.0	32.0	20.0	12.0	16.0	12.0	8.0	8.0	-	4.0	12.0
30歳代	61	55.7	27.9	24.6	27.9	24.6	24.6	4.9	26.2	8.2	6.6	13.1	6.6	1.6	8.2
40歳代	91	49.5	25.3	22.0	31.9	29.7	19.8	18.7	14.3	9.9	13.2	5.5	1.1	3.3	9.9
50歳代	126	40.5	31.0	28.6	28.6	27.0	26.2	19.0	17.5	7.9	7.9	11.1	1.6	3.2	5.6
60歳代	119	44.5	40.3	37.8	26.1	31.1	8.4	21.8	20.2	6.7	10.9	5.9	0.8	5.0	5.0
70～74歳	49	49.0	51.0	34.7	32.7	14.3	20.4	26.5	10.2	16.3	12.2	8.2	2.0	4.1	2.0
75歳以上	41	34.1	29.3	29.3	26.8	26.8	12.2	31.7	14.6	9.8	9.8	2.4	4.9	4.9	9.8
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	36.6	24.4	31.7	31.7	22.0	17.1	7.3	26.8	19.5	7.3	9.8	-	2.4	9.8
30歳代	114	43.9	26.3	38.6	35.1	20.2	29.8	11.4	17.5	6.1	7.0	11.4	0.9	1.8	7.9
40歳代	174	40.2	31.6	28.7	35.1	20.1	29.9	13.8	11.5	16.1	9.8	12.1	4.6	2.3	8.0
50歳代	146	35.6	29.5	34.2	34.9	21.9	21.9	16.4	13.0	14.4	11.0	8.9	2.1	3.4	10.3
60歳代	101	34.7	41.6	36.6	32.7	30.7	17.8	14.9	15.8	6.9	12.9	7.9	2.0	7.9	3.0
70～74歳	59	28.8	42.4	33.9	22.0	27.1	18.6	18.6	25.4	8.5	16.9	8.5	1.7	-	10.2
75歳以上	41	17.1	48.8	29.3	24.4	24.4	19.5	29.3	22.0	9.8	14.6	9.8	-	7.3	2.4

7 地域の支援活動に対する考え方【問53】

【全体の状況】

貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動（学習支援や居場所の提供等）について、どのように考えているか尋ねたところ、「これから考えたい」が30.1%で最も多く、次いで「活動を行うことや協力することは難しい」（22.4%）と「活動に興味を持っている」（19.8%）が続いた。（図表9-7-1）

図表9-7-1 地域の支援活動に対する考え方



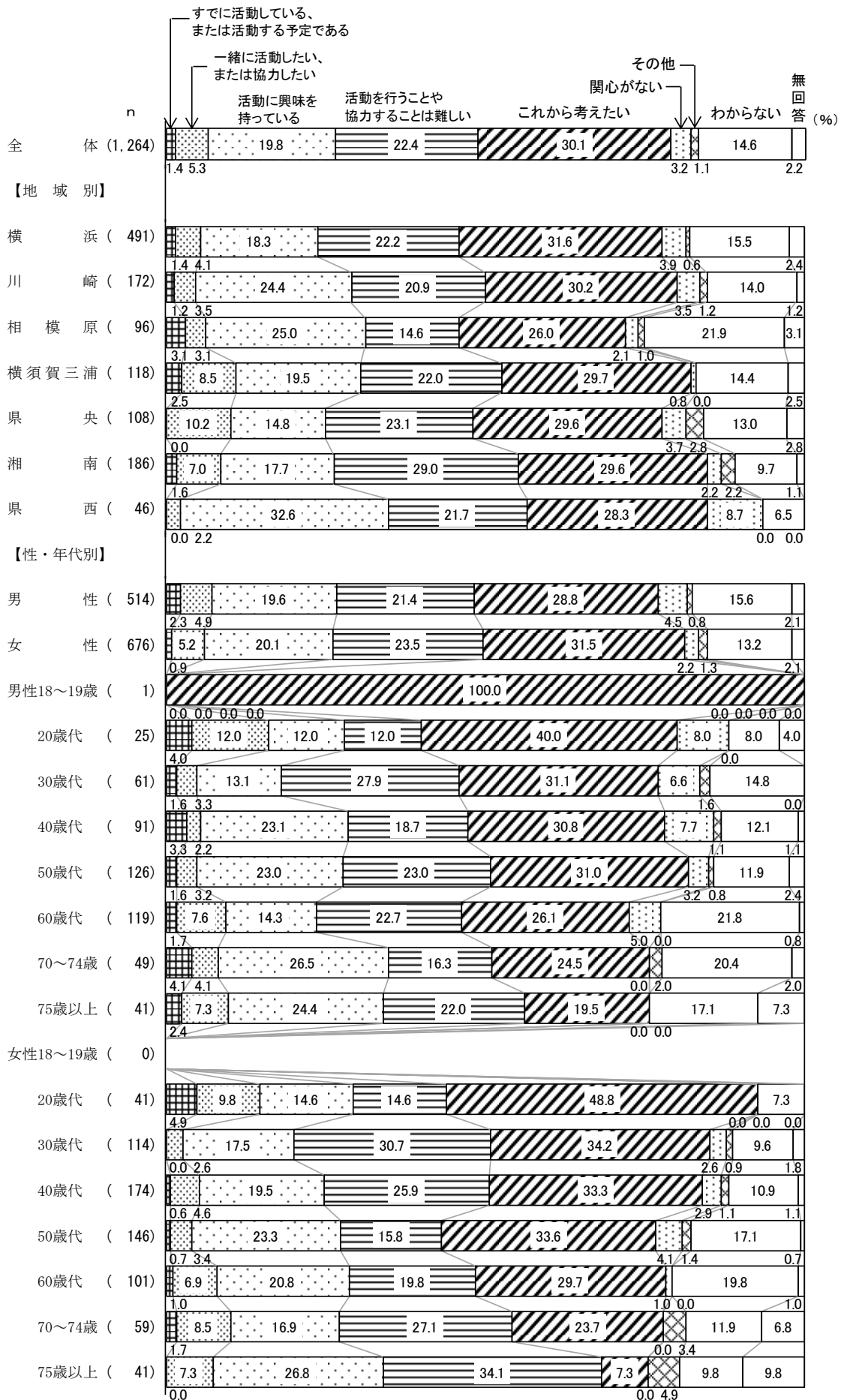
【地域別の状況】

地域別にみると、「これから考えたい」は、横浜（31.6%）と川崎（30.2%）がともに3割を超えた。また、「活動に興味を持っている」は、県西が32.6%で最も多かった。（図表9-7-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「これから考えたい」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が48.8%で最も多かった。（図表9-7-2）

図表9-7-2 地域の支援活動に対する考え方—地域別、性・年代別



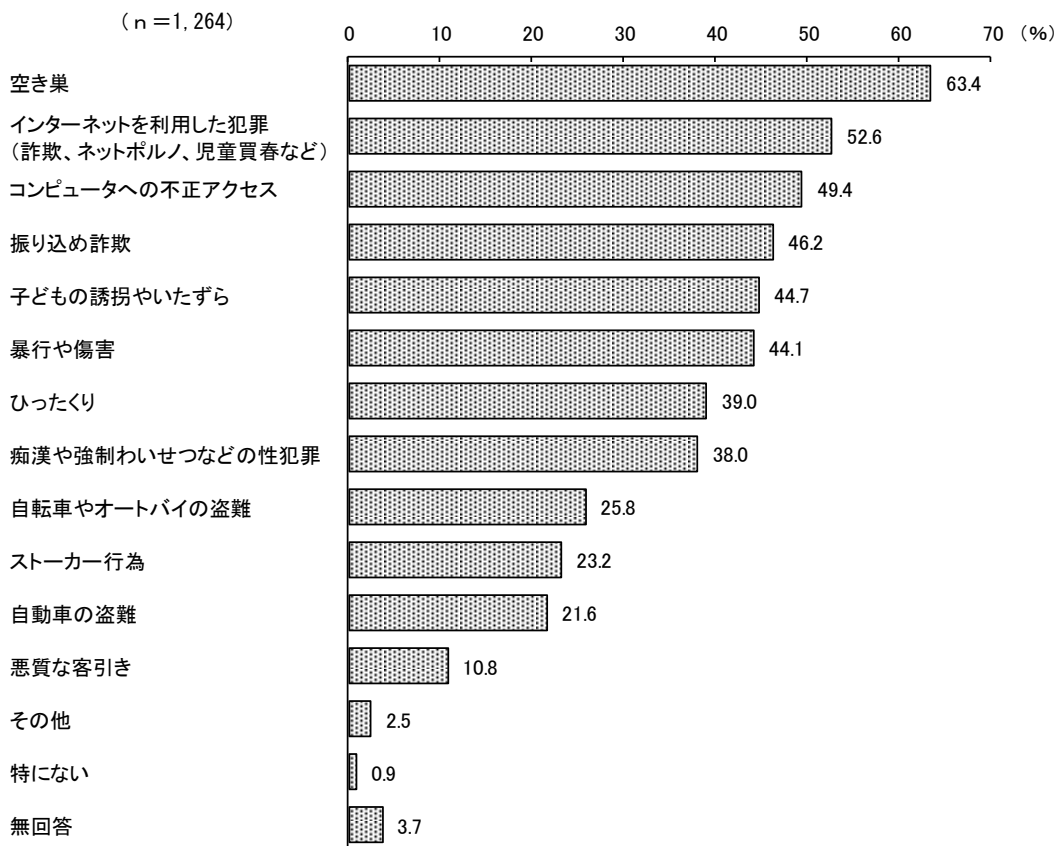
第10章 治安対策【問54～問58】

1 不安に感じる犯罪【問54】

【全体の状況】

身近で発生する可能性のある犯罪のうち、不安に感じるものを複数回答で尋ねたところ、「空き巣」が63.4%で最も多く、次いで「インターネットを利用した犯罪（詐欺、ネットポルノ、児童買春など）」が52.6%であった。（図表10-1-1）

図表10-1-1 不安に感じる犯罪（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「空き巣」は、湘南が69.9%で最も多く、次いで県西が69.6%であった。また、「暴行や傷害」は、川崎が52.3%で最も多かった。「ひったくり」は、相模原が53.1%で最も多かった。（図表10-1-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「痴漢や強制わいせつなどの性犯罪」は、女性（48.4%）が男性（28.4%）を20.0ポイント上回った。

性・年代別にみると、「空き巣」は、女性の75歳以上が75.6%で最も多かった。また、「インターネットを利用した犯罪（詐欺、ネットポルノ、児童買春など）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の40歳代が67.2%で最も多かった。（図表10-1-2）

図表10-1-2 不安に感じる犯罪（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

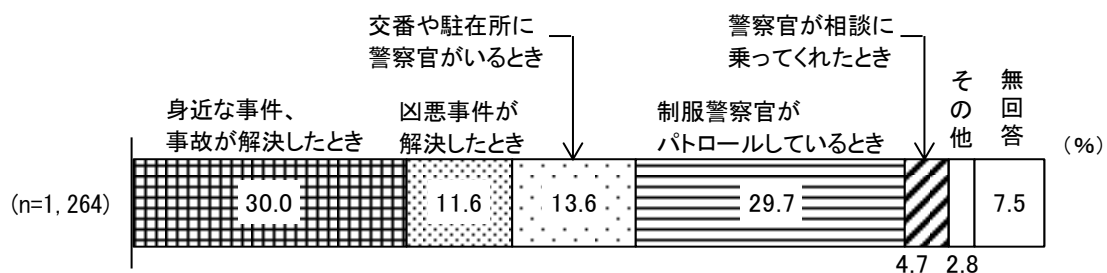
	n	空き巣	インターネットを利用した犯罪（詐欺、ネットポルノ、児童買春など）	コンピュータへの不正アクセス	振り込め詐欺	子どもの誘拐やいたずら	暴行や傷害	ひったくり	痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	自転車やオートバイの盗難	ストーカー行為	自動車の盗難	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
全体	1,264	63.4	52.6	49.4	46.2	44.7	44.1	39.0	38.0	25.8	23.2	21.6	10.8	2.5	0.9	3.7
【地域別】																
横浜	491	64.2	55.4	52.1	46.2	45.0	46.0	42.6	38.7	22.0	19.1	20.6	9.6	2.2	1.0	0.2
川崎	172	62.8	53.5	51.2	43.0	51.7	52.3	41.9	43.6	26.2	30.8	16.3	12.8	4.1	1.7	-
相模原	96	64.6	44.8	41.7	45.8	51.0	41.7	53.1	43.8	34.4	24.0	30.2	11.5	1.0	1.0	1.0
横須賀三浦	118	66.1	55.1	53.4	46.6	40.7	41.5	31.4	32.2	20.3	22.0	16.9	12.7	4.2	0.8	0.8
県央	108	67.6	50.9	46.3	54.6	40.7	41.7	39.8	33.3	36.1	25.0	31.5	16.7	3.7	0.9	-
湘南	186	69.9	59.1	55.9	50.5	50.5	47.8	37.1	45.2	37.1	33.3	28.0	9.7	1.1	-	-
県西	46	69.6	54.3	43.5	63.0	39.1	39.1	21.7	28.3	15.2	15.2	17.4	13.0	2.2	2.2	-
【性・年代別】																
男性	514	62.3	51.2	50.2	50.4	36.6	47.9	32.7	28.4	27.0	20.0	22.8	13.2	3.1	1.8	0.2
女性	676	67.8	57.5	52.2	45.4	54.3	44.4	46.3	48.4	27.1	27.5	22.2	10.1	2.2	0.4	0.1
男性18～19歳	1	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	52.0	64.0	44.0	52.0	40.0	64.0	52.0	36.0	40.0	36.0	24.0	32.0	4.0	-	-
30歳代	61	57.4	52.5	54.1	26.2	60.7	52.5	32.8	32.8	32.8	21.3	32.8	16.4	1.6	1.6	-
40歳代	91	70.3	54.9	50.5	40.7	58.2	50.5	39.6	36.3	31.9	19.8	33.0	8.8	3.3	1.1	-
50歳代	126	62.7	49.2	51.6	49.2	29.4	44.4	30.2	25.4	26.2	25.4	23.8	14.3	4.8	2.4	-
60歳代	119	61.3	51.3	54.6	59.7	21.0	47.9	26.9	26.9	21.0	19.3	19.3	10.9	3.4	3.4	-
70～74歳	49	57.1	51.0	49.0	59.2	30.6	49.0	26.5	24.5	22.4	8.2	8.2	10.2	2.0	-	-
75歳以上	41	68.3	39.0	31.7	73.2	22.0	34.1	39.0	19.5	24.4	9.8	7.3	14.6	-	-	2.4
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	58.5	61.0	56.1	39.0	63.4	56.1	48.8	73.2	36.6	53.7	31.7	24.4	7.3	-	-
30歳代	114	64.9	59.6	53.5	31.6	79.8	50.9	44.7	61.4	32.5	31.6	21.9	14.0	0.9	0.9	-
40歳代	174	69.0	67.2	54.0	31.6	61.5	46.6	49.4	58.0	29.3	32.2	24.1	10.3	2.9	-	-
50歳代	146	72.6	61.6	67.1	44.5	45.9	52.7	51.4	51.4	28.1	26.7	27.4	8.9	0.7	0.7	-
60歳代	101	64.4	44.6	44.6	64.4	41.6	31.7	42.6	28.7	21.8	15.8	19.8	5.9	2.0	1.0	-
70～74歳	59	64.4	49.2	40.7	66.1	37.3	30.5	32.2	23.7	13.6	16.9	8.5	5.1	-	-	1.7
75歳以上	41	75.6	36.6	19.5	75.6	29.3	26.8	46.3	19.5	22.0	17.1	12.2	4.9	7.3	-	-

2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき【問55】

【全体の状況】

身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときか尋ねたところ、「身近な事件、事故が解決したとき」が30.0%で最も多く、次いで「制服警察官がパトロールしているとき」が29.7%であった。（図表10-2-1）

図表10-2-1 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき



【地域別の状況】

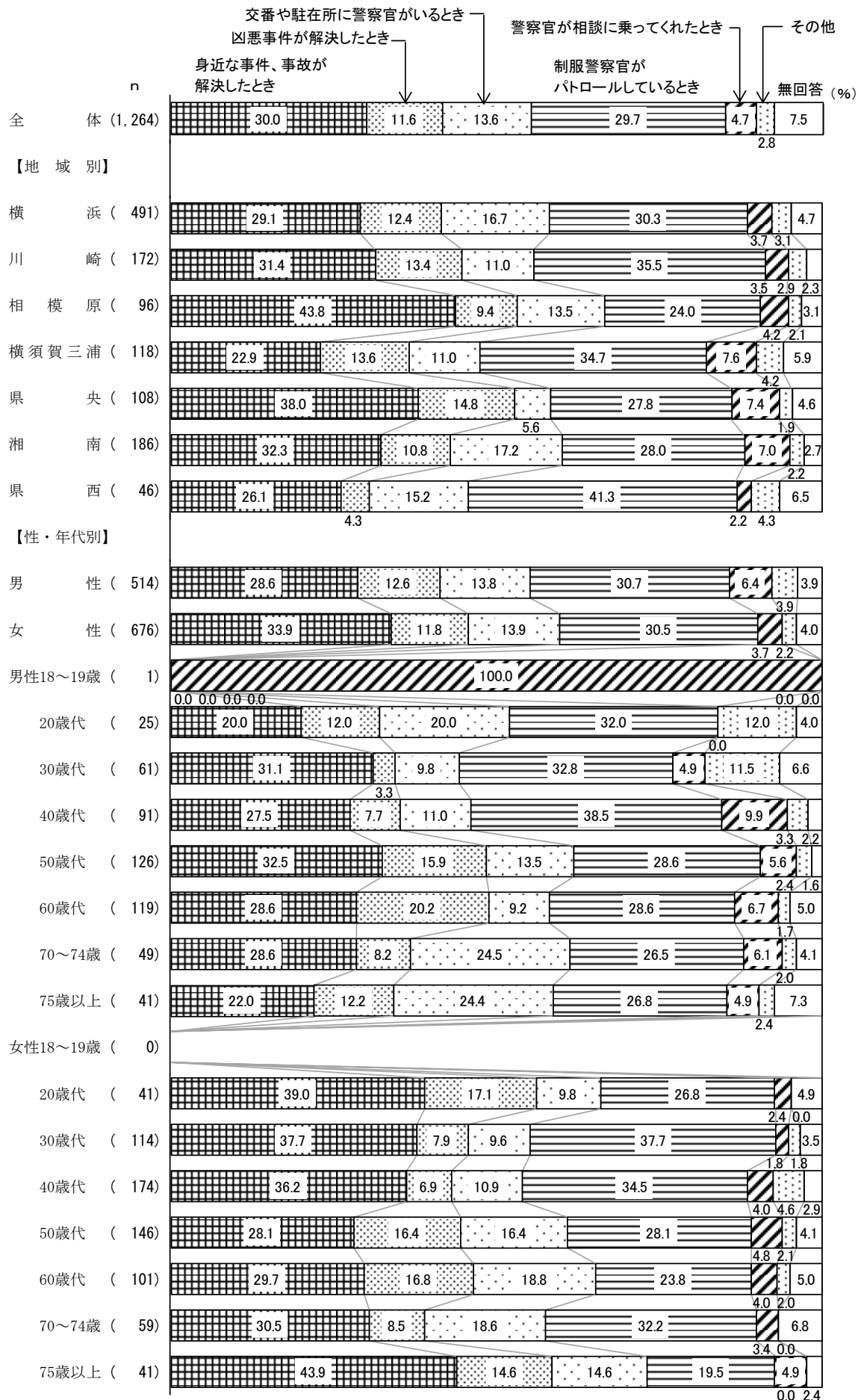
地域別にみると、「身近な事件、事故が解決したとき」は、相模原が43.8%で最も多く、次いで県央が38.0%であった。また、「制服警察官がパトロールしているとき」は、県西が41.3%で最も多かった。（図表10-2-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「身近な事件、事故が解決したとき」は、女性（33.9%）が男性（28.6%）を5.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「身近な事件、事故が解決したとき」は、女性の75歳以上が43.9%で最も多く、次いで女性の20歳代が39.0%であった。また、「交番や駐在所に警察官がいるとき」は、男性の70～74歳が24.5%で最も多く、次いで男性の75歳以上が24.4%であった。（図表10-2-2）

図表10-2-2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき—地域別、性・年代別

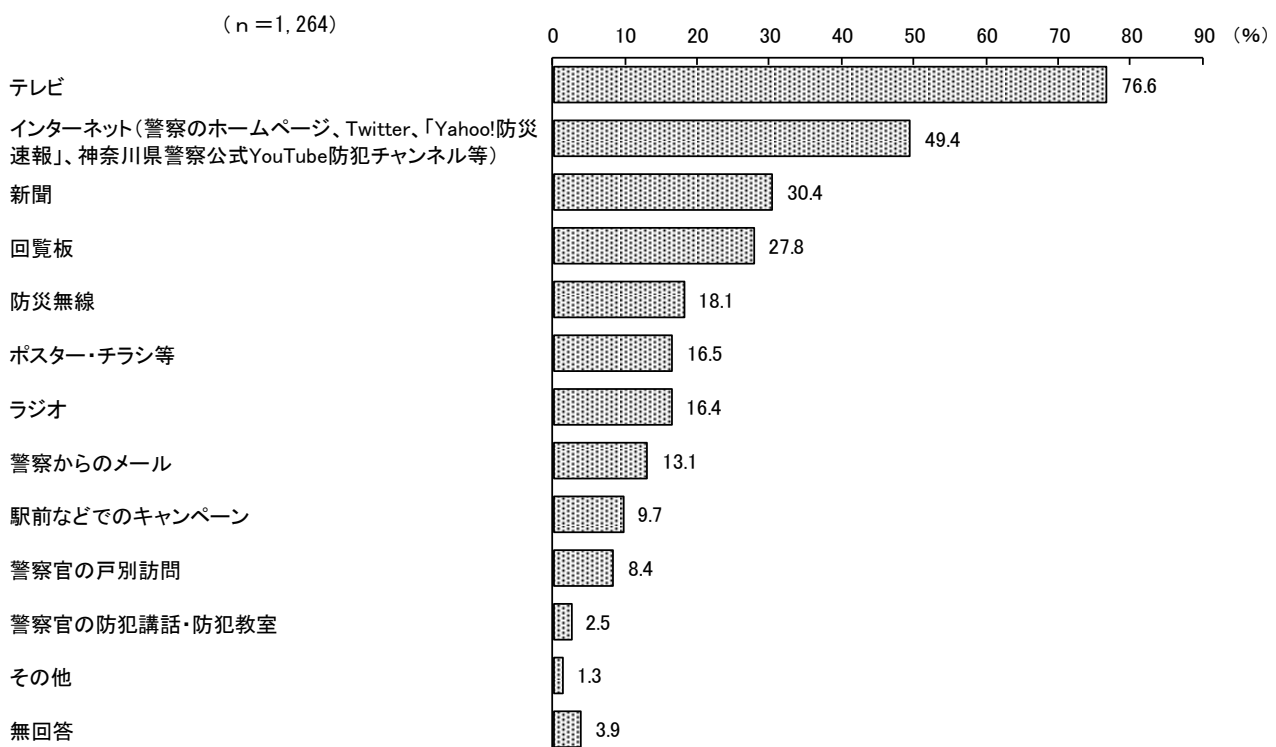


3 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法【問56】

【全体の状況】

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、情報を得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が76.6%で最も多く、次いで「インターネット（警察のホームページ、Twitter、「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式YouTube防犯チャンネル等）」が49.4%であった。（図表10-3-1）

図表10-3-1 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「テレビ」は、横浜（78.2%）と横須賀三浦（72.9%）を除く5地域（80.1%～83.7%）がそれぞれ8割を超えた。また、「防災無線」は、県西が47.8%で最も多かった。（図表10-3-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「回覧板」は、女性（32.1%）が男性（24.5%）を7.6ポイント上回った。

性・年代別にみると、「テレビ」は、女性の75歳以上が95.1%で最も多く、女性の60歳代（89.1%）・70～74歳（89.8%）が続いた。（図表10-3-2）

図表10-3-2 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	テレビ	インターネット（警察のホームページ、 Twitter、「Yahoo!防災速報」、 神奈川県警察公式YouTubeチャンネル等）	新聞	回覧板	防災無線	ポスター・チラシ等	ラジオ	警察からのメール	駅前などでのキャンペーン	警察官の戸別訪問	警察官の防犯講話・防犯教室	その他	無回答
全 体	1,264	76.6	49.4	30.4	27.8	18.1	16.5	16.4	13.1	9.7	8.4	2.5	1.3	3.9
【地 域 別】														
横 浜	491	78.2	54.0	30.1	28.7	5.5	20.2	14.3	12.8	10.4	8.4	2.4	0.6	0.4
川 崎	172	83.7	59.3	30.2	19.8	9.9	17.4	14.0	14.0	14.0	8.1	1.7	0.6	-
相 模 原	96	80.2	52.1	27.1	18.8	32.3	12.5	14.6	14.6	12.5	7.3	4.2	1.0	1.0
横 須 賀 三 浦	118	72.9	52.5	28.8	39.8	22.0	23.7	18.6	20.3	10.2	11.0	2.5	4.2	-
県 央	108	82.4	45.4	36.1	29.6	33.3	10.2	24.1	6.5	5.6	3.7	0.9	2.8	-
湘 南	186	80.1	41.4	35.5	34.4	37.6	12.9	20.4	15.6	9.1	12.4	3.2	1.6	-
県 西	46	82.6	39.1	39.1	32.6	47.8	10.9	28.3	8.7	2.2	8.7	4.3	2.2	-
【性・年代別】														
男 性	514	75.7	54.1	33.5	24.5	17.1	16.7	18.9	11.5	11.3	10.5	3.1	0.6	0.4
女 性	676	82.5	50.1	29.7	32.1	19.4	17.6	15.4	14.6	9.2	7.2	2.2	2.1	-
男性18～19歳	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	80.0	48.0	12.0	16.0	8.0	24.0	8.0	16.0	16.0	8.0	-	-	-
30歳代	61	77.0	73.8	13.1	21.3	8.2	23.0	9.8	6.6	19.7	4.9	-	-	-
40歳代	91	64.8	64.8	19.8	16.5	12.1	14.3	14.3	18.7	13.2	6.6	3.3	1.1	1.1
50歳代	126	73.0	64.3	33.3	19.0	17.5	15.9	21.4	15.1	8.7	8.7	2.4	0.8	-
60歳代	119	81.5	45.4	37.0	29.4	21.8	16.0	18.5	10.9	10.1	12.6	2.5	0.8	-
70～74歳	49	81.6	38.8	63.3	40.8	20.4	10.2	28.6	-	12.2	10.2	2.0	-	-
75歳以上	41	80.5	17.1	63.4	36.6	26.8	22.0	31.7	4.9	2.4	29.3	14.6	-	2.4
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	85.4	70.7	4.9	14.6	9.8	22.0	2.4	-	14.6	2.4	2.4	2.4	-
30歳代	114	82.5	63.2	12.3	22.8	9.6	14.9	8.8	17.5	11.4	1.8	-	4.4	-
40歳代	174	77.0	62.6	17.2	28.2	18.4	16.7	10.3	27.6	9.2	4.6	1.7	2.3	-
50歳代	146	77.4	54.8	30.1	35.6	25.3	20.5	19.2	15.1	11.0	8.9	4.1	1.4	-
60歳代	101	89.1	32.7	52.5	41.6	16.8	13.9	16.8	6.9	5.0	5.9	2.0	2.0	-
70～74歳	59	89.8	23.7	54.2	45.8	22.0	23.7	23.7	1.7	3.4	13.6	5.1	-	-
75歳以上	41	95.1	4.9	63.4	36.6	41.5	14.6	39.0	2.4	9.8	26.8	-	-	-

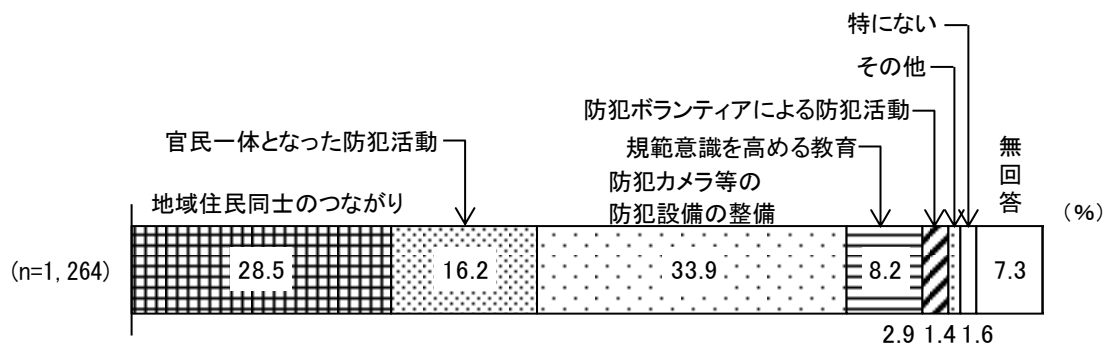
4 犯罪がなく安心して暮らすために最も重要だと思うもの【問57】

【全体の状況】

犯罪がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うものを尋ねたところ、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」が33.9%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が28.5%であった。

(図表10-4-1)

図表10-4-1 犯罪がなく安心して暮らすために最も重要だと思うもの



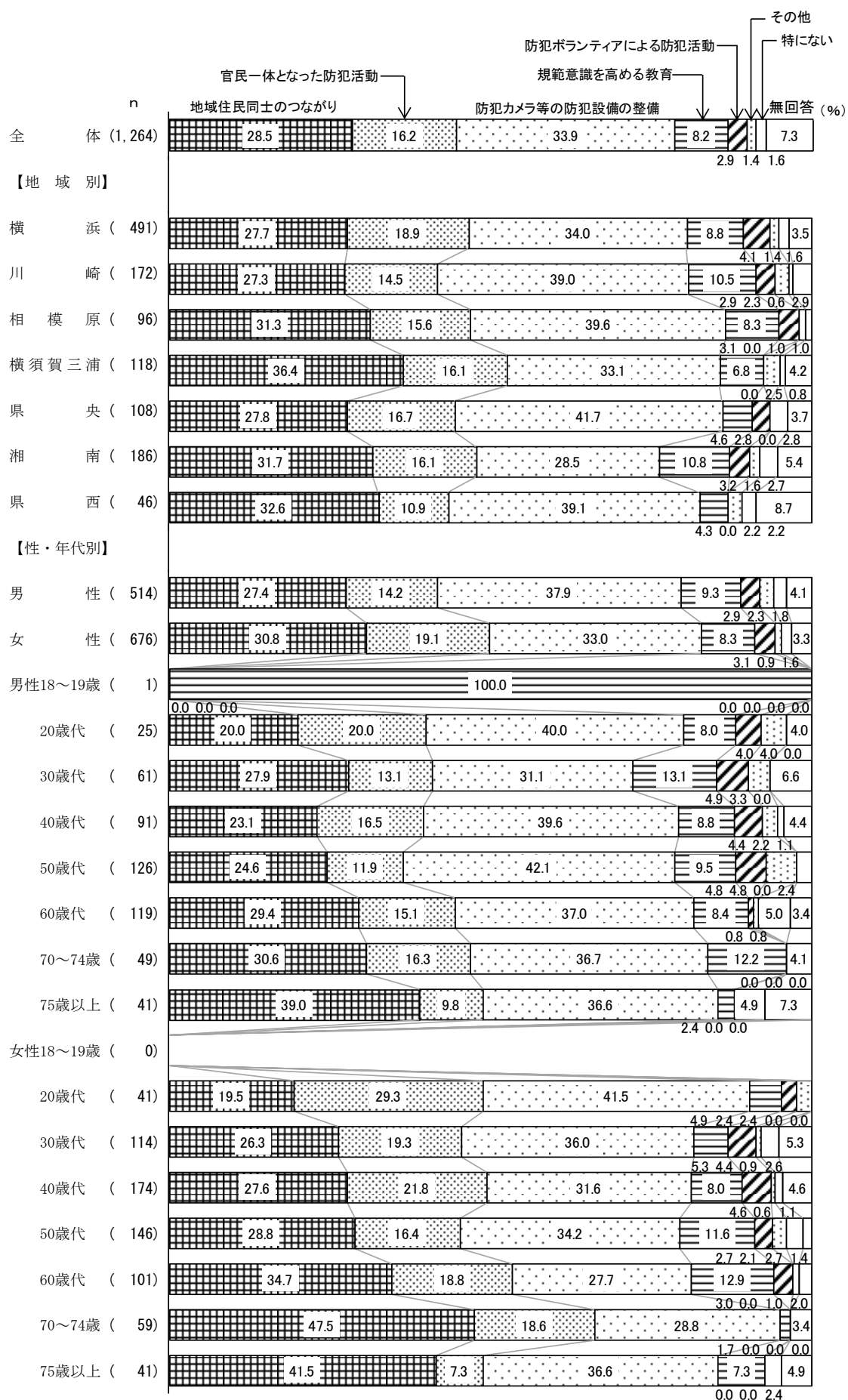
【地域別の状況】

地域別にみると、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」は、県央が41.7%で最も多かった。また、「地域住民同士のつながり」は、横須賀三浦が36.4%で最も多かった。(図表10-4-2)

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」は、男性の50歳代が42.1%で最も多く、次いで女性の20歳代が41.5%であった。また、「地域住民同士のつながり」は、女性の70～74歳が47.5%で最も多かった。(図表10-4-2)

図表10-4-2 犯罪がなく安心して暮らすために最も重要だと思うもの—地域別、性・年代別

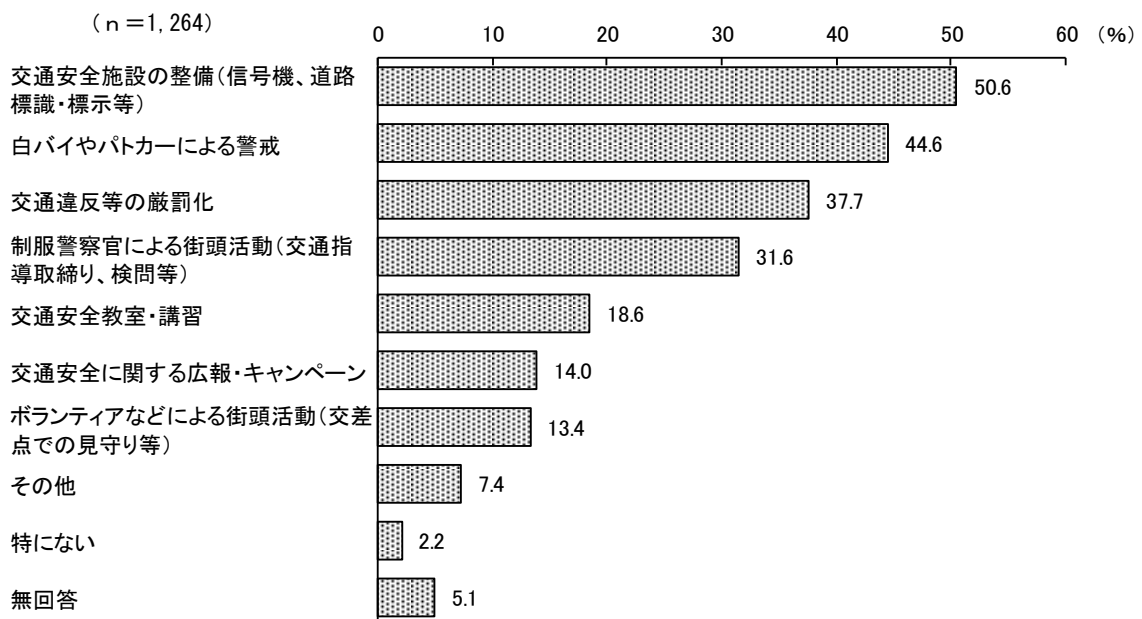


5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの【問58】

【全体の状況】

交通事故のない社会を目指すために重要だと思うものを複数回答で尋ねたところ、「交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示等）」が50.6%で最も多く、次いで「白バイやパトカーによる警戒」が44.6%であった。（図表10-5-1）

図表10-5-1 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示等）」は、県央が63.9%で最も多かった。また、「白バイやパトカーによる警戒」は、相模原と県西がともに50.0%であった。

（図表10-5-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「交通安全に関する広報キャンペーン」は、男性（19.5%）が女性（10.7%）を8.8ポイント上回った。

性・年代別にみると、「交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示等）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女ともに75歳以上（男性63.4%、女性61.0%）が最も多かった。また、「白バイやパトカーによる警戒」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が58.5%で最も多く、次いで女性の30歳代が55.3%であった。（図表10-5-2）

図表10-5-2 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示等）	白バイやパトカーによる警戒	交通違反等の厳罰化	制服警察官による街頭活動（交通指導取り、検問等）	交通安全教室・講習	交通安全に関する広報・キャンペーン	ポランテアなどによる街頭活動（交差点での見守り等）	その他	特にない	無回答
全体	1,264	50.6	44.6	37.7	31.6	18.6	14.0	13.4	7.4	2.2	5.1
【地域別】											
横浜	491	52.1	48.7	40.5	35.2	20.0	13.0	12.0	5.9	2.6	1.8
川崎	172	51.2	44.2	42.4	30.8	16.3	13.4	12.2	11.0	1.2	1.2
相模原	96	54.2	50.0	38.5	33.3	18.8	20.8	7.3	5.2	3.1	2.1
横須賀三浦	118	48.3	42.4	32.2	28.8	19.5	13.6	18.6	12.7	3.4	-
県央	108	63.9	45.4	33.3	29.6	14.8	16.7	11.1	9.3	0.9	1.9
湘南	186	54.3	42.5	39.2	34.4	21.5	14.5	21.5	5.9	1.1	0.5
県西	46	37.0	50.0	43.5	26.1	26.1	19.6	19.6	10.9	6.5	2.2
【性・年代別】											
男性	514	52.1	41.8	37.5	33.7	19.1	19.5	11.1	9.1	2.7	1.0
女性	676	53.3	49.7	40.1	32.1	19.8	10.7	16.3	6.8	2.1	1.3
男性18～19歳	1	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-
20歳代	25	48.0	32.0	36.0	40.0	12.0	32.0	8.0	4.0	-	8.0
30歳代	61	54.1	47.5	47.5	29.5	11.5	6.6	8.2	9.8	4.9	1.6
40歳代	91	42.9	46.2	42.9	35.2	18.7	15.4	14.3	9.9	1.1	-
50歳代	126	50.0	40.5	33.3	31.0	15.9	14.3	11.9	15.1	3.2	0.8
60歳代	119	55.5	40.3	37.8	32.8	25.2	24.4	8.4	6.7	2.5	-
70～74歳	49	55.1	40.8	32.7	32.7	26.5	22.4	8.2	6.1	4.1	-
75歳以上	41	63.4	39.0	31.7	43.9	17.1	36.6	19.5	2.4	2.4	2.4
女性18～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	41	46.3	58.5	39.0	26.8	22.0	4.9	7.3	9.8	2.4	2.4
30歳代	114	58.8	55.3	46.5	34.2	20.2	2.6	16.7	7.9	2.6	0.9
40歳代	174	51.7	46.6	39.7	31.6	19.5	10.3	18.4	8.0	1.1	1.1
50歳代	146	49.3	50.7	46.6	42.5	13.7	8.9	8.2	5.5	1.4	-
60歳代	101	54.5	52.5	34.7	19.8	22.8	13.9	16.8	6.9	3.0	4.0
70～74歳	59	54.2	40.7	27.1	23.7	27.1	20.3	32.2	6.8	3.4	1.7
75歳以上	41	61.0	41.5	34.1	39.0	22.0	24.4	19.5	-	2.4	-

第IV部 調査テーマへの自由意見

調査テーマへの自由意見

質問の最後に、調査テーマに対しての意見、提案などを自由に記述してもらったところ、回答者1,264人のうち、14.8%に相当する187人から多岐にわたる意見が寄せられた。

(1) 食・食育

- 食べ残し、廃棄される食品を少なくする取組をしてほしい。作るばかりではなく消費する方法を考えてほしい。食育、子どもの貧困を考えるなら、親（特に母親）が子どもと家庭で接し、子育てをする時間が必要だと思う。子どもを育て教育するのは親で、それを、子どもが実践するところが社会だと思う。実践するところをサポートしたい（社会人として）。

（相模原・女性・50歳代）

- 食育は、とても大事なテーマだと思います。小さいころからの食育がきちんとできていれば、健康面では生活習慣病の予防につながりますし、心の面でも良い影響をたくさん与えます。食育推進にあたっては、学校給食はとても大きな役割を担います。なぜ神奈川県は、こんなにも中学校給食の実施率が低いのでしょうか。大阪のように県が大きくかじをとることも大事だと思います。横浜市民ですが、横浜も実施に前向きになってほしいです。

（横浜・女性・30歳代）

(2) とともに生きる社会かながわ

- とともに生きるかながわ憲章があるのを初めて知りました。ポスター、チラシ等で広めてほしい。（横浜・男性・75歳以上）
- 「とともに生きる社会かながわ」「SDGs」について具体的なPR活動が足りないと思う。「とともに生きる」という文章は目にしますが、神奈川県、神奈川県議会として具体的に取り組んだ内容が全く分からない。（湘南・男性・60歳代）

(3) 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組

- オリンピックも日本で見られるのはいいですが、最近は暑さが厳しいので、わざわざ見に行くのは難しいです。（相模原・女性・70～74歳）
- ラクビーワールドカップや、東京オリンピック・パラリンピックなど、単発で行われるイベントについて細かく質問する意図がよく分からない。もっと長期的な県の施策についてのアンケートかと思った。（県央・女性・40歳代）
- 東京2020オリンピックについて。日々子育てや家のこと、PTA活動など慌ただしく過ごしていたら、いつの間にか観戦チケットの申込みや抽選が行われており…完全に乗り遅れてしまいました。長男が学校から「学校連携観戦チケット」についてのアンケートを持って帰ってきて、これはすばらしい！！と思いましたが、競技も限られているようです。地元神奈川県で行われる競技などについて、これからの日本を担う子どもたちのために、優先的にいろいろなスポーツのプロフェッショナルな選手たちを近くで見る機会を与えてほしいな、と思います。（湘南・女性・30歳代）

(4) 水源環境保全・再生の取組

- 自然、特に河川の景観はとても重要だと思います。河川は結構目に触れることが多く、河川がきれいだとその街はきれいなのだと再認識できると思うからです。(横浜・女性・20歳代)
- 特にプラスチックゴミは将来のため早急に取り組むべき重要な問題だと思います。個人的には、買い物にマイバックを利用し、何度も繰り返し使えるものを使うようにしたいです。企業にはプラスチック包装をできるだけ減らし、自然素材の代替品を使用するようお願いしたいです。(横浜・女性・50歳代)
- 水源環境保全・再生に関する現在の取組の財源が、何にどのくらい使われているかが書いてあれば、分かりやすいのと思いました。(相模原・女性・50歳代)
- プラスチック問題等、スローガンや、やっている感だけでなく、本質的に対策すべき問題を県民に適切に知らせ、対策を立てることを大切にしてもらいたい。(川崎・男性・50歳代)

(5) 神奈川県の農林水産業

- 農地の保全について、農地の現況を役所は管理し、後継者がいない場合は、現役時代から積極的に相談に乗り、後継者を作るようにしてほしい。また、荒地にならないように法人組織を作り、作物を作るようにしてほしい。(湘南・女性・75歳以上)
- 農林水産業の発展などは、神奈川県の土地柄難しいところもあると思う。日本全体でとらえ、発展させるべき、もしくは発展可能な地域で推進し、神奈川県は、神奈川県の得意な分野を発展させれば良いと思う。(川崎・女性・30歳代)

(6) 持続可能な開発目標 (SDGs)

- SDGs のところで思うことは、マイバッグ持参は良いことだが(政府もレジ袋有料化を決定したし)、実際のゴミ出しはスーパーのレジ袋を使うため、この取組は、ある意味、人々からお金を更に引き出すためのものだと思う。余裕がないのに。環境対策というのならば、環境にやさしいレジ袋を作ればよい。また、貧困の人たちを守るというのならば、その人たちにはレジ袋代を払わせないで、と言いたい。何か変だ。(横須賀三浦・女性・50歳代)
- 神奈川県は、海、川、水が最大の自然資源です。その意味で、SDGs の活動目標の一つとして、海でのイベント、活動などを多様化させ、海、川、水への県民の関心度を更に高めていくことが必要だと考えます。神奈川県に居住していながら、リゾートは他県の海へ行かれる方が多いように思います。(横浜・男性・70~74歳)

(7) 子どもの貧困対策

- 生活保護、ひとり親等の支援は重要だが、高級車に乗ったりしている親もいるので、審査を徹底してほしい。(湘南・男性・60歳代)
- 子どもの貧困については、親としての自覚をもう一度、きちんと考え直してほしいと思ってしまうような人々もいると思います。(川崎・男性・50歳代)
- 貧困については、本当に必要としている人たちに十分な支援をしていただきたいです。ひとり親だから、生活保護だからと必要以上の支援が受けられるよりも、就業支援や子育て支援等、自分の力で生活していけるように支援をしてほしいと思います。(横浜・女性・20歳代)

- 子どもの貧困、障がい者の支援など社会的弱者への支援の強化を望んでいます。
(横浜・女性・40歳代)
- 子どもの貧困対策について、子どもを育てる責任は親にあります、それができない親が多くなっているのが現実です。親に問題がある場合、子どもは自立したいと思っても相談できる場所がなく、自立の機会を親に奪われてしまう子もいます。親を支援することも必要かもしれませんが、子ども自身がどうしたら自立できるのかを教えてあげられる大人や相談できる所が必要だと思います。専門学校で教員をしている主人が、資格を取らせて就職させ、話をとことん聞き、救ってきた子どもが何人もいます。未来ある子どもを救ってほしいです。
(県西・女性・40歳代)
- 子どもの貧困について述べます。子どもの貧困は、いわゆる所得の再生産が行われるのが一番の問題であると思う。では、なぜ所得の再生産が行われるのか。それは、今の社会が学歴・勉強の成績で企業等が採用を考えるからだ。そもそも勉強などは、仕事の出来・不出来の物差しにできない。そうであるならば、もう勉強などで子どもを計るのはやめるべきだ。大学はもっと少なくてもいい。若いうちに仕事をさせて、仕事ぶりで能力を計るべきだ。
(川崎・男性・30歳代)
- 生活保護や子どもの貧困について、厚かましい人は偽装離婚などで母子手当を得ている。もっと地道に頑張っている母子・父子家庭や、生活保護を受けずに頑張っている人が救われてほしい。(相模原・男性・40歳代)

(8) 治安対策

- 防犯カメラは事件が起きた時に役立つので、積極的に取り付けてもらいたいです。
(川崎・女性・50歳代)
- 治安対策について、最近、暴走自転車が多い気がします。歩道を堂々と走っています。私もぶつかられたことがあり痛い思いをしました。相手はサーッと行ってしまいました。友人は歩道で自転車走行をよけ地面に手をつき、複雑骨折しました。もちろん相手はサーッと行ってしまいました。歩道なのだから、安心して歩きたい！歩道走行は、若いママに多いように思います。多忙なのか、猛スピードで走っています。注意してください。
(湘南・女性・60歳代)
- 地域の見周りを徹底してほしい。(湘南・女性・70～74歳)
- テレビで殺人が報道されると自分の住んでいる地域は大丈夫なのかと不安になります。自分の住んでいる地域は具体的にどんな対策が取られているのか気になります。インターネットやSNS等で簡単に分かるようになると良いと思います。(川崎・女性・30歳代)
- 自転車の逆走、歩道走行の取締りを徹底。親がルールを知らない→子どもが知るよしもない。交通安全協会は、車のみならず自転車の教育も！(横浜・男性・60歳代)
- スピード違反などの取締りを、交通量の多い時間帯にやるべきだと思います。単に、「やります」的な感じがして仕方がない。(湘南・女性・40歳代)
- スマホ運転を見かけることがあります。徹底的に取り締まってほしい。県内の凶悪事件の多さには悲しくなります。とにかく何とかしてほしい。(湘南・女性・40歳代)

- 交通事故に関して、小学校などのスクールゾーン対策協議会などで身近に危険を感じる場所や、保護者自ら見てまわったの感想や意見を集めています。ぜひそれらの意見、要望を参考にさせていただきたいです。(横浜・女性・30歳代)

(9) 県政一般

- 市政に比べ、県政は、身近に感じる事が少なくなっている。県の財政が以前に比べて苦しくなり、神奈川県政がスローガンや言葉をいろいろ出しているが、それらが実際に取り組みられているような実感がない。もっと県政のテーマを絞り、目標を具体的に立てて実行する必要があるのではないかと。何をやっているのか県民に伝わっていない。言葉の羅列より、実のある取組を望む。(横須賀三浦・男性・60歳代)
- 様々な取組をされていますが、県民はそれを十分に知ることができていません。テレビやインターネットでは正しい情報が得られないので、広報紙の配布、防災無線の利用、地域住民の交流、情報交換の場等を用いて知る機会を増やしてほしいです。(横浜・女性・30歳代)
- 子どもが伸び伸びと外で遊べるような環境整備(公園の整備→熱中症対策のため、日射しを避ける場所が砂場などにほしい。治安改善、安全な歩道の確保など)をお願いします。(川崎・女性・30歳代)

(10) その他

- 神奈川県人として自慢できることを知りたい。私は郷里から出てきて40年住んでいるが、言えないことが疑問です。(県央・男性・60歳代)
- 結論ありき、アリバイ作りの調査はやめてもらいたい。設問そのものに誘導が感じられ不快(横須賀三浦・男性・70~74歳)
- 県民が期待するアンケートとなっていない。テーマが行政視点になっていて自由度がなさすぎた。(県央・男性・50歳代)
- 質問が多岐にわたっているので、アンケートの意図が図りかねるが、本当にこのようなアンケート調査で施策・政策に何かアドバイスできるのか多いに疑問に思う。作った人も、これから処理する人も自己満足になっていないか。(横浜・男性・60歳代)
- 量が多すぎる。(川崎・男性・50歳代)
- 自分の生活に身近で関心のあるテーマが多かった。(湘南・女性・60歳代)
- それぞれのテーマについて教宣活動が少ないと思う。効果のある広報活動を考えてほしい。「行政ではこのようにやっています」という設問が多いが、県民に対する浸透度の評価はあまり聞かない。浸透させるための方策に配慮してほしい。(横浜・男性・70~74歳)
- アンケートのテーマに全部感心があり、とても勉強になりました。(横浜・女性・60歳代)
- ひきこもりや虐待も多いのでは。未成年の性教育、モラル(もう親の世代からでしょうか?)(県央・男性・60歳代)
- 生活保護のシステムをもう少し考えた方がいいと思います。少しでも働くと援助を減らされるので働かない方がいい、と言っている人がいます。働く意欲が湧くようなシステムになるとよいと思います。(湘南・女性・50歳代)

- 設問はともかく、回答内容をもう少し精査した方がより良い回答が得られると思う。特に選択問題(横浜・男性・50歳代)
- 介護に関するテーマがありません。高齢化の重要なテーマであり、行政サービスの充実を期待します。(横須賀三浦・男性・60歳代)
- この歳になるまで、県の施策に無関心であったことをつくづく感じました。あと何年生きられるか分かりませんが、いろいろな面で自分のできることは積極的にやっ行ってこうと考えるようになりました。県の広報誌(紙)は良く見るようにします。(県央・男性・60歳代)
- 県の取組をほぼこの調査票で知りました。年1回でもいいので、紙媒体でお知らせなどがあると助かります。なかなか自分で情報を見に行こうとはしないので。もしくは公共機関の駅などにポスターなどのお知らせがあると分かりやすいかもしれません。
(相模原・女性・40歳代)
- 調査結果の提示とその後の取組の変化について県民への共有をお願いします。回答者だけでも、興味・関心を持つことができればそれが前進になると思います。(川崎・男性・20歳代)

第 V 部 調査票と単純集計結果

調査票と単純集計結果

調査期間 令和元年7月19日～8月13日
標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,264 (42.1%)
* 「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。
「-」は、回答者が皆無であることを示す。
* 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
合計が100%にならないことがある。

令和元年度(2019年)

神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【アンケートのテーマ】

- 1 食・食育
- 2 食の安全・安心
- 3 アレルギー疾患
- 4 とともに生きる社会かながわ
- 5 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組
- 6 水源環境保全・再生の取組
- 7 神奈川県の農林水産業
- 8 持続可能な開発目標(SDGs)
- 9 子どもの貧困対策
- 10 治安対策

◆ 記入上の注意

- 1 この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- 2 お名前、ご住所の**記入は不要**です。
- 3 お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- 4 ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 5 わかる質問だけお答えいただければ結構です。

▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、8月13日(火)まで**
にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)

▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。**

この調査票についてわからないことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

○ 電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15 (土日祝日は閉庁)

○ 問合せフォーム (8月13日までの期間限定)

県民ニーズ調査HP (<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)
の下部に掲載している「令和元年度調査対象者」向けお問い合わせフォーム
から送信してください。

食・食育

問1 あなたは、「食育」に関心がありますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 関心がある	37.9	3 どちらかといえば関心がない	12.3	5 わからない	5.5
2 どちらかといえば関心がある	38.8	4 関心がない	3.6	(無回答	2.0)

問2 あなたは、毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけていますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 心がけている	74.0	3 わからない	6.3
2 心がけていない	17.7	(無回答	2.0)

問3 あなたは、就寝前2時間以内に食事や夜食をとらないよう気をつけていますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 気をつけている	62.3	3 わからない	2.5
2 気をつけていない	33.2	(無回答	1.9)

【問4は、複数人でお住まいの方のみお答えください】

問4 あなたは、朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。(○はそれぞれ1つずつ) (n=1,140)(%)

【朝食】

1 ほとんど毎日食べる	49.0	3 週に2~3日食べる	12.4	5 ほとんど食べない	21.1
2 週に4~5日食べる	7.1	4 週に1日程度食べる	7.5	(無回答	2.9)

【夕食】

1 ほとんど毎日食べる	64.3	3 週に2~3日食べる	14.4	5 ほとんど食べない	5.1
2 週に4~5日食べる	8.8	4 週に1日程度食べる	4.6	(無回答	2.8)

【問5は、一人暮らしの方のみお答えください】

問5 あなたは、昼食・夕食を仲間や友人など、複数と一緒に食べていますか。(○はそれぞれ1つずつ) (n=110)(%)

【昼食】

1 ほとんど毎日食べる	8.2	3 週に2~3日食べる	16.4	5 ほとんど食べない	50.0
2 週に4~5日食べる	9.1	4 週に1日程度食べる	15.5	(無回答	0.9)

【夕食】

1 ほとんど毎日食べる	9.1	3 週に2~3日食べる	7.3	5 ほとんど食べない	56.4
2 週に4~5日食べる	1.8	4 週に1日程度食べる	23.6	(無回答	1.8)

【全員の方がお答えください】

問6 あなたは、ゆっくりよく噛んで食べていますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 食べている	13.4	3 どちらかといえば食べていない	39.5	5 わからない	3.8
2 どちらかといえば食べている	28.9	4 食べていない	7.3	(無回答	7.2)

問7 あなたが、歯と口の健康を保つために気をつけていることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1,264) (%)

1 歯みがきをしている	94.9	6 かかりつけ歯科医を決めている	49.5
2 鏡を見て歯と歯肉のチェックをしている	21.8	7 年に1回以上、歯科検診を受けている	40.9
3 糸つきようじや歯間ブラシを使っている	54.0	8 その他	7.0
4 食べ物をよく噛むように意識している	18.5	9 特にない	1.7
5 顔や舌の体操(「健口体操」など)をしている	4.8		(無回答 1.7)

問8 あなたは、ご自分が食事のマナー(例えば、いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など)を正しくできていると思いますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 十分できていると思う	17.2	3 あまりできていないと思う	17.5	5 わからない	2.2
2 ある程度できていると思う	59.0	4 まったくできていないと思う	2.4		(無回答 1.7)

問9 あなたは、食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけていますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 気をつけている	43.4	3 あまり気にしない	4.7
2 ある程度気をつけている	48.7	4 わからない	0.4
			(無回答 2.7)

食の安全・安心

問10 あなたは、食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1,264) (%)

1 期限表示(消費期限や賞味期限)	89.6	5 食品添加物(保存料や着色料など)	40.7
2 原産地や原産国	73.7	6 保存方法	32.3
3 アレルギー表示	8.2	7 遺伝子組換え食品に関する事項	27.5
4 原材料名	28.1	8 その他	2.8
			(無回答 2.9)

問11 食中毒を予防する上で重要なことについて、次の中からあなたが知っていることをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1,264) (%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	46.2
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	93.0
3 調理や食事前によく手を洗う	82.8
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	49.1
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	71.4
6 生肉は、食中毒を起こす細菌等がついていることがあるので、よく加熱する	73.8
	(無回答 2.1)

問12 あなたは、食品を安全に食べるために、必要な知識(例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど)を持っていると思いますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 持っていると思う	32.3	4 持っていないと思う	1.0
2 ある程度持っていると思う	56.3	5 わからない	2.3
3 あまり持っていないと思う	6.3		(無回答 1.7)

アレルギー疾患

問13 あなたは、5年前と比べて、アレルギー疾患(食物アレルギー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症等)の症状のある方が、増えていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 増えていると思う	64.6	3 減っていると思う	1.3
2 変わらないと思う	16.2	4 わからない	16.2

(無回答 1.7)

問14 あなたは、アレルギー疾患の原因・症状は様々で、その治療方法も多様であることが、一般的に認識されていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 そう思う	19.5	3 どちらともいえない	22.4	5 そう思わない	9.3
2 どちらかというと思う	26.7	4 どちらかというと思わない	10.6	6 わからない	9.3

(無回答 2.1)

問15 あなたは、例えばアレルギーの症状がある時に、どの診療科を受診すれば良いか等、相談窓口やインターネット等で、信頼できる情報を受け取ることができていると思いますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 そう思う	15.0	3 どちらともいえない	24.1	5 そう思わない	11.1
2 どちらかというと思う	26.9	4 どちらかというと思わない	10.3	6 わからない	10.5

(無回答 2.1)

問16 あなたは、アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

(アレルギー疾患の症状のない方は、ご自分やご家族に症状があると仮定してお答えください)

(n=1,264)(%)

1 ホームページ等による医学的に正しい情報の提供(症状や治療方法、予防等)	58.4
2 医療機関や専門医についての情報の提供	70.6
3 疾患に関する知識や自己管理方法等を普及するための講座の開催	24.7
4 花粉や大気汚染等の環境対策等による生活環境の改善	51.7
5 アレルギーの状態に応じた適切な治療	69.3
6 保育所・学校等でアレルギー対応食の提供が受けられること	48.0
7 保育所・学校等で症状に対して適切な対応がとれる体制が整っていること	48.6
8 行政や関係機関における相談	22.3
9 その他	2.3
10 特になし	2.0

(無回答 2.9)

ともに生きる社会かながわ

神奈川県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月にともに生きる社会かながわ憲章を定めました。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



問17 あなたは、ともに生きる社会かながわ憲章を知っていますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 知っている	4.9	3 知らなかった(今回の調査で初めて知った)	82.0
2 言葉は聞いたことがある	10.8	(無回答)	2.3

【問17で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」とお答えの方に】

問17-1 あなたは、ともに生きる社会かながわ憲章を何で知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも) (n=199)(%)

1 ポスター・チラシ等	47.2	6 新聞	10.6
2 県・市町村の広報誌(県のたよりなど)	62.3	7 ミニコミ誌・タウン誌	9.5
3 県からの送付物(納税通知など)	7.5	8 職場・学校	17.6
4 ホームページ	9.0	9 地域のイベント・お祭り	5.5
5 SNS(LINE、Instagram、Facebook、Twitterなど)	2.0	10 その他	3.0
(無回答 0.5)			

問18 あなたは、身近で障がい者と接する機会がありますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 ある	33.9	3 以前も今もまったくない	12.7	5 わからない	1.7
2 あまりない	37.3	4 以前はあったが今はない	10.0	(無回答)	4.4

問19 あなたは、5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思いますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 かなり増えたと思う	5.6	4 まったく増えていないと思う	6.0
2 ある程度増えたと思う	34.9	5 どちらともいえない	16.5
3 あまり増えていないと思う	20.0	6 わからない	12.6
(無回答 4.4)			

問20 あなたは、障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(〇は1つ) (n=1,264)(%)

1 あると思う	31.1	3 あまりないと思う	15.5	5 その他	0.1
2 少しはあると思う	35.5	4 ないと思う	7.8	6 わからない	5.4
(無回答 4.6)					

- 問21 見た目で見分けにくい内部障がい等に対して配慮が必要なことを示すマークとして、ヘルプマークがありますが、あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)
- | | | | |
|----------------------|------|------------------------|-----------|
| 1 知っている | 36.0 | 3 知らなかった(今回の調査で初めて知った) | 49.3 |
| 2 意味は知らないが見聞きしたことはある | 11.7 | | (無回答 3.0) |

【ヘルプマーク】



※ ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が考案したマークです。

神奈川県でもその目的に賛同し、普及・啓発を進めています。

※ マークの実際の背景色は赤色です。

・ヘルプマークについてより詳しく知りたい場合は、下記のHPをご覧ください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/yv4/cnt/f536306>

- 問22 あなたは、手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいと思いますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)
- | | | | | | |
|-----------|------|---------|-----|-------------|------|
| 1 手話講習会 | 30.3 | 4 本・DVD | 5.9 | 7 学びたいと思わない | 10.8 |
| 2 手話サークル | 8.3 | 5 テレビ番組 | 6.7 | 8 その他 | 0.5 |
| 3 インターネット | 8.9 | 6 学校教育 | 7.4 | 9 わからない | 10.1 |
- (無回答 11.2)

東京2020大会等スポーツイベントに関する取組

- 問23 あなたは、2019年9月から11月にかけて、ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることを知っていますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)
- | | | | |
|---------|------|------------------------|------|
| 1 知っている | 63.4 | 2 知らなかった(今回の調査で初めて知った) | 34.3 |
|---------|------|------------------------|------|
- (無回答 2.4)

- 問24 あなたは、横浜市で開催されるラグビーワールドカップを直接会場で観戦したいと思いますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)
- | | | | | | |
|-------------|------|---------------------|------|---------|-----------|
| 1 ぜひ観戦したい | 9.7 | 3 会場ではなく、テレビ等で観戦したい | 33.8 | 5 わからない | 10.0 |
| 2 できれば観戦したい | 19.0 | 4 観戦したくない | 25.3 | | (無回答 2.2) |

- 問25 あなたは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくためにどのような方法が有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(○は3つまで) (n=1,264)(%)
- | | |
|--|------|
| 1 節目イベント(1年前イベント等)の開催 | 19.1 |
| 2 大会に出場する県内ゆかりの選手の壮行会の開催 | 18.8 |
| 3 横断幕やフラッグ等を使用した会場周辺や街頭での飾りつけ | 47.2 |
| 4 バッジなどのグッズ配布 | 20.3 |
| 5 大型スクリーン(ライブサイト・パブリックビューイング※など)での競技観戦 | 57.8 |
| 6 オリンピアン・パラリンピアンによるトークイベント | 9.6 |
| 7 オリンピック・パラリンピック競技の体験イベント | 22.2 |
| 8 海外選手との交流イベント | 19.1 |
| 9 その他 | 5.0 |
- (無回答 9.2)

※ **ライブサイト・パブリックビューイング**とは、公園などに大型スクリーンを設置し、大勢で一緒に観戦する形態のことをいいます。

問26 あなたは、東京2020オリンピック競技大会を観戦したいと思いますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 競技会場に行って観戦したい	33.9
2 大型スクリーン(ライブサイト・パブリックビューイングなど)で観戦したい	4.4
3 テレビ等、自宅で観戦したい	51.2
4 観戦するつもりはない	7.8
	(無回答 2.8)

問27 あなたは、東京2020パラリンピック競技大会を観戦したいと思いますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 競技会場に行って観戦したい	19.1
2 大型スクリーン(ライブサイト・パブリックビューイングなど)で観戦したい	4.4
3 テレビ等、自宅で観戦したい	57.9
4 観戦するつもりはない	16.1
	(無回答 2.6)

問28 東京2020オリンピック競技大会のセーリング※競技が神奈川県江の島で開催されます。あなたは、セーリング競技に興味・関心がありますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 セーリング競技に興味・関心があり、定期的にセーリング競技を行っている	0.5
2 セーリング競技に興味・関心があり、セーリングを体験したことがある	2.1
3 どちらかといえば興味・関心がある	29.8
4 どちらかといえば興味・関心はない	44.5
5 興味・関心はない	20.8
	(無回答 2.3)

※ **セーリング**とは、セール(帆)に受ける風で動く小型の船を使用したヨットやウインドサーフィンなどのスポーツのことをいいます。

問29 あなたは、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技を観戦したいと思いますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 競技会場に行って観戦したい	12.1
2 大型スクリーン(ライブサイト・パブリックビューイングなど)で観戦したい	3.2
3 テレビ等、自宅で観戦したい	45.6
4 観戦するつもりはない	36.6
	(無回答 2.5)

問30 あなたは、江の島周辺における道路混雑を緩和するため、今年の夏に、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことに関する呼びかけが行われていることを知っていますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 知っている	27.8	2 知らなかった(今回の調査で初めて知った)	69.8
			(無回答 2.4)

問31 東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催時(2020年7月26日から8月5日)に、江の島周辺の混雑が予想されるため、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことへの呼びかけがあった場合、協力したいと思いますか。(○は1つ)
(江の島周辺に行く予定のない方も、行くと仮定してお答えください) (n=1,264) (%)

1 自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う	51.4
2 呼びかけとは関係なく、公共交通機関で移動する(自動車の利用は考えていない)	33.9
3 協力しようとは思わない(自動車を利用する)	2.5
4 その他	2.7
5 わからない	6.8
	(無回答 2.7)

水源環境保全・再生の取組

森には、水を貯え、山崩れを防ぎ、水をきれいにする働きがあります。私たちがこれからも良質な水を安定的に利用するためには、水源地域の森がこれらの働きを十分に発揮することが大切です。

問32 あなたは、水源地域の森の働きについて、知識や関心はありますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 知識も関心もある	18.8	3 知識はないが、関心はある	70.2
2 知識はあるが、関心はない	3.9	4 知識も関心もない	6.3

(無回答 0.8)

問33 水源地域の環境の保全・再生に関わる問題について、特に関心があるものは何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 森林の荒廃	39.9	4 河川の水質汚濁	29.1	7 特にない、わからない	9.2
2 生物多様性の減少	8.6	5 地下水の減少	2.1		
3 ダム湖の水質汚濁	5.1	6 その他	0.9		

(無回答 5.0)

問34 水源地域の環境の保全・再生のために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 森林の保全・再生	37.8
2 河川の保全・再生	10.4
3 地下水の保全・再生	2.3
4 生活排水対策(公共下水道や浄化槽※の整備促進)	18.9
5 県域を超えた上流域対策 (相模川上流域(山梨県)や酒匂川上流域(静岡県)における森林整備、生活排水対策)	13.8
6 県民が主体的に水源環境を保全する活動に取り組むための仕組みづくり (市民団体等が行う活動への財政的支援)	5.4
7 その他	1.0
8 特にない、わからない	6.7

(無回答 3.6)

※ 浄化槽とは、台所や風呂場、洗濯などからの排水を浄化する設備のことです。

問35 神奈川県では、水源環境の保全・再生に取り組むため、2007年度から「水源環境保全税」として個人県民税の超過課税(納税者1人当たりの平均負担額は年額約890円、税込規模は年額約40億円)を県民の皆様にご負担いただいています。

あなたは、このことについて知っていましたか。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 知っていた	10.1
2 税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった	14.8
3 知らなかった(今回の調査で初めて知った)	74.3

(無回答 0.8)



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
かながわ しずくちゃん

問 36 神奈川県では、「第3期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」（2017年から2021年度）に基づいて、「水源環境保全税」を財源に、次のような対策を行っています。あなたは、これらの対策が行われていることを知っていましたか。

また、「水源環境保全税」を財源に、これらの対策を今後も継続することについて重要だと思いますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）（n=1,264）（%）

	対策について			今後も継続することについて				
	知っていた	知らなかった	無回答	重要である	どちらともいえない	重要でない	わからない	無回答
(1) 森林の保全・再生	13.7	81.5	4.8	81.9	6.2	-	6.3	5.6
(2) 河川の保全・再生	14.8	79.6	5.6	79.9	7.0	0.2	7.0	5.9
(3) 地下水の保全・再生	9.5	83.6	6.9	75.6	8.9	0.3	8.0	7.2
(4) 水源環境への負荷軽減 （公共下水道や浄化槽など生活排水 処理施設の整備促進）	15.0	78.7	6.3	80.4	6.6	0.2	7.0	5.9
(5) 相模川水系上流域の県域を超えた連携 （山梨県と共同で桂川流域における森 林整備、生活排水対策の実施）	8.4	86.2	5.5	77.2	8.1	-	8.4	6.3

○はそれぞれ1つずつ
○はそれぞれ1つずつ

問 37 あなたは、「水源環境保全税」を財源にした水源環境保全・再生の取組について、今後どのようにしたらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。（○は1つ）（n=1,264）（%）

1 さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない	20.4
2 現在の取組を継続し、税額は変更しない	61.1
3 取組を縮小し、税額は減らした方がよい	3.5
4 取組も課税も廃止する	0.5
5 その他	3.7
6 わからない	9.5

（無回答 1.3）

神奈川県の農林水産業

問38 あなたは、県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組を重要だと思いますか。（○は1つ）（n=1,264）（%）

1 重要だと思う	54.5	4 重要だと思わない	2.5
2 どちらかといえば重要だと思う	32.9	5 わからない	6.9
3 どちらかといえば重要だと思わない	1.9		

（無回答 1.3）

※ 「地産地消」とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組のことをいいます。

問39 あなたは、農林水産物を購入する際に、何を重視しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(○は3つまで) (n=1,264)(%)

1 鮮度	82.1	4 栄養	12.9	7 価格	59.3
2 外観	4.4	5 安全性	58.5	8 ブランド(知名度)	2.5
3 味	25.7	6 産地	28.6	9 その他	0.2

(無回答 4.0)

問40 あなたは、「かながわブランド」という言葉を知っていますか。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 言葉も内容も知っている	23.3
2 言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった	46.4
3 言葉も内容も知らなかった(今回の調査で初めて知った)	29.1

(無回答 1.2)

神奈川県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」では、組織的な生産や生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品を「かながわブランド」として登録しています。

問41 あなたは、神奈川県の農業にどのような役割を期待しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 食料の安定供給	16.1	6 美しい風景や文化の継承	2.7
2 安全・安心な食料の供給	63.1	7 働く場の提供	1.6
3 価格の安い食料の供給	6.0	8 その他	0.7
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	1.3	9 わからない	2.1
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	2.7		(無回答 3.7)

問42 あなたは、将来の神奈川県の農業をどのようにしたらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である	81.0
2 農業は外国や他の都道府県にまかせ、県が農業を振興する必要はない	0.6
3 市場での競争に負けない力をもつ農業者だけが農業を続ければよく、県が農業を振興する必要はない	5.9
4 その他	2.6
5 わからない	8.9

(無回答 0.9)

問43 あなたは、県内にある農地の保全について、どのように思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264)(%)

1 すべての農地を積極的に保全すべき	24.3
2 まとまった規模の農地であれば、積極的に保全すべき	36.1
3 どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい	27.5
4 どちらかといえば農地の保全は必要だと思わない	2.0
5 農地の保全は必要だと思わない	0.6
6 その他	1.3
7 わからない	7.6

(無回答 0.6)

持続可能な開発目標（SDGs）

神奈川県は、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。昨年、9月にはSDGsの具体的な取組として「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、深刻化する海洋汚染、特にマイクロプラスチック問題に取り組んでいます。

問44 あなたは、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

(n=1,264) (%)

1 知っている	18.5	2 知らなかった（今回の調査で初めて知った）	76.7
		（無回答 4.7）	



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、2015年9月に国連サミットで採択された2030年までに持続可能な世界(将来の世代のための環境や資源を壊さずに、今の生活をより良い状態にすること)を実現するための開発目標です。

問45 あなたは、神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて見聞きしたことがありますか。（○は1つ）

(n=1,264) (%)

1 見聞きしたことがある	8.0	2 見聞きしたことはない	88.6
		（無回答 3.4）	

【問45で「1 見聞きしたことがある」とお答えの方に】

問45-1 神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて、次の中からあなたが知っているものをすべて選んでください。（○はいくつでも） (n=101) (%)

1 SDGs×Kanagawa（チラシ）	19.8
2 かながわプラごみゼロ宣言（チラシ）	36.6
3 toward2030 SDGs未来都市・神奈川県（リーフレット）	5.9
4 県のたより	63.4
5 県のホームページ	10.9
6 SDGs全国フォーラム2019（イベント）	5.9
7 その他	12.9
（無回答 2.0）	

問46 SDGs達成に向けて、日常生活で取り組めることがたくさんあります。あなたはどのような取組を行いたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

(n=1,264) (%)

1 プラスチック製ストローの使用は控える	58.4	6 コンセントはこまめに抜く	35.2
2 海岸などのごみ拾いに参加する	15.0	7 できるだけ公共交通機関を利用する	42.6
3 買い物にはマイバッグを持参する	77.2	8 モノをできるだけ長く、大切に使う	65.3
4 食事は残さず食べる	67.5	9 その他	2.5
5 蛇口はこまめに閉める	60.3	10 取り組みたいと思わない	1.0
（無回答 3.2）			

子どもの貧困対策

- 問47 あなたは、「子どもの貧困」の言葉の意味を知っていますか。(○は1つ) (n=1, 264) (%)
- | | |
|------------------------|------|
| 1 言葉の意味を知っている | 65.0 |
| 2 意味は知らないが言葉は聞いたことがある | 25.8 |
| 3 知らなかった(今回の調査で初めて聞いた) | 7.0 |

(無回答 2.2)

「子どもの貧困」とは、17歳以下の子どもが、平均的な生活水準の半分以下の世帯で暮らしている状態を指します。

政府の調査(平成28年国民生活基礎調査)によると、日本の子どもの貧困率は13.9%で、およそ7人に1人の子どもが「子どもの貧困」の状態であるとされ、社会的な問題となっています。

- 問48 現在、あなたの身近(近所や職場、知人、親戚など)に、経済的に苦しく行政等による支援が必要だと思われる子どもはいますか。(○は1つ) (n=1, 264) (%)
- | | | | | | |
|------|-----|-------|------|---------|------|
| 1 いる | 6.6 | 2 いない | 61.8 | 3 わからない | 29.8 |
|------|-----|-------|------|---------|------|

(無回答 1.8)

- 問49 あなたは、貧困は世代を超えて連鎖している(貧困の状態で育った人の子どもも貧困におちいってしまう)と思いますか。(○は1つ) (n=1, 264) (%)

- | | | | | | |
|----------------|------|------------------|------|----------|-----|
| 1 そう思う | 36.3 | 3 どちらともいえない | 18.1 | 5 そう思わない | 8.5 |
| 2 どちらかといえばそう思う | 27.4 | 4 どちらかといえばそう思わない | 2.5 | 6 わからない | 5.1 |

(無回答 2.0)

- 問50 あなたは、どのような子どもに対して行政等による貧困対策の支援が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1, 264) (%)

- | | |
|--------------------------------|------|
| 1 生活保護世帯の子ども | 55.9 |
| 2 ひとり親世帯の子ども | 60.1 |
| 3 児童福祉施設などに入所している子ども | 65.3 |
| 4 障がいのある子ども | 56.6 |
| 5 上記1~4以外の子どもで経済的な理由で生活が苦しい子ども | 44.8 |
| 6 その他 | 3.6 |

(無回答 2.7)

- 問51 現在、神奈川県では、子どもの貧困対策に関連する施策として、ひとり親世帯に対しては、児童扶養手当、資金貸付、就労支援など、子ども・若者に対しては、高校・専門学校・大学などへの就学費の援助、相談窓口の設置など、様々な施策を行っています。

あなたは、これらの施策が子どもの貧困問題の解消のために十分だと思いますか。(○は1つ)

(n=1, 264) (%)

- | | | | | | |
|----------------|------|------------------|------|----------|------|
| 1 そう思う | 13.0 | 3 どちらともいえない | 24.8 | 5 そう思わない | 14.7 |
| 2 どちらかといえばそう思う | 19.9 | 4 どちらかといえばそう思わない | 9.7 | 6 わからない | 15.7 |

(無回答 2.2)

問52 あなたが、子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援はどのようなものですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで) (n=1,264) (%)

1	子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること	33.3
2	同じような悩みを持った人同士で情報交換や相談ができること	16.5
3	民生委員・児童委員※など、地域の人からの支援	17.0
4	離婚や養育費などに関する専門的な支援	10.9
5	病気や障がいのことなどに関する専門的な支援	24.4
6	親の就職のための支援	30.4
7	住宅の確保や住宅費を軽減するための支援	31.4
8	就職活動や病気、事故、冠婚葬祭などのために一時的に子どもを預けられること	9.0
9	子どもの就学にかかる費用の軽減(小学校・中学校・高校)	40.6
10	子どもの就学にかかる費用の軽減(大学・専門学校など)	22.0
11	一時的に必要な資金を借りられること	10.2
12	その他	2.1
13	わからない	3.9

(無回答 7.4)

※ 民生委員・児童委員とは、地域住民の子育て・介護・障がい者の生活支援等に関する相談相手として、支援を必要とする住民と行政や専門機関をつなぐ役割を務めています。

問53 あなたは、貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動(学習支援や居場所の提供等)について、どのように考えていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(〇は1つ) (n=1,264) (%)

1	すでに活動している、または活動する予定である	1.4
2	一緒に活動したい、または協力したい	5.3
3	活動に興味を持っている	19.8
4	活動を行うことや協力することは難しい	22.4
5	これから考えたい	30.1
6	関心がない	3.2
7	その他	1.1
8	わからない	14.6

(無回答 2.2)

治安対策

問54 あなたの身近で発生する可能性のある犯罪のうち、不安に感じるものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1,264) (%)

1 ひったくり	39.0	9 自転車やオートバイの盗難	25.8
2 振り込め詐欺	46.2	10 自動車の盗難	21.6
3 悪質な客引き	10.8	11 コンピュータへの不正アクセス	49.4
4 空き巣	63.4	12 インターネットを利用した犯罪 (詐欺、ネットポルノ、児童買春など)	52.6
5 子どもの誘拐やいたづら	44.7	13 その他	2.5
6 痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	38.0	14 特にない	0.9
7 ストーカー行為	23.2		
8 暴行や傷害	44.1		(無回答 3.7)

問55 あなたが、身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 身近な事件、事故が解決したとき	30.0	4 制服警察官がパトロールしているとき	29.7
2 凶悪事件が解決したとき	11.6	5 警察官が相談に乗ってくれたとき	4.7
3 交番や駐在所に警察官がいるとき	13.6	6 その他	2.8
			(無回答 7.5)

問56 地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、あなたが得やすいのはどのような方法ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも) (n=1,264) (%)

1 テレビ	76.6	8 インターネット	
2 ラジオ	16.4	(警察のホームページ、Twitter、「Yahoo!防災速報」、 神奈川県警察公式 YouTube 防犯チャンネル等)	49.4
3 新聞	30.4	9 警察からのメール	13.1
4 ポスター・チラシ等	16.5	10 警察官の防犯講話・防犯教室	2.5
5 回覧板	27.8	11 警察官の戸別訪問	8.4
6 防災無線	18.1	12 その他	1.3
7 駅前などでのキャンペーン	9.7		(無回答 3.9)

問57 犯罪がなく、より安心して暮らすためにあなたが最も重要だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 地域住民同士のつながり	28.5	5 防犯ボランティアによる防犯活動	2.9
2 官民一体となった防犯活動	16.2	6 その他	1.4
3 防犯カメラ等の防犯設備の整備	33.9	7 特にない	1.6
4 規範意識を高める教育	8.2		(無回答 7.3)

問58 交通事故のない社会を目指すためにあなたが重要だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで) (n=1, 264) (%)

1 白バイやパトカーによる警戒	44.6	6 交通安全に関する広報・キャンペーン	14.0
2 交通安全施設の整備(信号機、道路標識・標示等)	50.6	7 ボランティアなどによる街頭活動(交差点での見守り等)	13.4
3 制服警察官による街頭活動(交通指導取締り、検問等)	31.6	8 その他	7.4
4 交通違反等の厳罰化	37.7	9 特になし	2.2
5 交通安全教室・講習	18.6		(無回答 5.1)

…

● 最後に集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1, 264) (%)

1 横浜(横浜市)	38.8
2 川崎(川崎市)	13.6
3 相模原(相模原市)	7.6
4 横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	9.3
5 県央(厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	8.5
6 湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	14.7
7 県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	3.6
	(無回答 3.7)

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1, 264) (%)

1 男性	40.7	2 女性	53.5	(無回答 5.9)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2019年8月1日現在) (n=1, 264) (%)

1 18~19歳	0.1	5 35~39歳	7.9	9 55~59歳	10.6	13 75~79歳	4.5
2 20~24歳	1.9	6 40~44歳	10.5	10 60~64歳	7.8	14 80歳以上	2.6
3 25~29歳	3.3	7 45~49歳	10.8	11 65~69歳	10.0		(無回答 4.0)
4 30~34歳	5.9	8 50~54歳	11.3	12 70~74歳	8.7		

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(同居、別居は問いません。)次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はあてはまるものすべて) (n=1, 264) (%)

1 小学校入学前	12.7	5 短大、専門学校等在学中	1.1	9 その他	2.3
2 小学校在学中	12.4	6 大学、大学院等在学中	7.8	10 子どもはいない	25.9
3 中学校在学中	7.2	7 学校教育終了[未婚]	21.8		(無回答 4.6)
4 高校在学中	7.2	8 学校教育終了[既婚]	23.1		

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つ) (n=1,264) (%)

1 一人暮らし(単身世帯)	8.7	4 祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	5.9
2 夫婦のみ(1世代世帯)	28.3	5 その他の世帯	3.6
3 親と子の世帯(2世代世帯)	52.5		(無回答 1.1)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。

また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中からそれぞれ1つ選び○で囲んでください。

(n=1,264) (%)

(n=791) (%)

1 自営業主	5.9	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.6
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.5		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	6.3
3 勤め (フルタイム)	37.9	エ～ケから 1つ選んで ください。	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	3.9
4 勤め (パートタイム)	17.1		エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	7.8
5 内職	0.2		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	21.6
6 主婦・主夫 (勤めについていない)	18.2		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	24.1
7 学生	0.7		キ 教育職(教諭、保育士など)	4.6
8 無職	14.2		ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	9.4
9 その他	0.9		ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	18.2
(無回答)	3.5			(無回答 3.4)

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

187人(14.8%)から自由意見が寄せられました。

今後調査してほしいテーマがございましたら、ご自由にお書きください。

159人(12.6%)から自由意見が寄せられました。

最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、8月13日(火)までに投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。